平成29年度

アニュアルレポート 年報

独立行政法人 国立病院機構

京都医療センター





序　文

京都医療センターのアニュアルレポート平成29年度版をお届けいたします。わが国の超少子高齢化時代の到来に備え、政府は、在宅医療・ケアへのシフトを含めて、各地域における「包括ケアシステム」の構築を推進いたしております。そのような中にあって、本院のミッションは、地域のみなさまのニーズに応え「高度急性期医療」を担う基幹病院としての機能を大いに発揮することにあります。そこで、この1年間を振り返りますと、本院には緊急の診療を要する患者さんを多数ご紹介いただき、入院治療を要する患者さんが着実に増加し、本院にて質の高い集中的な治療を受けた後、短期間で地域の医療機関に転院されています。すなわち、本院と各病院・診療所との連携はますます緊密となり、政府の目指す「地域医療構想」の理想に近い状況を呈してきております。

さらに、本院は京都府南部における最も重要な基幹病院であり、地域のみなさまのありとあらゆる悩みに対応し、最高レベルの診療と親切なケアを提供できる「高度総合病院」として機能しております。実際、ひとりの患者さんをみますと、例えば、主たる治療対象は大腸がんであるが、同時に高血圧や糖尿病があり、白内障や変形性膝関節症もあるというような場合が多く、いずれもベストの診断と治療を受けることができるという「総合性」がとても大切です。幸いなことに、本院では各診療科・各診療部ともに高度の技能・知識・経験をもつスタッフが揃っており、お一人おひとりの悩みに真摯に耳を傾ける親切な対応を心がけております。引き続き、地域のみなさまが安心して受診できる総合病院としてさらに磨きをかけていく所存であります。加えて、私は、高度医療を提供する病院であっても、できるだけ敷居の低い、地域のみなさまが気軽に集い、憩える場でもありたいと念願いたしております。そのような楽しいイベントも企画しておりますので、是非ご利用いただきたいと存じます。

なお、最後になりましたが、病院経営の現状をご報告いたします。私が着任して2年半が経過いたしました。最初の1年は非常に厳しい状態となり、みなさまに大変なご心配をおかけしましたが、次の1年間では大幅な改善がみられ、さらに本年は順調に経過しておりますのでご安心ください。全国どこの病院もまだまだ厳しい状況が続きますが、引き続き、気を引き締めて臨んでまいりたいと存じます。

今後も本院に対しまして、みなさまの暖かなご支援をよろしくお願いいたします。

院長　小西　郁生

京都医療センター診療年報　目次

序文 …… 1
京都医療センターの理念 …… 4
概要 …… 5
組織図 …… 14
幹部職員 …… 15
職員の状況 …… 16
診療実績 …… 18
総合内科／総合診療科 …… 21
膠原病・リウマチ内科 …… 23
血液内科 …… 25
内分泌・代謝内科 …… 26
糖尿病センター …… 36
腎臓内科 …… 45
腫瘍内科 …… 49
精神科 …… 52
神経内科 …… 54
呼吸器センター …… 58
消化器内科 …… 62
循環器内科 …… 68
小児科 …… 74
外科 …… 77
整形外科 …… 84
形成外科 …… 88
脳神経外科 …… 90
血管外科 …… 94
心臓外科 …… 96
皮膚科 …… 99
泌尿器科 …… 101
産科婦人科 …… 106
緩和ケア科 …… 110
眼科 …… 113
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 …… 116
麻酔科 …… 119
放射線科 …… 121

リハビリテーション科 …… 124
歯科口腔外科 …… 126
救命救急センター …… 129
健診センター …… 133
臨床研究センター …… 138
遺伝診療部 …… 145
医療安全管理部 …… 151
医療情報部 …… 156
感染制御部 …… 161
教育研修部 …… 166
地域医療部 …… 167
薬剤部 …… 173
臨床検査科 …… 176
病理診断科 …… 179
臨床栄養科 …… 181
医療技術部　臨床工学科 …… 183
看護部 …… 185
京都看護助産学校 …… 202
編集後記 …… 214

京都医療センターの理念

私たちは患者さんとともに病気に立ち向かい、
患者さんが安心できる医療を提供します。

□ 基本方針

一、常に高度で先進的な医療を導入し、地域の医療機関との連携を図り、急性期医療を中心とした質の高い医療を提供することで患者さんに信頼される病院となることを目指します。
一、十分な説明のうえで患者さんの同意を得た医療を提供します。
一、臨床医学の発展を常に念頭におき、臨床研究を積極的に推進し、新しい医療技術の研究開発に努めます。
一、教育研修病院として医師、看護師等、医療に従事する人材の育成に努めます。
一、職員の働きやすい職場環境であることが、安全で高度かつ効率的な医療提供に不可欠であると考え、職員の福利厚生の向上に努めます。

□ 患者さんの権利の尊重に関して

京都医療センターでは、患者さんと医療従事者との信頼関係のもとで患者さんとともに歩む病院をめざしています。ここに患者さんの権利に関する事項と守っていただく事項について記します。

【患者さんの権利に関する事項】

1. 尊厳ある人間として医療を受ける権利を大切にします。
2. 良質で適切な医療を平等に提供します。
3. 検査や治療について充分に理解していただけるように説明します。
4. 検査や治療について自ら選択する権利を尊重します。
5. 医療のどの段階においても他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利を尊重します。
6. 自分に関する医療情報の開示を求める権利を尊重します。
7. プライバシーを守ります。

【守っていただく事項】

1. 健康状態及び診療に必要な情報の提供をお願いします。
2. 医療内容について理解していただけない場合にはお知らせください。
3. 病院のルールを守り他の人に迷惑をかけないようにお願いします。

概要

（平成３０年４月１日現在）

1．施設の概要

（1）環　　境

京都市の南にある市内最大の人口を擁する伏見区のおおむね中央に位置し、伏見稲荷大社で有名な稲荷山の南麓に広がる深草地区に立地している。深草地区は「うづらの里」と呼ばれるように、かつては多くの鶉（うづら）が生息したことで知られる。南へ下がると伏見の酒造りの町があり、白壁の酒蔵が立ち並び独特の風情がある。東南部には桃山城の城下町桃山地区がある。桃山時代に伏見城の城下町として始まり、また江戸時代には淀川水運の重要な港町・宿場町としても栄えた地域である。

現在は、伏見城の城下町の伝統を受け継ぐ商業拠点である一方、京都市中心部や京都府南部、大阪方面へのベッドタウンとしての性格をもち、診療圏も二次医療圏にとどまらず、京都府南部地域はもとより大阪府北部及び滋賀県南部をはじめ他府県に及んでいる。

（2）沿　　革

明治４１年１１月	京都衛戍（えいじゅ）病院として設立
（１９０８年）	
昭和１２年	京都陸軍病院と名称変更
（１９３７年）	
昭和２０年１２月	国立京都病院として厚生省に移管
（１９４５年）	
昭和５３年　４月	臨床研究部（内分泌代謝疾患）設置
（１９７８年）	
昭和５９年１２月	救命救急センター設置
（１９８４年）	
昭和６３年１１月	ＷＨＯより糖尿病協力センターに指定
（１９８８年）	
平成　７年　４月	開放型病院に認定
（１９９５年）	
平成　７年　７月	京都府エイズ治療拠点病院に指定
（１９９５年）	
平成１０年　６月	臓器提供施設に指定
（１９９８年）	
平成１１年　３月	国の政策医療「内分泌代謝疾患」の高度専門
（１９９９年）	医療施設として位置付けられる
平成１２年　４月	（財）日本医療機能評価機構
（２０００年）	病院機能評価『一般病院種別・Ｂ』に認定
平成１４年　６月	地域医療連携室の開設
（２００２年）	
平成１５年１０月	臨床研究センター（内分泌代謝疾患）設置
（２００３年）	
平成１６年　４月	独立行政法人へ移行
（２００４年）	京都医療センターと改称

平成１７年　４月　　（財）日本医療機能評価機構
（２００５年）　　病院機能評価『一般病院（Ver.4.0)』に認定
平成１９年　１月　　地域がん診療連携拠点病院に指定
（２００７年）
平成２０年　８月　　地域医療支援病院に指定
（２００８年）
平成２２年　６月　　（財）日本医療機能評価機構
（２０１０年）　　病院機能評価『一般病院（Ver.6.0)』に認定
平成２３年　１月　　新中央診療棟竣工　緩和ケア病棟開設
（２０１１年）
平成２６年　６月　　第２外来棟竣工
（２０１４年）
平成２７年　４月　　京都府災害拠点病院に指定
（２０１５年）
平成２７年　６月　　（財）日本医療機能評価機構
（２０１５年）　　病院機能評価『一般病院２（Ver.1.0)』『救急医療機能（Ver.2.0)』に認定
平成２８年１２月　　原子力災害拠点病院に指定
（２０１６年）
平成３０年　３月　　第二病棟８階（３８床）休棟
（２０１８年）
平成３０年　４月　　がんゲノム医療連携病院（京都大学）に指定
（２０１８年）

（３）医療圏・近隣医療機関の状況

●２次医療圏

・京都・乙訓医療圏

（京都市、向日市、長岡京市、大山崎町３市１町）

●２次医療圏内人口

・京都市　　１，４７３千人
・向日市　　５４千人
・長岡京市　　８０千人
・大山崎町　　１５千人　　計１，６２２千人

（４）職　員　数

●１，２７４名　（平成３０年４月１日現在）

・常勤職員　　１，０１９名（期間職員１名含む）
・非常勤職員　　２５５名

（５）敷地・建物の状況

●所在地　京都府京都市伏見区深草向畑町１－１

●敷地面積　･･･　６６，２６７㎡

●建物面積

区　　分	建築年月	建築構造	建築面積	延床面積
病　　棟	Ｈ０１.０３	ＲＣ-８Ｆ	2,976㎡	18,748㎡
外来管理診療棟	Ｓ５８.０５	ＲＣ-４Ｆ	2,711㎡	10,840㎡
中央診療棟	Ｓ６０.０７	ＲＣ-５Ｆ	2,405㎡	13,301㎡
第２外来棟	Ｈ２６.０６	ＲＣ-３Ｆ	421㎡	1,228㎡
新中央診療棟	Ｈ２２.１２	ＲＣ-６Ｆ	1,952㎡	8,672㎡
臨床研究センター	Ｓ５３.０２	ＲＣ-４Ｆ	827㎡	3,117㎡
看護学校	Ｈ１５.０３	ＲＣ-４Ｆ	3,298㎡	6,560㎡
その他（宿舎等）			4,608㎡	10,508㎡
合　　計			19,198㎡	72,974㎡

2．診療機能の状況

（1）病床数　　医療法病床数(一般病床)　６００床

（2）診療科（３９科）

内科、血液内科、糖尿病内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、腫瘍内科、膠原病・リウマチ内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、アレルギー科、心臓外科、血管外科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、小児外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産科婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、気管食道科、頭頸部外科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、緩和ケア内科、緩和ケア外科、歯科口腔外科、小児歯科、病理診断科、臨床検査科、救急科

（3）医療計画上の当院が担う機能

・地域がん診療連携拠点病院
・がんゲノム医療連携病院（京都大学）
・地域医療支援病院
・救命救急センター（三次、３０床）
・地域災害拠点病院
・原子力災害拠点病院
・緊急災害医療チーム（ＤＭＡＴ２チーム１０名）
・周産期医療２次病院（地域周産期母子医療センター）
・難病医療協力病院
・エイズ拠点病院
・急性期を担う医療機関（脳卒中、急性心筋梗塞）

（4）その他の主な機能

・緩和ケア病棟（２０床）
・外来化学療法センター
・ＥＲ（北米型救急外来）
・ＮＨＯ災害ブロック拠点病院
・国際医療協力施設
・臓器提供施設
・ＷＨＯ糖尿病協力センター
・健診センター
・人工透析センター
・（財）日本医療機能評価機構　病院機能評価　「一般病院２（Ver.1.0）」「救急医療機能（Ver.2.0）」認定

（5）教育研究機能

・臨床研究センター
・臨床研修指定病院（管理型）
・附属京都看護助産学校（看護学科・助産学科）

（６）各学会認定専門医研修施設及び修練施設

日本内科学会、日本消化器学会、日本循環器学会、日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本精神神経学会、日本外科学会、日本消化器外科専門医、日本整形外科学会、日本産婦人科学会、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医研修施設、日本周産期(新生児）専門医、日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本泌尿器科学会、日本脳神経外科学会、日本医学放射線学会、日本麻酔科学会、日本集中治療医学会、日本救急医学会、日本形成外科学会、日本手外科学会、日本神経学会、日本呼吸器外科基幹施設、日本消化器内視鏡学会、日本内分泌学会、日本腫瘍学会、日本頭頸部外科学会、日本がん治療認定医機構、日本緩和医療学会、胆管膵外科高度技能専門医、日本外科感染症学会、日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞｰｼｮﾝ治療学会

３．診療機能等の特色

（１）救命救急センター（３０床：ＩＣＵ８床、ＨＣＵ２２床）

昭和５９年１２月に開設された歴史あるセンターであり、京都府内に６つある救命救急センターのひとつである。活動拠点は京都市のみならず、近隣市からの救急隊による収容要請にも応え２４時間３６５日、質の高い救急医療を提供している。

平成２３年１月に新中央診療棟に移転し、３０床全床で生体監視モニター管理が可能となった。また、広範囲熱傷処置対応のための熱傷治療室も設置した。

（２）集中治療室（ＩＣＵ・６床）

平成１５年７月に設置。集中治療室では、全身麻酔下手術等における重篤患者等の術後全身管理や入院中に集学的治療が必要となった患者の全身管理を行っている。救命救急センターの集中治療室と２ヶ所の集中治療室を有している。

（３）新生児集中治療室（ＮＩＣＵ・６床）

平成１２年２月に設置し、平成１２年４月に施設基準を取得。低出生体重児等の新生児の治療管理を集中的に行っている。地域周産期母子医療センターとして京都府南部地域の中核病院としての役割を果たしている。

（４）新生児治療回復室（ＧＣＵ・６床）

平成２３年１２月に設置し、平成２４年１月に施設基準を取得。

ＮＩＣＵでの集中管理が終了した新生児が一定の体重・週数に達し、なおかつ合併症コントロールの目途が立ち退院できるまで管理している。

（５）特別室個室病棟（２８床）

平成２３年１月にオープンした全室個室の病棟。セキュリティーを確保した特別病棟は、病棟専属のコンシェルジュを配置し、クオリティーの高い療養環境と最高のサービスを提供している。新型インフルエンザの発生時等において隔離病棟として使用できるよう陰圧機能を備えた病室を備えている。

（６）緩和ケア病棟（２０床）

平成２３年１月にオープン。京都府で初めて地域がん診療連携拠点病院にできた緩和ケア病棟であり、各診療科と連携を積極的に行って苦痛症状の緩和に努めている。医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、音楽療法士、ボランティアなど多職種でチームを組んで対応している。

（７）開放型病床（２０床）

地域医療機関との連携強化を図るため、伏見医師会との協定により開放型病床を設置し、登録医からの紹介入院患者を共同して診療、指導にあたっている。平成７年４月に開放型病院の承認。平成２０年８月に地域医療支援病院の承認。地域医療の向上を図り、紹介患者に対する医療の提供のみならず、地域の医療関係者の生涯教育の充実等地域医療の確保に努めている。

※登録医数　１２９名（平成３０年４月１日現在）

（８）特殊専門外来

特殊診療として、内視鏡センター、呼吸器センター、心臓センター、糖尿病センター、内分泌・甲状腺・高血圧センター、スポーツ医学センター、めまいセンター、脳・神経センター、産婦人科超音波外来、フットケア外来、セカンドオピニオン外来、腫瘍外来、遺伝子外来、禁煙外来、発達障害外来、外来化学療法センター、メタボリック症候群外来、妊娠糖尿病外来、糖尿病透析予防外来、婦人科骨粗鬆症更年期外来

（９）健診センター（平成１６年４月１日開設）

早期に病気を発見する予防医学の役割が一層重要になっていることから、当院の政策医療である内分泌・代謝疾患の高度専門医療施設の特性を生かし、生活習慣病を主な対象とするとともに、各診療科の専門性を有効に活用した健診とし、専門医との連携による的確な判定を行っている。

（10）研修医・レジデントの教育、研修の充実

教育研修部を設置して「患者を包括的にケアできる」医師の育成を行っている。

□臨床研修指定病院（管理型）

□ＮＨＯ専修医制度

□臨床研修医の平成３０年度定数…１年目　１０名、２年目　１０名

□スーパーローテーション方式

□ランチタイムセミナー

□双方向性の評価方式の導入

（11）臨床研究センター

平成１５年１０月に臨床研究センターが設置され、「糖尿病を中心とした内分泌・代謝性疾患の病態と発症機序の解明および予防・診断・治療法の開発研究」を担っている。国立病院機構の臨床研究体制再構築に伴い、平成２０年度からは「内分泌・代謝性疾患」にとどまらず、がん診療支援を含めた幅広い分野を臨床研究の活動分野とすることになった。

（12）手術支援ロボット「ダヴィンチ」

平成２６年６月に腹腔鏡下手術を支援する内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入。このダヴィンチを用いた手術は通常の腹腔鏡下手術と同様に傷口が小さく低侵襲で術後の痛みも少ないことから回復も早く、早期の退院が可能となった（ただし保険適用手術は限られている）。

（13）ＰＥＴ／ＣＴ

がんの早期発見、早期治療の充実・発展のため、平成２６年６月に京都府南部地域初のＰＥＴ／ＣＴを導入。

(14) 地域医療連携室

平成１４年６月に地域医療連携室が設置され、地域の診療所や各医療機関及び保健福祉機関との連携を強化している。前方後方支援業務はもとより、年２回開催の医療連携フォーラムや脳卒中等の市民講座の開催にも力を入れている。

□人員配置

○地域医療部長（医師）　地域医療連携室長（医師）　病床管理師長　副看護師長　地域医療連携係長（事務）　医療社会事業専門員４名　看護師１２名　係員１名　事務助手３名　　計２５名

(15) がん診療支援

当院は平成１９年１月から地域がん診療連携拠点病院の認定を受けており、キャンサーボードも設置し「がん診療セミナー」等、医師だけでなく、看護師、コメディカル、その他医療職を対象とした、オープンセミナーを開催している。

また、がん診療相談（地域医療連携室）や患者情報室（１階ホール）、京都では初となるＮＰＯ法人キャンサーリボンズが設置をサポートするリボンズハウス（外来化学療法室）を設置して患者の日常生活支援に力を入れ、最先端の総合的ながん治療から患者の視点に立って生活を支援することができる施設を目指している。

□リボンズハウス（平成２３年１０月から運用開始）

○がん患者の「治療と生活」をつなぐ具体的な情報とケアを提供する。

○医療者やヘルスケアに携わる多くの専門家の手によるプログラムを通して患者がより自分らしく少しでも快適な生活を送れるようサポートする。

○広く地域に開かれたスペースとして多くの人々が情報を共有し支えあいを実践できる場になることを目的とする。

○主な内容としては、がんに係る相談、がんに係る情報提供、がん患者支援のイベント等の企画運営、インターネット検索コーナー、展示コーナー（ウィッグ、帽子等）アロマテラピー等

(16) 感染制御部

平成９年４月に組織横断的院内感染対策チーム（ＩＣＴ）を設立し、平成２２年４月には、院内感染管理と職員の健康管理を通じて、患者が安心して診療を受けられる環境を提供するため、ＩＣＴを核とする感染制御部を発足させた。医師、看護師、リンクナース、薬剤師、臨床検査技師、事務職等多くの職員がそれぞれ得意とする分野を分担している。ＩＣＴリーダーを中心に週に１回ＩＣＴミーティングを行い、更に週１回定期的に院内ＩＣＴラウンドを実施し、日々の感染対策に関する相談に関しても随時対応している。

□人員配置

○感染制御部長（医師）副部長（医師１名）医師１名 専任薬剤師２名
　専従認定看護師　専任検査技師　事務２名　計９名

□主な活動例

○インフルエンザ、感染性胃腸炎、結核等の院内感染対策

○手術部位感染、血流感染等のサーベイランス

○抗菌薬適正使用推進業務等

○これらの活動は、病院長直轄の「院内感染対策委員会」(月１回)と「抗菌薬の適正使用に関する小委員会(月１回)にて報告及び審議決定されるシステムとなっている。また、院内感染対策委員会については、感染対策の必要に応じて臨時開催され迅速な対応を行っている。（２７年１月の開催回数は１１回）

(17) 医療安全管理体制

医療安全体制の確立を図り安全な医療の遂行を徹底するために医療安全管理部を設置している。各部門にリスクマネージャーを置き、患者や家族に対する対応及び医療安全管理部門や幹部職員への報告・連絡・相談を速やかに行う体制を整えている。

また、客観的事実の確認や事故原因の追及と再発防止策の検討の為にオカーレンス事例検討会や医療安全管理委員会及び医療事故対策本部会議を開催し、必要に応じて弁護士や外部評価委員を構成メンバーに加えた拡大医療安全管理委員会も開催している。

メンバーには顧問弁護士を配置し、必要に応じて法的観点からの意見を含め、病院として見解を常に決定するとともに、専任の医療安全管理係長や訴訟専門職、さらにはクレームや暴言暴力への対応策として警察ＯＢも配置して、あらゆるケースに対応出来る体制を構築している。

□人員配置

○副院長（医療安全担当）　医療安全管理部長（医師）
医療安全管理副部長（医師）　訴訟専門職　看護師長（医療安全管理専従）
副看護師長（医療安全管理専従）
リスクマネージャー（各部署から１名：５９名）　顧問弁護士　　計６７名

□主な会議

○拡大医療安全管理委員会
○医療安全管理委員会
○医療事故対策本部会議
○オカーレンス事例検討会
○ハイリスク診療検討会議
○リスクマネージャー会議

(18) 医療情報部

平成１５年７月に設置された医療情報部は国立病院としては初めて認可された部門であり、医師と情報システムエンジニアの資格を持つ人材が部長を担当している。ベンダーに依存することなく医療現場のニーズにマッチした情報システムの開発、導入、構築を迅速かつ正確に行っている。平成１１年に導入した病院総合情報システム（電子カルテ）は、平成２８年１０月より稼働した新システムで第４世代となる。

また、京都府及び京都市が設置した情報基盤協議会である「ＩＴコンソーシアム京都」医療情報化部会と連携し「ポケットカルテ」等の二次医療圏を包括する地域医療連携基盤の企画、設計、開発、構築、運用等も行っている。

更に、情報システムや診療記録管理だけではなく、診療諸記録作成の作成等の医師事務作業補助の専門職として「スペシャル医療クラーク」を独自に育成し、各診療科に配置する事で、医師や看護師等の専門職が業務に集中出来る環境を構築すると共に、診療の質の向上に努めている。

□人員配置

○部長（医師・ＳＥ）　副部長（医師）　診療情報管理士５名　スペシャル医療クラーク２７名
医療クラーク５名　情報システム管理室員４名　流動研究員（ＳＥ等）１名　　計４４名

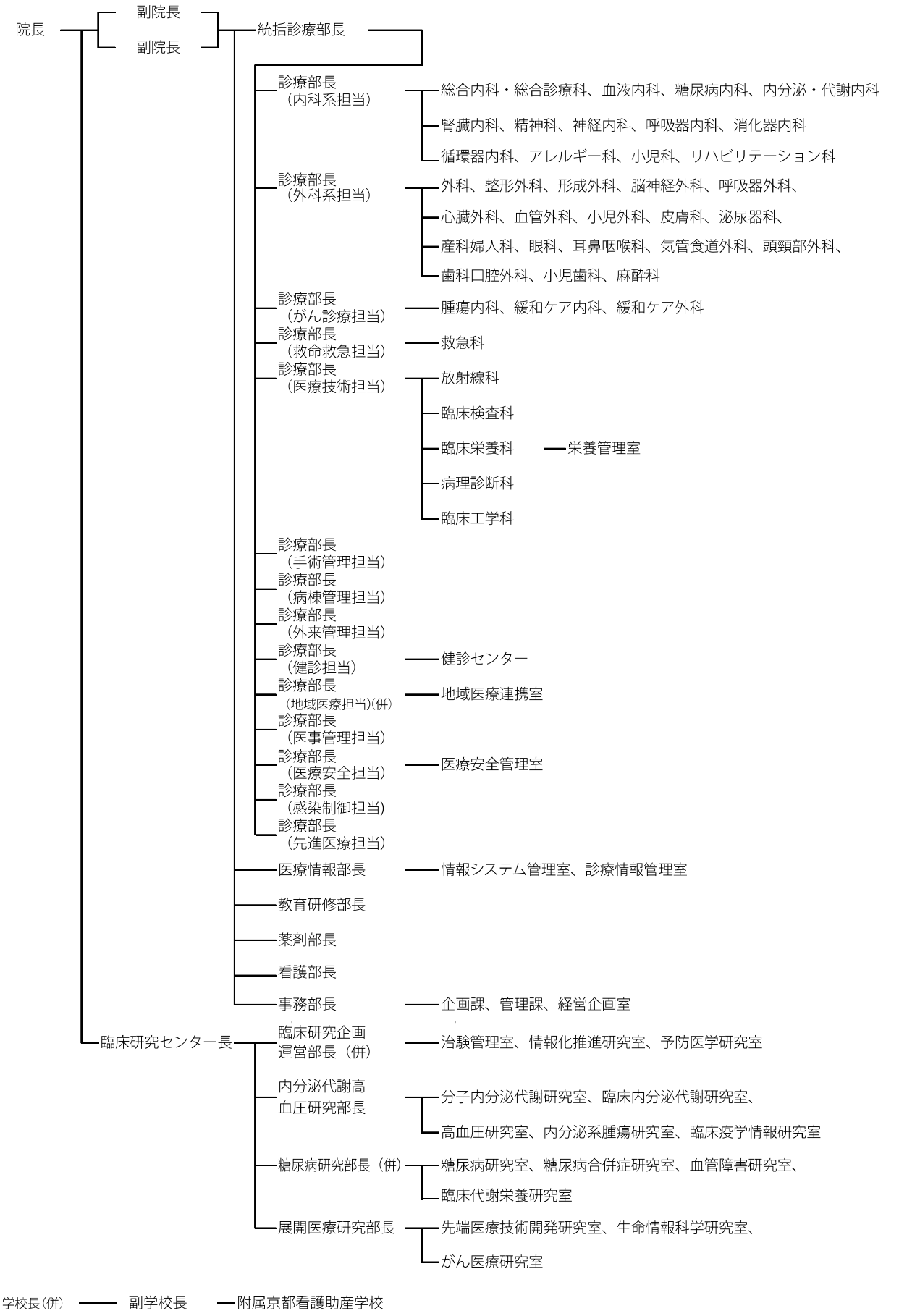
4．附属京都看護助産学校

（1）沿　　革

昭和２４年　4月　1日 （１９４９年）	附属高等看護学院設置
昭和４４年　4月　1日 （１９６９年）	附属高等看護助産学院設置
昭和５０年　4月　2日 （１９７５年）	国立京都病院附属看護助産学校、看護婦科および助産婦科に名称が変更される。
平成１４年　4月　1日 （２００２年）	看護学科、助産学科に名称が変更される
平成１６年　3月２５日 （２００４年）	看護学校大型化整備工事竣工
平成１６年　4月　1日 （２００４年）	国立京都病院附属看護助産学校及び国立療養所宇多野病院附属看護学校並びに国立療養所南京都病院附属看護学校を当院の地で統合し、附属京都看護助産学校となる。 ※１学年定員　看護学科８０名 助産学科３５名
平成２７年　4月　1日 （２０１５年）	附属京都看護助産学校助産学科の定員減 ※１学年定員　助産学科２５名

京都医療センター　組織図

（平成３０年４月１日現在）



京都医療センター　幹部職員


院長　小西　郁生


副院長　塚原　徹也


副院長　髙倉　賢二


臨床研究センター長
島津　章


統括診療部長
地域医療部長
猪飼　伊和夫


内科系診療部長
教育研修部長
小山　弘


外科系診療部長
中川　泰彰


がん診療部長
山﨑　誠二


救命救急部長
笹橋　望


医療技術部長
伊藤　剛


手術管理部長
七野　力


病棟管理部長
赤尾　昌治


外来管理部長
三尾　直士


健診部長
田上　哲也

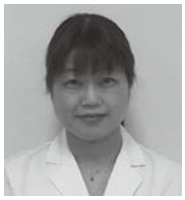

医事管理部長
勝島　慎二


医療安全部長
白神　幸太郎


感染制御部長
奥野　博


先進医療部長
喜多　美穂里


医療情報部長
北岡　有喜


内分泌代謝高血圧研究部長
浅原　哲子


展開医療研究部長
長谷川　浩二


薬剤部長
小林　勝昭


看護部長
荒木　輝美


事務部長
出原　信弘


副学校長
池田　仁美

職員の状況

（平成３０年４月１日現在）

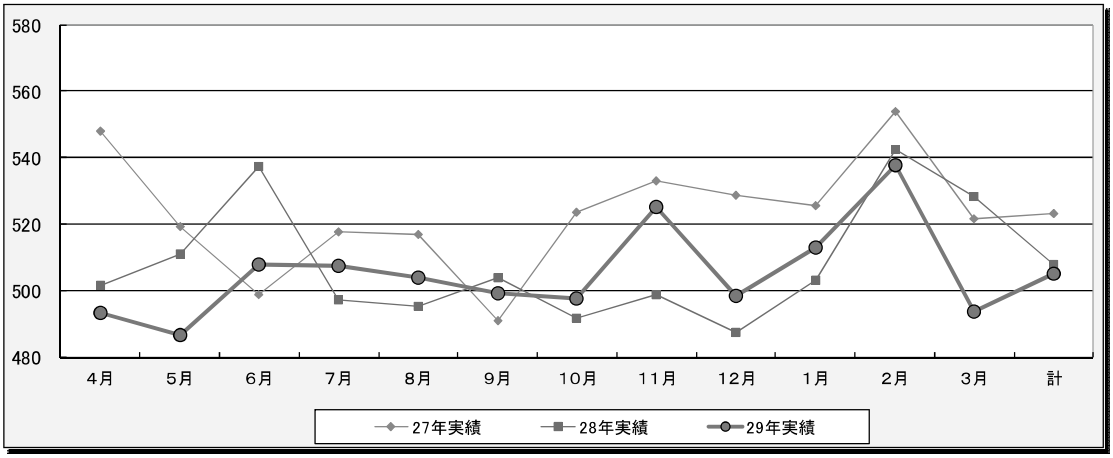
	職種・職名		常勤職員 定数	常勤職員 現員	非常勤職員 定数	非常勤職員 現員	非常勤職員 常勤換算	期間職員 定数	期間職員 現員	期間職員 常勤換算	職員合計
医師	院長・年俸表一	院長	1	1							1.00
		副院長	3	3							3.00
		部長	17	17							17.00
		医長	41	38							38.00
		歯科医長	1	1							1.00
		小計	63	60							60.00
	一般医師	医師	92	94	51.65	64	49.60	0.90	1	0.90	144.50
	医療職（一）	歯科医師				3	2.32				2.32
		小計	92	94	51.65	67	51.92	0.90	1	0.90	146.82
	医師計		155	154	51.65	67	51.92	0.90	1	0.90	206.82
医療職（二）	薬剤師	薬剤部長	1	1							1.00
		副薬剤部長	2	2							2.00
		主任薬剤師	7	7							7.00
		薬剤師	26	28							28.00
		小計	36	38							38.00
	放射線技師	診療放射線技師長	1	1							1.00
		副診療放射線技師長	2	2							2.00
		主任診療放射線技師	6	6							6.00
		診療放射線技師	24	24							24.00
		小計	33	33							33.00
	検査技師	臨床検査技師長	1	1							1.00
		副臨床検査技師長	2	2							2.00
		主任臨床検査技師	8	7							7.00
		臨床検査技師	24	25		2	1.55				26.55
		小計	35	35		2	1.55				36.55
	管理栄養士	栄養管理室長	1	1							1.00
		副栄養管理室長	1	1							1.00
		主任栄養士	2	1							1.00
		栄養士	3	5	2.31	2	1.65				6.65
		小計	7	8	2.31	2	1.65				9.65
	理学療法士	理学療法士長	1	1							1.00
		副理学療法士長	1	1							1.00
		主任理学療法士	1	1							1.00
		理学療法士	14	14							14.00
		小計	17	17							17.00
	作業療法士	作業療法士長									
		副作業療法士長									
		主任作業療法士	1								
		作業療法士	4	5							5.00
		小計	5	5							5.00
	医療技術職員	臨床工学技士	11	11							11.00
		視能訓練士	4	4	1.85	1	0.77				4.77
		言語聴覚士	4	4		2	0.54				4.54
		心理療法士			0.92	5	1.02				1.02
		歯科衛生士			1.54	4	3.10				3.10
		歯科技工士			0.77	1	0.77				0.77
		小計	19	19	5.08	13	6.21				25.21
	医療職（二）計		152	155	7.39	17	9.41				164.41

	職種・職名		常勤職員		非常勤職員			期間職員			職員
			定数	現員	定数	現員	常勤換算	定数	現員	常勤換算	合計
医療職（三）	看護師、助産師	看護部長	1	1							1.00
		副看護部長	3	3							3.00
		看護師長	21	20							20.00
		副看護師長	49	49							49.00
		助産師	502	38							38.00
		看護師		528	33.99	18	12.69				540.69
		准看護師									
	医療職（三）計		576	639	33.99	18	12.69				651.69
事務職・診療情報管理職	事務職員	事務部長	1	1							1.00
		課長・室長	3	3							3.00
		班長	2	2							2.00
		専門職	2	2							2.00
		係長	12	9							9.00
		主任									
		一般職員（事務補助）	4	11	104.52	130	98.73				109.73
		小計	24	28	104.52	130	98.73				126.73
	診療情報管理職	診療情報管理士	8	7		1	0.80				7.80
		小計	8	7		1	0.80				7.80
	事務職・診療情報管理職 計		32	35	104.52	131	99.53				134.53
技能職員		自動車運転手	12		24.54	1	0.83				0.83
		調理師		12							12.00
		看護助手				8	6.61				6.61
		その他				2	1.65				1.65
	技能職員 計		12	12	24.54	11	9.08				21.08
教育職		副学校長・教育主事	4	4							4.00
		教員（教務補助）	15	15		1	0.83				15.83
	教育職 計		19	19		1	0.83				19.83
研究職		センター長・部長									
		室長・主任研究官									
		研究（補助）員			3.49	9	6.81				6.81
	研究職 計				3.49	9	6.81				6.81
福祉職		保育士	1	1		1	0.77				1.77
		医療社会事業専門員	4	4							4.00
	福祉職 計		5	5		1	0.77				5.77
職員総数			951	1,019	225.58	255	191.05	0.90	1	0.90	1,210.95
（男性）				302		62	46.76		1	0.90	349.66
（女性）				717		193	144.28				861.28

診療実績（年度別統計）

○平均入院患者数（年間目標数＝507.8人）

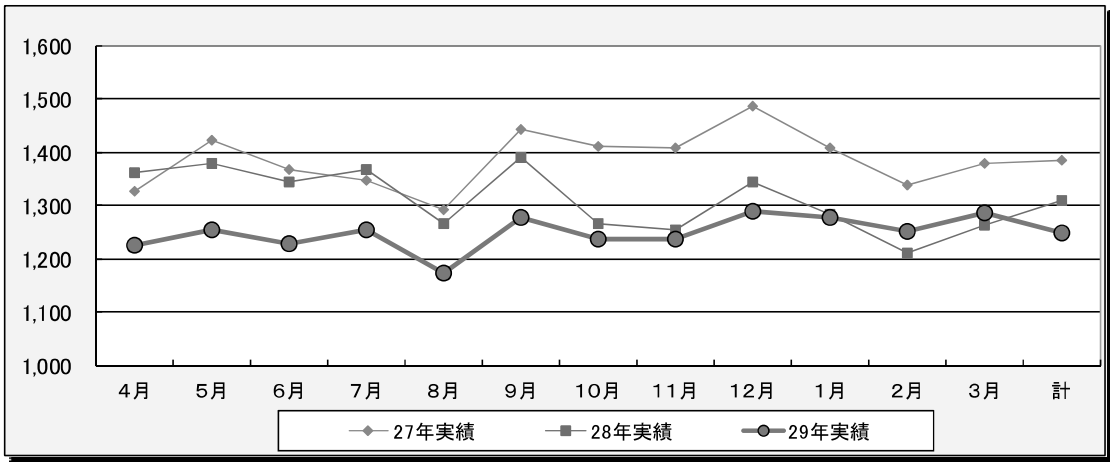
（単位：人/日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	利用率
27年実績	547.7	519.1	498.5	517.5	517.0	490.9	523.5	532.9	528.5	525.3	554.0	521.7	522.9	87.2%
28年実績	501.6	511.1	537.2	497.0	495.3	503.7	491.7	498.6	487.1	503.2	542.5	528.4	507.8	84.6%
29年実績	493.3	486.4	507.7	507.3	503.8	499.3	497.6	525.2	498.4	513.1	537.6	493.6	505.0	84.6%

○平均外来患者数（年間目標患者数＝1,309.2人）

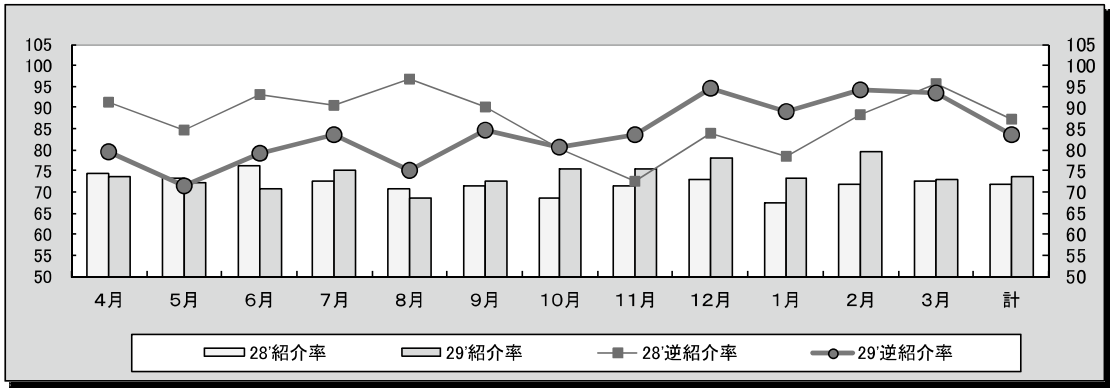
（単位：人/日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27年実績	1,326.8	1,422.3	1,367.1	1,346.7	1,290.6	1,441.5	1,409.9	1,407.5	1,485.5	1,408.1	1,337.9	1,378.8	1,383.0
28年実績	1,362.1	1,377.4	1,342.4	1,366.0	1,266.5	1,389.5	1,264.2	1,254.9	1,343.5	1,282.3	1,209.9	1,261.8	1,309.2
29年実績	1,223.7	1,254.2	1,226.2	1,252.8	1,171.7	1,277.2	1,236.0	1,237.3	1,289.0	1,276.7	1,250.6	1,286.5	1,247.6

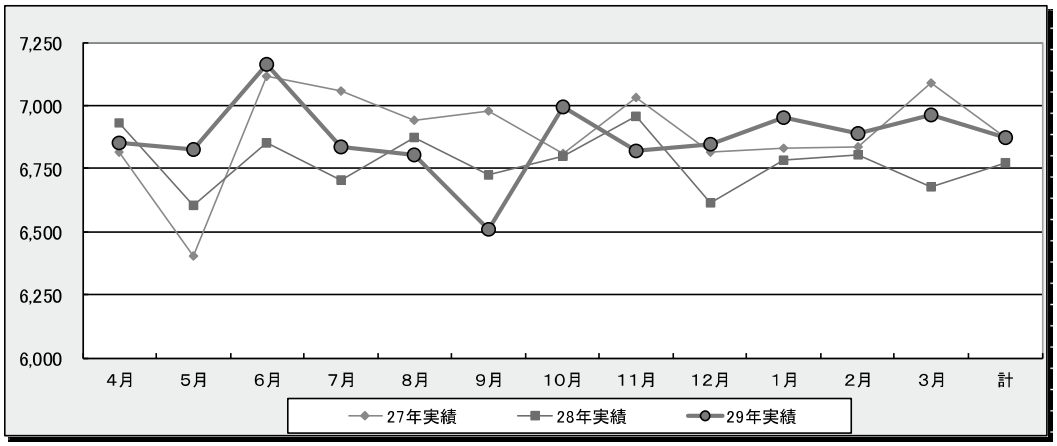
○紹介率、逆紹介率の推移

（単位：%）



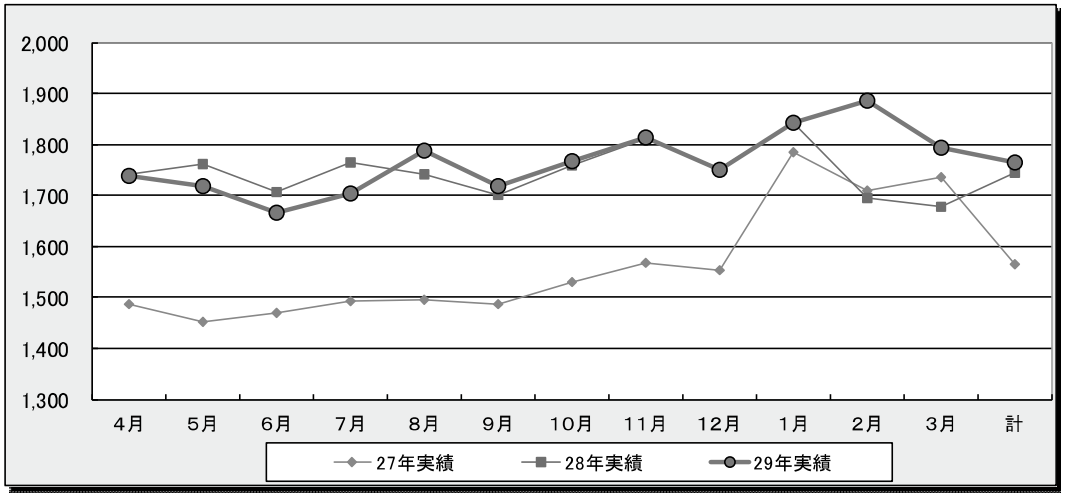
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
28'紹介率	74.3	73.4	76.1	72.7	70.9	71.4	68.4	71.5	73.1	67.3	72.0	72.4	72.0
29'紹介率	73.8	72.3	70.8	75.0	68.4	72.4	75.4	75.6	78.1	73.2	79.7	73.0	73.8
28'逆紹介率	91.3	84.5	93.0	90.4	96.8	90.1	80.2	72.5	83.9	78.5	88.3	95.8	87.2
29'逆紹介率	79.7	71.4	79.1	83.6	75.2	84.6	80.5	83.5	94.4	89.1	94.1	93.5	83.7

○入院平均診療点数　　（単位：点/日）



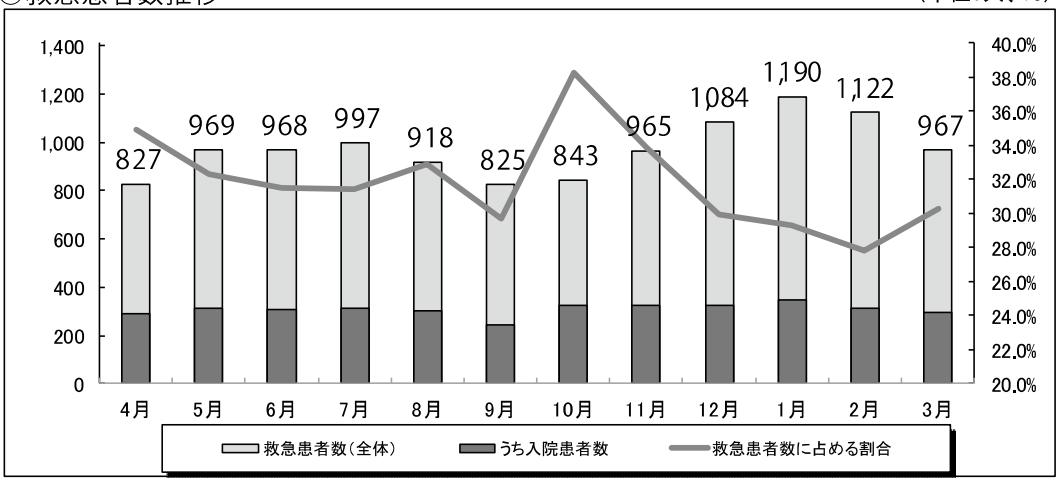
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27年実績	6,812.6	6,404.0	7,116.8	7,059.6	6,939.6	6,977.5	6,808.8	7,030.9	6,814.9	6,830.9	6,834.0	7,090.7	6,872.6
28年実績	6,932.9	6,601.6	6,850.4	6,705.3	6,870.4	6,726.6	6,801.4	6,955.8	6,612.5	6,781.1	6,803.6	6,675.4	6,775.3
29年実績	6,851.8	6,826.3	7,161.9	6,834.3	6,805.9	6,508.1	6,993.7	6,820.0	6,848.5	6,949.9	6,888.6	6,961.9	6,871.5

○外来平均診療点数　　（単位：点/日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27年実績	1,486.9	1,452.6	1,468.1	1,491.1	1,494.7	1,487.1	1,530.3	1,568.1	1,554.0	1,784.4	1,707.9	1,735.5	1,563.3
28年実績	1,741.0	1,762.1	1,706.8	1,765.3	1,740.0	1,699.3	1,758.2	1,809.8	1,753.6	1,843.4	1,695.9	1,677.3	1,744.6
29年実績	1,737.0	1,717.6	1,666.4	1,704.3	1,786.2	1,717.3	1,766.2	1,813.9	1,748.5	1,841.3	1,884.8	1,793.1	1,763.5

○救急患者数推移　　（単位：人、%）



29年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
救急患者数（全体）	827	969	968	997	918	825	843	965	1,084	1,190	1,122	967	966.6
うち入院患者数	289	313	305	313	302	245	323	327	325	349	312	293	304.8
救急患者数に占める割合	34.9%	32.3%	31.5%	31.4%	32.9%	29.7%	38.3%	33.9%	30.0%	29.3%	27.8%	30.3%	31.5%
救急搬送患者数	322	336	305	360	375	322	376	320	391	391	397	376	356.4
新規入院患者数（参考）	1,065	1,137	1,230	1,183	1,272	1,121	1,239	1,150	1,129	1,228	1,137	1,171	1,172

経 常 収 支 率

損益計算書

（千円）

区　　分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
医業収益	18,353,766	18,021,085	17,981,251
入院診療収益	12,749,117	12,133,434	12,216,823
室料差額収益	433,117	400,695	407,604
外来診療収益	5,086,113	5,402,939	5,241,295
保険予防活動収益	110,205	101,025	103,714
文書料収益	78,308	71,655	74,814
その他医業収益	2,139	7,610	19,384
保険等査定減（△）	▲105,235	▲96,273	▲82,383
診療業務費	18,421,645	18,576,339	18,237,290
給与費	9,049,214	9,082,351	9,153,391
材料費	5,634,162	5,942,733	5,636,680
委託費	755,083	788,512	834,617
設備関係費	2,012,093	1,866,317	1,743,678
研究研修費	4,940	6,155	3,521
経費	966,152	890,271	865,404
医業収支差	▲67,879	▲555,254	▲256,039
医業収支率	99.6%	97.0%	98.6%
人件費率	49.3%	50.4%	50.9%
材料費率	30.7%	33.0%	31.3%
委託費率	4.1%	4.4%	4.6%
経費率	5.3%	4.9%	4.8%
人件費+委託費率	53.4%	54.8%	55.5%
経常収益	19,231,133	18,939,488	18,895,304
経常費用	19,291,068	19,466,973	19,153,968
経常収支差	▲59,936	▲527,485	▲258,664
経常収支率	99.7%	97.3%	98.6%

区　　分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
教育研修収益	212,719	222,300	218,599
教育研修費用	288,874	292,050	295,778
収支差	▲76,154	▲69,750	▲77,179

区　　分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
臨床研究収益	411,802	435,671	446,316
臨床研究費用	451,617	473,391	488,949
収支差	▲39,815	▲37,720	▲42,633

総合内科／総合診療科



専門医資格等　日本内科学会総合内科専門医
専 門 分 野　内科一般
得 意 疾 患　内科一般

部長
小山　弘

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
総合診療科　長	小田垣孝雄	日本内科学会総合内科専門医 日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア指導医 Infection Control Doctor 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医 アメリカ心臓協会ACLSコースディレクター BLSインストラクター 日本救急医学会 ICLSコースディレクター 日本内科学会JMECCディレクター 日本医師会認定産業医	総合診療	内科一般、感染制御、救急蘇生法教育
医　　師	後藤　雅史	日本内科学会総合内科専門医 公衆衛生学修士	内科一般	内科一般
医　　師	井口美季子	日本内科学会総合内科専門医 日本リウマチ学会専門医・登録ソノグラファー 日本リウマチ財団登録医	膠原病・リウマチ一般	膠原病・リウマチ一般

□ 診療科の特徴

1．器官系を横断的に考えます
2．患者と病院のインターフェースとして、窓口機能を果します
3．専門診療科との連携を重視します
4．医学的なエビデンスに配慮します

□ 主な対象疾患

急性感染症（気道、尿路、皮膚軟部組織、骨、その他）
不明熱、多発関節痛など診断の確定していない症候
膠原病リウマチ疾患（関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症など）
＊膠原病リウマチ疾患については、膠原病リウマチ内科が総合内科と協力しながら診療をしています

□ 診療（業務）内容

外来では重篤でない急性疾患の診断・管理や、不明熱や多発関節痛など診断の確定していない症候の診断・管理と必要に応じての専門診療部門・機関への紹介などを行っております。健診その他での高血圧や脂質異常症などについて相談に受診される方もおられ、生活指導や薬物療法が継続的に必要と考えられた場合、地域の医療機関を紹介していますので、よろしくお願い致します。

入院では、おもに救急外来から緊急入院した内科系非重篤患者のうち、呼吸器、尿路、皮膚、骨軟部組織などの急性感染症、原因不明の発熱（最終的には薬剤熱、血管炎症候群や膠原病リウマチ疾患、血液学的腫瘍、自然治癒するウイルス感染症や一過性の肺への吸引など）や意識障害、電解質異常、栄養不良を受け持ち、診断および管理、必要に応じて他科への紹介を行っています。他科入院中の患者の感染症や原因不明の発熱についての共診も主たる活動の一部になっています。

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
17.1名	344名	17.2日

外来患者数

1日平均患者数
37.1名

主な疾患の件数など

感染症	加齢関連疾患	膠原病リウマチ疾患	血液・腫瘍疾患	呼吸器疾患	栄養・水電解質異常
221件	48件	29件	21件	14件	12件

□ 地域医療連携・広報活動

伏見医師会理事(小山)

伏見関節リウマチ病診連携の会（井口）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学会名
国内学会	井口　美季子	MTXによる汎血球減少の回復過程で免疫再構築症候群と類似した病態を呈した一例	第61回リウマチ学会総会　学術集会
国内学会	漆原　愛、井口　美季子、海透　修子、後藤　雅史 小田垣　孝雄、小山　弘	急速に増大する眼窩内腫瘤で発症した1型糖尿病合併　IGG４関連疾患の一例	第32回臨床リウマチ学会
国内学会	小山　弘	これからの総合診療	第71回国立病院総合医学会

膠原病・リウマチ内科



診療科長
井口　美季子

専門医資格等　日本内科学会総合内科専門医
日本リウマチ学会専門医・登録ソノグラファー
日本リウマチ財団登録医
専 門 分 野　膠原病・リウマチ一般
得 意 疾 患　膠原病・リウマチ一般

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本リウマチ学会認定教育施設

1. 膠原病・関節リウマチは慢性疾患であるため、患者さんご自身が治療に納得して上手に疾患と付き合っていく必要があります。様々な治療の選択肢をご提示し、ご納得いただける治療をご提供します。
2. 他の疾患領域と同様に膠原病・リウマチ性疾患の治療は飛躍的に進化しています。最新の知見に基づいた最善の治療を提供します。
3. 膠原病・関節リウマチは全身に合併症をきたす可能性がある疾患なので各科と連携しながら治療を行っていきます。当院で対応困難な疾患の場合は速やかに大学病院にご紹介します。
4. 関節リウマチについては地域連携に努めています。

□ 主な対象疾患

関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、悪性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、強皮症、血管炎、多発性筋炎/皮膚筋炎、ベーチェット病、IgG４関連疾患　など

□ 診療内容

月・火・木・金曜（第１、３）に外来診療を行っております。
関節エコーを用いてリアルタイムに現在の関節炎の活動性を評価します。
挙児希望関節リウマチ・膠原病患者さんにも対応します。

□ 地域医療連携・広報活動

第8回　膠原病を考える会　「73歳男性　発熱、溶血性貧血、血小板減少をきたした症例」

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
1.6名	31名	18.0日

外来患者数

1日平均患者数
13.0名

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学 会 名
国内学会	井口　美季子	MTXによる汎血球減少の回復過程で免疫再構築症候群と類似した病態を呈した一例	第61回リウマチ学会総会学術集会
国内学会	漆原　愛、井口　美季子、海透　修子、後藤　雅史 小田垣　孝雄、小山　弘	急速に増大する眼窩内腫瘤で発症した1型糖尿病合併　IGG４関連疾患の一例	第32回臨床リウマチ学会

血液内科



診療科長
奥野　芳章

専門医資格等　日本内科学会内科専門医
日本血液学会専門医・指導医
京都大学医学博士
専 門 分 野　血液一般

□ 診療科の特徴

1. 当科では貧血から、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫など血液悪性疾患に至るまでいろいろな血液疾患の診断、治療をおこなっています。血液疾患は自覚症状に乏しく、血液検査をして初めて異常が明らかになることが多いため、まず、お近くのかかりつけの医師に診察して頂いて、血液疾患の疑いがあれば当科にご紹介して頂いています。
2. 血液疾患の治療法の進歩はめざましく、血液幹細胞移植の適応になることもありますが、残念ながら当院では移植治療は行っておりません。そのような治療が必要な場合、移植施設をご紹介いたします。

□ 主な対象疾患

貧血・出血傾向・リンパ腫・白血病・骨髄腫　など

□ 診療（業務）内容

再生不良性貧血に対する免疫抑制療法や血液悪性疾患に対する通常量化学療法、貧血などに対する輸血などの対症療法を行っています。治療法を選択するにあたっては、広く認められている標準療法であること、患者さんが十分ご理解、ご納得頂けることを重視しています。

血液疾患は診断、あるいは治療の選択に困難を伴う場合が多いかと思いますが、患者さんと常にご相談しながらよりよい治療法を探していきます。

・貧血
・出血傾向
・リンパ腫
・白血病
・骨髄腫など

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
7.3名	179名	14.5日

外来患者数

1日平均患者数
13.3名

内分泌・代謝内科



診療部長・診療科長
田上　哲也

専門医資格等　日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医、近畿支部評議員
日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医・教育責任者、評議員
日本甲状腺学会　専門医、評議員
厚生労働省　臨床研修指導医
京都大学医学部　臨床教授・非常勤講師
京都大学　医学博士

専門分野　内科、内分泌・代謝

得意疾患　内分泌・代謝疾患、甲状腺疾患

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	立木　美香	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本高血圧学会　専門医 臨床研修指導医 東京女子医科大学　医学博士	内科 内分泌・代謝	高血圧・副腎疾患
医　　師	馬越　洋宜	日本内科学会　認定内科医 臨床研修指導医	内科 内分泌・代謝	高血圧・副腎疾患
専修医	廣嶋　佳歩	日本内科学会　認定内科医	内科、内分泌・代謝	内分泌疾患
専修医	横本　真希	日本内科学会　認定内科医 日本糖尿病学会　専門医	内科 内分泌・代謝	骨代謝疾患
専修医	兼子　大輝	日本内科学会 認定内科医	内科 内分泌・代謝	内分泌疾患
レジデント	笹井 有美子	日本内科学会 認定内科医 日本甲状腺学会 専門医	内科 内分泌・代謝	甲状腺疾患
非常勤医師	垣田真以子	日本内科学会　認定内科医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医 日本甲状腺学会　専門医 日本抗加齢学会　専門医 日本医師会　認定産業医	内科 内分泌・代謝 女性医学	内分泌疾患
非常勤医師	小笠原辰樹	日本内科学会　認定内科医	内科 内分泌・代謝	高血圧・副腎疾患

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本内分泌学会研修施設 日本甲状腺学会認定施設 日本高血圧学会認定施設

● 内分泌代謝疾患とは「ホルモンの乱れに起因する病気」を総称するものです。下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性ホルモンの異常をきたす疾患の他、内分泌疾患を疑う必要のある、高血圧、糖尿病、肥満、高脂血症などの生活習慣病、電解質異常、骨粗鬆症なども対象としており、糖尿病センターと連携して治療にあたっています。

● 地域における内分泌代謝疾患の専門診療を担っており、1999年には内分泌代謝性疾患に関する高度専門医療施設（準ナショナルセンター）として国の指定を受けています。全国の内分泌・代謝疾患の「専門医療施設」と内分泌・代謝疾患ネットワークを構築しています。また、日本内分泌学会認定教育施設および日本甲状腺学会認定専門医施設に認定されています。

● 診療のモットー

1．内分泌代謝疾患に関する、良質で高水準の医療を提供しています。
2．満足のいく十分な説明を行い、安心できる医療を提供しています。
3．十分な診療情報提供と逆紹介により、病診連携を促進しています。

□ 主な対象疾患

●下垂体疾患

下垂体インシデンタローマ：脳ドックなど、CTやMRIで偶然見つかった下垂体腫瘍の機能評価をします。

下垂体機能亢進症：先端巨大症（アクロメガリー）、クッシング病（下垂体性クッシング症候群）、プロラクチン産生下垂体腫瘍（プロラクチノーマ）、TSH産生下垂体腫瘍（中枢性甲状腺機能亢進症）などです。糖尿病や肥満、不順月経の原因になります。

下垂体機能低下症：シーハン症候群（出産後下垂体機能低下症）などの汎下垂体機能低下症、ACTH単独欠損症（下垂体性副腎不全）、成長ホルモン分泌不全症、リンパ球性下垂体炎、中枢性尿崩症などがあります。無月経や低身長、低血圧・低血糖、口渇・多飲・多尿などが主徴候となります。小児科からのトランジション（引き継ぎ治療）も大切です。

●甲状腺疾患

甲状腺腫：学校検診や人間ドックなどで指摘された甲状腺腫の評価をします。

甲状腺インシデンタローマ：頸動脈エコーなどで偶然見つかった甲状腺腫瘤の良性・悪性の判定をします。甲状腺機能亢進症：バセドウ病のほか、プランマー病（機能性結節）、妊娠性甲状腺機能亢進症があります。眼球突出や心房細動がきっかけで見つかることもあります。振戦や筋力低下の原因にもなります。コントロール不良のバセドウ病にはアイソトープ治療（^{131}I内用療法）も考えてみてください。

破壊性甲状腺中毒症：発熱・前頸部痛を主訴とする亜急性甲状腺炎や、橋本病をベースとした無痛性甲状腺炎、インターフェロンやアミオダロンなどによる薬剤性甲状腺中毒症があります。

甲状腺機能低下症：原因として橋本病（慢性甲状腺炎）が最も多いですが、先天性甲状腺機能低下症や薬剤性甲状腺機能低下症（向精神薬など）も少なくありません。便秘や体重増加、皮膚の乾燥、顔のむくみ、脱毛などを訴えます。

●副甲状腺疾患

高カルシウム血症：副甲状腺腫による原発性副甲状腺機能亢進症や悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症、ビタミンD中毒があります。尿路結石を繰り返します。

低カルシウム血症：成人では特発性副甲状腺機能低下症があります。小児では、先天性副甲状腺機能低下症や偽性副甲状腺機能低下症があります。

骨粗鬆症：高齢化に伴い、閉経後の原発性骨粗鬆症が増加しています。ステロイドホルモンによる続発性骨粗鬆症にも注意が必要です。

●副腎疾患

副腎インシデンタローマ：CTやMRIで偶然見つかった副腎腫瘍の機能評価をします。

副腎皮質機能亢進症：原発性アルドステロン症やクッシング症候群などがあります。多くは副腎腫瘍が原因です。高血圧や糖尿病、メタボリック症候群の原因になります。

副腎髄質機能亢進症：褐色細胞腫や傍神経節腫が原因です。術後数年後に転移が見つかるケースも少なくありません。発作性の高血圧が特徴です。

副腎皮質機能低下症：アヂソン病や先天性副腎過形成などが原因となります。急性副腎不全（副腎クリーゼ）を発症することがあります。

●性腺疾患

ターナー症候群、クラインフェルター症候群、多嚢胞性卵巣症候群などです。

●内分泌性高血圧
高血圧の約15%はホルモンの異常による内分泌性高血圧で、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、腎臓などのホルモン過剰が原因となります。適確な診断と治療で治癒可能なことが多いので、専門医の受診を勧めます。高血圧の～10%に原発性アルドステロン症が見つかります。
●メタボリックシンドローム
高血圧、肥満、糖尿病などの生活習慣病の中にも内分泌の病気が隠れています。
●サルコペニア
加齢によって筋肉量が減り、握力や歩く速度が低下するなど、身体機能に影響がでる状態。日常生活に支障がでるのみならず、転倒・骨折、生活習慣病、認知症などのさまざまな病気のリスクとなります。
●その他
腎性尿崩症、多発性内分泌腺腫症(MEN Ⅰ型, MEN Ⅱ型)
電解質異常（低カリウム血症、低ナトリウム血症など）、高脂血症、高尿酸血症など、その他の内分泌代謝疾患

□ 診療（業務）内容

●外来では、血液検査、画像検査（レントゲン、CT、MRI、アイソトープ検査や甲状腺エコー）、甲状腺の細胞診などを行っています。遺伝子診断・遺伝相談、セカンドオピニオン外来を実施しています。本年度より新たに骨粗鬆症・サルコペニア専門外来を開設しました。
●入院では、上記疾患の診断と治療の他、バセドウ病のアイソトープ治療、甲状腺眼症のステロイドパルス療法、原発性アルドステロン症の副腎静脈サンプリング検査などを実施しています。

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

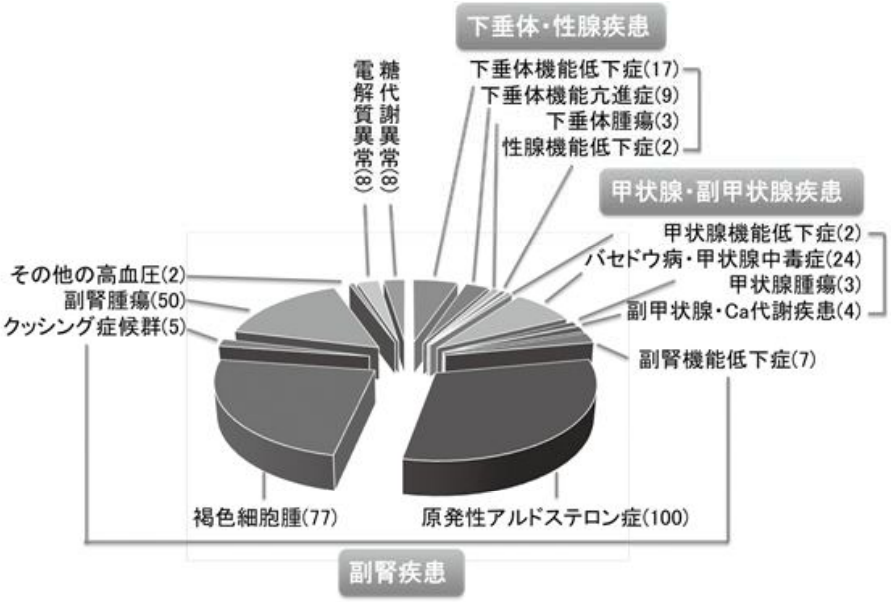
1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
4.8名	312名	5.5日

外来患者数

1日平均総患者数	年間初診患者数
58.7名	779名

主な検査の件数など

甲状腺エコー	甲状腺細胞診	副腎静脈サンプリング
1,643件	146件	42件



〈福島県県外甲状腺検査〉

平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって、東京電力福島第一原子力発電所では、放射性物質の放出を伴う事故(以下、福島第一原発事故という)が発生した。この事故は、国際原子力・放射線事象評価尺度(International Nuclear and Radiological Event Scale: INES)において、1986年4月26日に旧ソビエト連邦(現ウクライナ)で発生したチェルノブイリ原子力発電所事故(以下「チェルノブイリ原発事故」という)と同等の「7」(暫定)とされている。チェルノブイリ原発事故においては、事故直後に食品等の規制がなされなかったことなどに起因し、周辺住民の放射性ヨウ素による内部被ばくが拡大し、小児の甲状腺がんが激増する事態となった。このことから、福島第一原発事故においても小児の甲状腺がん発症への懸念が高まっている。このため、福島県では県民の健康見守り事業である「県民健康管理調査」を実施し、その中で、福島第一原発事故発生時に18歳以下の小児であった者に対する甲状腺検査を行っている。

「県民健康管理調査」事業は、福島第一原発事故による放射性物質の拡散や避難等を踏まえ、県民の被ばく線量の評価を行うとともに、県民の健康状態を把握し、疾病の予防、早期発見、早期治療につなげることで、将来にわたる県民の健康維持・増進を図ることを目的としている。財源には、国及び福島県からの出資金並びに東京電力株式会社から福島県への賠償金等から構成される「福島県民健康管理基金」が充てられている。検査・診断等は、福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センターが主体となって行っている。県民健康管理調査は、外部被ばく線量の推計を目的とした「基本調査」と、健康状態の把握を目的とした「詳細調査」から構成されている。

甲状腺検査

事故当時18歳以下の小児(平成4年4月2日以降に生まれた者)を対象とし、以下の2つの検査から構成されている。

● 先行検査 平成23年10月から平成26年3月末までに行われる、1回目の甲状腺検査

● 本格検査 平成26年4月以降、20歳までは2年ごと、それ以降は5年ごとに継続して行われる甲状腺検査

チェルノブイリ原発事故のデータから、小児甲状腺がんが増加するのは事故後4〜5年を経過して以降とされている。このことを踏まえつつ、事故直後に開始された先行検査は、福島第一原発事故後3年以内の小児の甲状腺の状態を把握することで、放射線被ばくによる影響が考えにくい時点での疾患の頻度を記録し、将来の健康管理の土台をつくることを目的としている。一方、事故後3年を経て開始される予定の本格検査は、放射線被ばくの影響についての追跡調査と健康管理を目的としている。平成25年現在行われているのは先行検査である。

先行検査はさらに、対象者全員に対して行われる一次検査と、一次検査で疑わしい所見のあった者に対してのみ行われる、診断確定のための二次検査で構成される。

一次検査は甲状腺エコー検査(超音波検査)である。二次検査は甲状腺エコー検査に加え、採血・尿検査が行われるほか、必要な場合は細胞診(甲状腺の細胞を採取して行う検査)が行われる。

京都医療センター内分泌・代謝内科では、京都府下への避難者（京都府内居住者）を対象に一次検査と二次検査を実施している。

	福島甲状腺エコー
2012年度	9件
2013年度	26件
2014年度	9件
2015年度	21件
2016年度	11件
2017年度	11件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者	演 題	学 会 名		
国際学会	Umakoshi H, Tsuiki M, Kurihara I, Takeda Y, Ichijo T, Wada N, Katabami T, Ogawa Y, Takahashi K, Sone M, Kawashima J, Shibata H, Yanase T, Rakugi H, Kamemura K, Fujii Y, Naruse M	Clinical significance of computed tomography and serum potassium in subtype classification of primary aldosteronism.	ENDO 2017, the Endocrine Society's 99th Annual Meeting	Orlando, USA	2017.4.2
国際学会	Yumiko Sasai, Hironobu Umakoshi, Mika Tsuiki, Mitsuhide Naruse, Isao Kurihara, Takanobu Yoshimoto, Tomikazu Fukuoka, and JPAS members	Reliability of subtype diagnosis of primary aldosteronism associated with hypercortisolism in adrenal vein sampling	ENDO 2017, the Endocrine Society's 99th Annual Meeting	Orlando, USA	2017.4.2
国内学会	馬越洋宜, 立木美香, 田上哲也, 栗原勲, 伊藤裕, 武田仁勇, 和田典男, 一城貴政, 方波見卓行, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症の病型診断におけるCTの意義の再評価	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4. 20
国内学会	田上哲也	若手臨床内分泌医育成委員会企画 Clinical Endocrinology KO rounds エキスパートによる目から鱗の内分泌代謝セミナー　HbA1cとTSHは初診時検査に入れるべき!?	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4. 20
国内学会	田上哲也	甲状腺疾患のCQ：患者さんからの疑問に答える	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4. 20
国内学会	濱中佳歩, 小笠原辰樹, 横本真希, 馬越洋宜, 笹井有美子, 立木美香, 田上哲也, 浅原哲子, 成瀬光栄, 十一英子, 寺島剛, 島津章	Non-Langerhans cell histiocytosisに関連すると考えられる中枢性尿崩症の一例	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4. 21
国内学会	小笠原辰樹, 笹井有美子, 廣嶋佳歩, 横本真希, 馬越洋宜, 立木美香, 日下部徹, 浅原哲子, 成瀬光栄, 島津章, 田上哲也	TSH産性が疑われた下垂体腫瘍の1例	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4. 21
国内学会	吉澤宏一, 横本真希, 馬越洋宜, 立木美香, 小笠原辰樹, 廣嶋佳歩, 笹井有美子, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	褐色細胞腫の臨床的特徴 自験86例での検討	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4. 21
国内学会	林美沙, 二若久美, 小山理恵, 福田佑紀, 范悦, 田上哲也, 森山賢治	高脂肪負荷時の腹部内臓脂肪におけるUCP1の発現解析	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4. 21
国内学会	田上哲也	甲状腺ホルモン受容体と関連する疾患の最前線 甲状腺ホルモン不応症 Update	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4. 21
国内学会	田上哲也	保険診療を踏まえた甲状腺関連検査の選択と頻度	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4. 21
国内学会	横本真希, 立木美香, 馬越洋宜, 小笠原辰樹, 廣嶋佳歩, 笹井有美子, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	悪性褐色細胞腫における骨転移の臨床的特徴	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4. 22
国内学会	立木美香, 馬越洋宜, 和田典男, 小川佳宏, 吉本貴宣, 曽根正勝, 方波見卓行, 柳瀬敏彦, 成瀬光栄, JPAS研究班	原発性アルドステロン症手術治療例における重症度分類の検証	第90回日本内分泌学会学術総会	京都	2017.4. 22
国内学会	成瀬光栄, 馬越洋宜, 立木美香, 横本真希, 田上哲也	二次性高血圧を見逃さない 褐色細胞腫・パラガングリオーマ	日本高血圧学会臨床高血圧フォーラム	岡山	2017.5. 13
国内学会	成瀬光栄, 立木美香, 馬越洋宜, 田上哲也	他領域からみた妊娠高血圧症候群 妊娠時における内分泌性高血圧の診断と治療	第39回日本妊娠高血圧学会	熊本	2017.9. 23
国内学会	垣田真以子, 臼井 健, 濱中佳歩, 小笠原辰樹, 横本真希, 笹井有美子, 馬越洋宜, 立木美香, 成瀬光栄, 島津章, 田上哲也	家族性甲状腺髄様癌に対するバンデタニブの治療効果	第60回日本甲状腺学会	別府	2017.10. 6
国内学会	濱中（廣嶋）佳歩, 笹井有美子, 兼子大輝, 横本真希, 馬越洋宜, 立木美香, 浅原哲子、成瀬光栄, 濱祥代, 田上哲也	TRA値とTSAb値に乖離を認めた高齢男性の甲状腺眼症の１例	第60回日本甲状腺学会	別府	2017.10. 6
国内学会	林美沙, 二若久美, 松下翠,平尾明日香, 田上哲也, 森山賢治	甲状腺ホルモン作用の撹乱因子について	第60回日本甲状腺学会	別府	2017.10. 7
国内学会	笹井有美子, 兼子大輝, 濱中佳歩, 中谷理恵子, 横本真希, 馬越洋宜, 立木美香, 成瀬光栄, 日下部徹、浅原哲子、島津章, 田上哲也	Basedow病に対する放射性ヨウ素内用療法における副腎皮質ホルモン薬内服の抗TSH受容体抗体価への影響	第60回日本甲状腺学会	別府	2017.10. 7
国内学会	横本真希, 馬越洋宜, 立木美香, 小笠原辰樹, 廣嶋佳歩, 笹井有美子, 田上哲也, 田辺晶代, 島津章, 成瀬光栄	悪性褐色細胞腫・パラガングリオーマにおける骨転移・骨関連事象の臨床的特徴	第40回日本高血圧学会総会	松山	2017.10. 20
国内学会	馬越洋宜、武田仁勇、栗原勲、方波見卓行、一城貴政、和田典男、吉本貴宣、河島淳司、曽根正勝、高橋克敏、立木美香、成瀬光栄	原発性アルドステロン症の病型診断におけるCTと血清カリウムの意義	第40回日本高血圧学会総会	京都	2017.10. 21
国内学会	田上哲也	甲状腺腫瘍の新WHO分類～臨床へ与えるインパクト：内科的観点から	第21回日本臨床内分泌病理学会学術集会	東京	2017.10. 28
国内学会	立木美香、廣嶋佳歩、馬越洋宜、田上哲也、島津章、猪飼伊和夫、方波見卓行、笹野公伸、成瀬光栄	肝腫瘍との鑑別を要した副腎皮質癌の一例	第21回日本臨床内分泌病理学会学術集会	東京	2017.10. 28
国内学会	馬越洋宜、立木美香、武田仁勇、栗原勲、方波見卓行、一城貴政、和田典男、成瀬光栄	原発性アルドステロン症における副腎静脈サンプリング適応の精緻化；CTと血清カリウムを用いた分類	第21回日本臨床内分泌病理学会学術総会	東京	2017.10. 28

国内学会	成瀬光栄, 奥野博, 立木美香, 馬越洋宜, 横本真希, 田上哲也, 島津章	Laparoscopy「褐色細胞腫に対する腹腔鏡手術」褐色細胞腫の腹腔鏡手術　内分泌代謝内科医の立場から	第31回日本泌尿器内視鏡学会総会	徳島	2017.11.18
国内学会	横本真希, 馬越洋宜, 立木美香, 小笠原辰樹, 廣嶋佳歩, 笹井有美子, 田上哲也, 田辺晶代, 島津章, 成瀬光栄	悪性褐色細胞腫・パラガングリオーマの骨転移リスク因子の解明	第27回臨床内分泌代謝update	神戸	2017.11.24
国内学会	立木美香, 馬越洋宜, 和田典男, 小川佳宏, 吉本貴宣, 曽根正勝, 方波見卓行, 柳瀬敏彦, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症手術治療例における重症度の経時的変化	第27回臨床内分泌代謝Update	神戸	2017.11.25
国内学会	馬越洋宜、立木美香、武田仁勇、栗原勲、方波見卓行、一城貴政、和田典男、成瀬光栄	副腎静脈サンプリングの適応の精緻化：局在診断と術後アウトカムの観点から	第21回日本心血管内分泌代謝学会学術総会（シンポジウム）	大阪	2017.12.9
国内学会	笹井有美子、馬越洋宜、立木美香、栗原勲、吉本貴宣、福岡富和、成瀬光栄、JPAS研究班	コルチゾール自律産生を有する原発性アルドステロン症の頻度と副腎静脈採血における病型診断法	第90回日本内分泌学会総会	京都	2017.4.21
国内学会地方会及び分科研究会	笹井有美子、兼子大輝、廣嶋佳歩、横本真希、馬越洋宜、立木美香、日下部 徹、浅原哲子、成瀬光栄、島津章、田上哲也、白神幸太郎、相川幸生、玉那覇民子、岡田厚	急性心不全を契機に傍神経節腫瘍（左房・左頚部・右副腎）診断に至るも治癒切除が困難と考えられた1例	第18回日本内分泌学会近畿支部学術集会	大阪	2017.11. 4
国内学会地方会及び分科研究会	笹井有美子、兼子大輝、廣嶋佳歩、横本真希、馬越洋宜、立木美香、中谷理恵子、日下部徹、浅原哲子、成瀬光栄、島津章、田上哲也	Basedow病に対する放射性ヨウ素内用療法における副腎皮質ホルモン薬内服の抗TSH受容体抗体価への影響	第18回京滋臨床甲状腺懇話会	京都	2017.6.17
国内学会地方会及び分科研究会	田上哲也	甲状腺ホルモン不応症：RTHβとRTHα	第18回鹿児島甲状腺疾患研究会	鹿児島	2017.8.3
国内学会地方会及び分科研究会	兼子大輝、立木美香、笹井有美子、廣嶋佳歩、横本真希、馬越洋宣、日下部徹、浅原哲子、島津章、広川侑奨、奥野博、森吉弘毅、笹野公伸、成瀬光栄、田上哲也	6年間の経過で病型診断が変わった原発性アルドステロン症の1例	第93回京都内分泌同好会	京都	2017.10.14
国内学会地方会及び分科研究会	垣田真以子, 兼子大輝, 廣嶋佳歩, 小笠原辰樹, 横本真希, 笹井有美子, 馬越洋宜, 立木美香, 成瀬光栄, 島津章, 田上哲也	42歳でTurner症候群と診断した橋本病の一例	第40回京都甲状腺研究会	京都	2018.2.3
国内学会地方会及び分科研究会	濱中（廣嶋）佳歩, 馬越洋宜, 兼子大輝, 横本真希, 笹井有美子, 立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄, 筑後孝紀, 勝島慎二, 島津章	両側副腎・肝の占拠性病変により副腎不全をきたした症例	第94回京都内分泌同好会	京都	2017.3.24
その他	横本真希	いつの間にか骨折？	伏見内分泌代謝ネットワーク　第27回連携の会	京都	2017.5.25
その他	日下部徹	サルコペニアを予防する！	伏見内分泌代謝ネットワーク　第27回連携の会	京都	2017.5.25
その他	笹井有美子	何もしない甲状腺癌!?	伏見内分泌代謝ネットワーク　第27回連携の会	京都	2017.5.25
その他	田上哲也	女性のライフサイクルと甲状腺機能異常	産婦人科診療内容向上会	京都	2017.8.5
その他	田上哲也	乳癌に対する内分泌療法に伴う骨粗鬆症	Bone management連携セミナー～骨粗鬆症のCareを考える～	和歌山	2017.9.28
その他	横本真希、立木美香、馬越洋宜、小笠原辰樹、廣嶋佳歩、笹井有美子、田上哲也、島津章、成瀬光栄	悪性褐色細胞腫・パラガングリオーマにおける骨転移の臨床的特徴	第4回内分泌代謝トランスレーショナル医学塾	京都	2017.9.29
その他	兼子大輝	内分泌性肥満を見逃すな！	伏見内分泌代謝ネットワーク　第28回連携の会	京都	2017.11.9
その他	馬越洋宜	内分泌性高血圧を見逃すな！	伏見内分泌代謝ネットワーク　第28回連携の会	京都	2017.11.9
その他	立木美香	内分泌性糖尿病を見逃すな！	伏見内分泌代謝ネットワーク　第28回連携の会	京都	2017.11.9
その他	廣嶋佳歩、立木美香	抑うつ状態・認知機能低下をきたした高齢男性の一例	第21回京都地区病院研修医・若手医師のための代謝・内分泌セミナー	京都	2017.11.30
その他	田上哲也	甲状腺中毒症の保険診療について	Roche 甲状腺セミナー in Osaka	大阪	2017.11.30
その他	堤惟、兼子大輝、中前恵一郎	四肢脱力を主訴に来院した血圧管理不良若年女性の一例	第28回京都地区病院研修医・若手医師のための代謝・内分泌セミナー	京都	2017.11.30
その他	田上哲也	動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017を踏まえた資質管理	乙訓医師会　特定健康診査反省会・学術講演会	京都	2017.12.3
その他	馬越洋宜	副腎疾患をきわめる	平成30年度内分泌代謝性疾患専門医研修会	京都	2018.2.2
その他	田上哲也	甲状腺疾患をきわめる	平成30年度内分泌代謝性疾患専門医研修会	京都	2018.2.2
その他	田上哲也	原発性骨粗鬆症と続発性骨粗鬆症	Osteoporosis Live Symposium	京都	2018.3.8

□ 投稿論文など

区分	著者, タイトル, 巻・ページ	著書・雑誌名
英文原著論文	Yokomoto-Umakoshi M, Umakoshi H, Tsuiki M, Ogasawara T, Hamanaka-Hiroshima K, Tanabe A, Tagami T, Shimatsu A, Naruse M. Paraganglioma as a risk factor for bone metastasis. Endocr J. 2017 Nov 29. doi: 10.1507/endocrj.EJ17-0368. [Epub ahead of print]	Endocr J
英文原著論文	Naruse M, Umakoshi H, Tsuiki M, Yokomoto M, Tagami T, Tanabe A, Shimatsu A. The Latest Developments of Functional Molecular Imaging in the Diagnosis of Primary Aldosteronism. Horm Metab Res. 2017 Dec;49(12):929-935. doi: 10.1055/s-0043-120672. Epub 2017 Nov 23.	Horm Metab Res
英文原著論文	Hayashi M, Futawaka K, Koyama R, Fan Y, Matsushita M, Hirao A, Fukuda Y, Nushida A, Nezu S, Tagami T, Moriyama K. Effects of growth hormone on uncoupling protein 1 in white adipose tissues in obese mice. Growth Horm IGF Res. 2017 Dec;37:31-39. doi: 10.1016/j.ghir.2017.10.006. Epub 2017 Oct 24.	Growth Horm IGF Res
英文原著論文	Hayashi M, Futawaka K, Matsushita M, Koyama R, Fun Y, Fukuda Y, Nushida A, Nezu S, Tagami T, Moriyama K. GH directly stimulates UCP3 expression. Growth Horm IGF Res. 2018 Jan 31. pii: S1096-6374(18)30002-9. doi: 10.1016/j.ghir.2018.01.002. [Epub ahead of print]	Growth Horm IGF Res
英文原著論文	Hayashi M, Futawaka K, Matsushita M, Hatai M, Yoshikawa N, Nakamura K, Tagami T, Moriyama K. Cigarette Smoke Extract Disrupts Transcriptional Activities Mediated by Thyroid Hormones and Its Receptors. Biol Pharm Bull. 2018;41(3):383-393. doi: 10.1248/bpb.b17-00735.	Biol Pharm Bull
英文原著論文	Wada M, Kita M, Kawasaki K, Kusakabe T, Tagami T, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Hashimoto K. False-positive TSH receptor antibody-a pitfall of third-generation TSH receptor antibody measurements in neonates. Endocr J. 2018 Mar 10. doi: 10.1507/endocrj.EJ17-0426. [Epub ahead of print]	Endocr J
英文原著論文	Sakane Y, Kanamoto N, Yamauchi I, Tagami T, Morita Y, Miura M, Sone M, Yasoda A, Kimura T, Nakao K, Inagaki N. Regulation of type 1 iodothyronine deiodinase by LXRα. PLoS One. 2017 Jun 15;12(6):e0179213. doi: 10.1371/journal.pone.0179213. eCollection 2017.	PLoS One
英文原著論文	Yokomoto-Umakoshi M, Kanazawa I, Kondo S, SugimotoT.Association between the risk of falls and osteoporotic fractures in patients with type 2 diabetes mellitus. Endocr J 2017 64:727-734.	Endocr J
英文原著論文	Kobayashi (Kakita) M, Tagami, T. Thyroid hormones and pregnancy/infertility/recurrent Pregnancy loss 1) pregnancy	J Jpn Thyroid Assoc
英文原著論文	Umakoshi H, Tsuiki M, Takeda Y, Kurihara I,Itoh H, Katabami T, Ichijo T, Wada N, Yoshimoto T, Ogawa Y, Kawashima J, Sone M, Inagaki N, Takahashi K, Watanabe M, Yuichi M, Kobayashi H, Shibata H, Kamemura K Otsuki M, Fujii Y, Yamamto K, Ogo A, Yanase T, Suzuki T Naruse M. Significance of Computed Tomography and Serum Potassium in Predicting Subtype Diagnosis of Primary Aldosteronism. The Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism 2018 ;103(3):900-908	The Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism
英文原著論文	Umakoshi H, Ogasawara T, Takeda Y, Kurihara I, Itoh H, Katabami T, Ichijo T, Wada N, Shibayama Y, Yoshimoto T, Ogawa Y, Kawashima J, Sone M, Inagaki N, Takahashi K, Watanabe M, Matsuda Y, Kobayashi H, Shibata H, Kamemura K, Otsuki M, Fujii Y, Yamamto K, Ogo A, Yanase T, Okamura S, Miyauchi S, Suzuki T, Tsuiki M, Naruse M; JPAS Study Group. Accuracy of adrenal computed tomography in predicting the unilateral subtype in young patients with hypokalaemia and elevation of aldosterone in primary aldosteronism. Clin Endocrinol (Oxf). 2018 Feb 21. doi: 10.1111/cen.13582. [Epub ahead of print]	Clin Endocrinol (Oxf)
英文原著論文	Ohno Y, Sone M, Inagaki N, Yamasaki T, Ogawa O, Takeda Y, Kurihara I, Itoh H, Umakoshi H, Tsuiki M, Ichijo T, Katabami T, Tanaka Y, Wada N, Shibayama Y, Yoshimoto T, Ogawa Y, Kawashima J, Takahashi K, Fujita M, Watanabe M, Matsuda Y, Kobayashi H, Shibata H, Kamemura K, Otsuki M, Fujii Y, Yamamoto K, Ogo A, Okamura S, Miyauchi S, Fukuoka T, Izawa S, Yoneda T, Hashimoto S, Yanase T, Suzuki T, Kawamura T, Tabara Y, Matsuda F, Naruse M; Nagahama Study; JPAS Study Group. Prevalence of Cardiovascular Disease and Its Risk Factors in Primary Aldosteronism: A Multicenter Study in Japan. Hypertension. 2018 Mar;71(3):530-537.	Hypertension
英文原著論文	Fujii Y, Umakoshi H, Wada N, Ichijo T, Kamemura K, Matsuda Y, Kai T, Fukuoka T, Sakamoto R, Ogo A, Suzuki T, Nanba K, Tsuiki M, Naruse M; WAVES-J Study Group. Subtype prediction of primary aldosteronism by combining aldosterone concentrations in the left adrenal vein and inferior vena cava: a multicenter collaborative study on adrenal venous sampling. J Hum Hypertens. 2017 Dec;32(1):12-19.	J Hum Hypertens
英文原著論文	Williams TA, Lenders JWM, Mulatero P, Burrello J, Rottenkolber M, Adolf C, Satoh F, Amar L, Quinkler M, Deinum J, Beuschlein F, Kitamoto KK, Pham U, Morimoto R, Umakoshi H, Prejbisz A, Kocjan T, Naruse M, Stowasser M, Nishikawa T, Young WF Jr, Gomez-Sanchez CE, Funder JW, Reincke M; Primary Aldosteronism Surgery Outcome (PASO) investigators. Outcomes after adrenalectomy for unilateral primary aldosteronism: an international consensus on outcome measures and analysis of remission rates in an international cohort. Lancet Diabetes Endocrinol. 2017 Sep;5(9):689-699.	Lancet Diabetes Endocrinol
英文原著論文	Wada N, Shibayama Y, Umakoshi H, Ichijo T, Fujii Y, Kamemura K, Kai T, Sakamoto R, Ogo A, Matsuda Y, Fukuoka T, Tsuiki M, Suzuki T, Naruse M. Hyperkalemia in both surgically and medically treated patients with primary aldosteronism. J Hum Hypertens. 2017 Oct;31(10):627-632	J Hum Hypertens
和文総説・著書	小林真以子[垣田], 田上哲也.【甲状腺ホルモンと関連疾患】甲状腺ホルモンと妊娠/不妊症/不育症 妊娠. 日本甲状腺学会雑誌(2185-3126)8巻2号 Page73-83(2017.09)	日本甲状腺学会雑誌
和文総説・著書	田上哲也.【内科医のためのクリニカル・パール3】内分泌・代謝 内分泌疾患のクリニカル・パール. Medicina(0025-7699)54巻10号 Page1693-1696(2017.09)	Medicina
和文総説・著書	濱中佳歩[廣嶋], 田上哲也.【内科医のためのクリニカル・パール3】内分泌・代謝 心にのこる症例 こんなところに内分泌	Medicina
和文総説・著書	成瀬 光栄, 立木 美香, 馬越 洋宜, 横本 真希, 笹井 由美子, 田上 哲也, 島津 章.【原発性アルドステロン症診療の進歩】わが国の原発性アルドステロン症の診療に関するコンセンサス・ステートメント. 血圧(1340-4598)24巻12号 Page838-845(2017.12)	血圧
和文総説・著書	馬越 洋宜, 横本 真希, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄.【原発性アルドステロン症診療の進歩】原発性アルドステロン症の局在診断法としての副腎静脈サンプリングの課題	血圧
和文総説・著書	横本真希、立木美香、馬越洋宜、小笠原辰樹、廣嶋佳歩、笹井有美子、田上哲也、島津章、成瀬光栄. 褐色細胞腫の長期予後とQOL ホルモンと臨床 vol 63 No.3 p45-49	ホルモンと臨床
和文総説・著書	横本真希、成瀬光栄. 原発性アルドステロン症関連病態、原発性アルドステロン症における異所性受容体 原発性アルドステロン症診療マニュアル改訂第3版 2017 p45-49	原発性アルドステロン症診療マニュアル改訂第3版

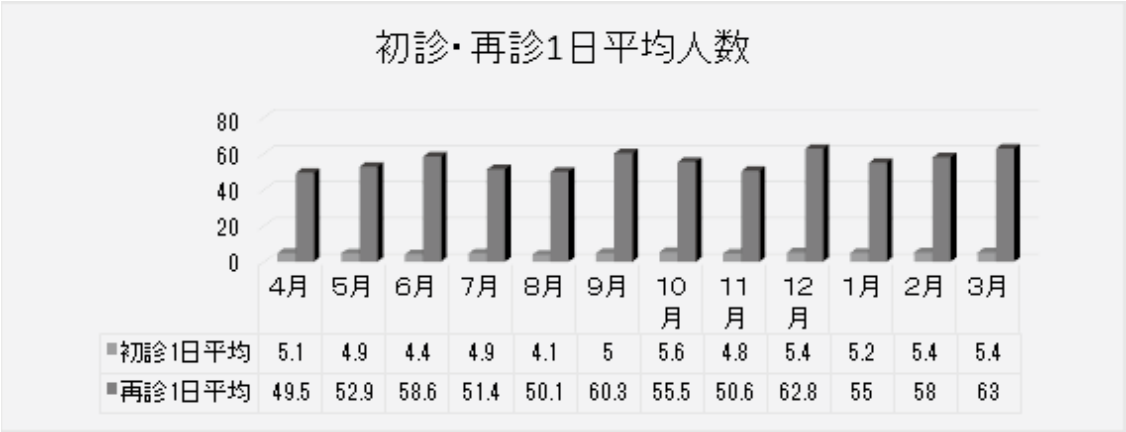
和文総説・著書	馬越洋宜、田上哲也、成瀬光栄. 原発性アルドステロン症の成因. 原発性アルドステロン症診療マニュアル改訂第３版. 2017: 42-44	原発性アルドステロン症診療マニュアル改訂第３版
和文原著論文	横本真希、成瀬光栄. 骨転移の薬物療法②、術後予後・経過観察法 褐色細胞腫診療マニュアル改訂第3版　2017 p66-68, p94-95	褐色細胞腫診療マニュアル改訂第3版
和文総説・著書	立木美香. 妊婦における褐色細胞腫. 褐色細胞腫診療マニュアル改訂第3版　2017;118-120	褐色細胞腫診療マニュアル改訂第3版
和文総説・著書	立木美香、田上哲也、成瀬光栄. 低カリウム血症を伴う高血圧の鑑別診断. 内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版　2017;86-87	内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版
和文総説・著書	立木美香、田辺晶代、成瀬光栄. サブクリニカルクッシング症候群. 内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版 2017;128-130	内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版
和文総説・著書	立木美香、成瀬光栄、田上哲也. デキサメタゾン抑制試験. 内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版 2017;181-182	内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版
和文総説・著書	笹井有美子、成瀬光栄. 家族性高アルドステロン症. 内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版、2017：155-157	内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版
和文総説・著書	田上哲也、成瀬光栄. 甲状腺機能亢進症. 内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版、2017：155-157	内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版
和文総説・著書	田上哲也、成瀬光栄. 甲状腺機能低下症. 内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版、2017：155-157	内分泌性高血圧診療マニュアル改訂第2版

□ 内分泌・甲状腺・高血圧センター 平成29年度看護概要

●平成24年12月より内分泌・甲状腺外来から内分泌・甲状腺・高血圧外来に名称が変り、高血圧の初診患者を全て当科で対応することとなった。
●内分泌・甲状腺・高血圧センターは、小児から高齢者と年齢層も幅広く、また疾患も多岐にわたる。
●治療方針や診断確定のために外来での安静採血や負荷試験、検査入院が必要となることが多い。
●平成25年1月より、東日本大震災で被災し福島県より避難された放射能の影響の可能性がある子どもの方を対象にした甲状腺エコーの協力施設となり、火曜日と木曜日に福島エコー枠を設け実施している。
●平成29年1月より骨粗鬆症・サルコペニア専門外来が開設され、主に整形外科・婦人科・健診センター・他院からの紹介を受け診断と治療を行っている。
●内分泌・甲状腺・高血圧外来では負荷試験や検査に不安をもったり苦痛をともなったりしないように、また、若年層の悪性疾患の方への精神的なフォローに努めている。
●疾患によっては服薬や自己注射など長期にわたるコントロールを必要とするため、（外来→入院→外来と）継続した関わり、患者の立場に立った援助が行えるように日々心がけている。

外来患者

●他院で検査を受けて甲状腺疾患を指摘されたり、下垂体疾患で治療中だが専門病院での治療を希望されたり、あるいは高血圧で降圧剤を服用しているがコントロールが悪かったりして、紹介受診される患者が多い。



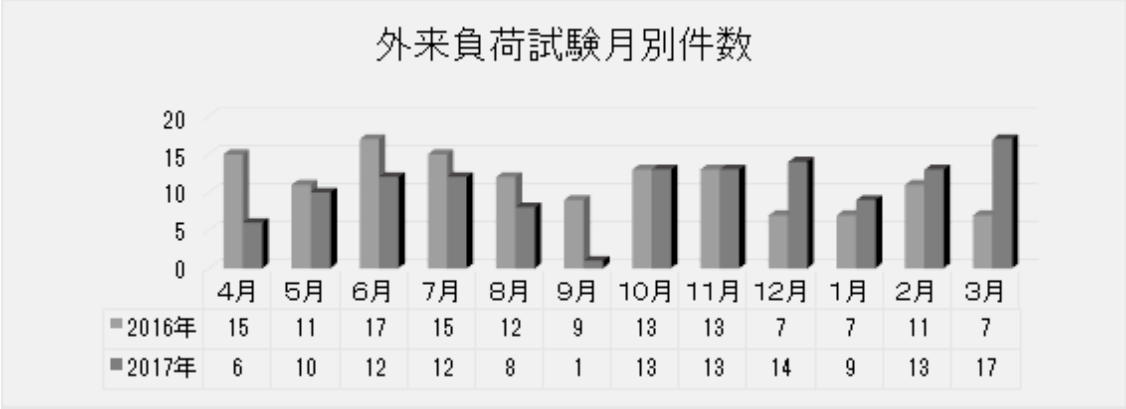
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
■初診1日平均	5.1	4.9	4.4	4.9	4.1	5	5.6	4.8	5.4	5.2	5.4	5.4
■再診1日平均	49.5	52.9	58.6	51.4	50.1	60.3	55.5	50.6	62.8	55	58	63

外来検査・処置

●副腎偶発腫瘍や原発性アルドステロン症などの鑑別や下垂体疾患の評価を目的として、外来で安静採血や負荷試験を実施している。

●安静採血はベッドに30分安静になった状態で実施している。

●下垂体疾患では成長ホルモンの筋肉注射が多い。油性のため吸引時、注射時は慎重を要する。成長ホルモン自己注射導入では若い患者が多いため外来受診時に患者とその家族に継続的に関わりがもてるように心がけている。

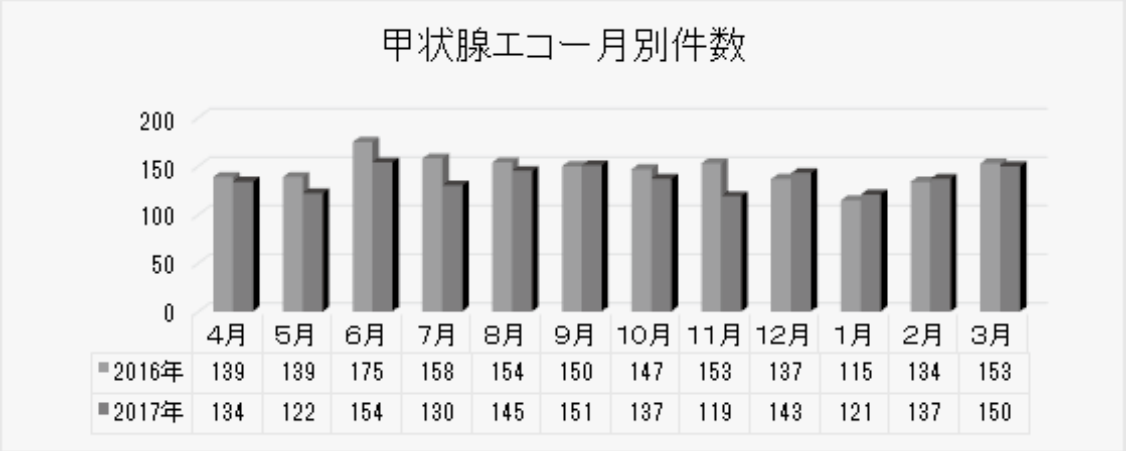


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2016年	15	11	17	15	12	9	13	13	7	7	11	7
2017年	6	10	12	12	8	1	13	13	14	9	13	17

甲状腺エコー

●甲状腺エコー下の細胞診検査は穿刺への恐怖と不安感がみられる為できるだけ付き添い状態把握に努めている。

●福島甲状腺エコーでは2歳から21歳までの若年者が受診される。東日本大震災において福島で被災し、原発の影響に不安を抱えて来院される両親が多く、また実際に検査を受けるのは乳幼児が多いため、検査が不安無くスムーズに進むように心がけている。

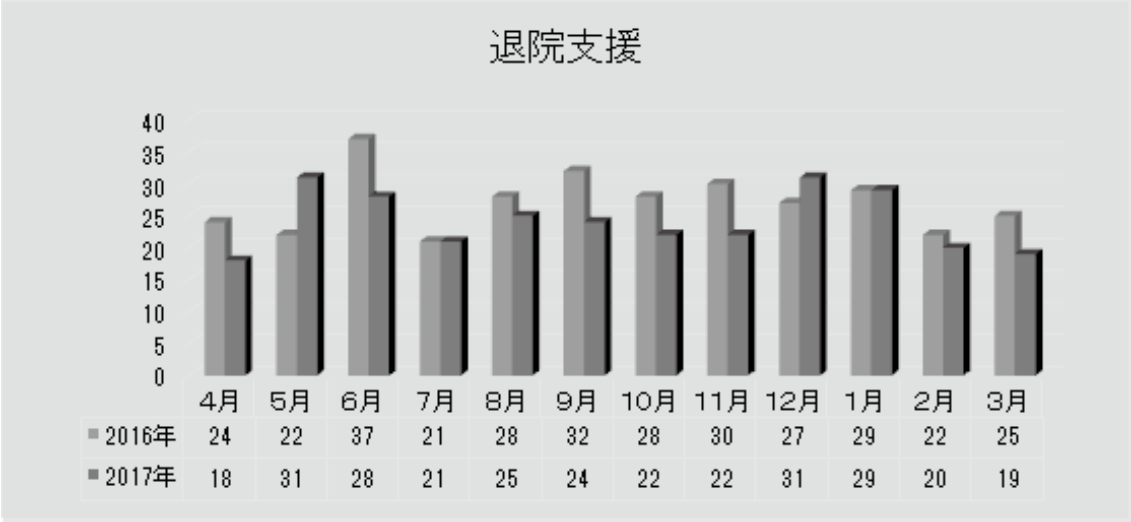


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2016年	139	139	175	158	154	150	147	153	137	115	134	153
2017年	134	122	154	130	145	151	137	119	143	121	137	150

退院支援

●2012年11月から活用となった退院支援計画書は入院説明時に記載し、支援必要患者には自宅での状況や介護保険の申請状況、サービスの利用状況等を確認し、カルテ記載をすることで病棟との連携が図れるようにしている。

●退院時次回受診時の説明や退院後の指導も行えるときは病棟に出向いて実施している。



内分泌・甲状腺・高血圧センター　担当看護師

糖尿病センター（糖尿病内科）



診療科長
河野　茂夫

専門医資格等　日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医
日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医
日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医
日本糖尿病学会　評議員
京都大学医学博士
京都大学臨床教授
専門分野　糖尿病
得意疾患　足病変

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　師	村田　敬	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 東京大学医学博士	糖尿病	若年者糖尿病
医　師	小鳥　真司	日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本肥満学会　肥満症専門医・指導医 日本病態栄養学会専門医 日本抗加齢医学会専門医 京都大学医学博士	糖尿病	糖尿病
専修医	渡邊　知一	日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
専修医	水谷結香子	日本内科学会　認定内科医 日本抗加齢学会　専門医 日本医師会認定　産業医	糖尿病	糖尿病
レジデント	岡田　早未	日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
レジデント	塚本　雅美	日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
臨床研究センター長	島津　章	日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内科学会　総合内科専門医・指導医 京都大学医学博士 京都大学臨床教授	内分泌代謝疾患、検査医学、神経内分泌	内分泌代謝疾患
内分泌代謝高血圧研究部長	浅原　哲子	日本内科学会　認定内科医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医・評議員 日本心血管内分泌代謝学会　評議員 日本肥満学会　肥満症専門医・指導医・評議員 日本肥満症治療学会　評議員 日本動脈硬化学会　動脈硬化専門医・評議員 日本病態栄養学会　評議員 日本抗加齢医学会　専門医 日本人類遺伝学会　臨床遺伝専門医 日本糖尿病学会近畿支部　評議員 京都大学医学博士 京都大学非常勤講師	糖尿病、肥満（メタボリックシンドローム）疾患、内分泌内科、遺伝診療	糖尿病、肥満（メタボリックシンドローム）疾患、内分泌内科、遺伝性疾患全般

予防医学研究室長	坂根　直樹	日本内科学会　認定医 日本肥満学会　評議員 京都府立医科大学医学博士	糖尿病	糖尿病
臨床内分泌代謝(専任)研究室長	日下部　徹	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医・評議員 日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 日本肥満学会　肥満症専門医・指導医・評議員 京都大学医学博士 京都大学客員研究員	糖尿病、肥満症(メタボリックシンドローム)、内分泌	糖尿病、肥満症(メタボリックシンドローム)、内分泌、サルコペニア
非常勤医師	小谷　和彦	日本内科学会　総合内科専門医 日本臨床検査医学会　臨床検査専門医 日本動脈硬化学会　専門医 自治医科大学医学博士	糖尿病	脂質異常症、糖尿病

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定専門病院

1. 生活習慣病である糖尿病の治療には、患者さんご自身が自己管理能力を身につけることが大事です。当科では糖尿病教育、すなわち患者さんへの教育を実施すると同時に、患者さんに対する指導能力を高めた教育スタッフを育成し、より一層の治療実績アップに努めます
2. 地域の糖尿病基幹病院としての責務を果たすべく、地域連携に努めます

□ 主な対象疾患

2型糖尿病、耐糖能異常、1型糖尿病、肥満症、メタボリック症候群、糖尿病神経障害と糖尿病足病変、糖尿病腎症、糖尿病網膜症(眼科)、妊婦糖尿病、脂質異常症(高脂血症)、糖尿病性昏睡、重症低血糖

□ 診療(業務)内容

糖尿病センターでは一般糖尿病外来および入院での診療に加えてさまざまな専門外来を開設し、さまざまなタイプの糖尿病および関連疾患およびそれらの合併症の充実した診療活動につながっている。
下記に専門外来の診療活動について紹介する。

・フットケア外来　毎週月曜日14時～/フットセンター外来　毎週火曜日14時～(2000年開設)フットケア外来では、主に糖尿病に由来する足病変に対応し、全国各地からの紹介患者を集めている。また、非糖尿病足病変患者に対する問い合わせも多く、難治性の足病変を扱う集学的な欧米型のフットセンターを目指している。フットセンター外来では初診は糖尿病センターで行い、一般診察をした上で、関係担当診療科へ紹介している。

・フットウェア外来(月2回:木曜日13時～16時　完全予約制)フットウェア外来では義肢装具士がオーストリア人の整形外科靴マイスター(Örthopedic Shoe Meister)と協力して、靴・装具の指導や調整にあたっている。

・1型糖尿病外来(2005年開設)毎週火曜日午前・午後、金曜日の午前。/インスリンポンプ外来(2010年開設)毎週月曜日の午後。
医師、看護師、管理栄養士、薬剤師がチームを組み、療養を支援。特に、通常の食事に合わせてインスリンを調節するカーボカウント、寝る前の修正インスリンと補食による夜間高血糖と夜間低血糖予防、DKAや重症低血糖予防などの教育で、血糖変動をなるべく少なくする質の良い血糖コントロールの達成と生活の質(QOL)の改善を目指している。糖尿病センターに登録されている1型糖尿病患者は約300名。インスリンポンプを用いた持続皮下インスリン注入(CSII)療法を行っている者は85名(新規導入4名)。その中で、SAP(パーソナルCGM機能搭載インスリンポンプ)を用いている者は32名。2017年度の1型糖尿病外来の初診患者は7名である。

・肥満・メタボリックシンドローム外来(2001年開設)　毎週　月曜日・水曜日9時～14時
肥満・メタボリックシンドローム外来では、医師・看護師・栄養士によるチーム医療をベースに、体重グラフや食事記録表を登載した当院独自の「ダイエットノート」を活用し、日本肥満学会が提唱する減量指導を行い、動脈硬化等の合併症も定期的に評価している。
また、外来患者を中心に2006年よりメタボ会（患者会）を定期的に開催。さらにメタボ通信、スマートランチ等をチーム医療で展開し、外来開設から現在まで延べ16,000人以上の患者治療を行ってきた。
・脂質異常症外来（2005年開設）：第2, 3, 4木曜日。家族性高コレステロール血症（FH）診療認定施設（2013年～：日本動脈硬化学会）で、FH患者は116名を登録（2018年3月末）。FHに対し、PCSK9阻害薬の使用も開始。また、スタチン投与時のCPK上昇例やスタチン関連自己免疫性ミオパチーなど副作用症例への対応も行っている。高脂血症療養指導外来（2006年）も併設し、食事によるコレステロール改善プログラム（VIP）と節酒による中性脂肪改善プログラム（HAPPY）を提供。
・妊娠糖尿病外来(2007年3月開設)第2,4火曜及び毎週金曜日13時～15時　妊娠糖尿病は妊娠中に初めて発見された軽度の（糖尿病には至っていないレベルの）耐糖能異常で巨大児その他の周産期合併症の原因となる。また出産後の糖尿病発症リスクが増大する。妊娠前に糖尿病を発症した場合、糖尿病合併妊娠となり、胎児奇形が大きな問題となり、妊娠前血糖管理が重要となる。2017年度当外来を受診した新規患者数は67名であった。
・糖尿病血管合併症外来/毎週金曜日13時～16時　糖尿病血管合併症外来では、糖尿病血管合併症のスクリーニングを行い、他科との緊密な連携によって治療にあたっている。特に、閉塞性動脈硬化症などの合併症に加え腎機能障害を有する糖尿病患者の短期入院で、外来での施行が困難な造影剤による画像検査を施行し、定期的なスクリーニング・治療への展開も検討している。
・糖尿病透析予防指導外来　(2012年10月開設)　糖尿病腎症2期以上の患者を対象とし、医師、看護師、管理栄養士が連携して自己管理指導を行う。毎週月、水、木曜日に1名ずつの予約枠となっていて、現在3回シリーズとして指導を実施している。
さらに、糖尿病センターではコメディカルスタッフによる指導として一般糖尿病食事指導（管理栄養士）および糖尿病療養指導外来（インスリン自己注射、血糖自己測定、フットケア指導など：看護師）を開設している。また、自己管理（療養）を患者に指導する医療スタッフである糖尿病療養指導士(CDEJ)は、当院内で看護部、薬剤部、栄養科、検査科などに多数を擁し、綿密な糖尿病セルフケアを支援している。

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
14.5名	339名	14.7日

外来患者数

1日平均患者数
84.9名

主な手術・検査の件数など

CGM(連続皮下ブドウ糖測定)	CAVI/ABI測定	CT(内臓脂肪面積測定)
32件	222件	67件

□ 地域医療連携・広報活動

■糖尿病市民公開講座「第32回DM京都」これからの糖尿病治療　2017年7月22日　参加者　約100名
特別講演　「これからの糖尿病治療」
講師：天理よろづ相談所病院　内分泌内科　特定嘱託部長　　辻井　悟
講演　糖尿病とのこれからの付き合い方　2-8病棟　　柴田　美歩・尾畑真理子　看護師・糖尿病療養指導士
講演　「昨今の糖尿病食事療法における課題と問題点」　弓場　洋子　栄養管理室・管理栄養士

■平成29年度（2017年度）内分泌代謝疾患研修会「楽しく患者をやる気にさせる糖尿病教育の実践：評価と危機管理も含めて」、平成29年10月16日～18日。北海道から九州まで42施設、メディカルスタッフ64名が参加

■伏見糖尿病連携学術講演会　2017年11月16日
基調講演①「病態を意識した糖尿病の薬物療法を考える」
京都医療センター　糖尿病センター　　内科医師　小鳥真司
基調講演②「患者さんの主体性を高める医療コミュニケーションとは？」
京都医療センター　糖尿病センター　　内科医師　村田敬
特別講演　「糖尿病診療アップデートと病診連携」
京都医療センター　WHO糖尿病協力センター長　河野茂夫
京都医療センター　臨床栄養科　栄養管理室長　西田 博樹

■第17回メタボリックシンドローム会　2018年1月13日　参加者90名
・特別講演「糖質制限からみた食事療法と減量治療」
講師：京都府立医科大学大学院　医学研究科　内分泌・代謝内科学教授　福井道明先生
・運動指導「ラジオ体操とメタボクイズ」
講師：2-8看護師
・食事指導「減量治療 -あなたに最適な方法を見つけよう-」
講師：管理栄養室　室長　西田博樹

■第14 回 京都医療センター 1 型糖尿病セミナー「先進糖尿病治療とその社会的影響」
2018 年3 月11 日(日) 11:00-15:30、参加者約60名。
パッチポンプ、インスリンポンプとCGMの最新情報、先進糖尿病治療とその社会的影響につき、テルモ株式会社 ホスピタルシステムズＤＭヘルスケア・ＤＭ商品企画の丹澤 和彦氏、日本メドトロニック 学術部の角山 信史氏、市立三次中央病院 糖尿病・代謝内分泌内科 医長の杉廣 貴史先生、刈谷豊田総合病院 内分泌・代謝内科 医師の服部 麗先生、東海大学医学部腎内分泌代謝内科学 准教授の豊田 雅夫先生、大沢内科クリニック 院長の大澤 謙三先生、岡山大学病院 糖尿病センター 助教の利根 淳仁先生を招聘して研修会を開催。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者　・　演　題　・　学　会　名
その他	浅原哲子　生活習慣病におけるEPAの多面的効果　京滋北陸EPAフォーラム　京都
その他	山内惠子　講演:気質を知って苦手な人とも上手にお付き合い　大阪
その他	山内惠子　講演:傾聴スキル超入門　東京
国内学会	泉諒太、日下部徹、野口倫生、岩倉浩、小山博之、坂東美佳、宮澤崇、田中智洋、寒川賢治、中尾一和　ANGPTL8のノックアウトラット開発とその糖・脂質代謝調節における意義の検討　第90回日本内分泌学会学術総会　京都
国内学会	日下部徹、泉諒太、野口倫生、宮澤崇、田中智洋、寒川賢治、中尾一和　メタボリックシンドローム症例におけるANGPTL8/Betatrophinの組織別遺伝子発現の検討　第90回日本内分泌学会学術総会　京都
国内学会	増田慎也、田中将志、井上隆之、北野隆司、村中和哉、山陰一、日下部徹、島津章、浅原哲子　CXCL1はNotchシグナルを介して筋サテライト細胞からの筋管形成を促進させる　第90回日本内分泌学会　京都
国内学会	井上隆之、田中将志、増田慎也、山陰一、北野隆司、村中和哉、日下部徹、和田啓道、島津章、長谷川浩二、浅原哲子　マウス活性化ミクログリアにおけるω3不飽和脂肪酸によるSIRT1を介した炎症抑制作用機序の解明　第90回日本内分泌学会　京都

国内学会	北野隆司、安岡祐美子、後藤剛、北村苗穂子、朴時範、岸野重信、小川順、木村郁夫、粕渕真由、谷史人、田中将志、増田慎也、井上隆之、山陰一、日下部徹、島津章、高橋信之、河田照雄、浅原哲子　食餌脂質・α-リノレン酸由来乳酸菌代謝物による抗炎症性M2型マクロファージの分化誘導を介した腸内環境制御　第90回日本内分泌学会　京都
国内学会	田中将志、山陰一、増田慎也、井上隆之、北野隆司、村中和哉、小鳥真司、和田啓道、小谷和彦、日下部徹、島津章、長谷川浩二、浅原哲子　糖尿病・肥満における新規認知症予知バイオマーカー-血清TREM2の病態意義の解明-　第90回日本内分泌学会　京都
国内学会	山陰一、日下部徹、小谷和彦、山田努、荒木里香、岡嶋泰一郎、大石まり子、島津章、浅原哲子　肥満症患者における心血管疾患発症リスク因子としての高尿酸血症-多施設共同前向き肥満症コホート-　第90回日本内分泌学会　京都
国内学会	末松三奈、阿部恵子、肥田武、安井浩樹、半谷眞七子、亀井浩行、會田信子、植村和正、山内惠子　「糖尿病教室　IPE（多職種連携教育）」が学生のチームワーク能力および自他職種への理解に及ぼす影響　第60回日本糖尿病学会年次学術集会　名古屋.愛知
国内学会地方会及び分科研究会	山内惠子、坂根直樹、山内崇裕、井上啓子　透析予防・たんぱく制限用ポーションコントロールプレート（ヘルシープレート）を用いた患者教育システムと教材開 発に関する研究　第60回日本糖尿病学会年次学術集会　名古屋.愛知
国内学会	泉諒太、日下部徹、野口倫生、岩倉浩、小山博之、坂東美佳、宮澤崇、田中智洋、寒川賢治、中尾一和　ANGPTL8のノックアウトラット開発とその糖・脂質代謝調節における意義の検討　第60回日本糖尿病学会学術集会　愛知
国内学会	山陰一、日下部徹、小谷和彦、山田努、荒木里香、岡嶋泰一郎、大石まり子　CAVIは肥満症患者の心血管疾患発症予測マーカーとなる―多施設共同前向き肥満症コホート―　第60回日本糖尿病学会学術集会　愛知
国内学会	井上隆之、田中将志、増田慎也、山陰一、北野隆司、村中和哉、日下部徹、和田哲道、島津章、長谷川浩二、浅原哲子　ω3不飽和脂肪酸によるSIRT1を介した抗炎症作用とミクログリア活性化抑制機序の解明　第60回日本糖尿病学会年次学術集会　名古屋
国内学会	塚本雅美・中川内玲子・岡田早来・渡邊知一・小鳥真司・村田敬・泉有紀・山田和範・梶尾裕・清野裕・河野茂夫　アジア西太平洋地域における糖尿病足病変の成因の変化と対策について　第60回　日本糖尿病学会年次学術集会　愛知県名古屋市
国内学会	村田敬　シンポジウム「糖尿病診療におけるリスクマネージメント」「インスリンポンプ・CGMのリスクマネージメント」第60回日本糖尿病学会学年次学術集会　名古屋
国内学会	高橋かおる、水守智仁、長森茂樹、井上静子、小林昌幸、尾崎友香、青山香、山村恭子、西野忠、安田敏成、菅沼彰子、坂根直樹　ストレスチェックとHbA1c値との関連について　第60回日本糖尿病学会年次学術集会　名古屋
国内学会	河野茂夫　糖尿病足病変診療の変遷と国際情勢　第60回日本糖尿病学会年次学術集会　愛知県名古屋市
国内学会	岡田早未・小鳥真司・中川内玲子・服部正和・島津章・林野泰明・河部庸次郎・東輝一朗・小河淳・肥田和之・平尾利恵子・田中剛史・山家由子・梅本琢也・島田典夫・河野茂夫　糖尿病足病変ハイリスク患者への外来での予防的フットケアの有効性についての長期観察研究　第60回日本糖尿病学会年次学術集会　愛知県名古屋市
国内学会	手塚祐司・村田敬・渡邊知一・井口守丈・阿部充・江里正弘・全栄和・辻光・和田啓道・長谷川浩二・河野茂夫・山田和範・赤尾昌治　糖尿病合併心房細動患者における血糖コントロールと心不全入院リスクの関連性：伏見AFレジストリより第60回日本糖尿病学会年次学術集会　愛知県名古屋市
国内学会	小谷和彦、津崎こころ、二連木晋輔、高橋純一郎、戸嶋彦、栗山恒二、坂根直樹、中嶋克行　血中コレステロール合成・吸収マーカー測定の検討　第60回　日本糖尿病学会年次学術集会　名古屋
国内学会	増田慎也、田中将志、井上隆之、北野隆司、村中和哉、山陰一、日下部徹、島津章、浅原哲子　骨格筋へのパルミチン酸負荷によるマイオカイン・CXCL1分泌がNotchシグナルと筋再生に及ぼす作用　第60回日本糖尿病学会学術集会　愛知
国内学会	北野隆司、安岡祐美子、後藤剛、北村苗穂子、朴時範、岸野重信、小川順、木村郁夫、粕渕真由、谷史人、田中将志、増田慎也、井上隆之、山陰一、日下部徹、島津章、高橋信之、河田照雄、浅原哲子　食餌脂質・α　リノレン酸由来乳酸菌代謝物による抗炎症性M2型マクロファージの分化誘導を介した腸内環境制御　第60回日本糖尿病学会学術集会　愛知
国内学会	田中将志、山陰一、増田慎也、井上隆之、北野隆司、村中和哉、小鳥真司、和田啓道、小谷和彦、日下部徹、島津章、長谷川浩二、浅原哲子　糖尿病における認知機能低下・認知症の発症予知バイオマーカーの探索―TREM2の病態生理学的意義の解明―　第60回日本糖尿病学会学術集会　愛知
国際学会	河野茂夫　糖尿病足病変診療の実際と今後の展望　第60回日本糖尿病学会年次学術集会　愛知県名古屋市
国内学会	日下部徹、山陰一、小谷和彦、山田努、荒木里香、岡嶋泰一郎、大石まり子、島津章、浅原哲子　肥満症患者における心血管疾患発症リスク因子としての高尿酸血症-多施設共同前向き肥満症コホート-　第60回日本糖尿病学会年次学術集会　名古屋
国際学会	Z.Xu、E. De Jesus、T.Khun、S.Kono、T. Van Binh、S.Twigg　Diabetes Foot in Asia　第9回アジア糖尿病学会シンポジウム　愛知県名古屋市
国内学会	鎌田智英実、三木章江、奥村亮太、秦野佑紀、藤原真治、坂根直樹、吉村幸雄　山間地域に居住する高齢者の買い物状況と栄養摂取状況およびフレイルとの関連　第71回日本栄養・食糧学会大会　沖縄
国内学会	塚本雅美・泉有紀・中川内玲子・小鳥真司・林野泰明・島田典生・梅本琢也・山家由子・田中剛史・瀧秀樹・平尾利恵子・肥田和之・小河淳・小野恵子・島津章・河野茂夫　糖尿病足病変の診療の質と転帰における国際（日独）多施設共同研究第60回日本糖尿病学会年次学術総会　名古屋
国内学会	宮崎亮、安藤仁、津崎こころ、坂根直樹　中高齢者の日常身体活動量に対し，日内生活リズムはどのように関与しているのか？　第17回日本抗加齢医学会総会　東京
その他	山内惠子　講演:ヘルシープレート健康法　東京
その他	山内惠子　講演:笑いと健康ヘルシープレート健康法　名古屋
その他	山内惠子　講演:産後ケアと離乳食　名古屋
その他	山内惠子　講演:笑ってすっきり気質を知って楽々人生！　山口
国内学会	日下部徹　糖・脂質代謝調整における脂肪組織、骨格筋の役割　第6回Rakunan Diabetes Conference for Next Generation　京都
国際学会	N Sakane、T Ohshima、S Nirengi、K Kotani、K Okazaki、J Sato、S Suzuki、S Morita、K Izumi、M Kato、N Ishizuka、M Noda、H Kuzuya.　Frequent self-weighing delays or prevents the development of type 2 diabetes in a real- world setting: A subanalysis of Japan Diabetes Outcome Trial-1　77th American Diabetes Association Scientific Sessions-San Diego, USA

その他	村田敬　自己管理ってなんだろう？　第4回CGMから見えてきた今後の糖尿病治療を考えるスモールミーティング　東京
国内学会地方会及び分科研究会	村田敬、渡邊知一、岡田早未、塚本雅美、橋本有紀子、河口八重子、吉岡ふみ、小久保敦子、弓場洋子、騎馬沙苗、小鳥真司、浅原哲子、河野茂夫、坂根直樹　国立病院機構京都医療センターにおける思春期および若年成人1型糖尿病患者の血糖コントロール　第23回小児・思春期糖尿病研究会　東京
国内学会地方会及び分科研究会	森潤、松井克之、渡邊知一、中島久和、森麻美、村田敬、小坂喜太郎、丸尾良浩、細井創　小児科と内科が協働作業で運営するサマーキャンプ「京都滋賀つぼみの会」　第23回小児・思春期糖尿病研究会　東京
国内学会地方会及び分科研究会	日下部徹、泉諒太、中尾一和　脂肪肝モデルラットを用いたニコチンのNASH進展に及ぼす影響に関する検証　第32回公益財団法人喫煙科学研究財団平成28年度助成研究発表会　東京
国内学会	日下部徹、山陰一、島津章、浅原哲子　肥満症患者における心血管疾患発症リスク因子としての高尿酸血症―多施設共同前向き研究―　第13回高尿酸血症・メタボリックシンドローム　リサーチフォーラム研究集　大阪
国内学会地方会及び分科研究会	伊藤孝子、太田萌菜、山内惠子　ポーションコントロールプレート（ヘルシープレート）を活用した栄養教育　―報―食事バランスを伝えた教室事例―　第5回日本糖尿病療養指導学術集会　京都
国内学会地方会及び分科研究会	太田萌菜、伊藤孝子、山内惠子　ポーションコントロールプレートを活用した栄養教育　二報　ー糖尿病患者への試みー　第5回日本糖尿病療養指導学術集会　京都
国内学会	井上隆之、田中将志、増田慎也、山陰一、北野隆司、村中和哉、日下部徹、和田啓道、島津章、長谷川浩二、浅原哲子　ω3系多価不飽和酸によるSIRT1経路活性化を介したマウス活性化ミクログリアにおける炎症抑制作用機序の解明　第22回アディポサイエンス・シンポジウム　大阪
国内学会	日下部徹、横田繁史、田中将志、増田慎也、井上隆之、北野隆司、山陰一、村中和哉、石井好二郎、真田樹義、浅原哲子　サルコペニア肥満の効果的診断法の開発　第36回日本臨床運動療法学会学術集会　大阪
国内学会	河野茂夫　糖尿病足壊疽の予知と重篤化阻止　第34回糖尿病Up・Date賢島セミナー　三重県志摩市
国内学会	山内惠子、太田萌菜、伊藤孝子　ポーションコントロールプレート　糖尿病からCKDまでの応用　第64回日本栄養学会自由集会　徳島
国内学会	山内惠子、太田萌菜、山内崇裕、中橋寿美枝　ポーションコントロールプレートを活用した栄養教育　三報　―ランチタイムに簡単介入!ヘルシープレートでメタボ改善―　第5回日本糖尿病療養指導学術集会　徳島
国内学会	山内惠子、太田萌菜、中橋寿美枝　ポーションコントロールプレートを活用した栄養教育　三報―ランチタイムに簡単介入!―　栄養改善学会　徳島
国内学会	太田萌菜、伊藤孝子、山内惠子　ポーションコントロールプレートを活用した栄養教育　二報　ー糖尿病患者への試みー　栄養改善学会　徳島
国内学会	伊藤孝子、太田萌菜、山内惠子　ポーションコントロールプレート（ヘルシープレート）を活用した栄養教育　―報―食事バランスを伝えた教室事例―　栄養改善学会　徳島
国内学会	宮崎亮、安藤仁、津崎こころ、濱嵜朋子、樋口行人、大下和茂、田代智紀、坂根直樹　若年者における朝型夜型運動嗜好性質問紙の開発　第72回日本体力医学会大会　愛媛
国内学会	二連木晋輔、藤林真美、古野幸子、内部昭彦、河瀬泰治、坂根直樹　大学ラグビー選手におけるACTN3 R577Xのポジション別比較　第72回 日本体力医学会　愛媛
国内学会	鋤納心、河口八重子、二連木晋輔、小谷和彦、菅沼彰子、坂根直樹　糖尿病センターにおける脂質改善の療養指導(VIPプログラム)の効果：実行可能性試験　第17回日本糖尿病情報学会年次学術集会　佐賀
国内学会	中川康司、菅沼彰子、坂根直樹　糖尿病教育スタッフのワーク・エンゲージメントの評価とワークショップによる向上に関する研究　第17回日本糖尿病情報学会年次学術集会　佐賀
国内学会	河口八重子、鋤納心、二連木晋輔、菅沼彰子、小谷和彦、坂根直樹　高中性脂肪血症に対するブリーフインターベンション「HAPPYプログラム」（節酒プログラム）の効果　第17回日本糖尿病情報学会年次学術集会　佐賀
国内学会	同道正行、菅沼彰子、坂根直樹　糖尿病予防を目指した運動環境や動機づけに関する調査　第17回日本糖尿病情報学会年次学術集会　佐賀
国内学会	藤原真治、津崎こころ、小谷和彦、大林秀樹、瀬川正昭、坂根直樹　薬剤師からの「宿題」を医師から勉強する患者教育方法：HbA1c認識向上への取り組みがHbA1c値へ与える影響　第17回日本糖尿病情報学会年次学術集会　佐賀
国内学会	岡田浩　Get Motivated: The positive impact of community pharmacists on chronic disease management- A look at the COMPASS Project -」　日本社会薬学会第36年会　大阪
国際学会	Y kawaguchi, J Somei.　Taste class with Sapere method for 2&3 yrs. children at nursery school in Japan.　6th SAPERE Scientific & Dissemination Symposium　Lyon, France
国内学会	村田敬　ランチョンセミナー　「CGMと運動療法」　第36回日本臨床運動療法学会　大阪
その他	渡邊知一　インスリンポンプ療法について ～CSII、SAP、そしてこれから～　第11回滋賀京都IDDMカンファレンス　滋賀
国内学会	泉諒太、日下部徹、野口倫生、岩倉浩、小山博之、坂東美佳、宮澤崇、田中智洋、寒川賢治、中尾一和　ANGPTL8ノックアウトラットの開発と肥満症治療標的としてのANGPTL8の意義の解明　第38回日本肥満学会学術集会　大阪
国内学会	井上隆之、田中将志、増田慎也、山陰一、北野隆司、村中和哉、日下部徹、和田哲道、島津章、長谷川浩二、浅原哲子　ω3不飽和脂肪酸によるSIRT1経路を介したミクログリア活性抑制　第38回日本肥満学会　大阪
国内学会	増田慎也、田中将志、井上隆之、北野隆司、村中和哉、山陰一、日下部徹、島津章、浅原哲子　パルミチン酸によって誘導されるマイオカインの同定とその筋分化における作用の解明　第38回日本肥満学会　大阪
国内学会	二連木晋輔、坂根直樹、天笠志保、本間俊行、布施沙由理、黒澤裕子、浜岡隆文　寒冷誘導熱産生とヒト褐色脂肪組織および交感神経性超低周波領域成分（VLF）との関連　第38回日本肥満学会　大阪
国内学会	山陰一、村中和哉、小谷和彦、山田努、荒木里香、岡嶋泰一郎、大石まり子、島津章、浅原哲子　国立病院機構多施設共同前向き肥満症コホート研究におけるCVD予測指標としてのCAVIの有用性　第38回日本肥満学会　大阪
国内学会	田中将志、山陰一、増田慎也、井上隆之、北野隆司、村中和哉、小鳥真司、村瀬永子、大谷良、中村道三、和田啓道、小谷和彦、日下部徹、島津章、長谷川浩二、浅原哲子　糖尿病・肥満における新規認知症予知バイオマーカーの検討 – TREM2の病的意義の解明 –　第38回日本肥満学会　大阪
国内学会	北野隆司、井上亮、塚原隆充、田中将志、増田慎也、井上隆之、山陰一、日下部徹、長谷川浩二、島津章、浅原哲子　日本人2型糖尿病におけるPICRUSt予測メタゲノム解析を用いた腸内細菌叢の病態生理学的意義の解明　第38回日本肥満学会　大阪

国内学会	横田繁史、増田慎也、田中将志、山陰一、村中和哉、井上隆之、北野隆司、真田樹義、石井好二郎、日下部徹、島津章、浅原哲子　肥満患者の糖代謝能・骨格筋量制御における筋肉由来液性因子・myostatinの病態意義　第38回日本肥満学会　大阪
国内学会	日下部徹、山陰一、村中和哉、小谷和彦、山田努、荒木里香、岡嶋泰一郎、大石、まり子、島津章、浅原哲子　肥満症患者における心血管疾患発症リスク因子としての高尿酸血症―多施設共同前向き研究―　第38回日本肥満学会　大阪
その他	村田敬　インスリンポンプとCGM　ペガサスの会・千笑朱鷺の会　新潟
国内学会	宮崎亮、綾部誠也、犬飼義秀、安藤仁、坂根　直樹　健康増進教室に参加した中高齢者の, 自宅での運動実施状況ー日内生活リズムに着目してー　第4回サルコペニア・フレイル学会大会　京都
国内学会	浅原哲子　生活習慣病・メタボ予防のための効果的な食事療法と長寿の秘訣　第39回日本臨床栄養学会総会・第38回日本臨床栄養協会総会　第15回大連合大会　市民公開講座　千葉
その他	浅原哲子　超高齢社会の健康寿命延伸を目指した糖尿病・メタボリックシンドロームの治療戦略　Kurume　Vascular Biology Meeting　福岡
国内学会地方会及び分科研究会	村田敬、二連木晋輔、河口八重子、鋤納心、渡邊知一、坂根直樹　新規CGM機器FreeStyle リブレProの精度の検討　第17回日本先進糖尿病治療研究会　新潟
国内学会	山陰一、浅原哲子　京都地域の外来患者におけるポジティブ心理要因と生活習慣病コントロールとの関連　第76回日本公衆衛生学会総会　鹿児島
国内学会地方会及び分科研究会	村田敬、渡邊知一、木村早未、塚本雅美、水谷結香子、橋本有紀子、河口八重子、吉岡ふみ、二連木晋輔、小久保敦子、弓場洋子、騎馬沙苗、小鳥真司、浅原哲子、河野茂夫、坂根直樹　国立病院機構京都医療センターにおける1型糖尿病患者の発症年齢の分布　第15回1型糖尿病研究会　岩手
国内学会地方会及び分科研究会	渡邊知一、村田敬、森文美、二連木晋輔、河口八重子、鋤納心、坂根直樹　CGMの機種間精度比較に関するパイロットスタディ　第54回 日本糖尿病学会 近畿地方会　大阪
国内学会地方会及び分科研究会	河野茂夫　糖尿病診療アップデートと病診連携　伏見糖尿病連携学術集会　京都府京都市
その他	村田敬　患者さんの主体性を高める医療コミュニケーションとは　伏見糖尿病連携学術講演会　京都
その他	小鳥真司　病態を意識した糖尿病の薬物療法を考える　伏見糖尿病連携学術講演会　京都
国内学会地方会及び分科研究会	河野茂夫　糖尿病診療アップデート　伏見医師会ランチョンセミナー　京都府京都市
国内学会	井上亮、北野隆司、塚原隆充、田中将志、増田慎也、井上隆之、山陰一、日下部徹、長谷川浩二、島津章、浅原哲子　日本人の糞便中細菌叢におけるFirmicutes門・Bacteroidetes門の比とBMIの関係　第22回日本食物繊維学会学術総会　千葉
その他	浅原哲子　生活習慣病患者の心血管病発症予防に役立つオメガ3脂肪酸の機能　第3回アマニフォーラムセミナー　東京
その他	島津章　内分泌代謝疾患：間脳下垂体疾患 脳とホルモンによる体の調節　京都市委託事業 難病患者医療講演会　京都
国内学会地方会及び分科研究会	菅沼彰子、二連木晋輔、河口八重子、葛谷英嗣、坂根直樹　非対面の電話支援を用いた糖尿病発症予防効果について：クラスター・ランダム化比較試験　SPSS Datathon2017　東京
その他	浅原哲子　SGLT2阻害薬の肥満糖尿病患者に対する影響　第3回食事を通して糖尿病治療を考える会　東京
その他	山内惠子　講演：すぐに実践したくなる食の講座　大阪
国内学会	浅原哲子　肥満症・糖尿病の動脈硬化予防のためのリスク評価系の構築とω3多価不飽和脂肪酸の効果　第21回日本病態栄養学会年次学術集会　京都
その他	村田敬　CSII/SAPの患者支援　自己決定支援とピアサポートの重要性　CSII/SAPセミナー@岡山～患者さん満足度最大化のために～　岡山
その他	山内惠子　名古屋市健康づくり教室　名古屋
その他	山内惠子　講演:栄養士に必要なコミュニケーション力　名古屋
その他	山内惠子　講演：本番すぐに実践したくなる食の講座　名古屋
その他	山内惠子　講演：すぐに実践したくなる食の講座　名古屋
その他	山内惠子　名古屋市健康づくり教室　名古屋
その他	山内惠子　ヘルシープレート活用術　船橋
その他	村田敬　3C(カーボカウント、CGM、CSII)をきわめる　平成29年度内分泌代謝性疾患専門医研修会　京都
その他	森文美、小鳥真司、木村早未、水谷結香子、塚本雅美、渡邊知一、村田敬、日下部徹、浅原哲子、島津章、河野茂夫　抗精神病薬の変更によって顕著な減量および糖・脂質代謝の改善を認めた肥満症の一例　第12回糖尿病臨床フォーラム　大阪
国際学会	T. Murata, A Tone, R. Koyama, K. Kamiuchi, K. Narasaki, M. Tsuruo, T. Watanabe, K. Kato, H. Sawaki, S. Kawashima, K. Osawa, M. Kimura, M. Toyoda, N. Sakane, for the HIGH-QOL study group　THE EFFECT OF HIGH CONCENTRATON INSULIN GLARGINE TO THE QUALITY OF LIFE OF THE PATIENTS WITH TYPE 2 DIABETES MELLITUS: A PRE-POST STUDY (HIGH-QOL STUDY)　11th International Conference on Advanced Technologies & Treatment for Diabetes　Vienna (Austria)
その他	浅原哲子　心血管病予防を目指した糖尿病の治療戦略　福岡糖尿病学術講演会　～女性糖尿病医としてのキャリアを考える～　福岡
国内学会地方会及び分科研究会	河野茂夫　糖尿病足病変治療のアップデート　第3回信州糖尿病フットケア研究会　長野県安曇野市
国内学会	河野茂夫　糖尿病足病変とフットケア　第52回糖尿病学の進歩　福岡県福岡市

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	出版社	発行年および月
Sakane N, Sato J, Tsushita K, Tsujii S, Kotani K, Tominaga M, Kawazu S, Sato Y, Usui T, Kamae I, Yoshida T, Kiyohara Y, Sato S, Tsuzaki K, Nirengi S, Takahashi K, Kuzuya H, Group JR.	Determinants of Glycated Hemoglobin in Subjects With Impaired Glucose Tolerance: Subanalysis of the Japan Diabetes Prevention Program.	Journal of Clinical Medicine Research	9	4	360-365		2017.4
村田敬	42歳の女性.主訴「連日,低血糖で午前3時に目が覚める」	Medicina	54	増刊号4	181-182		2017.4
村田敬, 小林哲郎	プロからプロへ　代謝内分泌・糖尿病 インスリン注入ポンプのトラブル予防の対策は?【推奨電池の使用や血糖自己測定の励行, ペン型インスリン注入器の常時携帯で対応】.	医事新報	4853		57-58	日本医事新報	2017.4.29
村田敬	35歳の男性.来院理由「交通事故のため搬入された」	Medicina	54	増刊号4	183-184		
Inoue T, Tanaka M, Masuda S, Ohue-Kitano R, Yamakage H, Muranaka K, Wada H, Kusakabe T, Shimatsu A, Hasegawa K, Satoh-Asahara N.	Omega-3 polyunsaturated fatty acids suppress the inflammatory responses of lipopolysaccharide-stimulated mouse microglia by activating SIRT1 pathways.	Biochim Biophys Acta	1862	5	552-560		2017.5
Ito H, Sato T, Satoh-Asahara N, Noda M.	Erratum to: Impact of medication adherence on renal function in comorbid patients with type 2 diabetes and depression: protocol for a cohort study.	BMC Fam Pract	10	18-1	61		2017.5
浅原哲子、北野隆司	特集　腸内細菌と生活習慣病「腸内細菌と食事療法」	月刊糖尿病	9	5			2017.5
日下部徹	レプチンを用いた肥満症, 糖尿病に対する新しい治療法の開発	最新医学	72	6	124-129	最新医学社	2017.6
廣田勇士, 村田敬	プロからプロへ　代謝内分泌・糖尿病 無自覚性低血糖の診断方法・予防方法・患者教育【低血糖状態を積極的に確認するとともに, 運転への影響を患者に知ってもらう】	医事新報	4859		54-55	日本医事新報	2017.6.10
Murata T, Tsuzaki K, Nirengi S, Watanabe T, Mizutani Y, Okada H, Tsukamoto M, Odori S, Nakagawachi R, Kawaguchi Y, Yoshioka F, Yamada K, Shimatsu A, Kotani K, Satoh-Asahara N, Sakane N.	Diagnostic accuracy of the anti-glutamic acid decarboxylase antibody in type 1 diabetes mellitus: Comparison between radioimmunoassay and enzyme-linked immunosorbent assay.	J Diabetes Investig	8	4	475-479		2017.7
Tanaka M, Hajime Y, Masuda S, Inoue T, Kitano Ohue-Kitano R, Araki R, Matoba Y, Saito M, Nagaoka T, Yonezawa K, Tanaka T, Suzuki M, Sawamura M, Nishimura M, Odori S, Wada H, Kotani K, Kusakabe T, Shimatsu A, Hasegawa K, Satoh-Asahara N.	Serum soluble TREM2 is a potential novel biomarker of cognitive impairment in Japanese non-obese diabetic patients.	Diabetes&Metabolism	S126-3636	17	30470-30476		2017.7.31
高橋かおる	糖尿病発症リスクを高める生活習慣は?	糖尿病ケア	14	7	50		2017.7
高橋かおる	肥満者に多い検査値異常は?	糖尿病ケア	14	7	51		2017.7
Murata T, Nirengi S, Sakane N, Kuroda A, Hirota Y, Matsuhisa M, Namba M, Kobayashi T.	The safety of the batteries and power units used in insulin pimps: A pilot cross-sectional study by the association for the study of innovative diabetes treatment in Japan.	Journal of Diabetes Investigation	1111	12765			2017.10
Sakane N.	Diabetes prevention in the real world: Insights from the JDPP and J-DOIT1.	J Gen Fam Me	18	6	325-330		2017.10
Yamaguchi M, Kotani K, Tsuzaki K, Motokubota N, Komai N, Sakane N, Moritani T, Nagai N.	The CLOCK 3111T/C single nucleotide polymorphism and daytime fluctuations of gastric motility in healthy young women: A preliminary study.	Chronobiol Int	34	10	1478-1482		2017.10
山内惠子	ポーションコントロールダイエット	朝晩ダイエットでスマートライフ					2017.10
Inoue R, Ohue-Kitano R, Tsukahara T, Tanaka M, Masuda S, Inoue T, Yamakage H, Kusakabe T, Hasegawa K, Shimatsu A, Satoh-Noriko A.	Prediction of functional profiles of gut microbiota from 16S rRNA metagenomic data provides a more robust evaluation of gut dysbiosis occurring in Japanese type 2 diabetic patients.	JCBN	61	3	217-221		2017.11
河野茂夫	糖尿病トピックス　合併症③ 糖尿病足病変	Medical Tribune					2017.11.2
山内惠子	簡単これならできる!　山内惠子のヘルシープレートで低たんぱく食	簡単これならできる!山内惠子のヘルシープレートで低たんぱく食					2017.11
山内惠子	山内惠子のヘルシープレートで低たんぱく食用ランチョンマット	山内惠子のヘルシープレートで低たんぱく食用ランチョンマット					2017.11

Murata T, Aoki Y, Kato Y, Tanaka T, Araki R, Kato K, Hida K, Kawamura T, Yoshida K, Imamura Y, Toyonaga T, Yamada K, Sakane N; NHO T1DM Research Group.	The Percentage of Continuous Subcutaneous Insulin Infusion Usage Among Adult Type 1 Diabetes Mellitus Patients in Japan: A Cross-Sectional Study at National Hospital Organization Hospitals.	J Diabetes Sci Technol	11	5	1055-1056		2017.12
Murata T, Sakane N, Kato K, Tone A, Toyoda M.	The Current Intermittent-Scanning CGM Device Situation in Japan: Only Adjunctive Use to SMBG Is Approved and the Latest Health Insurance Coverage Details.	J Diabetes Sci Technol	10		10.1177 19322968 17749860. [Epub ahead of print]		2017.12
Aotani D, Ariyasu H, Shimazu-Kuwahara S, Shimizu Y, Nomura H, Murofushi Y, Kaneko K, Izumi R, Matsubara M, Kanda H, Noguchi M, Tanaka T, Kusakabe T, Miyazawa T, Nakao K.	Development of ghrelin transgenic mice for elucidation of clinical implication of ghrelin.	Endocr J	64 (Suppl.)		S31-S33		2017
Goto M, Hamaoka T, Maeda C, Hirayama T, Nirengi S, Kurosawa Y, Nagano A, Terada S.	Partial range of motion exercise is effective for facilitating muscle hypertrophy and function via sustained intramuscular hypoxia in young trained men.	Journal of Strength and Conditioning Research					2017
Murata T, Nirengi S, Kawaguchi Y, Sukino S, Watanabe T, Sakane N.	Accuracy of Novel "Factory-Calibrated" Continuous Glucose Monitoring Device in Non-Diabetic Adults: a Pilot Study.	Biomedical Sciences	3	6	109 -113		2017
河口八重子	NHK 今日の料理	今日の料理					2017
河口八重子	認知症・アルツハイマー最新防衛術　マインド食で憂いなし	週刊新潮					
浜岡隆文、二連木晋輔、坂根直樹、米代武司、斉藤昌之	近赤外時間分解分光法を用いたヒト褐色脂肪組織の計測	糖尿病学			104-112		2017
日下部徹、浅原哲子	肥満外科治療後のリバウンド対策	肥満・糖尿病の外科治療			181-184	メディカ出版	2017
Hashimoto K, Nishihara E, Matsumoto M, Matsumoto S, Nakajima Y, Tsujimot K, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Noh JY, Ito K, Miyauchi A, Mori M, Yamada M, Ogawa Y.	Sialic Acid-Binding Immunoglobulin-Like Lectin1 as a Novel Predictive Biomarker for Relapse in Graves' Disease: A Multicenter Study.	Thyroid	28	1	50-59		2018.1
Ohue-Kitano R, Yasuoka Y, Goto T, Kitamura N, Si-Bum P, Kishino S, Kimura I, Kasubuchi M, Takahashi H, Li Y,Yeh Y-S, Jheng H-F, Iwase M, Tanaka M, Masuda S, Inoue T, Yamakage H, Kusakabe T, Tani F, Shimatsu A, Takahashi N, Ogawa J, Satoh-Asahara N, Kawasa T.	α-Linolenic acid-dereved metabolites from gut lactic acid bacteria induce differentiation of anti-inflammatory M2 macrophages through G prptein-coupled receptor 40.	FASEB J	32	1	304-308		2018.1
Okada H, Onda M, Shoji M, Sakane N, Nakagawa Y, Sozu T, Kitajima Y, Tsuyuki RT, Nakayama T.	Effects of lifestyle advice provided by pharmacists on blood pressure: The COMmunity Pharmacists ASSist for Blood Pressure (COMPASS-BP) randomized trial.	Biosci Trends	11	6	632-639		2018.1
Nirengi S, Sakane N, Amagasa S, Wakui S, Homma T, Kurosawa Y, Hamaoka T.	Seasonal differences in brown adipose tissue density and pulse rate variability in a thermoneutral environment.	Journal of Physiological Anthropology	37	1	6		2018.2
鋤納心	「説明力」と「回答力」を磨く!保健指導「夕食をとるのが遅い（家族の協力が得られる場合）（自分で管理しなければならない場合）」	産業保健と看護	10	2	20-23	メディカ出版	2018.2
Masuda S, Tanaka M, Inoue T, Kitano R, Yamakage H, Muranaka K, Kusakabe T, Shimatsu A, Hasegawa K, Satoh-Asahara N.	Chemokine(C-X-C motif) ligand 1 is a myokine induced by palmitate and is required for myogenesis in mouse satellite cells.	Acta Physiologica	222	3	[Epub ahead of print]		2018.3
McCormack A, Dekkers OM, Petersenn S, Popovic V, Trouillas J, Raverot G, Burman P; ESE survey collaborators.	Treatment of aggressive pituitary tumours and carcinomas: results of a European Society of Endocrinology (ESE) survey 2016.	European Journal of Endocrinology.	178	3	265-276		2018.3
Sukino S, Nirengi S, Kawaguchi Y, Kotani K, Tsuzaki K, Okada H, Suganuma A, Sakane N.	Effects of a Low-AGE Diet on Insulin Levels: The Feasibility of a Crossover Comparison Test.	Journal of Clinical Medicine Research					2018.3
村田敬	22歳の女性. 主訴「嘔吐」	Medicina	54	増刊号4	179-180		2018.4
二連木晋輔	いろいろな脂肪	糖尿病ケア	14	7	18-21		2018.7
松井浩	運動療法	糖尿病ケア	14	7	34-37		2018.7
山内惠子	食事療法	糖尿病ケア	14	7	26-33		2018.7
河口八重子	肥満を伴う独身2型糖尿病患者	糖尿病ケア	14	7	56-57		2018
河口八重子	栄養指導・管理のためのスキルアップシリーズ vol.6『脂質異常症の最新食事療法のなぜに答える　実践編』	臨床栄養					2018
坂根直樹	減量のエビデンス	糖尿病ケア	14	7	7-10		2018
村田敬		通じる力　医師のためのコミュニケーションスキル入門				金芳堂	

腎臓内科



診療科長
八幡　兼成

専門医資格等　日本腎臓学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医・指導医
日本糖尿病学会専門医
日本内科学会専門医
京都大学医学博士
京都大学医学部臨床教授

専 門 分 野

得 意 疾 患

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	瀬田　公一	日本腎臓学会専門医・指導医 日本透析医学会専門医・指導医 日本高血圧学会専門医・指導医 総合内科専門医・JMECCインストラクター 日本集中治療医学会専門医 日本救急医学会ICLSインストラクター ICD制度協議会認定インフェクションコントロールドクター 日本急性血液浄化学会認定指導者 京都大学医学博士		
医　　師	小泉　三輝	日本腎臓学会専門医 日本透析医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本内科学会認定医 JMECCインストラクター		
専 修 医	沈　　載紀			
専 修 医	近 藤　　悠			
専 修 医	辻　誠士郎			
専 修 医	平井　大輔			
専 修 医	上田　直子			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設

1. 積極的に腎生検を行い、早ければ翌日には診断がつく体制を取っている
2. 血液透析だけでなく、血漿交換や持続血液ろ過透析など急性血液浄化に対応できる
3. 腹膜透析も多く導入している
4. 学会発表・論文執筆・臨床研究を積極的に行っている

□ 主な対象疾患

急性腎不全、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、急速進行性糸球体腎炎、多発性嚢胞腎、Gitelman症候群、高血圧症

□ 診療(業務)内容

1. 慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群などに対して腎生検を行い、その結果に基づいて治療を行っている。
2. 保存期腎不全に対し、血圧管理を始めとした腎保護療法を行い、末期腎不全への進行を抑制できるようにしている。
3. 末期腎不全に陥った場合、腎移植・腹膜透析・血液透析の3つの選択肢を提示し、患者に合った治療を提供している。

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
14.2名	410名	12.1日

外来患者数

1日平均患者数
29.5名

主な疾患の件数など

腎生検数	血液浄化療法延べ件数	血液透析導入患者数	腹膜透析導入患者数
74件	2, 880件	43件	9件

□ 地域医療連携・広報活動

・広島市整形外科医会研修講演会
「整形外科医のための腎臓講座」　瀬田　公一
2018年3月24日　広島市
・世界腎臓デー関連イベント
2018年3月8日　京都医療センターロビー
・第5回京都腎疾患出張相談所
「糖尿病患者の腎生検 –腎臓内科医は適応をどう判断しているのか-」　八幡　兼成
2018年2月24日　京都リサーチパーク
・第15回伏見CKD医療連携の会講演会
「肥満と腎障害　～太っていると腎臓に悪いの?～」　辻　誠士郎
「腎動脈狭窄症に対する血管形成術～治る高血圧もあります～」　近藤　悠
「京都の地域医療における慢性腎臓病患者への腎性貧血治療実態とその効果　～ご報告第9報～」
八幡　兼成
「本当は怖いPPIの話」　瀬田　公一
「CKD患者の血管リスク評価法　-バイオマーカーを用いた診療のヒント-」　京都医療センター展開医療研究部　先端医療技術開発研究室長　和田　啓道先生
2017年10月28日　TKPガーデンシティ京都
・京都糖尿病臨床カンファレンス
「糖尿病患者の腎生検 –腎臓内科医は適応をどう判断しているのか-」　八幡　兼成
2017年9月30日　京都タワーホテル
・腎臓病教室応用編
2017年9月16日　京都医療センター多目的ホール
・多発性嚢胞腎フォーラム
「京都医療センターADPKD全例調査第2回中間集計について」　瀬田　公一
2017年7月8日　東京都
・第71回富山腎・高血圧講演会
「京都医療センターにおけるADPKD診療の取り組み～専門外来でのshared decision making～」　瀬田　公一
2017年6月29日　富山市

・第59回日本老年医学会学術集会ランチョンセミナー
「非専門医のための慢性腎臓病講座」　瀬田　公一
2017年6月14日　名古屋市
・わいやいClub the 24th -Young Investigator's Club-
「なぜACE阻害薬でなければダメなのか」　瀬田　公一
2017年6月1日　京都市
・福岡市中央区医師会学術講演会
「非専門医のための慢性腎臓病講座」　瀬田　公一
2017年5月29日　福岡市
・PKD/ CKD conference
「①30分で理解する肺うっ血の治療戦略　②30分で理解する常染色体優性多発性嚢胞腎」　瀬田　公一
2017年4月14日　京都市
・第1回　救急集中治療セミナー
「Acute Kidney Injury Do & Don't」　瀬田　公一
2017年4月12日　広島市
・第14回伏見CKD医療連携の会講演会
「DSTって何ですか?　～透析サポートチームの活動とその成果～」　小泉　三輝
「京都医療センターにおける多発性嚢胞腎治療　～治療薬承認3年目での現状～」　瀬田　公一
「京都の地域医療における慢性腎臓病患者への腎性貧血治療実態とその効果　～ご報告第8報～」
八幡　兼成
「CKD治療・対策の実際　～連携診療も含めて～」　公益財団法人日本生命済生会付属日生病院
腎臓・透析センター長　腎臓内科部長　宇津　貴先生
2017年4月8日　京都タワーホテル

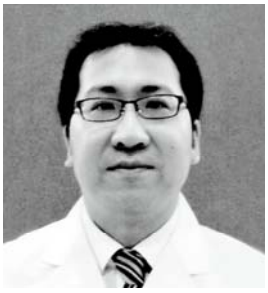
□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	入院予定者に対する禁煙推奨アンケート調査 嶋田 清香(国立病院機構京都医療センター 展開医療研究部), 小見山 麻紀, 常盤 光恵, 寺嶋 幸子, 森内 宏治, 龍田 隆寛, 寺尾 由希子, 邉見 悠里, 八幡 兼成, 長谷川 浩二 第71回国立病院綜合医学会　香川　2017.11.10-11
国内学会	集中治療領域におけるDST（Dialysis Support Team）によるAKI・CKD・電解質異常に対する取り組み 小泉 三輝, 平井 大輔, 辻 誠士郎, 近藤 悠, 沈 載紀, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第45回日本集中治療学会学術集会　千葉　2018.2.21-23
国内学会	補体低下と尿細管基底膜へのdepositを伴った尿細管間質性腎炎の一例 近藤 悠(国立病院機構京都医療センター), 平井 大輔, 辻 誠士郎, 沈 載紀, 小泉 三輝, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第47回日本腎臓学会西部学術集会　岡山　2017.10.13-14
国内学会	ANCA関連血管炎発症1年後に抗GBM抗体腎炎を呈した一例 平井 大輔(国立病院機構京都医療センター), 近藤 悠, 辻 誠士郎, 沈 載紀, 小泉 三輝, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第47回日本腎臓学会西部学術集会　岡山　2017.10.13-14
国内学会	常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)に対するトルバプタン60mgの効果 瀬田 公一(国立病院機構京都医療センター 腎臓内科), 近藤 悠, 沈 載紀, 高橋 昌宏, 小泉 三輝, 八幡 兼成 第60回日本腎臓学会学術総会　仙台　2017.5.26-28
国内学会	Dialysis Support Team(DST)による高Na血症患者への介入 沈 載紀(国立病院機構京都医療センター 腎臓内科), 近藤 悠, 高橋 昌宏, 小泉 三輝, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第60回日本腎臓学会学術総会　仙台　2017.5.26-28
国内学会	蛋白尿と夜間血圧下降度は慢性腎臓病患者において腎機能低下速度と関連する 高橋 昌宏(国立病院機構京都医療センター), 瀬田 公一, 近藤 悠, 沈 載紀, 小泉 三輝, 八幡 兼成 第60回日本腎臓学会学術総会　仙台　2017.5.26-28
国内学会	ICUでの急性血液浄化療法におけるDialysis Support Team(DST)活動効果の検討 近藤 悠(国立病院機構京都医療センター 腎臓内科), 沈 載紀, 高橋 昌宏, 小泉 三輝, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第62回日本透析医学会学術集会・総会　横浜　2017.6.16-18
国内学会	難治性かつ急速な経過を辿った血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)の1例 沈 載紀(国立病院機構京都医療センター 腎臓内科), 西嶋 佑太郎, 近藤 悠, 高橋 昌宏, 小泉 三輝, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第62回日本透析医学会学術集会・総会　横浜　2017.6.16-18

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
Clincal Nephrology. 2018Feb;89(2):123-129. doi: 10.5414/CN109169.	Membranoproliferative glomerulonephritis with unusual deposits of parallel arrangement striated structure: a new pathological entity?. Yahata K, Kikuchi Y, Koizumi M, Seta K, Wakui H, Komatsuda A, Shimizu A.
Clincal Nephrology. 2017 Jan;87 (1):51-54.	Thrombotic microangiopathy associated with cetuximab, an epidermal growth factor receptor inhibitor. Koizumi M, Takahashi M, Murata M, Kikuchi Y, Seta K, Yahata K.
原発性アルドステロン症診療マニュアル 改訂第3版. 16ー19. 診断と治療社 2017.4	瀬田公一. アルドステロンの腎作用
原発性アルドステロン症診療マニュアル 改訂第3版. 170ー173. 診断と治療社 2017.4	瀬田公一. 特殊な条件下における原発性アルドステロン症③：腎疾患合併例
薬局. 68 (7)：2652-57. 南山堂 2017. 6	瀬田公一, 福谷明直, 笠原正登. 利尿薬の薬理作用と利尿薬抵抗性のメカニズム

腫瘍内科



診療科長
外来化学療法
センター長
野﨑　明

専門医資格等　日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医・指導医
がん治療認定医機構　がん治療認定医・暫定教育医
日本内科学会　認定内科医
日本静脈経腸栄養学会　認定医

専門分野　腫瘍内科学（臨床腫瘍学）
がん薬物療法（消化管、肺、乳腺、胆膵、婦人科等固形腫瘍全般および一部造血器悪性腫瘍）

得意疾患　消化器がん

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
非常勤医師	宇 良　　敬		腫瘍内科学（臨床腫瘍学） がん薬物療法（化学療法）	
非常勤医師	松原　淳一	日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 日本内科学会　認定内科医 日本消化器病学会　消化器病専門医	腫瘍内科学（臨床腫瘍学）、がん薬物療法（化学療法）	消化器がん
非常勤医師	船越　太郎	日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 日本内科学会　総合内科専門医 日本消化器病学会　消化器病専門医	がん薬物療法（消化管・胆膵）	
非常勤医師	近藤　知大	日本内科学会　認定内科医	腫瘍内科学（臨床腫瘍学）、がん薬物療法（化学療法）	
非常勤医師	土井　恵太郎	日本医師会　認定産業医	腫瘍内科学	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本臨床腫瘍学会認定研修施設

1．患者さんが納得し満足いただける医療を提供します
2．患者さんとご家族を徹底的に支援します
3．エビデンスに基づいた最善の化学療法を行ないます
4．化学療法と並行して、緩和医療を提供します
5．患者さんと一緒に歩み、成長する姿勢を大切にします
6．地域の医療機関との連携を大切にします

□ 主な対象疾患

・消化器がん（食道がん、胃がん、大腸がん、消化管間質腫瘍など）
・膵臓がん、胆道がん
・原発不明がん
・希少疾患などその他の固形腫瘍

□ 診療（業務）内容

・化学療法（がん薬物療法）の実施
・緩和医療の実施
・他職種カンファレンスの実施
・他科からのコンサルテーション
・セカンドオピニオン
・外来化学療法センターの運営
・化学療法委員会の運営
・臨床試験・治験への参加

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
0.1名	14名	3.3日

外来患者数

1日平均患者数
19.2名

★診療体制変更により、平成２８年度より入院患者は主科で計算するため前年よりは減少

初診患者数
194名

□ 地域医療連携・広報活動

第34回伏見医師会癌医療病診連携の会
「切除不能進行再発がんにおけるがん薬物療法の位置づけ」2017年4月15日：京都（野﨑　明）
第10回京都医療センター医療連携フォーラム
「多職種連携だからできる!進行大腸がんへの挑戦～その人らしさを大切に～」2018年3月10日

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	タイトル	著者
ESMO Open. 2018 Feb 23;3(2):e000301. doi: 10.1136/esmoopen-2017-000301. eCollection 2018.	Funakoshi T, Horimatsu T, Nakamura M, Shiroshita K, Suyama K, Mukoyama M, Mizukami T, Sakurada T, Baba E, Tsuruya K, Nozaki A, Yahata K, Ozaki Y, Ubara Y, Yasui H, Yoshimoto A, Fukuma S, Kondo N, Matsubara T, Matsubara K, Fukuhara S, Yanagita M, Muto M. Chemotherapy in cancer patients undergoing haemodialysis: a nationwide study in Japan.	野﨑明
Gastric Cancer. 2018 Jan 20. doi: 10.1007/s10120-018-0797-y. [Epub ahead of print]	Makiyama A, Kunieda K, Noguchi M, Kajiwara T, Tamura T, Takeda K, Sugiyama J, Minashi K, Moriwaki T, Sugimoto N, Nagase M, Negoro Y, Tsuda T, Shimodaira H, Okano N, Tsuji A, Sakai D, Yanagihara K, Ueda S, Tamura S, Otsu S, Honda T, Matsushita Y, Okuno T, Kashiwada T, Nozaki A, Ebi M, Okuda H, Shimokawa M, Hironaka S, Hyodo I, Baba E, Boku N, Muro K, Esaki T. First-line chemotherapy with S-1 alone or S-1 plus cisplatin for elderly patients with advanced gastric cancer: a multicenter propensity score matched study.	野﨑明

PLoS One. 2017 Aug 24;12(8):e0183291. doi: 10.1371/journal.pone.0183291. eCollection 2017.	Uneno Y, Taneishi K, Kanai M, Okamoto K, Yamamoto Y, Yoshioka A, Hiramoto S, Nozaki A, Nishikawa Y, Yamaguchi D, Tomono T, Nakatsui M, Baba M, Morita T, Matsumoto S, Kuroda T, Okuno Y, Muto M. Development and validation of a set of six adaptable prognosis prediction (SAP) models based on time-series real-world big data analysis for patients with cancer receiving chemotherapy: A multicenter case crossover study.	野﨑明
Invest New Drugs. 2017 Aug;35(4):499-508. doi: 10.1007/s10637-017-0466-8. Epub 2017 May 3.	Ito T, Honma Y, Hijioka S, Kudo A, Fukutomi A, Nozaki A, Kimura Y, Motoi F, Isayama H, Komoto I, Hisamatsu S, Nakajima A, Shimatsu A. Phase II study of lanreotide autogel in Japanese patients with unresectable or metastatic well-differentiated neuroendocrine tumors.	野﨑明,島津章

精神科



診療科長
吉田　貴子

専門医資格等　精神保健指定医
日本精神神経学会認定　精神科専門医・指導医
専 門 分 野　精神医学一般

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	沼本　和記	日本医師会認定産業医	精神病理学	
医　　師	八木　俊純		精神医学一般	
非常勤臨床心理士	梶川　和行	臨床心理士		
非常勤臨床心理士	竹田　駿介	臨床心理士		
非常勤臨床心理士	後藤　恵里	臨床心理士		
非常勤臨床心理士	藤村江利子	臨床心理士		

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本精神神経学会精神科専門医研修施設

1．確定診断と精神療法的な意味を兼ねて、初診時診察に十分な時間をかける。
2．精神疾患の病態を自然科学的、人間学的視点から多角的に把握する。
3．共感的、探究的な診察態度を心がけ、繊細な薬物療法を工夫する。
4．器質性精神障害が疑われるときには、他科と連携し、頭部ＭＲＩ等を利用して病態検索が可能である。

□ 主な対象疾患

・睡眠障害
・身体表現性自律神経機能不全、その他の身体表現性障害
・パニック障害、その他の不安障害
・適応障害、その他のストレス関連障害
・強迫性障害、その他の神経症性障害
・躁うつ病、その他の気分障害
・統合失調症、妄想性障害等
・器質性あるいは症状性精神障害

□ 診療（業務）内容

1．精神科入院病棟は無いため、入院治療が必要と判断される時は、精神科病院等に紹介する。
2．医師による診療後、病態として心理学的に複雑な葛藤が想定される場合は、心理療法士による標準型精神分析療法等を併用することが可能。
3．一般病棟の他科入院患者に対し、依頼に応じて、リエゾン・コンサルテーション精神科医療に従事している。

□ 診療実績（平成29年度）

外来患者数

1日平均患者数
52.7名

神経内科



診療科長
中村　道三

専門医資格等　日本神経学会　神経内科専門医、指導医
日本内科学会　認定内科医、指導医
日本神経学会近畿地方会　評議員
京都大学医学博士
京都大学医学部神経内科　臨床教授
専門分野　神経内科　臨床神経学
得意疾患　ミオパチー　認知症

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	大谷　　良	日本神経学会　神経内科専門医、指導医 日本脳卒中学会　脳卒中専門医、評議員 日本認知症学会　専門医、指導医 認知症サポート医 日本内科学会　認定内科医、指導医 脳神経超音波学会　世話人 京都大学医学博士 京都大学医学部神経内科　臨床教授	神経内科 臨床神経学 脳血管障害 認知症 脳神経超音波学	脳血管障害 認知症
医　　師	村瀬　永子 （平成30年4月から週1回の外来・現在、国立病院機構奈良医療センター勤務）	日本神経学会　専門医、指導医 日本内科学会　認定医、指導医 脳波筋電図学会認定医 京都大学医学部 高次脳機能総合解析センター・非常勤講師 関西脳波・筋電図研究会世話人 京都大学医学博士 日本定位・機能神経外科学会技術　認定医 日本臨床神経生理学会　評議員	神経内科 電気生理 運動異常症	ジストニア パーキンソン病 運動異常症
医　　師	十川　純平	日本神経学会　神経内科専門医 日本内科学会　認定内科医 日本てんかん学会　てんかん専門医 日本臨床神経生理学会 専門医(脳波、筋電図分野)	てんかん 脳血管障害	てんかん 脳血管障害
専修医	松成　亮太	日本内科学会　認定内科医		
専修医	髙田　真基	日本内科学会　認定内科医		
専修医	栗田　康弘	日本内科学会　認定内科医		
専修医	武田　清明	日本内科学会　認定内科医		
専修医	増田　裕一	日本内科学会　認定内科医		

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本神経学会研修施設

1．納得できる医療を目指します
2．紹介医との密な連絡（病診連携）および大学や機関病院との連携に努めます
3．看護師、薬剤師、理学療法士など他の医療従事者とのチーム医療を推進します
4．若手医師の教育に尽力します

□ 主な対象疾患

脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）、認知症（アルツハイマー病など）、パーキンソン病、ジストニア脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの数多の神経難病、多発性硬化症、重症筋無力症などの免疫神経疾患、脳炎、髄膜炎など神経感染症、頭痛、てんかんなどの発作性疾患、ギランバレー症候群、種々のニューロパチーなどの末梢神経疾患、筋炎、筋ジストロフィーなどの筋疾患など

□ 診療（業務）内容

神経内科一般

脳血管障害外来：脳血管障害の予防及び再発予防（臨床研究対象も含む）、頸部血管エコー検査

電気生理外来：電気診断学にもとづく神経・筋疾患の電気生理検査

ボツリヌス治療：対象疾患　片側顔面けいれん、眼瞼けいれん、ジストニア

神経内科・音楽療法外来：認知症を対象とする音楽療法

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
28.3名	405名	24.3日

外来患者数

1日平均患者数
55.0名

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者	演 題 ・ 学 会 名
国際学会	N. Murase , M. Matsuhashi , Y. Maeda , S. Kawarazaki , M. Nakamura , T. Thukahara , T. Shimogawara , T. Kaido , H. Hirabayashi	Neural oscillatory activities of the motor thalamus in dystonia American Academy of Neurology　Boston　2017.4.25
国際学会	Murase N., Masuda Y., Takata M., Kuwata Y., Sainouchi M., Goto M., Ohtani R., Nakamura M.	EFFECTIVNESS OF SELECTIVE ADENOSINE A2A RECEPTOR ANTAGONIST ISTRADEFYLLINE ON THE MOTOR SYMPTOMS OF PARKINSON'S DISEASE CORRELATES WITH THE INTRACORTICAL INHIBITION REVEALED BY TRANSCRANIAL MAGNETIC STIMULATION World Congress of Neurology　Kyoto　2017.9.18
国内学会	村瀬　永子、松橋　眞生、前田　裕仁、下川原　立雄、平林　秀裕	上肢ジストニアにおける視床運動核の単一神経活動にみられるbeta oscillationの非優位性 日本臨床神経生理学会　浜松　2017.12.1
国内学会	Ayako Hayashi, Nagako Murase, Saya Yamamoto, Kana Hirano, Reona Tsuchida, Yoko Kuriyama, Yoshinobu Masuda	Severity classification of diabetic polyneuropathy in type 1diabetes mellitus 日本臨床神経生理学会　浜松　2017.11.30
国内学会	村瀬　永子、前田　裕仁、河原崎　知、中村　道三、塚原　徹也、至田　洋一、下川原　立雄、平林　秀裕	上肢ジストニアに対する視床Vim-Vop核の 凝固術あるいは深部脳刺激療法の有効性 日本定位・機能神経外科学会　奈良　2018.1.20
その他	村瀬永子	糖尿病神経障害　糖尿病のTotal Careを考える懇話会　京都　2017.9.7
その他	村瀬永子	パーキンソン病の脳の可塑性と 磁気刺激・脳深部刺激　PDフォーラム 2017　東京　2017.6.30
その他	村瀬永子	パーキンソン病の 臨床に役立つ電気生理　パーキンソン病勉強会　京都　2017.10.21
その他	村瀬永子	臨床に役立つ不随意運動の 電気生理　第1回北陸 Neurologist Meeting　金沢　2017.12.1
その他	Nagako Murase	Transcranial magnetic stimulation (TMS) and drugs in Parkinson's disease　Kyoto University Human Brain Research Center Seminar　京都　2018.2.21
その他	飯塚　三枝子	認知症の人とそのご家族とともにある音楽療の8年とこれからの役割 認知症トータルケア研究会　京都　2017.9.30
その他	飯塚　三枝子	『フラッシュソングセラピー』講演と実演　損保ケア　あさがや　東京　2017.10.4
その他	飯塚　三枝子	認知症を知ろう　幸せのドレミ　第７回中京区認知症フォーラム　京都　2017.10.21
その他	飯塚　三枝子	『フラッシュソングセラピー』講演と実演　損保ケア　あさがや　東京　2017.12.22
その他	飯塚　三枝子	認知症における音楽療法　認知症多種連携ワークショップ　京都　2018.3.2

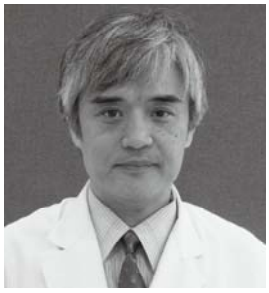
国内学会	増田 裕一, 安田 謙, 福田 俊一, 中村 道三 栗田 康弘, 高田 真基, 齋ノ内 信, 河原崎 知, 川端 康弘, 村瀬 永子 ,大谷 良, 青木 友和, 米本 直裕, 塚原 徹也, 赤尾 昌治,	日本人の非弁膜症性心房細動患者における心原性脳塞栓症のリスク因子：伏見AFレジストリ 第４回日本心血管脳卒中学会学術集会　福岡　2017.6.3
研究会	増田 裕一, 大谷 良, 福田 俊一, 栗田 康弘, 高田 真基, 齋ノ内 信, 土井 健人, 河原崎 知, 川上 理, 村瀬 永子, 塚原 徹也, 赤尾 昌治, 中村 道三	伏見AFレジストリ～脳卒中診療の観点～　伏見AF expert meeting　京都　2017.9.12
研究会	増田 裕一, 大谷 良, 栗田 康弘, 高田 真基, 齋ノ内 信, 村瀬 永子, 中村 道三	低体温復温後に脳波異常を認めた１例　Epilepsy Education Seminar　京都　2018.2.22
国内学会	増田 裕一, 大谷 良, 福田 俊一, 栗田 康弘, 高田 真基, 齋ノ内 信, 土井 健人, 河原崎 知, 川上 理, 村瀬 永子, 塚原 徹也, 赤尾 昌治, 中村 道三	脳卒中既往のあるAF患者における予後と脳卒中/全身塞栓症の発症危険因子 伏見AFレジストリ 第43回日本脳卒中学会学術集会　福岡　2018.3.15
研究会	高田 真基, 村瀬 永子, 増田 裕一, 栗田 康弘, 齊ノ内 信, 大谷 良, 中村 道三	パーキンソン病の経過中, 重度の起立性低血圧を生じ, 自己免疫性自律神経節障害の合併が考えられた77歳男性　日本神経学会　第109回近畿地方会　大阪　2017.12.2
その他	齊ノ内信、増田裕一、桑田康弘、高田真基、村瀬永子、大谷良、中村道三	中脳下部病変により眼球運動障害と尿閉をきたした一例 第53回亀山正邦記念神経懇話会　大阪　2017.5.20
研究会	齊ノ内信、増田裕一、桑田康弘、高田真基、村瀬永子、大谷良、中村道三	中脳下部病変により眼球運動障害と尿閉をきたした一例 日本神経学会　第108回近畿地方会　大阪　2017.7.15
国際学会	M.Sainouchi, R. Ohtani, N.Murase, M.Goto, Y. Kuwata, M. Takata, Y. Murase, S. Nirengi, N.Sakane, M. Nakamura	INVESTIGATION OF PROGRESSION IN PENETRATING ARTERY INFARCTION　23th World Congress of Neurology　京都　2017.9.20
その他	齊ノ内信、増田裕一、桑田康弘、高田真基、村瀬永子、大谷良、中村道三	症例１　Epilepsy Education Seminar　京都　2017.11.2
国際学会	Ryo Ohtani, Kokoro Tsuzaki, Shinsuke Nirengi, Kazuhiko Kotani, Nagako Murase, Makoto Sainouchi, Yasuhiro Kuwata, Masaki Takata, Yuuichi Masuda, Michikazu Nakamura, Naoki Sakane	Difference for high-density lipoprotein subfractions by non-denaturing polyacrylamide gel electrophoresis in patients with Alzheimer's disease and mild cognitive impairment　32nd International Conference of Alzheimer's Disease International (ADI 2017)　Kyoto, Japan　2017.4.27
国際学会	Ryo Ohtani, Michikazu Nakamura, Nagako Murase, Makoto Sainouchi, Yasuhiro Kuwata, Masaki Takata, Yuuichi Masuda, Yasuhiro Kawabata, Shinsuke Nirengi, Tetsuya Tsukahara, Naoko Sakane	Predictors of hemorrhagic infarction after intravenous rt-PA　3rd European Stroke Organization Conference (ESOC 2017)　Prague, Czech Republic　2017.5.16
国際学会	Ryo Ohtani, Michikazu Nakamura, Nagako Murase, Makoto Sainouchi, Yasuhiro Kuwata, Masaki Takata, Yuuichi Masuda, Yasuhiro Kawabata, Shinsuke Nirengi, Tetsuya Tsukahara, Naoko Sakane	Pre-treatment blood pressure is the predictor for hemorrhagic infarction after intravenous rt-PA　XXIII World Congress of Neurology (WCN 2017)　Kyoto, Japan　2017.9.19
国際学会	Ryo Ohtani, Shisuke Nirengi, Michikazu Nakamura, Kokoro Tsuzaki, Nagako Murase, Makoto Sainouchi, Yasuhiro Kuwata, Masaki Takata, Yuuichi Masuda, Kazuhiko Kotani, Naoki Sakane	HDL subclass and inflammation marker in AD and MCI: STOP-Dementia project　Neuroscience 2017 (SfN 2017)　Washington DC, USA　2017.11.12
国内学会	大谷 良、中村道三、村瀬永子、斎ノ内 信、後藤昌広、桑田康弘、高田真基、増田裕一、塚原徹也、坂根直樹	脳梗塞急性期治療 rt-PA療法後における出血性脳梗塞の予測因子に関する検討 第42回　日本脳卒中学会学術集会（STROKE 2017）　2017.3.18
国内学会	斎ノ内 信、大谷 良、村瀬永子、後藤昌広、桑田康弘、高田真基、増田裕一、二連木晋輔、坂根直樹、中村道三	穿通枝梗塞の症状悪化因子と予後不良因子についての検討　第42回　日本脳卒中学会学術集会（STROKE 2017）　大阪、日本　2017.3.16
国内学会	大谷 良、中村道三、二連木晋輔、川上理、村瀬永子、斎ノ内 信、桑田康弘、高田真基、増田裕一、土井健人、塚原徹也、坂根直樹	rt-PA療法後の出血性脳梗塞の予測因子：治療前の血圧管理の重要性　第43回　日本脳卒中学会学術集会（STROKE 2018）　福岡、日本　2017.3.15
研究会	大谷　良	神経内科専門医による脳卒中を考える　京都脳卒中 Exoert Meeting 京都、日本　2017.1.27
研究会	大谷　良	脳梗塞急性期の診断と治療　第４回　北摂アカデミックフィールド　高槻、日本　2017.2.23
研究会	大谷　良	脳卒中救急治療　経静脈的血栓溶解療法　第８回　京都医療センター医療連携フォーラム 京都、日本　2017.3.11
研究会	冨井康弘、大谷　良	脳卒中診療の３つの鍵　抗凝固療法、血圧管理、リハビリテーション：Discussion 第５回　Stroke 学術交流会　京都、日本　2017.6.22
研究会	樽野陽亮、大谷　良	日常診療での、パーキンソン病の見つけ方・治療のコツ：Discussion 第２回　Parkinson's Disease Seminar in 南京都　京都、日本　2017.7.13
研究会	岡田紘輔、桑田康弘、大谷　良、増田裕一、高田真基、斎ノ内　信、村瀬永子、中村道三	両側テント下病変にて両側眼球下転障害を来した脳塞栓症の一例　STROKE 研究会 京都、日本　2017.7.21

研究会	眞木宗州、大谷　良	脳内小血管病変の臨床的意義：Discussion　第４回　脳神経疾患学術交流会 京都、日本　2017.10.12
研究会	大谷　良	脳梗塞治療～再発予防と、急性期対応～　伏見医師会ランチョンセミナー　京都、日本 2017.10.27
研究会	大谷　良	脳梗塞患者への抗凝固療法　　心房細動と内頸動脈狭窄の合併例　Network Meeting 脳卒中診療における抗凝固療法を考える　京都、日本　2017.11.25
市民講座	大谷　良	脳卒中再発予防における抗血栓療法　第15回　脳卒中市民講座　京都、日本　2017.12.16
国際学会	K. Yasuda, S. Fukuda, M. Nakamura, M. Takata, Y. Kuwata, M. Sainouchi, S. Kawarazaki, N. Murase, R. Ohtani, T. Aoki, N. Yonemoto, M. Akao, T. Tsukahata	Predictors for cardioembolic stroke in Japanese patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry　WCN 2017 Kyoto　Kyoto　2017.9.20
国内学会	北誠, 桑田康弘, 村瀬永子, 秋山祐一, 臼井健	95.2%の片アレルの欠失を同定した新規PRRT2変異の発作性運 動誘発性ジスキネジア(PKD)兄弟例 第59回日本小児神経学会学術集会　大阪　2017.6.16
国際学会	Y.Kuwata, K.Yoshinaga, M.Matsuhashi, Y.Masuda, M.Takata, M.Sainouchi, N.Murase, R.Ohtani, M.Nakamura	Disorganization of intra-hemispheric alpha-band network in the hemisphere of the seizure foci revealed by functional connectivity analysis.　WCN2017　京都　2017.9.18
国内学会	桑田康弘	複視、眼瞼下垂を呈した肥厚性硬膜炎の1例　第106回京滋神経セミナー　京都　2017.9.28
国内学会	桑田康弘	脳波勉強会　薬剤編　第2回京滋脳波セミナー　京都　2018.2.22

□ 投稿論文など

著者・雑誌名	タ　イ　ト　ル
村瀬　永子 ボツリヌス治療学会誌	ジストニアに対するボツリヌス治療　～初めて施注する医師のために
浅原　哲子, 小谷　和彦, 中村　道三 臨床検査	新時代の健康課題と検査　認知機能障害と検査. 臨床検査. 2017;Vol.61 No.6:686-690
大谷　良 内科臨床誌 メディチーナ (medicina)	特集　デキる内科医の神経内科コンサルト入院病棟からのコンサルト　290 脳梗塞、脳出血（慢性期） 内科臨床誌 メディチーナ(medicina) vol.55, No.2, 2018年、pp.290-293、医学書院
大谷　良, 冨本　秀和 外来のガイドライン診療 ー 診断、管理・治療 ー	外来のガイドライン診療　ー 診断、管理・治療 ー　ガイドライン 外来診療、2018年、 日経メディカル開発46 認知症　pp.379-391
安田　謙, 村瀬　永子, 大谷　良, 岡　伸幸, 中村　道三 臨床神経学	20年の経過で結節性の多発神経肥厚を認め, 運動感覚障害を伴わず神経肥厚による神経根性疼痛を示した慢性炎症性脱髄性多発神経根ニューロパチーの 1 例, 臨床神経学 2018;58:21-24
K.Yasuda,M.Nakamara,R.Ohtani Cerebrovascular Diseases EXTRA	Predictors of cardioembolic stroke in Japanese patients with atrial fibrillation in the Fushimi AF registry, Cerebrovascular Diseases EXTRA inpress

呼吸器センター



診療科長
(呼吸器内科)
三尾　直士

専門医資格等
　日本がん治療認定医機構暫定教育医
　日本医師会認定産業医
　アメリカ胸部疾患学会（ATS）
　アメリカ臨床腫瘍学会（ASCO）
　京都大学　医学博士
　京都大学　臨床教授
専門分野
　呼吸器内科全般
得意疾患
　肺癌・間質性肺炎



診療科長
(呼吸器外科)
澤井　聡

専門医資格等
　日本呼吸器外科学会/指導医・評議員
　呼吸器外科専門医
　気管支鏡指導医
　外科専門医
　滋賀医科大学医学博士
専門分野
　呼吸器外科全般
得意疾患
　肺癌・縦隔腫瘍

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	中谷　光一	日本内科学会　認定内科医 日本呼吸器学会　呼吸器専門医・指導医	呼吸器内科全般	肺癌・睡眠時無呼吸症候群・呼吸器内科全般
医　　師	橋本　雅之	外科専門医 呼吸器外科専門医 気管支鏡専門医・指導医 日本呼吸器学会　呼吸器専門医 肺がんＣＴ検診認定医	呼吸器外科全般	呼吸器外科全般
医　　師	岡村　美里	日本内科学会　認定内科医	呼吸器内科全般	肺癌・呼吸器内科一般
医　　師	藤田　浩平	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医 日本呼吸器学会　呼吸器専門医 日本感染症学会　感染症専門医 京都大学医学博士	呼吸器内科全般	呼吸器感染症・肺癌・呼吸器内科全般
医　　師	金井　　修	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医 日本呼吸器学会　呼吸器専門医 日本呼吸器内視鏡学会　気管支鏡専門医 日本エイズ学会　治療指導医 エイズ拠点病院　施設代表 京都市HIV感染症対策専門委員会　委員	呼吸器内科全般	HIV感染症・睡眠時無呼吸症候群・呼吸器内科一般
医　　師	武田　恵子	外科専門医　癌治療認定医	呼吸器外科全般	呼吸器外科全般
レジデント	堀本かんな		呼吸器外科全般	呼吸器外科全般

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器外科基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設

［診療のモットー］

1. 難治な呼吸器疾患に対して最新の治療を提供します。
2. 十分な情報を提供し、患者さんの意見を尊重し診療を行います。
3. 地域の医療機関と連携し、地域に根ざした医療機関を目指します。

［当科の特色］

呼吸器疾患は悪性腫瘍・感染症・気道系疾患・呼吸不全・びまん性肺疾患・生活習慣病など、他の臓器には見られないほど多岐にわたり、その多くが生命に直接関わる重要な領域です。当科では多様な呼吸器疾患患者さんに対して専門性の高い医療を提供するように努力しています。さらに現在治療法の進歩が見られる疾患について最新最良の治療を取り入れています。

肺癌は最も死亡数が多い悪性腫瘍で、今でも難治ですが、分子標的剤や免疫チェックポイント阻害剤などの新しい治療薬や支持療法の開発が急速に進んでおり、治療方法が大きく変わりつつあります。新しい治療法のおかげで、治療不能とされていた超高齢者や、治療不応となった患者さんにも治療を提供できる機会が増えており、患者さんの予後が大きく改善しつつあります。また、悪性腫瘍の診療においては外科治療・放射線治療・化学療法・緩和医療の４本柱があり、関係する各科の協力が必要ですが、当院での肺癌診療においては、呼吸器内科・外科、放射線科、化学療法部、緩和ケア部とカンファレンスなどの場をもうけ緊密な関係をもって進めています。

気道系疾患である喘息、慢性閉塞性肺疾患は特に有病率が高い疾患ですが、終生にわたって治療を続けていく必要性があり、当科では診断・治療導入、悪化時の緊急対応、リハビリテーションなど地域の拠点病院でないとできない診療を中心に行い、その後は患者さんの負担を出来るだけ少なくするように地域の医療機関と連携して診療を行なっています。

呼吸器感染症はヒトの疾患の中でも最も重要な疾患の一つです。当科では急性・慢性の呼吸器感染症の診療を行っていますが、市中肺炎以外に、他科で診療中の免疫不全状態で起きる弱毒菌の感染症やHIVの症例の診療も行っております。さらに、最近急増している非結核抗酸菌の患者数が多く、積極的に臨床・研究に取り組んでいます。

上記以外にも呼吸器には急性・慢性の呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群、間質性肺疾患など重要な疾患が多数あります。それらの疾患をもつ患者さんに対しても常に最良の治療を提供できるように日々研鑽しながら診療に当たっています。

呼吸器外科では肺癌をはじめとする胸部の腫瘍（肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍）や気胸を代表とする嚢胞性肺疾患に対して、より負担の少ない胸腔鏡下手術を積極的に行っています。 膿胸などの炎症性疾患に対しても積極的な外科治療（局所麻酔下胸腔鏡を含む）を行っています。気道狭窄に対するステント留置やレーザー焼灼術などの気管支鏡下手術や、漏斗胸に対する矯正術（Nuss法）も行っています。

□ 主な対象疾患

肺癌　転移性肺腫瘍　縦隔腫瘍　中皮腫　胸腺腫　胸壁腫瘍　気胸　肺嚢胞症　気道狭窄　漏斗胸　膿胸
慢性閉塞性肺疾患　気管支喘息　慢性・急性呼吸不全、呼吸器感染症（肺炎・非結核性抗酸菌症・結核）
びまん性肺疾患（間質性肺炎、サルコイドーシス、好酸球性肺炎、膠原病に伴う間質性肺炎など）
睡眠時無呼吸症候群　HIV感染症

□ 診療（業務）内容

呼吸器内科の外来診察日は月曜から金曜まで毎日新患外来を含めて3外来を行なっています。
呼吸器外科の外来診察日は月、火、木、金曜日で、手術は水、金曜日に行っています。
睡眠時無呼吸症候群の専門外来は毎週水曜日です。完全紹介制としております。初めての方は紹介元の施設で予約を取得して頂きますよう、よろしくお願い致します。
気管支鏡検査、CTガイド下生検検査は原則として１泊の入院で行なっています。
それぞれ月・火・木と火・木曜日の午後に行っています。
HIV感染症の初診については呼吸器科外来に予めお電話頂ければ受診日等を事前に相談していただくことができます。

□ 診療実績（平成29年度）

呼吸器内科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
40.4名	1,152名	12.6日

呼吸器内科外来患者数

1日平均患者数
59.7名

呼吸器外科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
9.2名	252名	13.2日

呼吸器外科外来患者数

1日平均患者数
11.2名

主な手術・検査の件数など

手術(全身麻酔)	肺癌手術(診断含)	気管支鏡検査	局所麻酔下胸腔鏡検査	CTガイド下肺生検
157件	77件	345件	19件	56件

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区　分	演者・演題・学会名
	呼吸器内科
その他	中谷光一　喘息治療薬の吸入指導について　藤森吸入指導勉強会　2017.3.9　京都
国内学会	藤田浩平　ニボルマブ投与中の非小細胞肺癌患者に発症した感染症の検討　第57回日本呼吸器学会総会 2017.4.21　東京
国内学会	金井　修、藤田浩平、岡村美里、中谷光一、三尾直士　非小細胞肺癌におけるニボルマブ投与後早期の増悪を予測するための背景因子の探索　第57回日本呼吸器学会総会　2017.4.21　東京
その他	岡村美里　各施設における転移性脳腫瘍の治療形態　京都肺癌ミーティング　2017.5.11　京都
その他	当院におけるタグリッソの使用経験　肺がん診療討論会　2017.5.26　京都
その他	三尾直士　オプジーボを実際に使って分かったこと〜臨床試験にマッチしない症例に対して〜 西日本営業部　WebEXエリアセミナー　2017.5.30　京都
その他	藤田浩平　EGFR遺伝子変異陽性の症例に対する抗PD-L1抗体治療の考え方　京大系　がん免疫療法を語る会 2017.6.10　大阪
その他	三尾直士　ここまでわかってきたNivolumabの臨床とそのメカニズム The practical use of Nivolumab in the treatment of NSCLC　2017.6.15　京都
研究会	今北卓間、藤田浩平　ニボルマブによる免疫療法中に小細胞癌への転化を認めた非小細胞肺癌の一例 第89回日本呼吸器学会近畿地方会　2017.7.8　大阪
その他	三尾直士　ニボルマブ登場から1年半〜長期投与例と適応が難しい症例に焦点を合わせて〜 第2回 Webex Live Seminar　2017.7.14　岐阜
その他	三尾直士　免疫チェックポイント阻害剤は本当に肺癌治療を変えたのか〜1年半のニボルマブ投与経験を踏まえて〜 第3回　道北がん免疫療法セミナー　2017.8.10　北海道
その他	三尾直士　免疫チェックポイント阻害剤は本当に肺癌治療を変えたのか〜1年半のニボルマブ投与経験を踏まえて〜 高知　がん免疫治療セミナー　2017.8.31　高知
国際学会	Kanai O, Fujita K,Okamura,M,Nakatani,K,Mio T.　Effect of physical characteristics on patient response to nivolumab in non-small-cell lung cancer.　European Respiratory Society International Congress 2017　2017.9.12　Milan, Italy
国際学会	Fujita K, et al.　Effect of physical characteristics on patient response to nivolumab in non-small-cell lung cancer. EEuropean Respiratory Society International Congress 2017　2017.9.10　Milan, Italy
その他	三尾直士　免疫チェックポイント阻害剤使用によって間質性肺炎を起こした2例　第2回　京都がん免疫療法セミナー 2017.9.15　京都
その他	岡村美里　肺がんに対して化学放射線療法を施行して6年半経過を見た症例　第9回京都医療センター医療連携フォーラム　2017.9.16　京都
その他	三尾直士　肺がん診療アップデート-免疫チェックポイント阻害剤-/全人的苦痛の緩和につとめた症例　第9回京都医療センター医療連携フォーラム　2017.9.16　京都
その他	金井　修　Think about cancer immunotherapy and target therapy in NSCLC　Scientific Exchange Meeting in 京滋 2017.9.19　京都
国際学会	Kanai O, Fujita K,Mio T.　Efficacy and safety of nivolumab in non-small cell lung cancer with preexisting interstitial lung disease.　IASLC 18th World Conference on Lung Cancer 2017　2017.10.17　横浜
その他	金井　修、三尾直士　当科でのがん免疫療法の使用実績　がん免疫療法連携セミナー　2017.10.31　京都
その他	三尾直士　本当に肺癌治療は変わっていくのか〜免疫チェックポイント阻害剤　1年半の経験を通して〜　第36回伏見医師会　癌医療病診連携の会　2017.11.18　京都
その他	藤田浩平　当院におけるキイトルーダーの使用経験について　Lung Cancer Expert Meeting in Kyoto　2017.11.24 京都
その他	岡村美里　喘息治療薬の吸入指導について　第2回　藤森吸入指導勉強会　2017.11.30　京都
その他	三尾直士　免疫チェッククポイント阻害剤は本当に肺癌治療を変えたのか〜2年のニボルマブ投与経験を踏まえて〜 中部地区肺がん免疫治療セミナー　2017.12.1　沖縄
研究会	内田尚宏、藤田浩平　ニボルマブ投与中に慢性進行性アスペルギルス症の増悪を認めた肺腺癌の一例　第90回日本呼吸器学会近畿地方会　2017.12.16　大阪

研究会	上田直子、藤田浩平　気肺小細胞癌の化学療法中に急性骨髄性白血病を発症した一例　第90回日本呼吸器学会近畿地方会　2017.12.16　大阪
研究会	金井修、藤田浩平、岡村美里、中谷光一、三尾直士　気管支鏡での再生検を契機に予期せず肺結核の診断に至った肺扁平上皮癌の一例　第90回日本呼吸器学会近畿地方会　2017.12.16　大阪
その他	三尾直士　EGFR遺伝子変異陽性肺癌の薬剤耐性と再生検の必要性　再生検について考える会　2018.1.18　京都
その他	藤田浩平　VTEと癌の関係について～抗凝固療法はどう変化したのか～　Meeting of Venous ThromboEmbolism 2018.1.29　京都
その他	中谷光一、内田尚宏、藤田浩平、三尾直士　免疫チェックポイント阻害剤投与中に急速に侵襲性アスペルギルス症が増悪した肺腺癌の一例　第40回　京滋肺癌研究会　2018.2.9　京都
その他	金井　修　免疫療法は間質性肺炎合併肺癌に対する新たな治療の選択肢となるか　LC　Expert　seminar　2018.2.15 京都
呼吸器外科	
国内学会	林　一喜、堀本かんな、元石　充、澤井　聡　組織補強材一体型自動縫合器の切除断端によると考えられる術後出血の一例　第34回日本呼吸器外科学会総会　2017.5.18　福岡
国内学会	堀本かんな、林　一喜、元石　充、澤井　聡　肺原発多形癌11切除例の検討　第34回日本呼吸器外科学会総会 2017.5.19　福岡
国内学会	元石　充、堀本かんな、林　一喜、澤井　聡　再発後の経過や治療まで含めたCPFE合併肺癌手術症例の検討 第34回日本呼吸器外科学会総会　2017.5.19　福岡
国内学会	堀本かんな、林　一喜、元石　充、澤井　聡　気管支腺様嚢胞癌の1切除例　第40回呼吸器内視鏡学会学術集会 2017.6.9　長崎
国内学会	林　一喜、堀本かんな、元石　充、澤井　聡　左舌区枝分岐異常と左肺動脈及びV1+2走行異常を伴う左上葉肺癌の一切除例　第40回呼吸器内視鏡学会学術集会　2017.6.10　長崎
国内学会	林　一喜、堀本かんな、元石　充、澤井　聡　原発性肺癌手術症例における術後せん妄についての検討　第70回日本胸部外科学会定期学術集会　2017.9.29　札幌
国内学会	堀本かんな、林　一喜、元石　充、澤井　聡　自然退縮した胸腺癌の1例　第58回日本肺癌学会学術集会　2017.10.14 横浜
国内学会	林　一喜、堀本かんな、元石　充、澤井　聡　抗PD-1抗体投与中に水疱性類天疱瘡を発症した1例　第58回日本肺癌学会学術集会　2017.10.15　横浜
研究会	堀本かんな、林　一喜、元石　充、澤井　聡　自然退縮した胸腺癌の1例　第55回近江呼吸器疾患研究会　2017.9.2 京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
呼吸器内科	
Respir Med Case Rep	Imakita T, Fujita K, et al. Small cell lung cancer transformation during immunotherapy with nivolumab: A case report. Respir Med Case Rep 29;21:52-55, 2017
Clin Case Rep	Kanai O, et al. Nasogastric tube-administered alectinib achieved long-term survival in a crizotinib-refractory non-small cell lung cancer patient with a poor performance status. 26;5(6):927-930, 2017
Respirol Case Rep	Uchida N, Fujita K, et al. Acute progression of aspergillosis in a patient with lung cancer receiving nivolumab. 2017; 6(2): e00289
Respirol Case Rep	Fujita K, et al. Acute onset of ulcerative colitis during chemoradiotherapy for ALK-positive lung adenocarcinoma. 2017; 6(2): e0288
Respirol Case Rep	Kanai O, et al. Concurrence of nivolumab-induced interstitial lung disease and cancer invasion. 2017; 5(6): e00257

消化器内科



診療科長
部長
（医事管理担当）
勝島　慎二

専門医資格等　日本消化器病学会専門医・指導医・近畿支部評議員
本部評議員
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・近畿支部評議員
本部評議員
日本医学放射線学会放射線診断専門医
日本肝臓学会専門医・西部会評議員
日本内科学会認定内科医・指導医・近畿支部評議員
日本がん治療認定医機構がん治療暫定教育医・認定医
日本消化器がん検診学会胃認定医
京都大学医学博士

専門分野　消化器内科全般

得意疾患　肝疾患
炎症性腸疾患

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長 副健診センター長	島　伸子	日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本内科学会認定内科医 日本消化器がん検診学会胃認定医 日本人間ドック学会人間ドック健診認定医 日本医師会認定産業医 日本ヘリコバクター学会H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医	消化器内科全般	消化器疾患、消化器内視鏡検査
医長	水本　吉則	日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・近畿支部評議員・本部評議員 日本内科学会総合内科専門医・指導医	消化器内科全般	消化管・胆・膵の内視鏡検査・治療全般、炎症性腸疾患
医師	滝本　見吾	日本消化器病学会専門医・指導医・近畿支部評議員・本部評議員 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・近畿支部評議員・本部評議員・和文編集委員会査読委員 日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本肝臓学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療暫定教育医・認定医 日本消化管学会胃腸科認定医・専門医・指導医・代議員 日本超音波医学会専門医・指導医 日本ヘリコバクター学会H.pylori（ピロリ菌）感染症認定医 ポリグリコール酸シートとフィブリン糊を併用した被覆法の有効性評価と手技標準化にむけた研究会（日本消化器内視鏡学会附置研究会）世話人 十二指腸腫瘍の診断および低侵襲治療に関する研究会（日本消化器内視鏡学会附置研究会）世話人 医学博士	消化器内科全般	消化管癌の内視鏡診断と治療

医　　師	笠原　勝宏	日本消化器病学会専門医・近畿支部評議員 日本消化器内視鏡学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本プライマリ・ケア連合会プライマリ・ケア認定医	消化器内科全般	消化管・内視鏡検査・治療全般
医　　師	岩本　　諭	日本消化器病学会専門医・近畿支部評議員 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・近畿支部評議員 日本内科学会総合内科専門医 日本肝臓学会専門医 京都大学医学博士	消化器内科全般	消化管・内視鏡検査・治療全般
医　　師	江坂　直樹	日本消化器病学会専門医・近畿支部評議員 日本消化器内視鏡学会専門医・近畿支部評議員 日本内科学会認定内科医 日本カプセル内視鏡学会JACEカプセル内視鏡認定医 JMECCインストラクター 緩和ケア研修会指導者講習会修了者 臨床研修指導医	消化器内科全般	小腸内視鏡、食道胃静脈瘤治療、緩和医療、PEG
医　　師	太田　義之	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医	消化器内科全般	消化管疾患
医　　師	下釜　　翼	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医	消化器内科全般	胆道・膵疾患検査・治療 (EUS,ERCP,PTBD等)
レジデント	筑後　孝紀		消化器内科全般	
レジデント	中野　重治	日本内科学会認定内科医	消化器内科全般	
専　修　医	濵田　聖子	日本内科学会認定内科医	消化器内科全般	
専　修　医	赤松　友梨		消化器内科全般	
非常勤医師	前川　高天	日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本内科学会認定内科医 日本ヘリコバクター学会H.pylori(ピロリ菌)感染症終身認定医 京都府消化器がん検診委員会委員長 デジタルバイオカラー研究会理事 京都消化器医会理事 京都府胃内視鏡検診準備・検討小委員会委員長 京都府生活習慣病検診等管理指導協議会がん検診部会胃がん検診ワーキング 京都大学医学博士	上部消化管内視鏡	消化器内視鏡、H.Pylori感染症、健診
非常勤医師	米田　俊貴	日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医・西部会評議員 日本内科学会総合内科専門医・指導医 京都大学医学博士	消化器内科全般	肝疾患
非常勤医師	遠藤　文司	日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医・近畿支部評議員・本部評議員 日本内科学会認定内科医 日本肝臓学会専門医 日本消化器がん検診学会胃・肝胆膵認定医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 日本医師会認定産業医 ICD協議会認定インフェクションコントロールドクター 臨床研修指導医	消化器内科全般	胆道・膵疾患検査治療

非常勤医師	見島　裕之	日本内科学会認定内科医 京都大学医学博士	消化器内科全般	消化管疾患

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 超音波学会専門医研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設

1. 三次救急病院の消化器内科として、緊急内視鏡検査(ERCP含む)治療・PTCDなどに24時間対応
2. 地域がん診療連携拠点病院の消化器内科として消化器癌全般の診断と早期癌の内視鏡的あるいは経皮的治療に全て対応
3. 地域医療支援病院の消化器内科として紹介による内視鏡検査の実施、PEG/PTEGの造設・管理に対応
4. 炎症性腸疾患の専門診療を実施
5. 多数の慢性肝疾患症例を専門的に診療
6. 潰瘍性大腸炎に対する治験PhaseⅢを実施

□ 主な対象疾患

消化器癌全般(食道、胃、十二指腸、大腸、肝臓、膵臓、胆嚢、胆管系)
炎症性腸疾患(クローン病、潰瘍性大腸炎)
急性および慢性肝疾患(ウイルス性、自己免疫性)
肝硬変
ヘリコバクター感染症関連疾患（消化性潰瘍、MALTリンパ腫）
消化器救急疾患（消化管出血、閉塞性黄疸、急性膵炎）

□ 診療（業務）内容

消化器内科一般外来および肝臓専門外来
上部消化管、下部消化管内視鏡検査および治療
ERCPおよびERCP関連治療
PTCおよびPTC関連治療
EUSおよびEUS-FNA、Interventional EUS
消化管・胆膵系ステント留置
小腸内視鏡(カプセルおよびバルーン内視鏡)
炎症性腸疾患に対する専門的治療(免疫調節剤、生物学的製剤)
ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス療法(内服薬、インターフェロン)
肝癌に対する経皮的治療
セカンドオピニオン外来
内視鏡技師の育成
治験PhaseⅡおよびⅢ
アカラシアに対する治療(POEM)

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
56.3名	1,565名	13.1日

外来患者数

1日平均患者数
117.6名

主な手術・検査の件数など

上部消化管内視鏡検査	下部消化管内視鏡検査	ＥＲＣＰ	食道・胃ESD	POEM	大腸ESD	肝癌ラジオ波焼灼術
5,368件	2,877件	470件	148件	7件	73件	56件

□ 地域医療連携・広報活動

＜開催研究会等＞

・第9回深草消化器医療連携の会　2018/2/17 アストラゼネカ（株）京都支店「Aztrium」

・第27回セミナー　京都医療センターがん診療セミナー　2017/5/25　京都医療センター

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学 会 名
国際学会	N.Yoshitaka, K.Kusumoto, Y.Itokawa, B.Endoh, K.Chikugo, A.Suzuki, T.Kawakami,T.Suzuki, O.Inatomi, S.Bamba, T.Kusaka, H.Kokuryu, Y.Mizumoto, K.Tanaka	RISK FACTORS FOR POST-ENDOSCOPIC RETROGRADE CHOLANGIOPANCREATOGRAPHY PANCREATITIS; A PROSPECTIVE MULTICENTER STUDY	25th United European Gastroenterology Week Barcelona, 2017 2017.10.30　Barcelona, Spain
国際学会	B.Endoh, N.Esaka, S.Katsushima, K.Chikugo, S.Nakano, T.Shimogama, S.Iwamoto, K.Kasahara, T.Komeda	CANCER INCIDENCE IN VARIOUS ORGANS OTHER THAN THE LIVER FOLLOWING DIRECT-ACTING ANTIVIRAL (DAA) THERAPY FOR HEPATITIS C	25th United European Gastroenterology Week Barcelona, 2017 2017.10.30　Barcelona, Spain
国際学会	A.Suzuki, B.Endoh, K.Chikugo, T.Kawakami, T.Suzuki, N.Yoshitaka, K.Kusumoto, Y.Itokawa, O.Inatomi, S.Bamba, K.Uno, Y.Mizumoto, K.Tanaka	RISK FACTORS FOR POST-ENDOSCOPIC RETROGRADE CHOLANGIOPANCREATOGRAPHY PANCREATITIS; A PROSPECTIVE MULTICENTER STUDY	25th United European Gastroenterology Week Barcelona, 2017 2017.10.31　Barcelona, Spain
国際学会	K.Takumi, T.Suzuki, H.Sato, N.Yoshida, Y.Nakai, K.Kusumoto, Y.Itokawa, A.Suzuki, B.Endoh, K.Chikugo, O.Inatomi, S.Bamba, Y.Mizumoto, K.Tanaka	USEFULNESS OF AMY MEASUREMENTS AT 2 HOURS AFTER ENDOSCOPIC RETROGRADE CHOLANGIOPANCREATOGRAPHY IN PREDICTING THE SEVERITY OF POST-ERCP PANCREATITIS, MULTICENTER PROSPECTIVE STUDY, SOSUI	25th United European Gastroenterology Week Barcelona, 2017 2017.10.31　Barcelona, Spain
国際学会	O.Inatomi, S.Bamba, Y.Nakai, K.Kusumoto, B.Endoh, A.Suzuki, T.Kawakami, S.Oota, A.Inoue, Y.Itokawa, K.Chikugo, A.Andoh, Y.Mizumoto, K.Tanaka	CORRELATION BETWEEN POST-ERCP SERUM AMYLASE LEVELS AND CT FINDINGS IN ERCP-INDUCED PANCREATITIS: A PROSPECTIVE MULTICENTER OBSERVATIONAL STUDY	25th United European Gastroenterology Week Barcelona, 2017 2017.10.31　Barcelona, Spain
国内学会	滝本見吾,大石嘉恭,松山希一	十二指腸Vater乳頭部腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)ー４症例を経験して	第94回日本消化器内視鏡学会総会 2017.10.12　福岡
国内学会	森英毅,浦岡俊夫,松浦俊博,桑井寿雄,佐々木善浩,豊川達也,渡邉典子,高添愛,山田拓哉,久保公利,宮林秀晴,山下晴弘,加賀谷尚史,安岡秀敏,井上修志,木村宗士,江坂直樹,濵田博重,小倉芳人,原田直彦	全国国立病院機構における総胆管結石性胆管炎の診療実態	第59回日本消化器病学会大会 2017.10.12　福岡
国内学会	勝島慎二,江坂直樹,遠藤文司	IFNフリー治療後の他臓器がん	第59回日本消化器病学会大会 2017.10.13　福岡
国内学会	平井悠一郎,浦岡俊夫,和田道子,小倉芳人,斎藤裕樹,宮林秀晴,加賀谷尚史,濵田博重,勝島慎二,木村宗士,増田栄治,渡邉典子,山田拓哉,原田直彦,NHO研究ネットワークグループ	全国国立病院機構における 大腸憩室出血の診断法に関する診療実態	第59回日本消化器病学会大会 2017.10.13　福岡
国内学会	滝本見吾,玉置大,松山希一	十二指腸腫瘍に対する最適な内視鏡治療を求めてー当院でのESD, EMRの棲み分けとその工夫ー	第94回日本消化器内視鏡学会総会 2017.10.13　福岡
国内学会	米田俊貴,勝島慎二,濵田聖子,中野重治,熊谷健,遠藤文司,岩本諭,笠原勝宏	カルテ情報ー元管理による HBV再活性化肝炎at　risk症例の把握とウイルス変動の監視	第21回日本肝臓学会大会 2017.10.13　福岡
国内学会	平澤欣吾,辻陽介,片岡陽佑,滝本見吾,大圃研,和田友則,望月暁,藤城光弘	ポリグリコール酸シート・フィブリン糊被覆法の胃ESD後出血予防効果の検証	第94回日本消化器内視鏡学会総会 2017.10.14　福岡
国内学会	滝本見吾	内視鏡治療における鎮静・鎮痛のあるべき姿	第94回日本消化器内視鏡学会総会 2017.10.14　福岡
国内学会	筑後孝紀,勝島慎二,濵田聖子,中野重治,下釜翼,熊谷健,太田義之,江坂直樹,遠藤文司,岩本諭,笠原勝宏,米田俊貴,島伸子,水本吉則	SVR後の肝発癌ーIFNフリー治療とベース治療の比較ー	第59回日本消化器病学会大会 2017.10.14　福岡
国内学会	勝島慎二,江坂直樹,岩本諭	Genotype/Serotype乖離例における薬剤選択	第103回日本消化器病学会総会 2017.4.20　東京
国内学会	滝本見吾,玉置大,松山希一	十二指腸ESDにおける糸付きクリップ牽引法とクリップ・スネア・リフティング法の比較と当院での牽引法の工夫	第93回日本消化器内視鏡学会総会 2017.5.11　大阪
国内学会	濵田聖子,遠藤文司,水本吉則,勝島慎二	EST後出血の止血困難例に対してFCSEMSを用いた止血術を施行した７例の検討	第93回日本消化器内視鏡学会総会 2017.5.11　大阪
国内学会	水本吉則	今一度見直しませんか？「適正なガイドワイヤーの選び方」	第93回日本消化器内視鏡学会総会 2017.5.12　大阪
国内学会	勝島慎二,江坂直樹,岩本諭	観察研究における統計解析の進め方	第93回日本消化器内視鏡学会総会 2017.5.12　大阪

国内学会	水本吉則,太田義之,江坂直樹	大腸内視鏡検査のQuality　indicator評価のためのデータベース構築	第93回日本消化器内視鏡学会総会 2017.5.12　大阪
国内学会	玉置大,滝本見吾,松山希一	当院における表在性非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍の治療成績	第93回日本消化器内視鏡学会総会 2017.5.12　大阪
国内学会	井本勉,天野恵介,飯尾悦子,尹聖哲, 廣畑成也,石川達,矢野嘉彦,勝島慎二,米田俊貴,福永豊和,堀江裕,鄭浩柄,國立裕之,金秀基,金守良,工藤正俊,田中靖人	散発性急性C型肝炎例に於ける血清type-1　IFNs及びtype-3 IFNs値の動態とその臨床的意義	第53回日本肝臓学会総会 2017.6.8　広島
国内学会地方会及び分科研究会	滝本見吾,太田義之,岩本諭,水本吉則,勝島慎二	十二指腸腫瘍に対するESD術中剥離の新たな工夫ーS-O clipを用いたトラクション法	第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 2017.11.18　京都
国内学会地方会及び分科研究会	太田義之,滝本見吾,水本吉則,勝島慎二,岩本諭	当院における早期大腸Tlb癌の治療成績とリンパ節転移に就いての検討	第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会　2017.11.18　京都
国内学会地方会及び分科研究会	濵田聖子,赤松友梨,筑後孝紀,中野重治,下釜翼,太田義之,江坂直樹,岩本諭,笠原勝宏,滝本見吾,水本吉則,島伸子,勝島慎二	胃hamartomatous inverted polypの一例	第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会　2017.11.18　京都
国内学会地方会及び分科研究会	笠原勝宏,赤松友梨,濵田聖子,筑後孝紀,中野重治,下釜翼,太田義之,江坂直樹,岩本諭,滝本見吾,水本吉則,勝島慎二	バレット上皮に発生した胃底腺型胃癌の一例	第99回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会　2017.11.18　京都
国内学会地方会及び分科研究会	中野重治,勝島慎二,筑後孝紀,遠藤文司,岩本諭,笠原勝宏,滝本見吾,米田俊貴	緩和治療の経過中に一時縮小を認めたFibrolamellar carcinomaの一例	第42回日本肝臓学会西部会 2017.11.30　福岡
国内学会地方会及び分科研究会	勝島慎二,中野重治,米田俊貴,滝本見吾,筑後孝紀,遠藤文司,岩本諭,笠原勝宏	IFNフリーDAA治療後の肝臓以外の悪性腫瘍	第42回日本肝臓学会西部会 2017.11.30　福岡
国内学会地方会及び分科研究会	滝本見吾,大石嘉恭,玉置大	当院における非乳頭部十二指腸腫瘍に対するESDの現状と穿孔予防の術中工夫について	第93回日本消化器内視鏡学会総会附置研究会第1回十二指腸腫瘍の診断および低侵襲治療に関する研究会 2017.5.13　大阪
国内学会地方会及び分科研究会	滝本見吾	消化管領域におけるポリグリコール酸シートとフィブリン糊併用法の現況と今後の課題	第93回日本消化器内視鏡学会総会附置研究会第1回ポリグリコール酸シートとフィブリン糊を併用した被覆法の有効性評価と手技標準化にむけた研究会 2017.5.13　大阪
国内学会地方会及び分科研究会	熊谷健,江坂直樹,岩本諭,水本吉則,勝島慎二	生体吸収糸を併用したポリグリコール酸シートのデリバリー方法	第93回日本消化器内視鏡学会総会附置研究会第1回ポリグリコール酸シートとフィブリン糊を併用した被覆法の有効性評価と手技標準化にむけた研究会 2017.5.13　大阪
国内学会地方会及び分科研究会	大石嘉恭,滝本見吾,松山希一	胃全摘後食道空腸縫合不全に対し、ポリグリコール酸シートによる被覆法が有用であった一例	第93回日本消化器内視鏡学会総会附置研究会第1回ポリグリコール酸シートとフィブリン糊を併用した被覆法の有効性評価と手技標準化にむけた研究会 2017.5.13　大阪
国内学会地方会及び分科研究会	勝島慎二,中野重治,筑後孝紀,米田俊貴	IFNフリーDAA治療後の他臓器がん	日本消化器病学会近畿支部　第107回例会 2017.9.23　大阪
国内学会地方会及び分科研究会	筑後孝紀,下釜翼,遠藤文司,水本吉則	short wireを用いたPhysician-controlled Wire-guided cannulationによる胆管挿管手技のメリット	日本消化器病学会近畿支部　第107回例会 2017.9.23　大阪
国内学会地方会及び分科研究会	岩本諭,滝本見吾,水本吉則,勝島慎二	内視鏡データベースから見た生活習慣病と大腸腺腫	日本消化器病学会近畿支部　第107回例会 2017.9.23　大阪
国内学会地方会及び分科研究会	中野重治,赤松友梨,濵田聖子,筑後孝紀,下釜翼,太田義之,江坂直樹,岩本諭,笠原勝宏,滝本見吾,水本吉則,米田俊貴,勝島慎二	緩和治療のみで年余に渡り生存し、経過中に一時縮小を認めたFibrolamellar carcinoma(FCL)の一例	日本消化器病学会近畿支部　第107回例会 2017.9.23　大阪
国内学会地方会及び分科研究会	勝島慎二,中野重治,米田俊貴,笠原勝宏	DAA治療SVR例の生命予後と他臓器発癌	日本消化器病学会近畿支部　第108回例会 2018.3.17　京都
国内学会地方会及び分科研究会	濵田聖子,赤松友梨,筑後孝紀,中野重治,下釜翼,太田義之,江坂直樹,岩本諭,笠原勝宏,滝本見吾,水本吉則,島伸子,勝島慎二	脊髄圧迫症候群を契機に診断に至った肝原発神経内分泌癌の１例	日本消化器病学会近畿支部　第108回例会 2018.3.17　京都
国内学会地方会及び分科研究会	笠原勝宏,赤松友梨,中野重治,濵田聖子,筑後孝紀,下釜翼,太田義之,江坂直樹,岩本諭,滝本見吾,水本吉則,米田俊貴,勝島慎二	診断に難渋した肝原発CD5陽性びまん性大細胞型細胞リンパ腫の一例	日本消化器病学会近畿支部　第108回例会 2018.3.17　京都
国内学会地方会及び分科研究会	中野重治,勝島慎二,米田俊貴,赤松友梨,濵田聖子,筑後孝紀,下釜翼,太田義之,江坂直樹,遠藤文司,岩本諭,笠原勝宏,滝本見吾,水本吉則,島伸子	初発肝癌に対する腹腔鏡肝切除とラジオ波焼灼術の治療成績	日本消化器病学会近畿支部　第108回例会 2018.3.17　京都
その他	岩本諭,石川博己	DAAs　Failure	HCV　Expert Seminar 2017.10.27　京都
その他	小山弘,海透修子,笠原勝宏,高田真基,楢林正流,漆原愛子	A case report: Disturbance of consciousness associated with DLBCL metastasis at ARAS	第71回国立病院総合医学会 2017.11.10　香川
その他	中野重治	肝腫瘍画像診断の一例	第141回総合画像診断症例検討会 2017.12.2　京都

その他	勝島慎二	C型肝炎SVR例の他臓器発癌	平成29年度第2回国立病院機構共同臨床研究、第2回厚生労働行政推進調査事業費補助金合同班会議 2017.12.22　長崎
その他	島伸子	胃がん・大腸がん検診	第27回セミナー京都医療センターがん診療セミナー　2017.5.25　京都
その他	勝島慎二	C型肝炎SVR例の他臓器発癌	平成29年度第2回国立病院機構共同臨床研究、第2回厚生労働行政推進調査事業費補助金合同班会議 2017.12.22　長崎
その他	島伸子	胃がん・大腸がん検診	第27回セミナー京都医療センターがん診療セミナー　2017.5.25　京都
その他	勝島慎二	肝がん健検診	第27回セミナー京都医療センターがん診療セミナー　2017.5.25　京都
その他	滝本見吾	ESD　expoertから学んだこと-ESD導入から積極的治療まで-	ESD Hands on Seminar 2017.6.18　大阪
その他	赤松友梨,中野重治,濵田聖子,筑後孝紀,下釜翼,太田義之,江坂直樹,岩本諭,笠原勝宏,滝本見吾,水本吉則,米田俊貴,勝島慎二	緩和治療のみで長期生存し 経過中に腫瘍の一時縮小を認めた、右心房内進展を伴うFibrolamellar carcinoma(FCL)の一例	第40回京大消化器内科関連病院症例検討会 2017.6.24　京都
その他	水本吉則	VoiceCaptureを用いたESD記録の工夫と活用	第65回近畿内視鏡治療研究会プログラム　2017.6.9　大阪
その他	勝島慎二	SVR後発癌の統計解析	関西肝疾患カンファレンス 2017.8.26　大阪
その他	中野重治	病理組織学的診断で確定したまれな肝腫瘍の３例	第23回Ｒ２４肝臓カンファレンス 2017.9.30　京都
その他	滝本見吾	大腸腫瘍の内視鏡治療～困難例への挑戦～	第10回京都医療センター医療連携フォーラム　2018.3.10　京都
その他	太田義之	大腸がん腸閉塞に対する集学的治療～金属ステント挿入,腹腔鏡下手術,術後補助化学療法～	第10回京都医療センター医療連携フォーラム　2018.3.10　京都
その他	前川高天	より良い内視鏡検診のために～精度管理をレベルアップにつなげる～	京都府胃がん検診（胃内視鏡検査）従事者研修会　2018.3.24　京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
Digestive Diseases 2017 ; 35 : 531-540	Imoto S,Kim SR,Amano K,Iio E, Yoon S, Hirohata S, Yano Y, Ishikawa T,Katsusima S,Komeda T, Fukunaga T, Chung H, Kokuryu H, Horie Y, Hatae T,Fujinami A,Kim SK,Kudo M,TanakaY. Serum IFN-λ3 Levels Correlate with Serum Hepatitis C Virus RNA Levels in Symptomatic Patients with Acute Hepatitis C.
Gastrointestinal Endoscopy 2017 ; 85(2) : 371-379	Sakuma Y,Kodama Y,Sogabe Y,Nakai Y,Yamashita Y,Mikami S,Kajimura K,Ikeda K,Tamaki H,.Iwamoto S,Matsuda F,Fujita K,Uza N,Kawamura T,Uemoto S,Seno H,Chiba T,Yazumi S,for the Kyoto Pancreatobiliary Study Group. Diagnostic performance of a new endoscopic scraper for malignant biliary strictures: a multicenter prospective study.
Journal of Gastroenterology 2017 ; 52(10) : 1130-1139	Tsuji　Y,Takahashi N,Isoda H,Koizumi K,Koyasu S,Sekimoto M,Imanaka Y,Yazumi S,Asada M,Nishikawa Y,Yamamoto H,Kikuchi N,Yoshida T,Inokuma T,Katsushima S,Esaka N,Okano A,Kawanami C,Kakiuchi O,Shiokawa M,Kodama Y,Moriyama I,Kajitani T,Kinoshita Y,Chiba　T . Early diagnosis of pancreatic necrosis based on perfusion CT to predict the severity of acute pancreatitis.
Clinical Journal Gastroenterology 2017 ; 10(6) : 524-529	Ohara Y,Takimoto K,Toyonaga T,Ymaguchi T,Sakaguchi H,Kawara F,Tanaka S,Ishida T,Morita Y,Umegaki E. Enormous postoperative perforation after endoscopic submucosal dissection for duodenal cancer successfully treated with filling and shielding by polyglycolic acid sheets with fibrin glue and computed tomography-guided abscess puncture.
Hepatology Research 2018 ; 48 : E107-E116	Hidaka H,Kokubu S,Sato T,Katsushima S,Izumi N, Igura T,Asahara S,Notsumata K,Osaki Y,Tsuji K,Kawanaka H,Akahoshi T,Hirota S,Matsutani S,NPB-06 study group. Antithrombin III for portal vein thrombosis in patients with liver disease: A randomized, double-blind, controlled tiral
Internal Medicine 2018 ; 57(4) : 537-543	Nakatani R,Murata T,Usui T,Moriyoshi K,Komeda T,Masuda Y,Kobayashi MK,Tagami T, Imashuku S,Kono S,Yamada K,Shimatsu A. Importance of the Average Glucose Level and Estimated Glycated Hemoglobin in a Diabetic Patient with Hereditary Hemolytic Anemia and Liver Cirrhosis.
日本消化器病学会雑誌 2017 ; 114(7) : 1247-1254	勝島慎二、小畑達郎、米田俊貴、濵田聖子、筑後孝紀、中野重治、下釜翼、熊谷健、太田義之、遠藤文司、江坂直樹、岩本諭、笠原勝宏、島伸子、水本吉則. C型肝炎ウイルスgenotype/serotype乖離例に対する治療選択.
救急・集中治療 2017 ; 29(7・8) : 477-482	遠藤文司.Enterobacterに対して第３世代セファロスポリン系抗菌薬は使えないか？Acinetobacterに対する抗菌薬は何を選択するか？
ICU感染制御を究める　2017 ; 63-78	遠藤文司. Clostridium difficile感染症（CDI）.
ICU感染制御を究める　2017 ; 79-80	清水克彦、遠藤文司. 看護の視点から5「院内感染予防を考える」.
レジデント・ノート 2017 ; 19(2) : 2143-2151	遠藤文司. 救急・ICUでよく使う消化器用薬.
Gastroenterological Endoscopy 2017 ; 59(10) : 2508-2513	楠本聖典,濱田暁彦,藤井茂彦,日下利広,水本吉則,安原裕美子. ２度の著明な形態変化を内視鏡的に観察した早期胃癌の１例.
サリドマイド胎芽症診療ガイド 2017 : 64-65	栢森良二.滋賀智子,田上哲也,日ノ下文彦,長瀬洋之,桜井俊之,小川卓二,皆川梓,篠崎雅史,原田潤,田嶋強,田山二郎,丸岡豊,今井公文,内田エリカ,永田幸子,當間勇人,島伸子,前川高天. XI臨床現場における諸問題～経鼻消化器内視鏡のポイント～.
日本ヘリコバクター学会誌 2018 ; 19 : 3 127-132	佐々木誠人,前川高天,西林宏之,安藤貴志,赤松泰次,須藤弘之,古田隆久. クラリスロマイシン耐性がヘリコバクター・ピロリ除菌治療に及ぼす影響ー多施設共同レトロスペクティブ研究ー.
Gastroenterological Endoscopy 2017 ; 59 : 1677-1681	江坂直樹. 内視鏡室の紹介.

循環器内科



部長
診療科長
赤尾　昌治

専門医資格等　日本循環器学会認定循環器専門医、代議員（社員）、
近畿支部評議員
日本内科学会認定内科医、指導医、近畿支部評議員
日本不整脈心電学会評議員
日本心血管脳卒中学会評議員
京都大学臨床教授、非常勤講師

専門分野　心房細動、不整脈、臨床疫学

□ スタッフ

平成 29年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長 カテ室チーフ 医療安全 管理副部長	阿部　充	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本心血管インターベンション治療学会専門医、指導医、代議員	心臓カテーテル検査・治療、造影剤腎症、医学統計	
医長 CCUチーフ	益永　信豊	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 日本心血管インターベンション治療学会専門医 腹部大動脈ステントグラフト実施医	冠動脈カテーテル治療、末梢動脈カテーテル治療、大動脈ステントグラフト治療	
医師 不整脈チーフ	小川　尚	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医	不整脈、電気生理、カテーテルアブレーション治療、デバイス治療	
医師	井口　守丈	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	心不全、循環器領域の画像診断	
医師	石井　充	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 日本心血管インターベンション治療学会専門医	狭心症・心筋梗塞・閉塞性動脈硬化症などのインターベンション、循環器全般	
医師	安　珍守	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 日本心血管インターベンション治療学会認定医	不整脈、カテーテルアブレーション治療、デバイス治療	
医師	手塚　祐司	日本内科学会認定内科医	循環器一般	
専修医	土井　康佑		循環器一般	
展開医療研究部部長	長谷川浩二	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医専門医 アメリカ心臓協会専門医（FAHA） アメリカ心臓病学会専門医（FACC） 日本禁煙科学会認定　禁煙支援医	心不全、虚血性心疾患、心血管危険因子管理・特に禁煙指導、心血管展開医療研究	
展開医療研究部室長	和田　啓道	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器学、リスクファクター管理、予防医学	
医長	中島　康代	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 総合内科専門医・指導医	循環器一般、心臓リハビリテーション	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本循環器学会認定循環器研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設

診療科モットー：「地域、世界、そして将来に貢献する循環器内科」
1.「地域」：命を守る責任感をもって、信頼される地域医療を提供すること
2.「世界」：より良い医療を探求する情熱を持ち、世界に向けて情報発信すること
3.「将来」：指導者として人を教え育て、学習者として人から学び成長すること

「地域」は診療、「世界」は研究、「将来」は教育をあらわしています。診療・研究・教育の3本柱は、それぞれが互いを刺激して高めあう関係にあります。この3本柱がバランス良くしかも高いレベルで達成されていること、これが我々の診療科の目指す姿であり、また課せられた使命であると考えています。

□ 主な対象疾患

虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)
不整脈
心不全、心原性ショック
心筋症、心筋炎
心臓弁膜症
感染性心内膜炎
心膜疾患、心タンポナーデ
高血圧
大動脈瘤、大動脈解離
閉塞性動脈硬化症
静脈血栓症
肺塞栓症

□ 診療（業務）内容

心臓、血管系の疾病全般を扱っています。専門性に偏ることなく、バランスの取れた診療を行っていくよう、常に心がけています。
2014年9月8日に、心臓カテーテル検査室が移転、新装オープンし、「心血管治療センター」として稼働を開始しました。「心血管治療センター」では、冠動脈疾患や末梢動脈疾患に対するカテーテル検査・治療、不整脈疾患に対する電気生理検査・アブレーション治療を行っています。最新鋭のレントゲン透視装置で鮮明な画像が得られるため、より正確な診断と、より確実な治療が行えます。放射線の被ばく量も減少させることができます。より安全で確実に、清潔で快適な環境で、患者さんに検査や治療を受けて頂けるよう、そしてさらにレベルの高い医療を提供して地域に貢献してまいる所存です。
当院は、三次救急病院として地域医療の最後の砦であるという自覚と責任感を持って、絶対に断らない医療を目標としています。医療関係者専用の当科医師への直通電話（循環器ホットライン：070-6506-7304)を設けています。24時間365日、緊急症例、診療のご相談、なんでも気軽にお電話下さい。重症度や緊急度によりましては、当科ドクターカーを派遣することも可能です。
高齢化の進むわが国において、心疾患の終末像ともいえる心不全患者が増加の一途を辿っています。心不全の治療には、薬物療法だけでなく、食事療法、心臓リハビリなどの運動療法、訪問介護・看護などを含めた生活の支援も重要になります。当科では、心臓リハビリスタッフ、看護師、栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカー、医師を中心に、心不全チーム医療を充実させ、多職種介入による包括的管理に力を入れています。
また、当科ではつねに多くの臨床研究や、新しい薬剤や医療機器の治験をおこなっており、より有効性・安全性の高い医療を求めて積極的に研究活動を行っています。とくに、当科が中心となって2011年より開始した「伏見心房細動患者登録研究（伏見AFレジストリ）」は、日本の実臨床の現場における心房細動患者の実態を反映するデータとして全国の注目を集めており、その成果を国内や国外の一流学会や論文に発表しております。

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
31.7名	1,149名	9.9日

外来患者数

1日平均患者数
62.5名

主な手術・検査の件数など

冠動脈カテーテル治療	冠動脈カテーテル検査	下肢動脈カテーテル治療	カテーテルアブレーション
277件	691件	28件	68件

ペースメーカー植込
44件

□ 地域医療連携・広報活動

第10回伏見心血管病勉強会「循環器ホットライン」平成29年10月5日
第4回伏見AFネットワークミーティング 平成29年8月5日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

学　会　名	演　　題	演　　者
伊勢地区医師会学術講演会　三重県伊勢市　2017.04.20	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
徳島県血栓塞栓症予防学術講演会　徳島市　2017.04.25	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
心疾患フォーラム in Nagoya　名古屋市 2017.04.27	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
エリキュース最新の抗凝固療法　仙台市 2017.05.12	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
広島県内科会学術講演会　広島市 2017.05.13	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
Anticoagulant Seminar in 中讃　香川県丸亀市　2017.05.16	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
ANAFIEレジストリ滋賀医大関連病院キックオフ会議　滋賀県草津市　2017.05.18	高齢者心房細動のリアルワールド～ANAFIEレジストリ開始の背景	赤尾昌治
第６０回日本糖尿病学会年次学術集会　名古屋　2017.05.19	糖尿病合併心房細動患者における血糖コントロールと心不全入院リスクの関連性:伏見AFレジストリより	手塚　祐司、村田　敬、渡邊　知一、井口 守丈、小川 尚、阿部 充、江里 正弘、全 栄和、辻 光、和田 啓道、長谷川 浩二、河野　茂夫、山田　和範、赤尾 昌治
心原性脳塞栓症予防学術講演会　弘前市　2017.05.26	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
Insight into the Real World Evidence　東京　2017.05.27	レジストリ構築の実際～Fushimi AF Registryから	赤尾昌治
第5回日本心血管脳卒中学会学術集会　福岡　2017.06.03	脳卒中と大出血を既往にもつ心房細動患者の臨床的背景と予後～伏見心房細動患者登録研究より～	小川 尚、土井 康佑、手塚 祐司、安 珍守、石井　充、井口 守丈、益永 信豊、江里 正弘、全 栄和、和田 啓道、長谷川 浩二、阿部 充、赤尾 昌治
第5回日本心血管脳卒中学会学術集会　福岡　2017.06.03	心房細動患者における心血管死と非心血管死の原因解析とリスク因子：Fushimi AF Registryから	安　珍守、石井　充、井口　守丈、益永　信豊、手塚　祐司、土井　康佑、江里　正弘、全　栄和、和田　啓道、長谷川　浩二、辻　光、小川　尚、阿部　充、赤尾　昌治
Bayer Thrombosisカンファレンス　米原市　2017.06.08	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
循環器疾患Total Management Seminar　津市　2017.06.09	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
都城市北諸県郡医師会内科医会学術講演会　都城市　2017.06.15	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
第9回KICS循環器科レジストリ　東京 2017.06.17	伏見AFレジストリ～誕生から今日までを振り返る	赤尾昌治
京都内科・循環器医会学術講演会　京都 2017.06.22	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
桜ノ宮循環器セミナー　大阪 2017.06.29	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
2017年度アジア・ハートハウス大阪夏期セミナー「みんなで考えよう!ニッポンの医療」　大阪　2017.07.02	DOAC登場で抗凝固療法は変わったのか？～伏見AFレジストリからみた現状と問題点	赤尾昌治
CVD and Diabetes Conference　札幌 2017.07.04	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
エリキュース発売4周年記念講演会 in 信州　松本市　2017.07.07	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
乙訓医師会学術講演会　京都 2017.07.08	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
第129回北丹医師会学術講演会　京丹後市　2017.07.11	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
Comprehensive Care Conference　瀬戸市　2017.07.27	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
大津医師会イブニングセミナー　大津市 2017.07.29	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
DOAC Forum in KAZUSA　木更津市 2017.08.01	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
European Society of Cardiology Congress 2017　Barcelona, Spain 2017.08.26	Left ventricular concentric geometry has a prognostic value for ischemic stroke or systemic embolism in atrial fibrillation patients: The Fushimi AF Registry (P505)	Y. Tezuka, M. Iguchi, M. Esato, Y. Chun, H. Wada, K. Hasegawa, H. Ogawa, M. Abe, M. Akao.

European Society of Cardiology Congress 2017　Barcelona, Spain 2017.08.26	Association of anemia with stroke/systemic embolism, bleeding, and cardiovascular death in patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry (P620)	Y. An, M. Ishii, M. Iguchi, N. Masunaga, Y. Tezuka, K. Doi, M. Esato, Y. Chun, H. Wada, K. Hasegawa, H. Tsuji, H. Ogawa, M. Abe, M. Akao.
European Society of Cardiology Congress 2017　Barcelona, Spain 2017.08.27	Evaluation of risk factors for major bleeding in AF patients with oral anticoagulation: The Fushimi AF Registry. (P1547)	M. Ishii, H. Ogawa, N. Masunaga, M. Iguchi, Y. An, M. Esato, Y. Chun, H. Wada, K. Hasegawa, M. Abe, M. Akao.
European Society of Cardiology Congress 2017　Barcelona, Spain 2017.08.27	Comparison of characteristics and outcomes of atrial fibrillation patients undergoing coronary artery bypass grafting surgery and percutaneous coronary intervention: From the Fushimi AF Registry. (P2703)	N. Masunaga, M. Iguchi, M. Ishii, M. Esato, Y.H. Chun, H. Wada, K. Hasegawa, H. Ogawa, M. Abe, M. Akao.
European Society of Cardiology Congress 2017　Barcelona, Spain 2017.08.28	Characteristics and outcomes in atrial fibrillation patients with previous thromboembolism and major bleeding: From the Fushimi AF Registry. (P4309)	H. Ogawa, Y. Tezuka, Y. An, M. Ishii, M. Iguchi, N. Masunaga, M. Esato, Y.H. Chun, H. Wada, K. Hasegawa, M. Abe, M. Akao.
European Society of Cardiology Congress 2017　Barcelona, Spain 2017.08.28	Association of body mass index with causes of death in patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry. (P4414)	Y. An, M. Ishii, M. Iguchi, N. Masunaga, Y. Tezuka, K. Doi, M. Esato, Y. Chun, H. Wada, K. Hasegawa, H. Tsuji, H. Ogawa, M. Abe, M. Akao.
European Society of Cardiology Congress 2017　Barcelona　2017.08.29	Prognostic effect of beta-blockers in patients with atrial fibrillation and heart failure: The Fushimi AF Registry	M. Iguchi, Y. Tezuka, N. Masunaga, M. Ishii, M. Esato, Y. Chun, H. Wada, K. Hasegawa, H. Ogawa, M. Abe, M. Akao.
European Society of Cardiology Congress 2017　Barcelona, Spain 2017.08.29	Predictive value of the CHA2DS2-VASc score for cardiovascular death in comparison with stroke in patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry. (P5833)	Y. An, M. Ishii, M. Iguchi, N. Masunaga, Y. Tezuka, K. Doi, M. Esato, Y. Chun, H. Wada, K. Hasegawa, H. Tsuji, H. Ogawa, M. Abe, M. Akao.
鳥取県西部医師会学術講演会　米子市 2017.09.08	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
ELDERCARE-AF Study Update!　横浜市 2017.09.12	抗凝固療法を諦めない!超高齢社会に挑むELDERCARE-AF試験の意義	赤尾昌治
第64回日本不整脈心電学会学術集会、第10回アジア太平洋不整脈学会学術集会　横浜　2017.09.14	Association of oral anticoagulant use with causes of death in Japanese patients with atrial Fibrillation: The Fushimi AF Registry	Yoshimori An, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Yuji Tezuka, Kousuke Doi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第64回日本不整脈心電学会学術集会、第10回アジア太平洋不整脈学会学術集会　横浜　2017.09.14	Progression from paroxysmal to sustained atrial fibrillation is associated with increased clinical outcomes: From the Fushimi AF Registry.	Hisashi Ogawa, Yoshimori An, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第64回日本不整脈心電学会学術集会、第10回アジア太平洋不整脈学会学術集会　横浜　2017.09.15	Impact of atrial fibrillation catheter ablation on the clinical outcome: The Fushimi AF Registry.	Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Tetsuo Hashimoto, Mitsuru Abe, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第64回日本不整脈心電学会学術集会、第10回アジア太平洋不整脈学会学術集会　横浜　2017.09.17	Lessons from Fushimi AF Registry.（シンポジウム）	Masaharu Akao
岩手県南地区抗凝固療法講演会　北上市　2017.09.21	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
ANAFIEレジストリ全国中間報告会　東京　2017.09.24	高齢者NVAF患者の現状～Fushimi AF Registryからの知見	赤尾昌治
脳卒中治療Up to Date　千葉県市川市 2017.09.29	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
第65回日本心臓病学会学術集会　大阪 2017.10.01	動脈硬化性疾患を合併する心房細動患者の心血管イベントの発生について：伏見心房細動登録研究より	益永　信豊、井口　守丈、石井　充、江里　正弘、全　栄和、和田　啓道、長谷川　浩二、小川　尚、阿部　充、赤尾　昌治
第65回日本心臓病学会学術集会　大阪 2017.10.01	慢性心房細動患者における心拍数の心血管イベントへの影響：伏見心房細動レジストリ	井口　守丈、小川　尚、杉山　裕章、益永　信豊、石井　充、江里　正弘、全　栄和、和田　啓道、長谷川　浩二、阿部　充、赤尾　昌治
第30回北陸不整脈薬物治療研究会　金沢市　2017.10.06	DOAC登場で抗凝固療法は変わったのか？～伏見AFレジストリからみた現状と問題点	赤尾昌治
Japan Registry Day 2017　東京 2017.10.07	DOAC登場で抗凝固療法は変わったのか？～伏見AFレジストリからみた現状と問題点	赤尾昌治
阿賀北抗凝固療法フォーラム　新潟県新発田市　2017.10.13	DOACを活かすための4つのポイント～伏見AFレジストリからの考察	赤尾昌治
第21回日本心不全学会学術集会　秋田 2017.10.13	Progression of heart failure is associated with higher mortality in patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry	Moritake Iguchi, Yuji Tezuka, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Yoshimori An, Kousuke Doi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
American Heart Association Scientific Sessions 2017　Anaheim, USA 2017.11.12	Exploration of risk factors for major bleeding in AF patients without oral anticoagulation: The Fushimi AF Registry	Mitsuru Ishii, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Moritake Iguchi, Yoshimori An, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
American Heart Association Scientific Sessions 2017　Anaheim, USA 2017.11.12	Relative Wall Thickness of the Left Ventricle Is an Independent Risk Factor of Stroke or Systemic Embolism in Patients with Atrial Fibrillation in Japan: The Fushimi AF Registry	Yuji Tezuka, Moritake Iguchi, Kousuke Doi, Yoshimori An, Mitsuru Ishii, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
American Heart Association Scientific Sessions 2017　Anaheim, USA 2017.11.13	Characteristics and clinical outcomes in atrial fibrillation patients with valvular heart disease: The Fushimi AF Registry	Hisashi Ogawa, Kosuke Doi, Yoshimori An, Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
American Heart Association Scientific Sessions 2017　Anaheim, CA, USA 2017.11.13	Exploration of Risk Factors for Major Bleeding in Af Patients Without Oral Anticoagulation: The Fushimi Af Registry (Abstract 15257)Circulation. 2017;136:A15257. (Abstract 16249)	Mitsuru Ishii, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Moritake Iguchi, Yoshimori An, Masahiro Esato, Yeong H Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe and Masaharu Akao.
American Heart Association Scientific Sessions 2017　Anaheim, USA 2017.11.14	Risk factors for cardiovascular death in Japanese patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry	Yoshimori An, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Kohsuke Doi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.

心房細動の抗血栓療法を考える　仙台市　2017.12.12	地域医療圏コホート：伏見AFレジストリから	赤尾昌治
ELDERCARE-AF試験中間検討会　東京　2018.01.28	超高齢者に対する抗凝固療法の是非を考える～伏見AFレジストリより	赤尾昌治
第18回近畿心不全・不整脈カンファレンス　大阪市　2018.02.10	心房細動患者で、心不全は脳卒中リスクか？～伏見AFレジストリの最新解析から	赤尾昌治
日本人に適した高齢者医療を考える会　名古屋市　2018.02.15	超高齢・低体重患者に対する抗凝固療法の是非を考える～伏見AFレジストリより	赤尾昌治
座談会：世界のRWDと日本のRWDから学ぶ　東京　2018.02.25	超高齢患者に対する抗凝固療法の是非を考える～伏見AFレジストリより	赤尾昌治
第82回日本循環器病学会学術集会総会　大阪　2018.03.23	Clinical characteristics and outcomes of Japanese patients with valvular versus non-valvular atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry	Kosuke Doi, Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第82回日本循環器病学会学術集会総会　大阪　2018.03.23	Clinical Characteristics and Prognosis of Atrial Fibrillation Patients with Fine Fibrillatory Wave: The Fushimi AF Registry	Hisashi Ogawa, Hiroaki Sugiyama, Yoshimori An, Syuhei Ikeda, Yuya Aono, Kosuke Doi, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第82回日本循環器病学会学術集会総会　大阪　2018.03.23	Patient knowledge of atrial fibrillation and anticoagulant therapy: TASK-AF Fushimi pilot program.	Masaharu Akao, Syuhei Ikeda, Yuya Aono, Kosuke Doi, Yoshimori An, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe.
第82回日本循環器病学会学術集会総会　大阪　2018.03.23	Risk factors for new-onset heart failure in atrial fibrillation patients without pre-existing organic heart disease:　The Fushimi AF Registry.	Yuya Aono, Moritake Iguchi, Syuhei Ikeda, Kosuke Doi, Yoshimori An, Mitsuru Ishii, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第82回日本循環器病学会学術集会総会　大阪　2018.03.23	Risk factors of hospitalization for heart failure in patients with atrial fibrillation and pre-existing heart failure: The Fushimi AF Registry	Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Yoshimori An, Kosuke Doi, Yuya Aono, Syuhei Ikeda, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第82回日本循環器病学会学術集会総会　大阪　2018.03.23	The Incidence and Risk Factors of Percutaneous Coronary Intervention Procedures in Patients with Atrial Fibrillation: The Fushimi AF Registry	Mitsuru Abe, Hisashi Ogawa, Syuhei Ikeda, Yuya Aono, Kosuke Doi, Yoshimori An, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第82回日本循環器病学会学術集会総会　大阪　2018.03.24	Cather ablation versus anti-arrhythmic drugs for atrial fibrillation rhythm-control therapy: A propensity score matched analysis from the Fushimi AF Registry.	Masahiro Esato, Yoshimori An, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hikari Tsuji, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第82回日本循環器病学会学術集会総会　大阪　2018.03.24	Change of antithrombotic therapy in atrial fibrillation patients with combination therapy of oral anticoagulant and antiplatelet drug: The Fushimi AF registry.	Nobutoyo Masunaga, Hisashi Ogawa, Moritake Iguchi, Mitsuru Ishii, Yoshimori An, Kosuke Doi, Yuya Aono, Shuhei Ikeda, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji, Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第82回日本循環器病学会学術集会総会　大阪　2018.03.24	Inappropriate Use of Direct Oral Anticoagulant is Associated with Increased Mortality Risk in Atrial Fibrillation Patients: The Fushimi AF Registry	Hisashi Ogawa, Yoshimori An, Shuhei Ikeda, Yuya Aono, Kosuke Doi, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第82回日本循環器病学会学術集会総会　大阪　2018.03.24	Usefulness of the CHA2DS2-VASc Score in Predicting Stroke and Cardiovascular Death in Patients with Atrial Fibrillation: The Fushimi AF Registry	Yoshimori An, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Kosuke Doi, Yuya Aono, Shuhei Ikeda, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao; for the Fushimi AF Registry investigators.
第82回日本循環器病学会学術集会総会　大阪　2018.03.25	Association between patient knowledge and treatment satisfaction in patients with atrial fibrillation receiving anticoagulant therapy: TASK-AF Fushimi pilot program.	Masaharu Akao, Syuhei Ikeda, Yuya Aono, Kosuke Doi, Yoshimori An, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe.
第82回日本循環器病学会学術集会総会　大阪　2018.03.25	Clinical Outcomes of Atrial Fibrillation Patients with Bifascicular Block: The Fushimi AF Registry	Hisashi Ogawa, Hiroaki Sugiyama, Yoshimori An, Moritake Iguchi, Shuhei Ikeda, Yuya Aono, Kosuke Doi, Mitsuru Ishii, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, for the Fushimi AF Registry investigators.
第82回日本循環器病学会学術集会総会　大阪　2018.03.25	Hypertension and the risk of adverse events in patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry　（シンポジウム）	Mitsuru Ishii, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Moritake Iguchi, Yoshimori An, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji, Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第82回日本循環器病学会学術集会総会　大阪　2018.03.25	Impact of Anemic Severity on Stroke/systemic Embolism, Bleeding, and Cardiovascular Death in Patients with Atrial Fibrillation: The Fushimi AF Registry	Yoshimori An, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Kosuke Doi, Yuya Aono, Shuhei Ikeda, Masahiro Esato, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao; for the Fushimi AF Registry investigators.

□ 投稿論文など

タイトル・著書・雑誌名	著者
Current Status and Outcomes of Direct Oral Anticoagulant Use in Real-World Atrial Fibrillation Patients　- Fushimi AF Registry. Circ J. 2017 Aug 25;81(9):1278-1285.	Yamashita Y, Uozumi R, Hamatani Y, Esato M, Chun YH, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, Ogawa H, Abe M, Morita S, Akao M.
Sex-Related Differences in the Clinical Events of Patients With Atrial Fibrillation　- The Fushimi AF Registry.Circ J. 2017; 81(10):1403-10.	Ogawa H, Hamatani Y, Doi K, Tezuka Y, An Y, Ishii M, Iguchi M, Masunaga N, Esato M, Chun YH, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, Abe M, Lip GYH, Akao M.
Clinical Impact of Asymptomatic Presentation Status in Patients with Paroxysmal and Sustained Atrial Fibrillation: The Fushimi AF Registry.　Chest. 2017 ;152(6):1266-1275	Esato M, Chun YH, An Y, Ogawa H, Wada H, Hasegawa K, Tsuji H, Abe M, Lip GYH, Akao M.
Relation of Stroke and Major Bleeding to Creatinine Clearance in Patients With Atrial Fibrillation (From the Fushimi AF Registry).　Am J Cardiol. 2017 ;119(8):1229-1237	Abe M, Ogawa H, Ishii M, Masunaga N, Esato M, Chun YH, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, Lip GYH, Akao M.
Ethnic differences in patients with atrial fibrillation and prior stroke: The Fushimi and Darlington AF Registries.　EBioMedicine. 2017 ;18:199-203	Ogawa H, Senoo K, An Y, Shantsila A, Shantsila E, Lane DA, Wolff A, Akao M, Lip GYH.
Relationship of hypertension and systolic blood pressure with the risk of stroke or bleeding in patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry.　Am J Hypertens. 2017 ;30(11):1073-1082	Ishii M, Ogawa H, Unoki T, An Y, Iguchi M, Masunaga N, Esato M, Chun YH, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, Abe M, Akao M.

Edoxaban for the Management of Elderly Japanese Patients with Atrial Fibrillation Ineligible for Standard Oral Anticoagulant Therapies: Rationale and Design of the ELDERCARE-AF Study. Am Heart J. 2017 ;194:99-106	Okumura K, Lip GYH, Akao M, Tanizawa K, Fukuzawa M, Abe K, Akishita M, Yamashita T.
Impact of Transient or Persistent Contrast-Induced Nephropathy on Long-Term Mortality after Elective Percutaneous Coronary Intervention. Am J Cardiol. 2017 ;120(12):2146-2153	Abe M, Morimoto T, Nakagawa Y, Furukawa Y, Ono K, Kato T, Kadota K, Ando K, Ishii M, Masunaga N, Akao M, Kimura T.
Who Will Achieve Stable Anticoagulation Therapy With Warfarin?Circ J. 2017;82(1):17-18.	An Y, Akao M.

小児科



診療科長
浅井　康一

専門医資格等
- 日本小児科学会専門医・指導医
- 日本アレルギー学会専門医・指導医
- 日本小児アレルギー学会　評議員
- 日本小児感染症学会　評議員
- Infection Control Doctor(ICT)
- 京都大学医学博士
- 京都大学医学部　臨床教授

専門分野
- 小児アレルギー
- 小児感染症

得意疾患
- 食物アレルギー
- 喘息・アトピー



NICU診療科長
河田　興

専門医資格等
- 日本小児科学会専門医
- 日本周産期新生児医学会
- 周産期（新生児）専門医・指導医
- 日本臨床薬理学会　専門医・指導医
- 日本新生児成育医学会　薬事医員
- 小児臨床薬理学会　教育委員・運営委員
- 新生児蘇生法「専門」コースインストラクター

専門分野
- 新生児
- 臨床薬理

得意疾患
- 妊娠と薬
- 新生児と薬



GCU診療科長
黒須　英雄

専門医資格等
- 日本小児科学会専門医
- 日本周産期新生児医学会
- 周産期（新生児）専門医
- 新生児蘇生法「専門」コースインストラクター
- 国際ラクテーションコンサルタント（IBCLC）

専門分野
- 新生児

得意疾患
- 新生児
- 母乳育児

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	石塚　哲也		小児全般	小児感染症
医　　師	北　　誠	日本小児科学会専門医 新生児蘇生法「専門」コースインストラクター	小児全般	虐待・遺伝性疾患
医　　師	橋本　有紀子	日本小児科学会専門医 日本人類遺伝学会　遺伝専門医	小児内分泌代謝	低身長・甲状腺 遺伝性疾患
医　　師	阿水　利沙	日本小児科学会専門医 日本周産期新生児医学会　周産期（新生児）専門医	新生児	極・超出生体重児
医　　師	仁井　純子	日本小児科学会専門医	小児全般	
非常勤医師	秋山　佑一	日本小児科学会専門医	血液・腫瘍	心身症

□ 診療科の特徴

施設認定等	京都大学小児科専門研修プログラム連携施設 周産期（新生児）専門医指定研修施設 日本アレルギー学会専門医教育研修施設

1.お子さんの、心とからだの発達を重視します。
2.スタッフ全員が、新生児から思春期までの小児の診療がおこなえるよう研鑽しています。
3.新生児期から小児期に外科的治療が必要な例には専門施設と円滑に連携をとっています。
（京都大学病院・京都府立医科大学病院等）
4.病気の治療にとどまらず、予防接種による感染症の予防にも力をいれています。
5.長期入院が必要な小・中学生は、学習が継続できるよう院内学級（京都市立桃陽総合支援学校）が利用できます。
6.京都市から委託をうけ院内病児保育を実施し、子供さんが体調不良で登園・登校できない時にも、ご家族の方が仕事を休まずにすむようサポートしています。

□ 主な対象疾患

新生児・低出生体重児（極低出生体重児1500g未満・超低出生体重児1000g未満）・新生児黄疸・糖尿病や甲状腺疾患母体からの出生児・新生児薬物離脱症候群
食物アレルギー・気管支喘息・アトピー性皮膚炎
低身長・甲状腺機能異常・糖尿病・肥満・先天代謝異常・遺伝相談
先天性心疾患・川崎病
てんかん・発達障害・自閉症・心身症・不登校など

□ 診療（業務）内容

1.平成12年から新生児集中治療室（NICU6床）、平成23年から新生児治療回復室（GCU6床）を開設し、産婦人科と密接に協力し24時間体制で赤ちゃんの診療を行っています。
2. 小児病棟（2-3病棟）では、肺炎・胃腸炎・脱水症・熱性痙攣など小児一般急性疾患の入院治療をしており、病棟保育士も常駐しています。
3. 外来診療は、一般外来の他、専門外来（アレルギー、内分泌、神経、心臓、NICUフォローアップ）や予防接種・健診があり、食物アレルギーでの食物経口負荷試験、内分泌疾患での負荷試験や学校検診（心電図・検尿）異常の精査をしています。
外来初診の場合、可能であればかかりつけの先生からの紹介状をご持参ください。

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
9.9名	297名	11.9日

外来患者数

1日平均患者数
30.9名

□地域医療連携・広報活動

第34回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会　実行委員長　浅井康一　2017年7月22-23日
（ピアザ淡海　滋賀県立県民交流センター）
第24回京都小児科医会　感染症研究会　特別講演　座長　浅井康一　2017年11月4日（京都ホテルオークラ）
第31回近畿小児科学会　一般演題　座長　浅井康一　2018年3月11日（大阪国際会議場）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

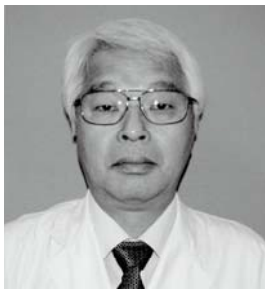
学会名	演　者	演　題
第26回伏見臨床小児科懇話会 2017.9.2	浅井康一、秋山祐一	最近までに経験した、小児の異物例
第49回日本小児感染症学会　総会・学術集会　2017.10.22	浅井康一	耳下腺腫脹をともなわず発症したムンプス髄膜炎の１例
第54回日本小児アレルギー学会学術大会　2017.11.18	浅井康一、田坂佳資、仁平寛士、日衛嶋栄太郎、井澤和司、河合朋樹、八角高裕、西小森隆太	高度貧血を呈した乳児消化管アレルギーの１例

第31回近畿小児科学会 2018.3.11	浅井康一、仁井純子、秋山祐一、田坂佳資、仁平寛士、井澤和司、八角高裕、西小森隆太	高度貧血を呈した乳児消化管アレルギーの１例
日本新生児成育医学会 2017.10.12	河田興, 阿水利沙, 黒須英雄	Aripiprazole内服母体から出生した新生児の血中濃度測定
日本小児臨床薬理学会 2017.10. 7	河田興, 阿水利沙, 黒須英雄	Aripiprazole内服母体から出生した新生児の血中濃度測定
日本新生児黄疸研究会 2017.9.16	河田興、伊藤進、小谷野耕介、安田真之、岡田仁、日下隆	極低出生体重児のグルクロン酸抱合能に関する検討
第59回日本小児神経学会学術集会　2017.6.16	北誠, 桑田康弘, 村瀬永子, 秋山祐一, 臼井健	95.2%の片アレルの欠失を同定した新規PRRT2変異の発作性運動誘発性ジスキネジア(PKD)兄弟例
第10回京都NICU懇話会 2017.7.22	黒須英雄、阿水利沙、仁井純子、橋本有紀子、北誠、石塚哲也、河田興、浅井康一	内臓逆位を呈した6番染色体異常の1例
第32回日本母乳哺育学会 2017.9.16	黒須英雄	授乳支援必要度スコアリング導入の試み（第2報）
第15回IBCLCのための母乳育児カンファレンス 2018.2.25	黒須英雄	授乳支援必要度スコアリング導入の試みと改変

□ 投稿論文など

著　　者	タイトル・著書・雑誌名
河田興、中嶋尚子、喜田孝史、黒須英雄、阿水利沙、高倉賢人	エドキサバンのヒト乳汁移行の検討ー妊娠・産褥期に処方する経口抗凝固薬（NOAC）における問題点ー 日本小児臨床薬理学会雑誌 30巻1号 Page25-29
河田興	【根っこ　生理を知れば看護が見える　新生児ケアまるわかりBOOK「だからこうする」をビジュアルで解説!】(第1章)赤ちゃんの状態を整える 与薬　Neonatal Care 2017秋季増刊 Page90-103
Okada H, Kawada K, Itoh S, Ozaki M, Kakutani I, Arai T, Koyano K, Yasuda S, Iwase T, Murao K, Kusaka T.	Effects of bilirubin photoisomers on the measurement of direct bilirubin by the bilirubin oxidase method.Ann Clin Biochem. 2018;55(2):276-280.
Makoto Kita, Yasuhiro Kuwata, Nagako Murase, Yuichi Akiyama, Takeshi Usui.	Novel Truncation Mutation of the PRRT2 Gene Resulting in a 16-Amino-Acid Protein Causes Self-inducible Paroxysmal Kinesigenic Dyskinesia. Mov Disorders clinical practice 2017; 4:625–628.
Michiko Wada, Makoto Kita, Kaoru Kawasaki, Toru Kusakabe, Tetsuya Tagami Noriko Satoh-Asahara1, Akira Shimatsu and Koshi Hashimoto.	False-positive TSH receptor antibody Endocr J. 2018 Mar 10. doi: 10.1507/endocrj.EJ17-0426. [Epub ahead of print]
岩井謙治、天羽清子、石川順一、金聖泰、榊原杏美、橋本有紀子、川北理恵、細川悠紀、依藤亨、外川正生	インフルエンザ感染を契機に発症した抗GAD抗体関連小脳失調症.日児会誌 2017; 121: 719-723.
Hashimoto Y, Dateki S, Hirose M, Satomura K, Sawada H, Mizuno H, Sugihara S, Maruyama K, Urakami T, Sugawara H, Shirai K, Yorifuji T.	Molecular and clinical features of KATP -channel neonatal diabetes mellitus in Japan. Pediatr Diabetes 2017; 18(7); 532-539.

外科



統括診療部長
診療科長
(肝胆膵責任者)
猪飼　伊和夫

専門医資格等　日本外科学会　外科専門医・指導医
日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医
日本肝胆膵外科学会　評議員・肝胆膵外科高度技能指導医
日本がん治療認定医機構　がん治療認定医
日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医
日本肝癌研究会幹事・取扱い規約委員
日本臨床外科学会　評議員
京都大学医学部　臨床教授
京都大学　医学博士
専門分野　肝胆膵外科
得意疾患　肝臓がん、胆道がん、膵臓がん

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
がん診療部長 医長 (乳腺責任者)	山﨑　誠二	日本外科学会　外科専門医・指導医 日本乳癌学会　乳腺専門医・指導医 日本臨床腫瘍学会　暫定指導医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医・暫定教育医 検診マンモグラフィ読影認定医 ASCO member 京都大学　非常勤講師 京都大学　医学博士	乳腺	乳がん
臨床栄養科長 医長 (上部消化管責任者)	大谷　哲之	日本外科学会　外科専門医 日本消化器外科学会　消化器外科認定医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医・暫定教育医 京都大学医学部　臨床教授	上部消化管	胃がん 食道がん
医長 (下部消化管責任者)	山口　高史	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 日本大腸肛門病学会　大腸肛門病専門医・指導医 日本内視鏡外科学会　内視鏡外科技術認定医・技術認定審査員・評議員 京都大学医学部　臨床准教授 京都大学　非常勤講師	下部消化管	大腸がん 骨盤外科
医師	成田　匡大	日本外科学会　外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 日本肝胆膵外科学会 評議員・肝胆膵外科高度技能専門医 日本消化器病学会　専門医 Le DiplÔme Inter Universitaire EUROPEAN CANCERS HEPATO BILIO PANCREATIQUES 京都大学医学部　臨床准教授 京都大学　医学博士	肝胆膵外科	肝臓がん 胆道がん 膵臓がん

医　　師	畑　　啓昭	日本外科学会　外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指道医 日本内視鏡外科学会　内視鏡外科技術認定医・評議員 日本食道学会　食道科認定医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 ICD(インフエクシヨンコントロールドクター) 日本外科感染症学会　周術期感染管理認定医・教育医・評議員・教育委員 日本感染症学会　評議員・臨床研究促進委員会委員 日本化学療法学会　評議員 ダ・ヴィンチ　コンソール術者ライセンス取得 京都大学　医学博士	上部消化管	胃がん 食道がん
医　　師	松末　　亮	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 日本内視鏡外科学会　内視鏡外科技術認定医 内痔核治療法研究会　四段階注射法講習会受講 京都大学　医学博士	下部消化管	大腸がん 肛門疾患
医　　師	山賀　　郁	日本外科学会　外科専門医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 日本乳癌学会　乳腺認定医 検診マンモグラフィ読影認定医	乳腺	乳がん
医　　師	佐治　雅史	日本外科学会　外科専門医 日本食道学会　食道科認定医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医	外科一般	
医　　師	前田　杏梨	日本外科学会　外科専門医	外科一般	
専　修　医	直原　駿平	日本外科学会　外科専門医	外科一般	
専　修　医	大倉　啓輔			
専　修　医	岡田　はるか			
専　修　医	後藤　健太郎			
専　修　医	吉岡　尚子			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設A 日本大腸肛門病学会認定施設 日本食道学会食道外科専門医準認定施設 日本乳癌学会関連施設 日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設 JCOG大腸がんグループ参加施設 JCOG胃がんグループ参加施設

1. 消化器がんや乳がんなど悪性腫瘍の外科治療を中心に行っています。
2. 臓器別（上部消化管・下部消化管・肝胆膵・乳腺）に専門医がおり、専門性が高く高度で安全な外科手術を行っています。
3. 腹腔鏡手術を始めとした低侵襲な手術（体への負担が少ない手術）を積極的に行なっている一方、高度進行がんに対しては、必要に応じて拡大手術を行ったり、抗がん剤や放射線を併用した集学的治療を行って臓器温存を図ったりしています。
4. 外科医、消化器内科医、放射線科医、腫瘍内科医、病理医が協議して治療方針を検討しています。
   各科が必要に応じた治療が可能なため、特定の科の治療にかたよることもありません。

□ 主な対象疾患

食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん、乳がん

□ 診療（業務）内容

消化器がん(食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん)や乳がんを中心とし、腹部良性疾患、肛門疾患や腹部救急疾患の外科治療を行っております。

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
41.4名	1,131名	13.4日

外来患者数

1日平均患者数
61.3名

手術実績

全手術件数（外来手術含める）	962件
全麻手術	700件
腰麻手術	40件
局麻手術	213件

※うち緊急手術件数142件

主な術式別手術件数

術　　式	手術件数	※うち鏡視下手術 (ポリペクトミー、EMR,ESDなど内視鏡的切除は除く)
食道がん切除術	14	13
幽門側胃切除術（幽門保存胃切除術を含む）	52	43
胃全摘術（噴門側胃切除術を含む）	10	5
結腸切除術	86	75
直腸前方切除術	37	28
直腸切断術	2	2
肝切除術（葉切除以上）	10	2
肝切除術（区域・亜区域切除術）	25	4
肝切除術（上記以外）	13	8
膵頭十二指腸切除術	23	0
膵体尾部切除術（胃がん手術に伴うものは除く）	4	2
膵切除術（その他）	2	0
乳がん手術	66	0
胆嚢摘出術	132	114
脾摘術	0	0
虫垂切除術	35	31
ヘルニア手術（小児を除く）	146	38
良性肛門疾患手術	41	3
小児外科手術（ヘルニアも含む）	7	0

□ 地域医療連携・広報活動

2017/5/20	京都桃山ライオンズクラブ講演「肝胆膵領域の病気についてー外科医の立場からー」成田匡大
2017/6/12	ICT-WEBシンポジウム「術後感染予防抗菌薬」畑啓昭
2017/6/17	第48回京都肝癌セミナー「肉腫型肝細胞癌の臨床病理学的所見」大倉啓輔　成田匡大　吉岡尚子　後藤健太郎　岡田はるか　直原駿平　前田杏梨　佐治雅史　松末亮　畑啓昭　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫

2017/7/8	第22回乳癌診療懇話会「術前ホルモン療法を施行した男性乳癌の検討」山賀郁　山﨑誠二
2017/7/23	「見落としがちな術前・術後のポイント」セミナー「消化器外科の術前・術後管理」畑啓昭
2017/7/28	陰圧閉鎖療法セミナー「特別講演　NPWTの適応、気をつける点、文献エビデンス、世間の流れ等」畑啓昭
2017/7/28	陰圧閉鎖療法セミナー「腸管露出・ろう孔症例等へのNPWT」佐治雅史
2017/8/27	「見落としがちな術前・術後のポイント」セミナー「消化器外科の術前・術後管理」畑啓昭
2017/8/29	FM845「カラダ元気」「最新の乳がん治療」山﨑誠二
2017/9/8	Infection Control　Web　Seminar「新しいSSIガイドラインの解釈と予防・治療の実際」畑啓昭
2017/9/28	京都医療センター　がん診療セミナー「消化器がんの内視鏡下手術の現状―食道・胃・大腸・肝臓―」山口高史
2017/10/6	長崎県院内感染対策SSIセミナー「最新のSSI予防プラクティス」畑啓昭
2017/10/15	「見落としがちな術前・術後のポイント」セミナー「消化器外科の術前・術後管理」畑啓昭
2017/10/26	生命のがん教育推進プロジェクト事業「がん教育」山﨑誠二
2017/10/27	第30回消化器外科共同研究会リスクマネジメント分科会「SSI予防ガイドラインの解釈と実際」畑啓昭
2017/11/11	第82回伏見医師学術集団会「肝腫瘍に対する腹腔鏡手術」成田匡大
2017/11/12	研修医のための輸液セミナー「何を　どれだけ　どんな根拠で?」畑啓昭
2017/11/18	大阪医科大学ヘルニアセミナー「鼠径ヘルニア術後慢性疼痛に対する診療の実際」成田匡大
2017/11/22	ラジオNIKKEI制作・放送「感染症TODAY」「新しい手術部位感染ガイドラインの解釈」畑啓昭
2017/11/30	京都医療センター　CANCER・BOARD　がん診療セミナー　第5回グランドセミナー「胃癌術後の癌性心膜炎による心タンポナーデが大量腹水貯留の原因と考えられた1例」吉岡尚子　佐治雅史　畑啓昭　大倉啓輔　岡田はるか　後藤健太郎　直原駿平　前田杏梨　松末亮　成田匡大　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫
2017/12/2	平成29年度京都大学外科冬季研究会「外科医に関係する最近の感染症ガイドラインの紹介」畑啓昭
2017/12/2	平成29年度京都大学外科冬季研究会「結腸直腸癌肝転移における門脈・胆管浸潤の頻度及びそのリスクファクター」後藤健太郎　成田匡大　猪飼伊和夫
2018/1/26	第12回鹿児島呼吸器外科感染症フォーラム「SSI:ガイドラインの考え方、予防と治療の実際」畑啓昭
2018/1/28	皮膚・排泄ケア認定看護師と感染管理認定看護師のためのキャリアアップ講座「最新のSSI予防に関する情報提供」畑啓昭
2018/1/29	Meeting of Venous ThromboEmbolism　～がん治療におけるVTE治療を考える～「ディスカッション:パネラー「VTEと癌の関係について~抗凝固療法はどう変化したのか～」」畑啓昭
2018/1/30	京都市立病院感染防止対策研修会「SSI(手術部位感染)対策」畑啓昭
2018/2/17	日本手術看護学会近畿地区　京都ブロックセミナー「手術室看護師が知っておくべき周術期の感染管理」畑啓昭
2018/2/26	生命のがん教育推進プロジェクト事業「がん教育」山﨑誠二
2018/3/10	第10回京都医療センター医療連携フォーラム「大腸がん腸閉塞に対する集学的治療～金属ステント挿入、腹腔鏡下手術、術後補助化学療法～」山口高史
2018/3/10	第10回京都医療センター医療連携フォーラム「多職種連携だからできる!進行大腸がんへの挑戦～その人らしさを大切に～」大倉啓輔
2018/3/31	第10回JPIC学術講演会「Discussant　「腹膜炎と胆道感染症～抗菌薬治療とドレナージ～」」畑啓昭

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学会名	開催地	会期
国内学会	畑啓昭	パネルディスカッション3周術期抗菌薬使用のPros&Cons	第91回日本感染症学会総会・学術講演会、第65回日本化学療法学会学術集会合同学会	東京	2017.4.6～2017.4.8
国内学会	成田匡大　松末亮　畑啓昭　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫	当科におけるS8領域腫瘍に対する解剖学的切除の実際と成績	第117回日本外科学会定期学術集会	横浜	2017.4.27～2017.4.29
国際学会	Narita M, Jikihara S, Matusue R, Hata H, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I.	Successful treatment of refractory chronic nouropathic pain after inguinal herunia repair by means of Laparoscopic Retroperitoneal Triple Neurectomy	ヨーロッパヘルニア学会	オーストリア	2017.5.24～2017.5.27
国際学会	Okura K, Narita M, Goto K, Okada H, Jikihara S, Saji M, Matsusue R, Hata H, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I.	Survey for postoperative pain after inguinal hernia epair in japanese patients A questionnaire study at s single institution	ヨーロッパヘルニア学会	オーストリア	2017.5.24～2017.5.27

国内学会	成田匡大　大倉啓輔　直原　駿平　佐治雅史　松末亮　畑啓昭　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫	アルゴリズムを用いた成人鼠径ヘルニア術後難治性慢性疼痛の治療	第15回日本ヘルニア学会学術集会	東京	2017.6.2〜2017.6.3
国内学会	直原駿平　成田匡大　岡田はるか　後藤健太郎　大倉啓輔　佐治雅史　松末亮　畑啓昭　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫	術後神経因性慢性疼痛に対するLaparoscopic Retroperitoneal Triple Neurectomy	第15回日本ヘルニア学会学術集会	東京	2017.6.2〜2017.6.3
国内学会	大倉啓輔　成田匡大　後藤健太郎　岡田はるか　直原駿平　佐治雅史　松末亮　畑啓昭　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫	いかにして鼠径ヘルニア術後慢性疼痛を早期にみつけるか?<アンケート調査を通して>	第15回日本ヘルニア学会学術集会	東京	2017.6.2〜2017.6.3
国内学会	Narita M, Saji M, Matsusue R, Hata H, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I.	Evaluation of recurrence following curative resection in patients with non-pancreatic periampullary carcinoma	第６回アジア太平洋肝胆膵学会・第29回日本肝胆膵外科学会学術集会	横浜	2017.6.7〜2017.6.10
国内学会	Okura K, Narita M, Goto K, Okada H, Jikihara S, Saji M, Matsusue R, Hata H, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I.	The clinicopathological features of sarcomatoid hepatocellular carcinoma	第６回アジア太平洋肝胆膵学会・第29回日本肝胆膵外科学会学術集会	横浜	2017.6.7〜2017.6.10
国内学会	佐治雅史　畑啓昭　大谷哲之　直原駿平　松末亮　成田匡大　山口高史　猪飼伊和夫	術後化学療法施行後リンパ節にサルコイド様反応を認め治療方針に苦慮した食道癌の１例	第71回日本食道学会学術集会	軽井沢	2017.6.15〜2017.6.16
国内学会	畑啓昭	新WHOガイドラインの概要と日本での活用：消化器外科医の立場から	第40回日本骨・関節感染症学会	東京	2017.6.16〜2017.6.17
国内学会	山﨑誠二	MMGではなく触診のみで発見された昨年度市民検診陽性乳癌の２例	第25回日本乳癌学会学術総会	福岡	2017.7.13〜2017.7.15
国内学会	成田匡大　佐治雅史　松末亮　畑啓昭　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫	膵胃吻合再建後膵瘻に続発する重篤な合併症の病態生理とその対策	第72回日本消化器外科学会総会	金沢	2017.7.20〜2017.7.22
国内学会	畑啓昭　花田圭太　大谷哲之　佐治雅史　大倉啓輔　岡田はるか　後藤健太郎　直原駿平　松末亮　成田匡大　山口高史　猪飼伊和夫	小弯先行切り込み後に作成する細径胃管で三角吻合を行う手技の工夫と成績	第72回日本消化器外科学会総会	金沢	2017.7.20〜2017.7.22
国内学会	松末亮　山口高史　直原駿平　佐治雅史　畑啓昭　成田匡大　大谷哲之　猪飼伊和夫	下方～内側アプローチに拘った右側横行結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技	第72回日本消化器外科学会総会	金沢	2017.7.20〜2017.7.22
国内学会	花田圭太　畑啓昭　大谷哲之　直原駿平　佐治雅史　松末亮　成田匡大　山口高史　猪飼伊和夫	当院における腹臥位胸腔鏡下食道亜全摘術での左反回神経周囲リンパ節郭清手技	第72回日本消化器外科学会総会	金沢	2017.7.20〜2017.7.22
国内学会	佐治雅史　猪飼伊和夫　成田匡大　吉岡尚子　大倉啓輔　後藤健太郎　岡田はるか　直原駿平　前田杏梨　松末亮　畑啓昭　山口高史　大谷哲之	主膵管損傷を伴う外傷性膵完全断裂に対し膵胃吻合を行った1例	第72回日本消化器外科学会総会	金沢	2017.7.20〜2017.7.22
国内学会	直原駿平　成田匡大　岡田はるか　後藤健太郎　大倉啓輔　佐治雅史　松末亮　畑啓昭　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫	鼠径ヘルニア術後神経因性慢性疼痛に対する新しい外科治療Laparoscopic Retroperitoneal Triple Neurectomy	第72回日本消化器外科学会総会	金沢	2017.7.20〜2017.7.22
国内学会	岡田はるか　成田匡大　吉岡尚子　大倉啓輔　後藤健太郎　直原駿平　前田杏梨　佐治雅史　松末亮　畑啓昭　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫	細胆管癌切除例の臨床病理学的検討	第72回日本消化器外科学会総会	金沢	2017.7.20〜2017.7.22
国内学会	後藤健太郎　花田圭太　畑啓昭　佐治雅史　松末亮　成田匡大　山口高史　大谷哲之　山﨑誠二　猪飼伊和夫	胃切除後Billroth II法再建後の逆行性の空腸重積再発に対して再発予防目的に腸管腹壁固定を行った一例	第72回日本消化器外科学会総会	金沢	2017.7.20〜2017.7.22
国内学会	畑啓昭	シンポジウム2 ガイドラインからみたSSI予防抗菌薬投与	第39回日本手術医学会総会	東京	2017.10.6〜2017.10.7
国内学会	畑啓昭	平成29年度国立病院機構優秀論文賞受賞論文講演Oral and Parenteral Versus Parenteral Antibiotic Prophylaxis in Elective Laparoscopic Colorectal Surgery (JMTO PREV 07-01): A Phase 3, Multicenter, Open-label, Randomized Trial.	第71回国立病院総合医学会	高松	2017.11.10〜2017.11.11
国内学会	松末亮　山口高史　吉岡尚子　大倉啓輔　後藤健太郎　岡田はるか　直原駿平　前田杏梨　佐治雅史　畑啓昭　成田匡大　大谷哲之　猪飼伊和夫	超高齢者(90歳以上）の大腸癌手術症例の検討	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	博多	2017.11.10〜2017.11.11
国内学会	大倉啓輔　松末亮　山口高史　吉岡尚子　後藤健太郎　岡田はるか　直原駿平　前田杏梨　佐治雅史　畑啓昭　成田匡大　大谷哲之　猪飼伊和夫	術前化学療法中に有害事象が生じたが、レジメン変更と放射線療法追加で根治切除し得た局所進行直腸癌の1例	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	博多	2017.11.10〜2017.11.11
国内学会	成田匡大　佐治雅史　松末亮　畑啓昭　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫	Modified Onstep法-卒後若手外科医でも修得可能な、簡便かつ確実にmyopectineal oificeを覆る前方アプローチ法	第79回日本臨床外科学会総会	東京	2017.11.23〜2017.11.25
国内学会	大倉啓輔　成田匡大　吉岡尚子　後藤健太郎　岡田はるか　直原駿平　前田杏梨　佐治雅史　松末亮　畑啓昭　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫	鼠径ヘルニア術後慢性疼痛の頻度と治療の実際	第79回日本臨床外科学会総会	東京	2017.11.23〜2017.11.25

国内学会	岡田はるか　成田匡大　猪飼伊和夫　吉岡尚子　後藤健太郎　大倉啓輔　直原駿平　前田杏梨　佐治雅史 松末亮　畑啓昭　山口高史　大谷哲之	胆道再建後の肝切除の術後合併症	第79回日本臨床外科学会総会	東京	2017.11.23〜2017.11.25
国内学会	後藤健太郎　成田匡大　吉岡尚子　大倉啓輔　岡田はるか　直原駿平　前田杏梨　佐治雅史　松末亮　畑啓昭　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫	巨大鼠径ヘルニアに対する前方アプローチによる腹膜前修復法こそ、de novo型1型ヘルニアTypeCの理解は必要である	第79回日本臨床外科学会総会	東京	2017.11.23〜2017.11.25
国内学会	吉岡尚子　佐治雅史　畑啓昭　大倉啓輔　岡田はるか　後藤健太郎　直原駿平　前田杏梨　松末亮　成田匡大　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫	胃癌術後の癌性心膜炎による心タンポナーデが大量腹水貯留の原因と考えられた1例	第79回日本臨床外科学会総会	東京	2017.11.23〜2017.11.25
国際学会	Hata H, Jikihara S, Maeda A, Saji M, Matsusue R, Narita N, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I.	Long term effects of oral antibiotic prophylaxis colorectal surgery on the frequencies and trends of bacteria isolated from patients in a surgical ward	30th International conference of chemo-therapy国際化学療法学会	台湾	2017.11.24〜2017.11.27
国内学会	畑啓昭	いまさら聞けない外科入門講座入門講座14　CDCガイドラインのポイント（正しい創洗浄）	第30回日本外科感染症学会総会学術集会	東京	2017.11.29〜2017.11.30
国内学会	畑啓昭	シンポジウム1　術前腸管処置と経口抗菌薬	第30回日本外科感染症学会総会学術集会	東京	2017.11.29〜2017.11.30
国内学会	畑啓昭　小田垣孝雄　宮地由香里　山本修平　伊藤千慧　溝上泰司　森誠司　奥野博	シンポジウム5　予防・治療抗菌薬の適正使用に対する当院チームの取り組みの変遷	第30回日本外科感染症学会総会学術集会	東京	2017.11.29〜2017.11.30
国内学会	佐治雅史　畑啓昭　大谷哲之　吉岡尚子　大倉啓輔　岡田はるか　後藤健太郎　直原駿平　前田杏梨　松末亮　成田匡大　山口高史　猪飼伊和夫	早期食道癌術後の発熱で鑑別に苦慮した巣状細菌性腎炎の1例	第30回日本外科感染症学会総会学術集会	東京	2017.11.29〜2017.11.30
国内学会	前田杏梨　畑啓昭　吉岡尚子　大倉啓輔　岡田はるか　後藤健太郎　直原駿平　佐治雅史　松末亮　成田匡大　山口高史　大谷哲之　山崎誠二　猪飼伊和夫	当科でのカンジダ属培養陽性検体における菌種の検討	第30回日本外科感染症学会総会学術集会	東京	2017.11.29〜2017.11.30
国内学会	直原駿平　大倉啓輔　畑啓昭　吉岡尚子　岡田はるか　後藤健太郎　前田杏梨　佐治雅史　松末亮　成田匡大　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫	横行結腸穿孔による腹腔内膿瘍、腹壁突破、皮膚欠損に対し局所陰圧閉鎖療法を併用した膿瘍ドレナージが有用であった一例	第30回日本外科感染症学会総会学術集会	東京	2017.11.29〜2017.11.30
国内学会	畑啓昭　吉岡尚子　岡田はるか　後藤健太郎　直原駿平　前田杏梨　佐治雅史　松末亮　成田匡大　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫	ロボット支援下胃切除術の安全な導入のために当院で行った準備と導入経験の報告	第30回日本内視鏡外科学会総会	京都	2017.12.7〜2017.12.7
国内学会	畑啓昭	シンポジウム17　欧米ガイドラインからみた手術部位感染予防対策　2）予防抗菌薬（注射製剤とその他の使用）、消毒薬による予防（消化器外科の立場から）	第33回日本環境感染症学会総会・学術集会	東京	2018.2.23〜2018.2.24
国内学会	畑啓昭	日本外科感染症学会合同企画　手術部位感染予防の考え方―エビデンスの解釈とコストについて	第33回日本環境感染症学会総会・学術集会	東京	2018.2.23〜2018.2.24
研究会	畑啓昭	SSIガイドラインを読み説く	日本外科感染症学会特別セミナー「知って得する感染症」外科感染症のUp To Date 2018 in Tokyo	東京	2018.3.10〜2018.3.10
国内学会	山賀郁　浅尾恭史　川口展子　松本純明　川島雅央　高田正泰　片岡正子　羽賀博典　富樫かおり　椎名毅　戸井雅和	シンポジウム1　新しい超音波装置 光超音波イメージングを用いた超音波診断法の開発	第40回日本乳腺甲状腺超音波学会学術集会	東京	2018.3.24〜2018.3.25

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	発行年および月
Kitano S, Inomata M,Mizusawa J,Katayama H,Watanabe M,Yamamoto S,Ito M,Saito S,Fujii S,Konishi F,Saida Y,Hasegawa H,Akagi T,Sugihara K,Yamaguchi T, Masaki T,Fukunaga Y,Murata K, Okajima M,Moriya Y,Shimada Y.	Survival outcomes following laparoscopic versus open D3 dissection for stage II or III colon cancer (JCOG0404): a phase 3, randomised controlled trial.	THE LANCET	2	4	261-268	2017
松末亮　山口高史　中西宏貴　佐治雅史　花田圭太　畑啓昭　成田匡大　大谷哲之　猪飼伊和夫	直腸切除・切断術.	消化器外科	40	4	423-432	2017
花田圭太　畑啓昭　佐治雅史　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫	胸骨後経路再建術後の胃管癌に対する胃管全摘術-腹腔鏡下縦隔アプローチの有用性-.	日本内視鏡外科学会雑誌	22	3	347-353	2017
畑啓昭	抗菌薬-その常識は正しいか?- II　使用法・評価など―その常識は正しいか?― 術中３時間ごとに抗菌薬を追加投与すべきか？１０時間を超える長時間手術ならどうするか?.	救急・集中治療	29	7	607-613	2017

成田匡大　花田圭太　松末亮　畑啓昭　山口高史　大谷哲之　猪飼伊和夫	アルゴリズムを用いた成人鼠径ヘルニア術後難治性慢性疼痛に対する治療介入とその成績.	日本消化器外科学会雑誌	50	7	513-520	2017
Hanada K, Narita M, Goto K, Okada H, Okura K, Jikihara S, Nakanishi H, Saji M, Matsusue R, Hata H, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I.	Chronic inguinal pain after laparoscopic intraperitoneal onlaay mesh (IPOM) repair for inguinal hernia treated successfully with laparoscopic selective neurectomy: A case report.	Int J Surg Case Rep	38		172-175	2017
Narita M, Ikai I. Pascal F, Philippe B, Daniel J.	Nodal Involvement.	Extreme Hepatic Surgery and Other Strategies			317-331	2017
Fujita S, Mizusawa J, Kanemitsu Y, Ito M, Kinugasa Y, Komori K, Ohue M, Ota M, Akazai Y, Shiozawa M, Yamaguchi T, Bandou H, Katsumata K, Murata K, Akagi Y, Takiguchi N, Saida Y, Nakamura K, Fukuda H, Akasu T, Moriya Y,Colorectal Cancer Study Group of Japan Clinical Oncology Group.	Mesorectal Excision With or Without Lateral Lymph Node Dissection for Clinical Stage II/III Lower Rectal Cancer (JCOG0212): A Multicenter, Randomized Controlled, Noninferiority Trial.	Annals of Surgery	266	2	201-207	2017
Narita M, Jikihara S, Hata H, Matsusue R, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I.	Surgical experience of laparoscopic retroperitoneal triple neurectomy for a patient with chronic neuropathic inguinodynia.	Int J Surg Case Rep.	40		80-84	2017
畑啓昭	WHOのSSI予防ガイドラインのこれだけは!	INFECTION CONTROL	26	10	66-70	2017
畑啓昭	B.トピックス別の管理 ①ドレーンの管理 1.用語と定義	ICU　感染制御を究める			82	2017
畑啓昭	B.トピックス別の管理 ①ドレーンの管理 2.予防策	ICU　感染制御を究める			82-87	2017
畑啓昭	B.トピックス別の管理①ドレーンの管理 3.感染の診断・治療	ICU　感染制御を究める			88-90	2017
畑啓昭	V-4. 術後感染予防抗菌薬	厚生労働省委託事業 平成29年度院内感染対策講習会テキスト			87-91	2017
Hasegawa S, Goto S, Matsumoto T, Hida K, Kawada K, Matsusue R, Yamaguchi T, Nishitai R, Manaka D, Kato S, Kadokawa Y, Yamanokuchi S, Kawamura J, Zaima M, Kyogoku T, Kanazawa A, Mori Y, Kanai M, Matsumoto S, Sakai Y.	A Multicenter Phase 2 Study on the Feasibility and Efficacy of Neoadjuvant Chemotherapy Without Radiotherapy for Locally Advanced Rectal Cancer.	Ann Surg Oncol	24	12	3587-3595	2017
畑啓昭	術前休止薬と休止期間の基礎理論.	薬局	68	12	3556-3564	2017
佐治雅史　畑啓昭	各専門領域における術前休止薬のスタンダードと例外　① 消化器外科.	薬局	68	12	3566-3570	2017
畑啓昭	他科への手紙：外科→消化器内視鏡科.	週刊　日本医事新報	4884		53	2017
畑啓昭	2章 病態症候論：主な症状・徴候 6節 消化器系の異常	改訂2版　イメージできる病態生理学			72-105	2018
畑啓昭	畑先生がニュースをズバッと解説!世界の動き 日本の動き.	INFECTION CONTROL	27	3	90	2018
畑啓昭	～疾患別・臨床事例の全診療行為～ カルテ・レセプトの原風景 カルテ198 胃癌（外科）胃癌に対する手術治療.	月刊　保険診療	73	2	144-146	2018
畑啓昭　坂井義治	外科感染症対策に関する教育の効果	外科感染症学会雑誌	15	1	1-7	2018
畑啓昭　坂井義治	外科の水電解質管理	成人病と生活習慣病	48	3	350-356	2018

整形外科



診療科長
中川　泰彰

専門医資格等　日本整形外科学会専門医
専 門 分 野　スポーツ、軟骨、関節
得 意 疾 患　膝、肩、肘関節

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	山 田　　茂	日本整形外科学会専門医	股関節、膝関節	股関節
医　　師	向 井　章 悟	日本整形外科学会専門医	スポーツ、膝、肩、小児	膝、肩
医　　師	宮 田　誠 彦	日本整形外科学会専門医 日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医 脊椎脊髄病医	脊椎、脊髄外科	頚椎症、OPLL、上位頚椎疾患、リウマチ頚椎症、脊髄腫瘍、腰椎すべり症、変性側弯症
医　　師	坪 内　直 也	日本整形外科学会専門医	脊椎	脊椎一般
医　　師	薮 本　浩 光	日本整形外科学会専門医	整形外科一般	
専 修 医	三 輪　晶 子			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本整形外科学会研修施設 日本脊椎脊髄病学会認定　脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設 脊椎脊髄外科指導医　常勤施設

1. スポーツ、肩、肘、股関節、膝関節、脊椎、小児整形外科のそれぞれのスペシャリストがいます。
2. 救命救急センターとタイアップし、様々な外傷にも対応しています。
3. 脊椎・脊髄外科は後頭骨～頸胸椎・腰椎～骨盤までインスツルメンテーション手術に対応。ナビゲーションシステムを使用し、精緻な手術を心がけている（特に頸胸椎）。脊髄誘発電位を使用し、手術の安全性の向上に努めている。
4. スポーツ医学センターを併設し、発育期、競技スポーツ、中高年のスポーツ復帰のリハビリも行っています。
5. 骨軟骨疾患に対する自家骨軟骨移植術の件数は、日本最多で、中期成績も優秀です。

□ 主な対象疾患

様々な関節の変形性関節症、肩関節脱臼、腱板断裂、膝靱帯損傷、様々な脊椎疾患、離断性骨軟骨炎などのスポーツ障害

□ 診療（業務）内容

スポーツ、肩、肘、股関節、膝関節、脊椎、小児整形外科のそれぞれの専門家が執刀する手術（安定した治療成績が獲得できています）及び、外来での経過観察や保存的治療を行っています。術後のリハビリは疾患に応じて、当院リハビリ科とスポーツ医学センターで行っており、特に、スポーツ医学センターでは、術後のスポーツ復帰だけでなく、再受傷予防などの対策も立てています。また、外来通院による保存的治療としてのリハビリも行っています。

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
49.6名	655名	26.5日

外来患者数

1日平均患者数
75.2名

主な術式別手術件数

頸椎手術	胸腰椎手術	人工股関節置換術	人工膝関節置換術
37件	90件	53件	57件

自家骨軟骨移植術
52件

□ 地域医療連携・広報活動

京都府軟式野球連盟からの依頼により、2011年からスポーツ医学センターにて、小中学生野球選手のメディカルチェックを行っています。

・少年野球におけるスポーツ障害の予防と対策
　平成29年京都府軟式野球連盟指導者研修会　2017.6.2　京都（向井章悟）
・競技力向上に対する疲労と休養ーバーンアウト・オーバーユースを避けるためにー
　京都府体育協会主催　京都のジュニア・ユース選手と指導者のためのシンポジウム
　2017.8.12　京都　日本（中川泰彰）
・健康寿命の延伸を目指してー変形性膝関節症を中心にー
　シニアCITYカレッジ公開講座　第5回健康講座「あなたの健康」　2018.1.25　大阪　日本（中川泰彰）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	向井章悟、中川泰彰、瀬戸口芳正 上腕骨離断性骨軟骨炎の手術前後の機能評価は病巣部位によりどのように変化するか 第29回日本肘関節学会学術集会　2017.2.3-4　東京
国内学会	中川泰彰、山田茂、向井章悟、宮田誠彦、太田英吾、佐治隆彦、坪内直也、藪本浩光、三輪晶子 脛骨近位骨軟骨損傷に対する自家骨軟骨移植術の治療成績 第111回京都整形外科懇話会　2017.2.18　京都
国内学会	Y. Nakagawa, S. Mukai, S. Yamada, A. Imaizumi, T. Hashimoto, S. Murata, T. Saji H.Yabumoto The effects of highly-bioavailable curcumin for treating knee osteoarthritis-6 month study- 第30回日本軟骨代謝学会　2017.3.3-4　京都
国内学会	喜屋武弥、中川泰彰、向井章悟、新井竜雄、黒木裕士 高周波3D超音波システムによる早期膝関節軟骨の臨床評価 第30回日本軟骨代謝学会　2017.3.3-4　京都
研究会	中川泰彰 骨軟骨損傷に対する診断、保存的治療、手術手技 第7回京都南部整形外科合同カンファレンス　2017.3.11　京都
その他	中川泰彰 550例の自家骨軟骨移植術からわかったこと 北勢軟骨治療講演会　2017.3.23　四日市
国内学会	宮田誠彦、坪内直也、太田英吾、向田征司、向井章悟、山田茂、中村孝志、中川泰彰 CT側面像に基づいたO-C1,O-C2不安定係数 第46回日本脊椎脊髄病学会　2017.4.13-15　札幌
国内学会	坪内直也、三輪晶子、藪本浩光、佐治隆彦、太田英吾、向田征司、宮田誠彦、向井章悟、山田茂、中川泰彰 転移性脊椎腫瘍術後の早期死亡（術後3か月以内）に関する因子の解析 第90回日本整形外科学会学術総会　2017.5.18-21　仙台

国内学会	向井章悟、中川泰彰、山田茂、宮田誠彦、太田英吾、佐治隆彦、坪内直也、藪本浩光、三輪晶子 内側型膝OAに対して自家骨軟骨移植術を併用したOWHTOの術後再鏡視において軟骨再生に影響する因子の解析 第90回日本整形外科学会学術総会　2017.5.18-21　仙台
国内学会	中川泰彰、向井章悟、山田茂、宮田誠彦、太田英吾、佐治隆彦、坪内直也、藪本浩光、三輪晶子 自家骨軟骨移植術のドナー部の再鏡視所見とそれに影響を与える因子 第90回日本整形外科学会学術総会　2017.5.18-21　仙台
国内学会	藪本浩光、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、宮田誠彦、太田英吾、佐治隆彦、坪内直也、三輪晶子 脛骨内顆骨壊死に対する自家骨軟骨移植術の手術成績 第90回日本整形外科学会学術総会　2017.5.18-21　仙台
国内学会	中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、西谷江平 半月板消失例に対する自家骨軟骨移植術の治療成績 第9回JOSKAS　2017.6.22-24　札幌
国内学会	藪本浩光、中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦 広範囲大腿骨顆部骨壊死に対する自家骨軟骨移植術の治療成績 第9回JOSKAS　2017.6.22-24　札幌
国内学会	向井章悟、中川泰彰、佐治隆彦、藪本浩光、三輪晶子 大腿骨内顆骨壊死SONKと内側型膝OAに対する自家骨軟骨移植併用OWHTOの再鏡視所見の違い 第9回JOSKAS　2017.6.22-24　札幌
国内学会	伊藤盛春、中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、井上直人 学童期少年野球選手におけるポジション別体力テストの比較 第9回JOSKAS　2017.6.22-24　札幌
国内学会	三輪晶子、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、中川泰彰 開大型高位脛骨骨切り術に自家骨軟骨移植術を併用した症例の膝蓋大腿関節の変性所見について 第9回JOSKAS　2017.6.22-24　札幌
国内学会	中川泰彰、向井章悟、今泉厚、橋本正、佐治隆彦、藪本浩光 変形性膝関節症に対するクルクミン単独療法の効果 第9回JOSKAS　2017.6.22-24　札幌
国内学会	木下和昭、中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、井上直人、伊藤盛春、橋本雅至、大槻伸吾 小学生野球選手における肩肘関節障害発生者の肩関節可動域の特徴―1年間の縦断的研究― 第9回JOSKAS　2017.6.22-24　札幌
国内学会	藪本浩光、中川泰彰 Combined mechanical injury type 骨盤輪骨折の診断 第43回日本骨折学会　2017.7.7-8　福島
研究会	中川泰彰 競技力向上に対する疲労と休養―バーンアウト・オーバーユースを避けるために― 京都のジュニア・ユース選手と指導者のためのシンポジウム　2017.8.12　京都
国内学会	中川泰彰、向井章悟、南和文、服部祐児 相撲のスポーツ医学：現状と課題（パネルディスカッション） 第43回日本整形外科スポーツ医学会学術集会　2017.9.8-9　宮崎
国内学会	赤松翔太、中川泰彰、向井章悟、三輪晶子 鏡視下ドリリングで治癒しなかった膝離断性骨軟骨炎の検討 第43回日本整形外科スポーツ医学会学術集会　2017.9.8-9　宮崎
国内学会	西谷江平、中川泰彰、向井章悟、栗山新一、中村伸一郎、松田秀一 自家骨軟骨柱移植術時にプラグ軟骨が突出した場合は、軟骨面を平担化することにより安定した成績が得られる 第43回日本整形外科スポーツ医学会学術集会　2017.9.8-9　宮崎
国内学会	向井章悟、中川泰彰、三輪晶子、赤松翔太、中村孝志 上腕骨小頭離断性骨軟骨炎を発症している少年野球選手の身体特性 第43回日本整形外科スポーツ医学会学術集会　2017.9.8-9　宮崎
国内学会	宮田誠彦、坪内直也、太田英吾、藪本浩光、向井章悟、山田茂、中川泰彰 Supra-pedicular TLIF（SP-TLIF）の有用性＜硬膜や神経根を展開しない椎体間インプラント設置と術中出血の低減、多椎間固定への応用＞ 第24回日本脊椎・脊髄手術手技学会　2017.9.22-23　新潟
国内学会	宮田誠彦、坪内直也、太田英吾、藪本浩光、向井章悟、山田茂、中川泰彰 Basion-axial angleを用いた頭蓋頚椎移行部不安定性の評価＜後頭骨頚椎後方固定術におけるO-C2 angleを併用したアラインメントの調整＞ 第24回日本脊椎・脊髄手術手技学会　2017.9.22-23　新潟
国内学会	向井章悟、中川泰彰 上腕骨小頭離断性骨軟骨炎初期における上肢関節の可動域変化について 第44回日本肩関節学会　2017.10.6-8　東京
国内学会	宮田誠彦、坪内直也、太田英吾、藪本浩光、向井章悟、山田茂、中川泰彰 Supra-pedicular TLIF（SP-TLIF）の有用性＜神経組織を展開しないケージ設置と術中出血の低減＞ 第26回日本脊椎インストゥルメンテーション学会　2017.10.13-14　金沢
国内学会	宮田誠彦、坪内直也、太田英吾、藪本浩光、向井章悟、山田茂、中川泰彰 Basion-axial angleとO-C2 angleを併用した後頭骨頚椎後方固定術におけるアラインメント調整 第26回日本脊椎インストゥルメンテーション学会　2017.10.13-14　金沢
国内学会	伊藤盛春、中川泰彰、向井章悟、藪本浩光、新宮信之、井上直人 学童期少年野球選手におけるポジション別にみた身長及び体格の比較 第28回日本臨床スポーツ医学会学術集会　2017.11.18-19　東京
国内学会	赤松翔太、中川泰彰、向井章悟、井上直人、伊藤盛春 認識不足で荷重部からドナー採取し、再度Mosaicplastyが必要となった1例 第28回日本臨床スポーツ医学会学術集会　2017.11.18-19　東京
国内学会	井上直人、中川泰彰、向井章悟、藪本浩光、新宮信之、伊藤盛春、橋本雅至、木下和明 小学生軟式野球選手における関節可動域の経年変化と投球障害肘との関係 第28回日本臨床スポーツ医学会学術集会　2017.11.18-19　東京
国内学会	中川泰彰、向井章悟、藪本浩光、新宮信之、井上直人、伊藤盛春、森原徹 京都軟式野球連盟とともに歩む野球検診―義務化と有料化を含めて― 第28回日本臨床スポーツ医学会学術集会　2017.11.18-19　東京

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書雑誌名
Hiromitsu Yabumoto, Yasuaki Nakagawa, Shogo Mukai, Takahiko, Saji, Takashi Nakamura. Surgical technique and clinical outcomes of retrograde osteochondral autograft transfer for osteochondral lesions of the tibial plateau. Journal of Arthroscopy, 2017;33:1241-47
Nakamura M, Kamei M, Bito S, Migita K, Miyata S, Kumagai K, Abe I, Nakagawa Y, Nakayama Y, Saito M, Tanaka T, Motokawa S. Spinal anesthesia increases the risk of venous thromboembolism in tota arthroplasty: Secondary analysis of a J-PSVT cohort study on anesthesia. Medicine (Baltimore), 2017;96(18): e6748
Nakagawa Y, Mukai S, Setoguchi Y, Goto T, Furukawa T, Nakamura T. Clinical Outcomes of Donor Sites After Osteochondral Graft Harvest From Healthy Knees Orthop J Sports Med 2017;Oct 13;5(10):2325967117732525.
Yabumoto H, Nakagawa Y, Mukai S, Saji T. Osteochondral autograft transplantation for isolated patellofemoral osteoarthritis. Knee. 2017;24(6): 1498-1503
W. Kiyan, A. Ito, Y. Nakagawa, S. Mukai, K. Mori, T. Arai, E. Uchino, Y. Okuno, H. Kuroki. Relationships between quantitative pulse-echo ultrasound parameters from the superficial zone of the human articular cartilage and changes in surface roughness, collagen content or collagen orientation caused by early degeneration. Ultrasound in Med. & Biol. 2017; 43: 1703-1715
Y. Nakagawa, S. Mukai, K. Minami, Y. Hattori, T. Nakamura. Radiological changes in the cervical spine in freshman collegiate sumo wrestlers Orthop J Sports Med 2017;Dec 14;5(12): 2325967117744210
N. Tsubouchi, S. Fujibayashi, B. Otsuki, M. Izeki, H. Kimura, M. Ota, T. Sakamoto, A. Uchikoshi, S. Matsuda. Risk factors for implant removal after spinal surgical site infection Eur Spine J 2017
向井章悟、中川泰彰、佐治隆彦、藪本浩光 大腿骨内顆特発性骨壊死に対する自家骨軟骨移植術併用開大式高位脛骨骨切り術の再鏡視所見と臨床成績に影響する因子について JOSKAS 42: 703-708, 2017
藪本浩光、中川泰彰、池口良輔 関節リウマチを有する脛骨感染性偽関節症例に対する遊離血管柄付き腓骨移植術 骨折　39：736-739、2017

形成外科



診療科長
荒田　順

専門医資格等　日本形成外科学会専門医
日本手外科学会専門医
日本創傷外科学会専門医
京都大学　臨床教授
専 門 分 野　手外科・先天異常
得 意 疾 患　手足指短縮症

□スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	鈴木　茉友	日本形成外科学会専門医	形成一般	乳房
医　　師	丸川　雄大	日本形成外科学会専門医	形成一般	
レジデント	海透　修子		形成一般	
専 修 医	熊切　将宜		形成一般	

□診療科の特徴

施設認定等	日本形成外科学会認定施設 日本手外科学会認定基幹研修施設

□主な対象疾患

先天異常、皮膚・皮下軟部腫瘍、顔面外傷、手外科、瘢痕拘縮、頭頸部・乳房再建

□診療（業務）内容

当科では

・手足、顔面、体幹の先天異常をはじめとする小児形成外科
・整容を重視した眼瞼下垂、内反症および外反症などの眼瞼形成
・体表における腫瘍の切除、皮膚潰瘍に対する皮膚移植、遊離皮弁による潰瘍の閉鎖などの皮膚疾患に対する整容面に配慮した外科治療
・顔面骨骨折を中心とする顔面外傷に対する整容を重視した治療、口腔外科と合同で行う顎顔面外科
・切断指を含む手外科疾患の初期治療から二次的な機能再建
・頭頸部外科と合同で頭頸部癌に対する癌切除後の機能損失を最小限にすることを目的としたマイクロサージャリーを駆使した組織移植を積極的に行い、乳腺外科との合同で乳がんに対する乳房再建を手がけています。
・レーザー：ルビーレーザー（黒、茶あざ、しみ）、Ｖビーム（血管腫）、ＣＯ２レーザー（小腫瘍の蒸散、瘢痕の修正）を所持しており、美容を目的としたしみに対するレーザー治療など幅広い治療を行っています。

□診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
10.0名	236名	14.7日

外来患者数

1日平均患者数
20.0名

主な術式別手術件数

皮膚皮下腫瘍	眼瞼形成	顔面骨骨折および外傷	手外科
356件	43件	112件	70件

マイクロサージャリー
40件

□学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学会名
国内学会	熊切将宜　荒田順　瀬崎伸一 鈴木茉友　海透修子	糖尿病性足病変に対するチーム医療	第60回日本形成外科学会総会
国際学会	海透修子　荒田順　瀬崎伸一 鈴木茉友　熊切将宜	難治性潰瘍を伴う多発性痛風結節により著明なADL低下をきたした症例の治療経験	第9回日本創傷外科学会
国内学会	荒田順	ラクトソーブをより使いやすくするために開発されたツールについて	第35回頭蓋顎顔面外科学会

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者	タイトル	巻・ページ			出版社
J Plast Reconstr Aesthet Surg	Arata J, Suzuki M, Kitayama T, Soeda H.	Two-artery replantation for digital tip amputation.	70	8	1141-1143	

脳神経外科



副院長
脳神経センター長
塚原　徹也

専門医資格等
　日本脳神経外科学会
　専門医/ 指導医
　日本脳卒中学会　専門医
　日本脳卒中の外科学会
　技術指導医
　京都大学医学部　臨床教授
　京都大学医学博士
専門分野
　脳神経外科
得意疾患
　脳血管障害
　脳卒中の外科的治療



診療科長
福田　俊一

専門医資格等
　日本脳神経外科学会
　専門医/ 指導医
　日本脳卒中学会専門医
　日本脳卒中の外科学会
　技術指導医
　京都大学医学博士
専門分野
　脳神経外科
得意疾患
　脳動脈瘤
　良性脳腫瘍
　頭蓋底手術
　バイパス術

□スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	青木　友和	日本脳神経外科学会　専門医/指導医 日本脳卒中学会　専門医 日本癌治療学会　暫定教育医 京都大学医学博士	脳神経外科	脳腫瘍（悪性）、下垂体腫瘍、顔面痙攣、三叉神経痛
医　　師	川上　　理	日本脳神経外科学会　専門医 日本脳卒中学会　専門医 日本脳卒中の外科学会　技術指導医 日本脳神経血管内治療学会　専門医 日本神経内視鏡学会　技術認定医 日本脊髄外科学会　認定医 京都大学医学博士	脳神経外科	脳血管障害
医　　師	河原﨑　知	日本脳神経外科学会　専門医	脳神経外科	
医　　師	土井　健人	日本脳神経外科学会　専門医 日本脳卒中学会　専門医	脳神経外科	脳血管障害 脳腫瘍

□診療科の特徴

施設認定等	日本脳神経外科学会研修施設

1. 当科は、脳卒中や頭部外傷などの脳神経外科領域の救急疾患に２４時間対応し、地域救急医療に貢献していると同時に、困難な脳神経系疾患に対して集約的な治療も行っています。
2. 脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷、脊髄疾患など脳神経外科領域全般にわたって、患者さんの入院および外来加療を行っています。
3. 脳神経外科領域の疾患では、緊急に手術等の処置を行わなければ生命にかかわる場合もあれば、逆に病気はあるものの、定期的に外来で経過を観て行くことが適当である場合もあります。
4. 上記3.のような場合を除けば、手術をすべきかどうかは、その疾患自体だけではなく、症状や年齢、全身状態、手術の難易度、さらには患者さんの性格や家族構成などを考慮して決めるべきであり、たとえ同じ疾患でも個々の患者さんによって方針が異なってきます。
5. 私たちは、患者さんご自身やご家族に充分に病気についての説明をし、相談をした上で、インフォームドコンセントをとり、その上で適切な治療方針をとることが大切であると考えています。
6. いったん手術が必要であると決まった場合には、たとえ難易度の高い手術でも、従来の顕微鏡を用いた開頭手術に加え、血管内手術や神経内視鏡手術などの様々な手術法を用い、積極的に治療を行っています。

□主な対象疾患

・脳血管障害（脳梗塞・クモ膜下出血・未破裂脳動脈瘤・脳内出血・その他の脳血管障害）
・脳腫瘍（グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・頭蓋咽頭腫）
・神経内視鏡手術
・頭部外傷
・機能的脳神経外科（顔面けいれん・三叉神経痛）

□診療（業務）内容

・脳血管障害（脳梗塞に対する血行再建術・破裂および未破裂脳動脈瘤に対するクリッピング術および脳動静脈奇形・脳内出血に対する開頭摘出術、内視鏡手術）
・脳神経血管内治療(脳動脈瘤塞栓、ステント設置、腫瘍塞栓、脳動静脈奇形塞栓、急性期血管血行再建など)
・脳腫瘍（グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・髄膜腫・頭蓋咽頭腫）に対する摘出術
・神経内視鏡手術（下垂体腫瘍、脳室内腫瘍、水頭症、脳内出血など)
・頭部外傷(血腫除去術)
・脊椎脊髄疾患
・機能的脳神経外科（顔面けいれん・三叉神経痛に対する神経減圧術)
・頭蓋底および頚部腫瘍: 腫瘍摘出および血行再建術

□診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
18.7名	287名	21.9日

外来患者数

1日平均患者数
29.2名

□ 地域医療連携・広報活動

第15回脳卒中市民講座　2017年12月16日　於：京都第二赤十字病院

□学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
研究会	山下陽生、川端康弘、福田俊一、青木友和、河原﨑知、塚原徹也、中澤拓也　脳底動脈本幹部の脳動脈瘤に対してステント支援下に塞栓術を行った3例　第73回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会　2017.4.8　大阪
国際学会	S.Fukuda, Y.　Shimogonya Surface area may be a more useful risk factor for cerebral aneurysm rupture than maximum diameter　Experimental Biology　2017.4.23　Chicago
国際学会	Tomokazu Aoki　Phase 1/2 Study of Temozolomide Plus Nimustuine Chemotherapy for Recurrent Malignant Gliomas: Kyoto　Neuro-oncology Group　5th Quadrennial meeting of the World federation of Neuro-Oncology Societies(WFNOS)　2017.5.5　Zurich, Switzerland
国内学会	青木友和　グリオーマの免疫チェックポイントと治療　第37回日本脳神経外科コングレス総会　2017.5.11　横浜
国内学会	Tetsuya Tsukahara, Shunichi Fukuda　Surgical treatment of carotid artery stenosis　26th European Stroke Conference　2017　2017.5.26　Berlin,Germany
国内学会	増田裕一、安田謙、福田俊一、中村道三、柒田康弘、髙田真基、齊ノ内信、河原﨑知、川端康弘、村瀬永子、大谷良、青木友和、米本直裕、赤尾昌治、塚原徹也　日本人の非弁膜症性心房細動患者における心原性脳塞栓症のリスク因子：伏見ＡＦレジストリ　第４回日本心血管脳卒中学会学術集会　2017.6.3　福岡
研究会	青木友和　グリオーマの新しい免疫療法の可能性　脳腫瘍2017　2017.7.21　京都
国際学会	Yasuhiro Kawabata, Takuya Nakazawa, Naohiro Yonemoto, Shunichi Fukuda, Tetsuya Tsukahara　Risk factors for recurrence after endovascular treatment of saccular cerebral aneurysms　World Congress of Neurology 2017　2017.9.16-21　Kyoto, Japan
国内学会	川端康弘、中嶌教夫、福田俊一、塚原徹也、大谷良　脳梗塞急性期における血栓回収術の治療成績 日本脳神経外科学会　第76回学術総会　2017.10.12　名古屋

国内学会	福田俊一、下權谷祐児、The CFD ABO Study Group　多変量解析による未破裂脳動脈瘤の破裂リスクの血行力学因子に対する相関性の検討～計算流体力学（CFD）解析を用いて～　日本脳神経外科学会　第76回学術総会　2017.10.12　名古屋
国内学会	青木友和　再発悪性神経膠腫に対するTemozolomideとACNUの併用化学療法(TA療法)の第Ⅰ/Ⅱ相試験　日本脳神経外科学会　第76回学術総会　2017.10.14　名古屋
国内学会	川上理、盛岡潤、三輪博志、村尾健一　再発性慢性硬膜下血腫に対する低濃度NBCAによる中硬膜動脈塞栓術の治療経験　日本脳神経外科学会　第76回学術総会　2017.10.14　名古屋
国際学会	Tetsuya Tsukahara　Shunichi Fukuda　Surgical Treatment of Carotid Artery Stenosis　13th International Conference on Cerebrovascular Surgery　2017.10.28　名古屋
研究会	川上理　急性期脳梗塞に対する血行再建術　ストップ!ＮＯ卒中プロジェクト　エリアエキスパート会議　2017.10.28京都
国際学会	Tomokazu Aoki, Yoshiki Arakawa, Tetsuya Ueba, Masashi Oda, Namiko Nishida, Yukinori Akiyama, Tetsuya Tsukahara, Koichi Iwasaki, Nobuhiro Mikuni and Susumu Miyamoto　Phase Ⅰ/Ⅱ Study of Temozolomide Plus Nimustine Chemotherapy for Recurrent Malignant Gliomas : Kyoto Neuro-oncology Group　22th Annual Meeting Society for Neuro Oncology　2017.11.18　San francisco　California
国内学会	川上理　再発性慢性硬膜下血腫に対する血管内治療の有効性　第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会　2017.11.23　東京
国際学会	Yasuhiro Kawabata, Takuya Nakazawa, Shunichi Fukuda, Tetsuya Tsukahara　The efficacy of ozagrel sodium as a rescue or prophylaxis in the perioperative management of thromboembolism during coil embolization of ruptured and unruptured cerebral aneurysms.　14th World Federation of Interventional Therapeutic Neuro　2017.10.16-19　Budapest　Hungary
国際学会	Yasuhiro Kawabata, Takuya Nakazawa, Naohiro Yonemoto, Shunichi Fukuda, Tetsuya Tsukahara　Risk factors for recurrence after endovascular treatment of saccular cerebral aneurysms　14th World Federation of Interventional Therapeutic Neuro　2017.10.16-19　Budapest　Hungary
国内学会	川端康弘、中嶌教夫、三宅英則、福田俊一、塚原徹也　院内発症の脳主幹動脈閉塞に対する経皮的血栓回収術の治療成績　第43回日本脳卒中学会学術総会　2017.11.23　東京
国内学会	川端康弘、中嶌教夫、三宅英則、福田俊一、塚原徹也　脳動脈瘤塞栓術におけるdouble catheter techniqueの適応と有用性　第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会　2017.11.23　東京
国際学会	S Fukuda, Y Shimogonya, H Imamura, Y Matsui, N Yonemoto, N Sakai　Enhancement of Disturbed Flow is Involved in Recanalization After Complete Endovascular Coil Embolization of Internal Carotid Artery-Posterior Communicating Artery Aneurysms　International Stroke Conference 2018　2018.1.24　Los Angeles, CA, USA
国際学会	S Fukuda, M Fukuda, J Ando, K Yamamoto, T Tsukahara, K Hasegawa　Shear Stress Sensing on the Endothelium Initiates Chronis Inflammation of the Arterial Wall During Cerebral Aneurysm Formation: Potential Novel Therapy for Cerebral Aneurysms With Paroxetine　International Stroke Conference 2018　2018.1.25　Los Angeles, CA, USA
国際学会	Y.Shimogonya, S. Fukuda　Significant Correlations between risk factors for rupture of cerebral aneurysms and hemodynamic factors by using computational flow dynamic (CFD) analysis and multivariate analysis　International Stroke Conference 2018　2018.1.25　Los Angeles, CA, USA
研究会	川端康弘、中嶌教夫、福田俊一、塚原徹也　起床時発症の脳主幹動脈閉塞に対する経皮的脳血栓回収術の治療成績　第8回熱海脳血管内治療セミナー　2018.2.3　熱海
国内学会	福田俊一　血行力学的因子を最も反映する血管構造指標は何か？：CFD解析による新たな未破裂脳動脈瘤破裂リスクの検討　第43回日本脳卒中学会学術総会　2018.3.15　福岡
国内学会	河原﨑知　硬膜動静脈瘻の2例　第43回日本脳卒中学会学術総会　2018.3.15　福岡
国内学会	土井健人　破裂した小さな中大脳動脈M1部脳動脈瘤の2症例　第43回日本脳卒中学会学術総会　2018.3.15　福岡
国内学会	川端康弘、中嶌教夫、三宅英則、福田俊一、塚原徹也　急性期血栓回収術においてsolumbra techniqueは有効か？　第43回日本脳卒中学会学術総会　2018.3.15　福岡
国内学会	川端康弘、中嶌教夫、三宅英則、福田俊一、塚原徹也　院内発症の脳主幹動脈閉塞に対する経皮的血栓回収術の治療成績　第43回日本脳卒中学会学術総会　2018.3.15　福岡
国内学会	増田裕一、大谷良、福田俊一、栄田康弘、高田真基、齊ノ内信、土井健人、河原崎知、川上理、村瀬永子、塚原徹也、赤尾昌治、中村道三　脳卒中既往のある心房細動患者における予後と脳卒中/全身塞栓症の発症危険因子　伏見AFレジストリ　第43回日本脳卒中学会学術集会　2018.3.15　福岡
国内学会	福田美雪、福田俊一、安藤譲二、山本希美子、伊藤由紀、井上隆之、塚原徹也、長谷川浩二、島津　章　血管内皮壁ずり応力センサーP2X4プリノセプター阻害薬Paroxetineを用いた脳動脈瘤形成抑制の検討　第43回日本脳卒中学会学術集会　2018.3.15　福岡
国内学会	川端康弘、中嶌教夫、三宅英則、福田俊一、塚原徹也　脳動脈瘤塞栓術後の再発危険因子の検討　第43回日本脳卒中学会学術総会　2018.3.16　福岡
国内学会	川上理　過去の脳血管検査にて異常を認めないものの新生脳槽脈流を形成しくも膜下を来した手術例　第43回日本脳卒中学会学術総会　2018.3.17　福岡

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	発行年および月
Akenhead ML*, Fukuda S*, Schmid-Schönbein GW, Shin HY. (*; equal contribution).	Fluid shear-induced cathepsin B release in the control of Mac1-dependent neutrophil adhesion.	J Leukoc Biol	102	1	117-126	2017
Kawabata Y, Aoki T, Yamamoto T, Yasui H, Sawai S, Fukuda S, Kawarazaki S, Tsukahara T.	Pazopanib-mediated Long-term Disease Stabilization after Local Recurrence and Distant Metastasis of Primary Intracranial Leiomyosarcoma: A Case Report on the Efficacy of Pazopanib as a Salvage Therapy.	NMC Case Rep J.	5	1	1-7	2017
塚原徹也	もやもや病	神経疾患最新の治療2018-2020			119-121	2018
Yasuhiro Kawabata, Takuya Nakazawa, Shunichi Fukuda, Satoru Kawarazaki, Tomokazu Aoki, Takumi Morita, Tetsuya Tsukahara.	Endovascular embolization of branch-incorporated cerebral aneurysms	The Neuroradiology Journal 2017	30	6	600-606	2017.6
Yasuhiro K awabata ,Tomokazu Aoki,Tetsurou Yamamoto,Hisateru Yasui,Satoru Sawai,Shunichi Fukuda,Satoru Kawarazaki,and Tetsuya Tsukahara.	Pazopanib-mediated Long-term Disease Stabilization after Local Recurrence and Distant Metastasis of Primary Intracranial Leiomyosarcoma: A Case Report on the Efficacy of Pazopanib As a Salvage Therapy	NMC Case Report Journal				

血管外科



診療科長
浅田　秀典

専門医資格等　心臓血管外科専門医
日本外科学会専門医
日本脈管学会評議員
旭川医科大学　医学博士

専 門 分 野　血管外科（閉塞性動脈硬化症、動脈瘤、急性動脈閉塞、血管炎、血管外傷に対する各種血行再建術）、静脈、リンパ疾患

□診療科の特徴

1．あらゆる診療科や地域医療機関で直面した血管疾患の問題に迅速に対応してまいります。
2．患者さんには診療内容に対する十分な説明と満足な治療成果が得られるよう努力いたします。

2006年（平成18年）4月に発足した、主に末梢動脈疾患に対する血行再建を担当する診療科です。
近年、糖尿病や腎不全による慢性透析患者さんが増加するとともに、閉塞性動脈硬化症例（ASO）が増加しています。
閉塞性動脈硬化症とは、動脈硬化による下肢血流障害により各種症状（歩行時の下肢の痛み、安静時の足の痛みおよび足部潰瘍・壊死）を生じ、最終的には下肢切断にも至る疾患です。
このような症例には、迅速な診断とともに適切な治療が必要で、時には技術的に困難とされる足関節周囲への末梢バイパス手術と適切な局所処置が必要となります。
当科は、京都では数少ない血管外科専門科として日々下肢血流障害の治療にあたっています。
患者さんの多くは動脈硬化性の全身合併症があり、術前評価には循環器内科、脳神経外科、また、術前後には麻酔科はもちろん、糖尿病内科、腎臓内科、形成外科、整形外科、皮膚科などとの協力が必要で、各科連携した総合的診療を心がけています。

□主な対象疾患

大動脈疾患（腹部大動脈瘤、大動脈解離など）
閉塞性動脈硬化症（糖尿病合併症例、慢性透析例を含む）
閉塞性血栓血管炎（バージャー病）
急性動脈閉塞症（血栓症、塞栓病、外傷など）
下肢静脈瘤、静脈（鬱滞）性潰瘍
深部静脈血栓症、肺塞栓症
リンパ浮腫
血管内治療（動・静脈閉塞性疾患、動脈瘤）
内シャント（blood access）作成

□診療（業務）内容

外来診療は、月、水の午前・午後、木曜日午前中の週3日間実施しております。
心疾患、脳疾患、糖尿病、腎臓病などの併存症を持っている方でも院内全体の診療科が協力し、安全で安心できる治療を行っています。

□診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
9.9名	215名	16.8日

外来患者数

1日平均患者数
9.1名

主な手術・検査の件数など

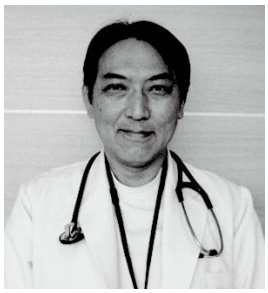
下肢末梢動脈手術	腹部大動脈瘤手術	透析内シャント手術	下肢静脈瘤手術
50件	11件	60件	1件

四肢カテーテル治療	四肢動脈造影
53件	107件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演題・演者・学会名
透析合併PAD症例に対するdistal bypass手術の中期成績 浅田　秀典 第45回日本血管外科学会　2017 4/20　広島
重症下肢虚血の集学的治療～外科の立場から 浅田　秀典 第65回日本心臓病学会　2017 10/1　大阪

心臓外科



診療部長
白神　幸太郎

専門医資格等　心臓血管外科専門医
心臓血管外科修練指導者
外科専門医
京都大学臨床教授、非常勤講師
日本胸部外科学会評議員
日本冠動脈外科学会評議員
日本心臓血管外科学会国際会員

専 門 分 野　成人心臓大血管手術

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	片岡　　剛	心臓血管外科専門医 外科専門医 脈管専門医	成人心臓大血管疾患	成人心臓大血管手術

□ 診療科の特徴

京都府南部地域における循環器疾患の基幹施設として機能すべく、2011年に開設。2013年までの実績により、心臓血管外科専門医認定機構より基幹施設認定を受けた。①心臓外科診療を通して人々のお役に立つ②手術や診療の透明性を確保する③循環器診療の最後の砦となる、という3つの診療指針の下、循環器内科、血管外科、救命救急科、麻酔科との緊密な連携を維持しながら安全な医療を提供するように努力している。

□ 主な対象疾患

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞など）に対する冠動脈バイパス術
弁膜症（大動脈弁疾患、僧帽弁疾患など）に対する弁形成術や弁置換術、不整脈手術
大血管疾患（胸部大動脈瘤、急性大動脈解離など）に対する人工血管置換術、ステントグラフト内挿術

□ 診療（業務）内容

心臓大血管疾患の手術適応およびリスク評価を体系的にかつ厳密に行い、安全な手術治療を目指す。循環器内科、血管外科と共に心臓血管カンファレンスを行い、手術適応、術前リスクと治療方針の検討、周術期治療経過の報告を行い、治療の透明性を担保している。また緊急を要する症例について積極的に手術治療を行い、地域医療に貢献することを目標としている。

□診療実績（平成29年度）

入院患者数

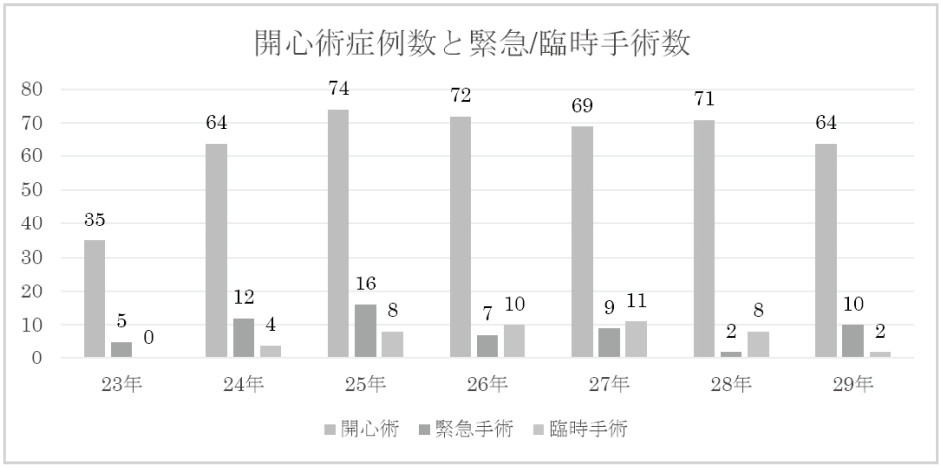
1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
8.1名	66名	41.4日

外来患者数

1日平均患者数
5.3名

主な手術・検査の件数など（重複あり）

虚血性心疾患手術	心臓弁膜症手術	大動脈手術	ステントグラフト手術
28件	34件	10件	11件



手術実績：平成23年6月より手術を開始、その後の年次別手術症例数はグラフのとおりである。ここ数年年間開心術症例数は60-70件で推移している。

手術方針：当科の手術方針としては、以下の通りである。
①冠動脈バイパス術においては、可能な限り心拍動下手術を施行し、患者さんに与える手術の侵襲を最低限としながら最大限の効果を得ることを目標とする。
②心臓弁膜症に対して、特に僧帽弁手術においては、弁尖の硬化や石灰化が無い限り自己弁を温存する形成術を第一選択とする。大動脈弁については、弁尖や弁輪の石灰化のある症例が多く、確実な弁置換術を行う。
③大動脈手術は侵襲の低減化を図り、オープンステントグラフトや二期的ステントグラフト留置を組み合わせたハイブリッド手術も考慮する。

2017年度実績：2017年度は虚血性心疾患に対する手術28例、心臓弁膜症に対する手術34例、胸部大動脈に対する手術7例、ステントグラフト留置術11例（胸部大動脈3例、腹部大動脈8例）を施行した。単独冠動脈バイパス術は全例心拍動下に施行し、off pump CABG 12例、on pump beating CABG 2例であった。合併手術としての冠動脈バイパス術は13例に施行した。心臓弁膜症手術のうち、弁形成が13弁、弁置換が21弁であった。大動脈手術は、急性大動脈解離に対する緊急手術5例、オープンステントグラフトを使用した弓部大動脈前置換術を2例に施行した。

治療成績：当科における過去5年間の手術成績を全国データベースと比較すると、以下の通りである。これは当科手術患者の臨床データから予測される院内死亡率、および死亡と術後合併症の発生リスクを実際の成績（太字）と比較したものである。当科の手術患者の重症度は高く、予測死亡率も高いが、概ね予測死亡率を下回る成績を維持している。大動脈手術についてはまだ改善の余地があり、今後も治療成績の改善を図りたい。

	手術死亡	予測死亡率	死亡+主要合併症	予測発生率（死亡+主要合併症）
冠動脈バイパス術	120%	3.07%	602%	13.69%
心臓弁膜症手術	470%	7.08%	1342%	22.09%
大動脈手術	933%	10.23%	2329%	33.71%

□ 地域医療連携・広報活動

医師会、救急隊を通じての広報活動を行い、他院循環器内科とも積極的に協働している。院外からの手術目的紹介症例は年々増加している。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	片岡剛　白神幸太郎　浅田秀典　解離性大動脈瘤破裂に対して、TEVAR+CandyPlug法によってエントリーを閉鎖し、破裂偽腔の血栓化と瘤の縮小化に成功した1例　第58回日本脈管学会　2017.10.19　名古屋
研究会	白神幸太郎　心房細動に対する外科治療、外科治療における心房細動　第2回南京都不整脈アカデミー　2017.9.28　京都
研究会	白神幸太郎　片岡剛　心臓傍神経節腫瘍の位置症例　第53回京滋心臓血管外科研究会　2018.2.10　京都
その他	白神幸太郎　抗凝固療法中に転倒、頭部外傷を呈した2症例について　京都府医師会医療安全研修会　2017.10.19　京都
国内学会	白神幸太郎　阿部充　柿本由美子　北野朋子　赤井太地　有害事象対応　第71回国立病院総合医学会　2017.11.10　高松
研究会	白神幸太郎　阿部充　柿本由美子　北野朋子　赤井太地　有害事象対応　日本医療マネジメント学会第15回京滋支部学術集会　2018.2.17　京都
研究会	柿本由美子　北野朋子　赤井太地　阿部充　白神幸太郎　画像診断見落とし対策　日本医療マネジメント学会第15回京滋支部学術集会　2018.2.17　京都
研究会	北野朋子　赤井太地　阿部充　柿本由美子　白神幸太郎　転倒転落防止対策への取り組み-ピクトグラムでの情報共有-　日本医療マネジメント学会第15回京滋支部学術集会　2018.2.17　京都

□ 投稿論文など

著 書 ・ 雑 誌 名	著 者 ・ タ イ ト ル
薬局	白神幸太郎　術前休止薬　各診療科における術前休止薬のスタンダードと例外　心臓血管外科. 2017; 58(12):26-31

皮膚科



診療科長
十一　英子

専門医資格等　日本皮膚科学会皮膚科専門医
京都大学医学博士
京都大学医学部臨床教授
京都皮膚科医会理事
専門分野　皮膚科一般
皮膚免疫
得意疾患　乾癬
糖尿病足病変

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	岡本奈都子	日本皮膚科学会皮膚科専門医	皮膚科一般	
医　　師	渋谷　真美	日本皮膚科学会皮膚科専門医	皮膚科一般	
医　　師	猪上　奈奈		皮膚科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本皮膚科学会専門医研修施設 生物学的製剤使用承認施設

1. 乾癬と慢性蕁麻疹に対して生物学的製剤による治療を行っています。
2. 糖尿病、悪性腫瘍など基礎疾患を持つ蜂窩織炎、帯状疱疹などの感染症や難治性潰瘍など、総合病院の特色を生かして他科と密に連携して治療しています。
3. 地域の他病院から紹介された診断困難な症例、難治例、重症例なども多く受け入れています。

□ 主な対象疾患

尋常性乾癬、乾癬性関節炎、掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、うっ滞性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、水疱症、細菌感染症（ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、伝染性膿痂疹、など）、
ウイルス感染症（帯状疱疹、単純疱疹、カポジ水痘様発疹症、尋常性疣贅など）、
真菌感染症（足白癬、股部白癬、爪白癬、カンジダ症など）、
皮膚潰瘍、皮膚腫瘍など

□ 診療（業務）内容

乾癬：治療が急速に進歩し、難治の皮疹や関節炎のため生物学的製剤の治療を受ける患者さんが増えており、スクリーニング検査を行い適応を決め、投与しています。
掌蹠膿疱症：病巣感染などの原因検索を行って治療しています。
蕁麻疹：抗アレルギー剤内服で効果不十分な場合、生物学的製剤の注射を行っています。
糖尿病に合併する皮膚疾患：糖尿病と関連した難治性足潰瘍や皮膚病変を、糖尿病科、形成外科、血管外科、整形外科、循環器科などと連携して診療しています。
帯状疱疹（ヘルペス）：重症度に応じて、抗ウイルス剤の内服、或いは入院で点滴治療を行っています。
爪白癬：難治な爪の水虫には抗真菌剤の内服治療を行っています。
接触皮膚炎：かぶれの原因検索に、パッチテストを行っています。
薬疹：重症薬疹は入院で治療しています。
水疱症：天疱瘡の中等症以上では血漿交換療法や免疫グロブリン大量療法を行っています。
診断・治療のために積極的に皮膚生検を行っています。

□診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
5.0名	96名	19.1日

外来患者数

1日平均患者数
78名

主な手術・検査の件数など

皮膚生検	皮膚切開術	皮膚皮下腫瘍摘出術
245件	49件	57件

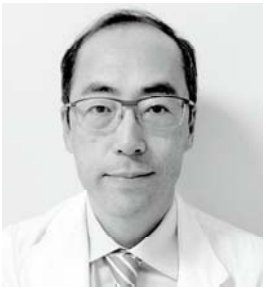
□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演題・演者・学会名
環状紅斑から胸腺腫が見つかった１例 小亀敏明, 渋谷真美, 岡本奈都子, 十一英子 第450回　日本皮膚科学会京滋地方会　2017 6/10　京都
自覚症状のない腹部の皮下硬結で受診した、皮膚クリプトコッカス症の１例 渋谷真美, 猪上奈奈, 岡本奈都子, 十一英子 第453回　日本皮膚科学会京滋地方会　2017 12/23　京都
抗凝固療法で改善した足部重症虚血の１例 猪上奈奈, 渋谷真美, 岡本奈都子, 河原崎知, 浅田秀典, 十一英子 第454回　日本皮膚科学会京滋地方会　2018 3/3　京都
今こそ考える乾癬Bio治療の意義　―ステラーラの開発から使用時の心得まで― 十一英子　Web講演　Biologics Users Web Conference　2017 4/14
ますますひろがる乾癬治療の選択肢 十一英子　講演　第5回南京都皮膚疾患セミナー　2017 5/13　京都
今考えるウステキヌマブの価値とは?～Phase1から携わった知見から～ 十一英子　講演　Psoriasis Up to Date Seminar in Osaka　2017 5/27　大阪
糖尿病と皮膚疾患　―足病変を中心に― 十一英子　講演　伏見医師会ランチョンセミナー　2017 6/16　京都
今こそ考える乾癬Bio治療意義 ―ステラーラの開発から使用時の心得、今後の展望まで― 十一英子　講演 Nagoya Psoriasis Seminar　2017 6/29　名古屋
乾癬Bio治療のもたらしたもの ―ステラーラの開発から実際の診療の留意点まで― 十一英子　講演 第81回日本皮膚科学会東部支部学術大会ランチョンセミナー　2017 9/24　福島
乾癬Bio治療の意義を考える ―ステラーラの開発から使用時の留意点、今後の展望まで― 十一英子　講演　北陸乾癬フォーラム　2017 12/10　金沢
乾癬におけるIL-17阻害薬の有用性と臨床上の留意点 十一英子　講演 皮膚疾患フォーラムin京都　2017 12/16　京都

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書・雑誌名
十一英子, 徳永茉以, 渋谷真美, 岡本奈都子　乾癬の生物学的製剤投与前における悪性腫瘍スクリーニング検査の重要性. 皮膚科の臨床 59(4):439-442, 2017
渋谷真美, 徳永茉以, 岡本奈都子, 十一英子　踵骨裂離骨折を契機に増悪した右踵部潰瘍の１例.　皮膚科の臨床　59(4):463-467, 2017

泌尿器科



診療部長　科長
奥野　博

専門医資格等　日本泌尿器科学会専門医・指導医
京都大学臨床教授
関西医科大学臨床教授
日本泌尿器内視鏡学会　代議員
日本生殖医学会評議員
日本アンドロロジー学会評議員
日本癌治療認定医
日本移植学会腎移植認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医
日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
京都大学医学博士

専門分野　泌尿器科一般

得意疾患　ロボット支援手術、前立腺癌、男性学

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	三品　睦輝	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本癌治療認定医 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 京都大学医学博士	泌尿器科一般	膀胱癌 精巣癌
医　　師	宮﨑　　有	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本癌治療認定医 日本泌尿器内視鏡学会　泌尿器腹腔鏡技術認定医	泌尿器科一般	前立腺癌 尿路結石症
医　　師	内田　稔大	日本泌尿器科学会専門医	泌尿器科一般	
医　　師	伊藤　克弘	日本泌尿器科学会専門医	泌尿器科一般	
レジデント	齋藤　駿河		泌尿器科一般	
医　　師 (非常勤)	伊東　晴喜	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本透析医学会　専門医	泌尿器科一般	夜間頻尿
医　　師 (非常勤)	眞鍋　由美	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医	泌尿器科一般	女性泌尿器科学

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本泌尿器科学会研修施設

1. ロボット支援手術、体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術・検査（痛みが少なく入院期間を短く）により患者さんへの負担の軽減を図ります。
2. 最先端医療も積極的に取り入れます。
3. 地域の開業医、診療所、病院と積極的に医療連携を行います。
4. 患者さんの人権を尊重し、安心と満足のいく良質の医療提供を目指します。

□ 主な対象疾患

腎臓癌、膀胱癌、前立腺癌、副腎腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石症、過活動膀胱、夜間頻尿、尿失禁、膀胱瘤、骨盤臓器脱、男性不妊症、性機能障害、内分泌障害、尿路感染症、性感染症、小児泌尿器科、腹膜透析、慢性腎不全

□ 診療（業務）内容

・尿路性器悪性腫瘍に対する集学的治療を多部門と連携し積極的に行っている
・ロボット支援手術を含め、体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術に取り組んでいる
・初診外来担当医は患者さんの入院、手術、退院後の診療を一貫して責任をもって受け持つ
・外来及び入院看護師には排尿機能検査士の取得者を配置し、専門的な医療と看護を提供
・外来診療：木曜は４診　火曜、金曜は３診、月曜、水曜は２診
・手術：月、水、金曜日の週3日間
・火曜日の早朝には外来カンファレンス
・水曜日の早朝には病理医を招いて臨床病理カンファレンス
・木曜日の早朝から全体回診（医師、看護師長）
・木曜日の朝に放射線科医を招いて放射線画像・放射線治療カンファレンス
・金曜日の早朝には薬剤師、看護師を交えた病棟症例カンファレンス
・平成19年06月～「夜間頻尿外来」開設
・平成23年11月～前立腺肥大症に対し、光選択的前立腺レーザー蒸散術（PVP)を導入
・平成26年08月～前立腺癌に対し、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘を導入
・平成28年04月～「女性外来」開設
・平成28年08月～腎臓癌に対し、ロボット支援腎部分切除術を導入

□診療実績（平成29年度）

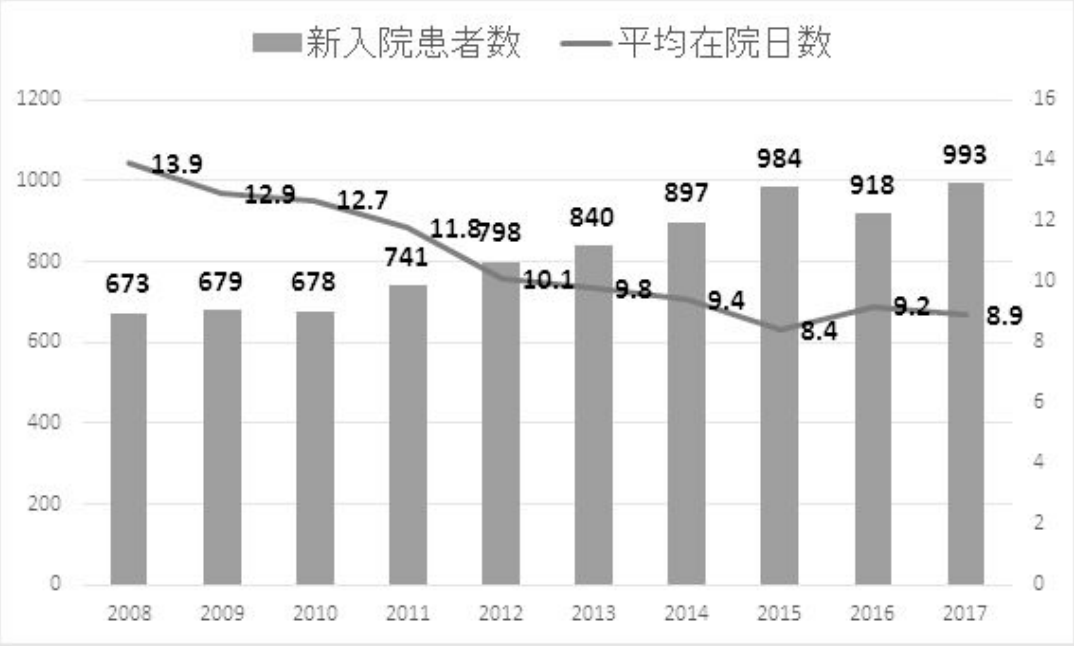
入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
24.3名	993名	8.9日

外来患者数

1日平均患者数
68.8名

入院統計（年度）過去10年間の推移



下記は平均在院日数の計算対象外になりました。
2014年度～「前立腺針生検法」
2016年度～「体外衝撃波腎・尿管結石破砕術」

主な手術・検査の件数など（2017年度）

ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘	ロボット支援腎部分切除術	副腎腫瘍手術	腹腔鏡（後腹膜鏡）下腎（尿管）悪性腫瘍手術
43件	7件	26件（腹腔鏡24件　開腹2件；副腎皮質癌）	19件（腎10件　腎盂尿管9件）

前立腺肥大症内視鏡手術	膀胱癌内視鏡手術（TURBT）	骨盤臓器脱・尿失禁手術	前立腺針生検
91件（PVP78件　TURP13件）	107件	8件（TVM5件　TOT3件）	217件（経直腸113件　経会陰104件）

手術統計（年度）過去10年間の推移



□ 地域医療連携・広報活動

第22回　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）。
2017.06.03（京都・ホテルグランビア京都）
テーマ「排尿障害が考える～2017～」
特別講演『男性下部尿路症状（male LUTS）治療の最前線』
講師：大阪大学大学院医学系研究科　器官制御外科学講座（泌尿器科学）講師　木内　寛 先生

奥野　博：講演「開業医が診る過活動膀胱治療の実践」～内科医がOAB/UUIにどのように診断・治療介入すべきか～　南京都臨床懇話会　2017.04.18（宇治市・ゆめりあ宇治）

奥野 博：講演Ⅰ「京都医療センター排尿障害連携パス（第4版改訂）について」
第22回　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）。 2017.06.03（京都・ホテルグランビア京都）

奥野　博：講演「泌尿器がんの内視鏡下手術の現状　～腎臓がん・膀胱がん・前立腺がん～」
京都医療センターがん診療セミナー　2017.09.28（京都・京都医療センター　多目的ホール）

奥野　博：講演「熟年男性の悩み：前立腺肥大症・前立腺がん（最新の話題）」京都洛中ロータリークラブ
例会スピーチ　2017.12.12　（京都ホテル・オークラ）

奥野　博：一般演題「京都医療センター紹介：泌尿器腫瘍を中心に」　京都泌尿器腫瘍講演会　2018.01.19
（ホテル日航プリンセス京都）

真鍋由美：講演Ⅱ「女性のOAB治療の実践」　第22回　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）。 2017.06.03（京都・ホテルグランビア京都）

伊東晴喜：講演Ⅲ「夜間頻尿治療の実践」第22回　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）。
2017.06.03（京都・ホテルグランビア京都）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	関成人、黒松功、宮内聡秀、奥野博、桑原勝孝、伊原博之、平尾佳彦、杉村芳樹、山口秋人 抗血栓治療症例における光選択的前立腺レーザー蒸散術（PVP）の安全性と有効性に関する前向き研究の解析結果 第105回日本泌尿器科学会総会　2017.4.23　鹿児島
国内学会	関成人、黒松功、野村博之、伊原博之、桑原勝孝、奥野博、杉村芳樹、山口秋人 PVPの有用性と安全性に関する多施設共同前向き研究の中間解析結果（術後4年目までの確定成績） 第105回日本泌尿器科学会総会　2017.4.23　鹿児島
国内学会	奥野博、齋藤駿河、伊藤克弘、内田稔大、眞鍋由美、宮﨑有、伊東晴喜、三品睦輝、横本真希、廣嶋佳歩、馬越洋宜、立木美香、成瀬光栄 多発病変を有する褐色細胞腫・パラガングリオーマ（PGL）7症例の手術経験 第22回日本内分泌外科学会総会　2017.5.19　兵庫
その他	奥野博 京都医療センター排尿障害連携パス（第4版改訂）について 第22回　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）　2017.06.03　京都
その他	眞鍋由美 女性のOAB治療の実践 第22回　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）　2017.06.03　京都
その他	伊東晴喜 夜間頻尿治療の実践 第22回　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）　2017.06.03　京都
研究会	内田稔大、齋藤駿河、伊藤克弘、眞鍋由美、宮﨑有、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博 ＰＶＰ術後に再手術を施行した症例と前立腺癌を発症した症例の検討 第6回　PVP研究会学術集会　2017.06.25　京都
国内学会	伊藤克弘、齋藤駿河、内田稔大、宮﨑有、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博 馬蹄鉄腎に対するロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術の経験 第31回日本泌尿器内視鏡学会総会　2017.11.16　徳島
国内学会	伊藤吉三、伊原博之、関成人、黒松功、野村博之、桑原勝孝、奥野博、杉村芳樹、野村博之、山口秋人 HPS-PVPの有用性と安全性に関する多施設共同前向き研究の解析結果（術後5年） 第31回日本泌尿器内視鏡学会総会　2017.11.17　徳島
国内学会	奥野博 JSE教育プログラム２ Laparoscopy「褐色細胞腫に対する腹腔鏡手術」手術療法；泌尿器科医の立場から 第31回日本泌尿器内視鏡学会総会　2017.11.18　徳島
国内学会	内田稔大、齋藤駿河、伊藤克弘、宮﨑有、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博 経尿道的前立腺手術の術後成績に術前長期デュタステリド内服が及ぼす影響の検討 第31回日本泌尿器内視鏡学会総会　2017.1.18　徳島
その他	奥野博 尿路カテーテルの管理 平成29年度第2回院内感染対策講習会　2017.11.24　/2017.11.27　京都
その他	奥野博 熟年男性の悩み：前立腺肥大症・前立腺がん（最新の話題） 京都洛中ロータリークラブ　例会スピーチ　2017.12.12　京都
研究会	伊藤克弘、齋藤駿河、内田稔大、宮﨑有、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博 腎細胞癌に対するニボルマブ投与中止後に呼吸困難を訴え続けた１例 第261回泌尿器科マンスリーミーティング　2017.12.16　京都
その他	奥野博 「開業医が診る過活動膀胱治療の実践」～内科医がOAB/UUIにどのように診断・治療介入すべきか～ 南京都臨床懇話会　2017.4.18　京都
国内学会	齋藤駿河、伊藤克弘、内田稔大、眞鍋由美、宮﨑有、三品睦輝、奥野博 ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術後に結核性腹膜炎を発症した１例. 第235回日本泌尿器科学会関西地方会　2017.6.24　大阪
国際学会	Ito H, Yoshimura K, Saito S, Ito K, Uchida T, Manabe Y, Miyazaki Y, Mishina M, Okuno H Is Nocturia Associated with Salt Intake? 47th International Continence Society　2017.9.15　Italy,Florence
その他	奥野博 泌尿器がんの内視鏡下手術の現状　～腎臓がん・膀胱がん・前立腺がん～ 京都医療センターがん診療セミナー　2017.9.28　京都
研究会	宮﨑有、齋藤駿河、伊藤克弘、内田稔大、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博 PSAグレーゾーン症例における直腸診・経直腸エコー・MRI画像及びPSAパラメータを用いた前向き研究 第33回　前立腺シンポジウム　2017. 12. 10　東京
研究会	奥野博 一般演題「京都医療センター紹介：泌尿器腫瘍を中心に」 京都泌尿器腫瘍講演会　2018.1.19　京都
研究会	宮﨑有、内田稔大、齋藤駿河、伊藤克弘、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博 Pazopanibにより長期ＳＤが得られているpapillary renal cell carcinoma, type2の1例 第7回京都腎癌セミナー　2018.2.2　京都
国内学会	伊藤克弘、齋藤駿河、内田稔大、眞鍋由美、宮﨑　有、伊東晴喜、三品睦輝、奥野博 腎細胞癌に対するニボルマブ投与後に続発性副腎不全を来した１例 第237回日本泌尿器科学会関西地方会　2018.02.10　兵庫
研究会	齋藤駿河、伊藤克弘、内田稔大、眞鍋由美、宮﨑　有、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博 診断と治療に苦慮した持続勃起症の１例 第262回尿器科マンスリーミーティング　2018.3.10　京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
褐色細胞腫診療マニュアル改訂第3版　2017.11.30：60-65	奥野博 3 外科的治療　第1章 褐色細胞腫　D 治療　II 臨床編
Neurourology and Urodynamics,36(S3),2017：S403-S404	Ito H, Yoshimura K, Saito S, Ito K, Uchida T, Manabe Y, Miyazaki Y, Mishina M, Okuno H : Is Noctria Associated with Salt Intake?
西日泌尿 2017：79：147-152	関成人、伊原博行、桑原勝孝、黒松功、杉村芳樹、奥野博、山口秋人 前立腺肥大症の手術療法（PVP、TURP,HoLEP）に伴う医療費用に関する予備的検討.
西日泌尿 2018：80：50-55	野村博之、山口秋人、関成人、伊原博行、桑原勝孝、黒松功、杉村芳樹、奥野博 抗血栓療法継続中の症例に対する光選択的前立腺レーザー蒸散術（PVP）の安全性と有効性に関する多施設共同前方視的研究

産科婦人科



副院長
診療科長
髙倉　賢二

専門医資格等　日本婦人科腫瘍学会専門医
日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
日本産婦人科内視鏡学会　評議員
日本内分泌学会　評議員
日本受精着床学会　評議員
京都大学博士（医学）
京都大学医学部　非常勤講師
京都大学医学部　臨床教授
関西医科大学　臨床教授

専門分野　婦人科腫瘍
産婦人科手術
内分泌疾患の診断・治療

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医療情報部長	北岡　有喜	日本産科婦人科学会専門医・指導医 京都大学博士（医学） 同志社大学博士（政策科学）	生殖分子生理学・医療情報学・情報システム学	
産科婦人科医長	高尾　由美	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本医師会認定産業医 臨床研修指導医 日本がん治療認定医機構・がん治療認定医 J-MELSベーシックコースインストラクター 京都大学博士（医学）	産婦人科一般	婦人科腫瘍 不妊症
産科婦人科医長	山口　建	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本がん治療認定医機構・がん治療認定医 臨床研修指導医 京都大学博士（医学）	産婦人科一般	婦人科腫瘍 婦人科手術
医師	宇治田 麻里	日本産科婦人科学会専門医 臨床研修指導医	産婦人科一般	産婦人科一般
医師	川崎　薫	日本産科婦人科学会専門医・女性のヘルスケアアドバイザー 日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）・新生児蘇生法インストラクター J-MELSベーシックコースインストラクター	産婦人科一般	周産期一般
医師	髙倉　賢人	日本産科婦人科学会専門医 日本がん治療認定医機構・がん治療認定医	産婦人科一般	
医師	松坂　優	日本産科婦人科学会専門医	産婦人科一般	
医師	小椋　惠利		産婦人科一般	
専修医	山村　幸		産婦人科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本産科婦人科学会　総合型専攻医指導施設 日本婦人科腫瘍学会　指定修練施設 日本周産期・新生児医学会　母体胎児指定施設 日本産科婦人科内視鏡学会　認定研修施設 臨床遺伝専門医制度　認定研修施設

～産科～

安全で、妊婦さんひとりひとりが心から満足のいく分娩を提供します。

女性にとって、お産は重要なイベントです。そして、それぞれのお産についての妊産婦さんの考えや要望は年々変化してきています。私たちは、お産の質の向上、および医療者側のお産に対する的確な対応が、ますます大切なものとなってきていると考えています。

～婦人科～

女性の社会進出に伴い、外来治療や低侵襲手術（腹腔鏡手術や腟式手術、小開腹手術）を推進し、早期の社会復帰を目指します。充実した診療スタッフにより、幅広い婦人科疾患に対して対応可能です。特に、婦人科がんに対してハイレベルな診療を行います。

□ 診療（業務）内容

～産科～

1. 妊婦健診では、一般的な健診のみならず、病棟助産師が立ち会い、継続して保健指導を行い、生活指導なども適宜行っています。
2. 分娩（出産）は、自然分娩を尊重しながらも、合併症や急変に対しても、小児科（NICU）・内科・麻酔科などとも連携をとり、チームワークで対応します。
   合併症妊娠やハイリスク妊娠の症例も多く取り扱っています。平成29年度（2017年度）の周産期救急搬送（母体搬送）の受け入れ件数は44件で地域の周産期救急にも積極的に貢献しています。医学的根拠に基づいた安全で安心なお産を提供すべく、日々努力しています。
3. 産前・産後の母乳ケアを行い、母乳育児をサポートします。

～婦人科～

1. 治療前のインフォームド・コンセントを重視します
   十分な説明を行い、納得いただいたうえで治療を行うことにより、満足の得られる医療を行うことを診療のモットーとしています。また、疾患について画一化された治療を行うのではなく、それぞれの患者さんの身体的・精神的・社会的状況や希望なども十分ふまえたうえで治療方針を決定します。
2. 幅広い婦人科疾患に対応します
   充実した診療スタッフにより、良性疾患から悪性疾患まで幅広く婦人科疾患に対応可能です。
3. 低侵襲手術を行います
   女性の社会進出に伴い、入院期間・自宅療養期間の短縮が求められています。そのような社会のニーズに応えるため、悪性（癌）の疑いのない腫瘍に対しては、積極的に低侵襲手術（腹腔鏡下手術、腟式手術、小開腹手術）を行い、早期の社会復帰を目指します。
4. 悪性腫瘍に対してハイレベルな診療を行います
   京都府のがん診療拠点病院および日本婦人科腫瘍学会指定修練施設に認定されており、悪性腫瘍に対する診療経験が豊富にあります。常に最新の情報に基づいて、他科と連携してハイレベルな治療を行います。子宮頸癌に対する神経温存広汎性子宮全摘術に関しては2007年から先駆けて行っています。卵巣癌、子宮体癌に対しても、傍大動脈リンパ節郭清までの必要十分な手術を行う一方で、緻密な出血量の少ない手術操作により術後合併症を回避し、術後早期回復をはかります。また腹腔鏡下急性腫瘍手術も行っています。リンパ浮腫専門外来を擁し、退院後のQOLにも配慮した診療を行います。

5. 更年期からの健康管理を推進します

直面する超高齢化社会においては、元気な老後を迎えられるよう更年期（50歳前後）からの健康管理が重要になります。更年期障害や骨粗鬆症などの女性特有の疾患に対応するため更年期からの健康管理を推進します。

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
24.7名	1,357名	6.7日

外来患者数

1日平均患者数
52.2名

主な手術・検査の件数など

分娩件数	帝王切開件数	婦人科開腹手術	悪性腫瘍手術
346件	102件	188件	83件
腹腔鏡下手術	腟式手術		
106件	186件		

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	学会名・演題・演者
国際学会	The 5th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2017) Primary retroperitoneal squamous cell carcinoma: a case report with review of the literature Yu Matsuzaka, Ken Yamaguchi, Sachi Yamamura, Eri Ogura, Masahito Takakura, Mari Ujita, Kaoru Kawasaki, Yumi Takao, Kenji Takakura, Ikuo Konishi　2017.12.1　東京
国内学会	Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging 2017 平滑筋腫の併存により術前に嚢胞性腺筋腫の悪性転化が疑われた症例 山村　幸、高倉　賢二、山口　建、小椋　恵利、松坂　優、高倉　賢人、川﨑　薫、宇治田　麻里、高尾　由美、小西　郁生、大堂　さやか、西松　佳代、渡邊　幸香　2017.9.2　淡路
国内学会	Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging 2017 子宮内にAVM様の富血管性腫瘤を認めPSTTとの鑑別を要したintramural pregnancyの一例 小椋　恵利、山口　建、山村　幸、松坂　優、高倉　賢人、川﨑　薫、宇治田　麻里、高尾由美、高倉　賢二、小西　郁生　2017.9.2　淡路
その他	研修医・修練医のためのサマーセミナー2017　術前に子宮内膜症の悪性転化との鑑別が困難であった嚢胞性腺筋腫 中村　しほり、山口　建、山村　幸、小椋　恵利、松坂　優、高倉　賢人、川﨑　薫、宇治田　麻里、高尾　由美、高倉　賢二、小西　郁生　2017.8.11　京都
国内学会	第55回日本癌治療学会学術集会　卵巣子宮内膜症性嚢胞に対してジエノゲスト投与中に卵巣明細胞癌を発症した一例 髙倉　賢人、山口　建、山村　幸、小椋　恵利、宇治田　麻里、川﨑　薫、高尾　由美、髙倉　賢二、小西　郁生　2017.10.20　横浜
研究会	京都産婦人科学会学術集会　母体血を用いた出生前遺伝学的検査（NIPT）における遺伝カウンセリングの重要性 山口　建、高倉　賢人、川﨑　薫、山村　幸、小椋　恵利、松坂　優、宇治田　麻里、高尾　由美、高倉　賢二、浅原　哲子、日下部　徹、飛騨　美希、小西　陽介、三宅　秀彦、橋本　有紀子、北　誠　2017.10.21　京都
その他	京都女性のヘルスケア研究会　P16陽性を示す腹膜原発扁平上皮癌の症例 松坂　優、山口　建、山村　幸、小椋　恵利、髙倉　賢人、宇治田　麻里、川﨑　薫、高尾　由美、髙倉　賢二、小西　郁生　2017.10.28　京都
国内学会	第69回日本産科婦人科学会学術講演会　抗凝固療法中にも関わらず腫瘍減量術後に広範な脳梗塞を発症したTrousseau　症候群合併卵巣癌の1例　住友　理浩、小椋　恵利、高倉　賢人、中木　絢子、川村　洋介、和田　美智子、宇治田　麻里、髙尾　由美　髙倉　賢二、小西　郁生　2017.4.15　広島
国内学会	第69回日本産科婦人科学会学術講演会　妊娠29週子宮内胎児死亡を契機に糖尿病ケトアシドーシスと診断された劇症1型糖尿病の1例　和田　美智子、髙尾　由美、小椋　恵利、高倉　賢人、中木　絢子、川村　洋介、宇治田　麻里、住友　理浩、　髙倉　賢二、小西　郁生　2017.4.15　広島

国内学会	第53回日本周産期・新生児医学会学術集会　分娩後16時間以上経過してから発症した外陰部血腫に対し経カテーテル動脈塞栓術が有効であった1例　小椋　恵利、住友　理浩、髙倉　賢人、中木　絢子、川村　洋介、和田　美智子、宇治田　麻里、高尾　由美、髙倉　賢二、小西　郁生　2017.7.18　横浜
国内学会	第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会　子宮体癌に対する術前化学療法の有用性　髙倉　賢人、髙倉　賢二、小椋　恵利、川村　洋介、中木　絢子、和田　美智子、宇治田　麻里、住友　理浩、高尾　由美、小西　郁生　2017.7.28　熊本
国内学会	第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会　初回手術後にFDG-PET/CTで集積亢進を示し、卵巣境界悪性腫瘍再発と鑑別が困難であった肉芽腫の1例　川村　洋介、小椋　恵利、髙倉　賢人、和田　美智子、住友　理浩、高尾　由美、髙倉　賢二、小西　郁生　2017.7.27　熊本
国内学会	第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会　子宮平滑筋肉腫10例に関する検討　高尾　由美、小椋　恵利、髙倉　賢人、川村　洋介、和田　美智子、住友　理浩、髙倉　賢二、小西　郁生　2017.7.29　熊本
その他	京都周産期カンファレンス　当院で緊急頸管縫縮術を施行した11例の後方視的検討　川﨑　薫、山村　幸、小椋　恵利、松坂　優、髙倉　賢人、宇治田　麻里、山口　建、高尾　由美、髙倉　賢二、小西　郁生　2017.11.18　京都
その他	Gynecology Expert Meeting 2017　卵巣癌との鑑別が困難であった大量腹水を伴う卵巣甲状腺腫の一例　高倉　賢人、山口　建、山村　幸、小椋　恵利、松坂　優、川﨑　薫、宇治田　麻里、高尾由美、高倉　賢二　2017.11.10　京都
国内学会	第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会　肥満合併子宮体癌患者に対する腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術の後方視的検討　山口　建、宮本　泰斗、伊藤　美幸、安彦　郁、堀江　昭史、馬場　長、松村　謙臣、万代　昌紀　2017.9.7　岡山
国際学会	18th APAGE Annual Congress 2017　Robot-assisted radical hysterectomy after neoadjuvant chemotherapy: A single institutional retrospective study　Ken Yamaguchi, Kaoru Abiko, Naoya Kishimoto, Tsukasa Baba, Sachiko Kitamura, Akihito Horie, Miyuki Ito, and Masaki Mandai　2017.9.9　岡山

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名
住友　理浩、小椋　恵利、髙倉　賢人、川村　洋介、和田　美智子、髙尾　由美、髙倉　賢二、小西　郁生	抗凝固療法中にもかかわらず腫瘍減量術直後に広範な脳梗塞を発症したTrousseau 症候群合併卵巣癌の1例	日本婦人科腫瘍学会雑誌　2017;第35巻第4号　803-809
宇治田　麻里、住友　理浩、高倉　賢人、川村　洋介、髙倉　賢二、小西　郁生	当院での全腹腔鏡下子宮全摘術における試み	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌　2017年12月;33巻　第2号293-298
川村　洋介、髙倉　賢二、髙倉　賢人、和田　美智子、住友　理浩、高尾　由美、小西　郁生	初回手術後にFDG-PET/CTで集積亢進を示し、卵巣境界悪性腫瘍再発と鑑別が困難であった肉芽腫の1例	日本婦人科腫瘍学会雑誌　2017;第35巻第4号　793-796
山口　建、吉岡　弓子、松村　謙臣、小西　郁生	進行・再発がんに対する骨盤除臓術	先端シリーズ48　臨床医のための最新産科婦人科、pp171-174、先端医療技術研究所、東京、2017
川村　洋介、高倉　賢二、高倉　賢人、宇治田　麻里、住友　理浩、大蔵　啓輔、直原　駿平、成田　匡大、小西　郁生	TLH術後に有棘縫合糸により絞扼性イレウスを発症した1例	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌.2017;1:182-185
中木　絢子、住友　理浩、下園　寛子、高倉　賢人、川村　洋介、泰　さおり、和田　美智子、奥田　亜紀子、宇治田　麻里、高尾　由美、江川　春人、高倉　賢二、小西　郁生	分娩時に子宮腟部の全周性脱落をきたした症例の分娩後MRI所見の推移に関する検討	日本周産期・新生児医学会雑誌2017;53:180-184

緩和ケア科



診療科長
青木　友和

専門医資格等　日本脳神経外科学会　脳神経外科専門医　指導医、地方会評議員
日本脳卒中学会　脳卒中専門医
日本癌治療学会　暫定教育医　脳腫瘍ガイドライン作製委員
アメリカ癌治療学会(ASCO)会員
京都大学医学博士
京都大学医学部非常勤講師

専 門 分 野　脳腫瘍(悪性)、下垂体腫瘍 、顔面けいれん、三叉神経痛 、緩和ケア

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	河鰭　憲幸	日本脳神経外科学会　脳神経外科専門医 日本内科学会　認定内科医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 日本神経内視鏡学会　神経内視鏡技術認定医 USMLE/ECFMG certificate 京都大学医学博士	脳神経外科、一般内科、がん	
非常勤医師	土屋　宣之	PEACE緩和ケア　指導者 京滋緩和ケア研究会世話人 日本がん治療認定医機構　暫定教育医 日本臨床検査医学会　臨床検査管理医 京都府医師会がん登録委員会　委員 日本外科学会　認定医	胃腸、肝臓、乳腺	
非常勤歯科医師	下郷麻衣子		口腔内ケア	
スタッフ	飯塚三枝子		音楽療法	
スタッフ	畑　亜紀子		アロマセラピー	
心理療法士	高垣　愉佳		心理療法	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本緩和医療学会

□ 主な対象疾患

癌一般

□ 診療（業務）内容

1. 与えられた構造の中での環境整備ー視覚（照明、花木）、聴覚（院内放送の個室内制限）などー
2. 利用者の価値観や生き方を尊重するためにことさら根気と丁寧さを要するケア、自立性を奪われていく困難と苦痛の中で行われるケア
3. 上記のような場を提供・俯瞰、特殊な感情労働に従事するケアスタッフへの目配り
4. 場の提供に続いてそこで有意義な時間空間を作る力を持った利用者や家族の選択のために入棟の適応の可否を判定員会で議論検討する。

5. 目的としてではなく手段としての症状緩和、薬剤による対処療法の役割は限定的である。たとえ症状緩和に成功しなくとも生きる場所を提供できる可能性もある。自宅に遠く及ばなくとも、多職種による行事企画や音楽療法、アロマセラピー、食事への気配り、家人への配慮を通してかけがえない時間を過ごす場を作りうる。あくまで我々は触媒でしかないのだが。
6. 在宅への橋渡し、レスパイト入院への門戸開放
7. 遺族への配慮：訪問遺族の傾聴に時間をかける他に遺族会、遺族への書状を通して継続的な関わりを試みる
8. 緩和ケアチームを中心とした、一般病棟、地域医療への貢献

□ 診療実績（平成29年度）

緩和ケア内科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
6.8名	17名	45.4日

緩和ケア内科外来患者数

1日平均患者数
0.5名

緩和ケア外科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
12.2名	46名	50.7日

緩和ケア外科外来患者数

1日平均患者数
2.6名

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
研究会	山下陽生、川端康弘、福田俊一、青木友和、河原崎知、塚原徹也、中澤拓也 脳底動脈本幹部の脳動脈瘤に対してステント支援下に塞栓術を行った3例 第73回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会　2017.4.8　大阪
国内学会	Tomokazu Aoki Phase 1/2 Study of Temozolomide Plus Nimustuine Chemotherapy for Recurrent Malignant Gliomas: Kyoto Neuro-oncology Group 5th Quadrennial meeting of the World federation of Neuro-Oncology Societies(WFNOS)　2017.5.5　Zurich, Switzerland
国内学会	青木友和　グリオーマの免疫チェックポイントと治療　第37回日本脳神経外科コングレス総会　2017.5.11　横浜
国内学会	増田裕一、安田謙、福田俊一、中村道三、栗田康弘、髙田真基、齊ノ内信、河原崎知、川端康弘、村瀬永子、大谷良、青木友和、米本直裕、赤尾昌治、塚原徹也 日本人の非弁膜症性心房細動患者における心原性脳塞栓症のリスク因子：伏見ＡＦレジストリ 第４回日本心血管脳卒中学会学術集会　2017.6.3　福岡
研究会	青木友和　グリオーマの新しい免疫療法の可能性　脳腫瘍2017　2017.7.21　京都
国内学会	青木友和　再発悪性神経膠腫に対するTemozolomideとACNUの併用化学療法(TA療法)の第Ⅰ/Ⅱ相試験 日本脳神経外科学会　第76回学術総会　2017.10.14　名古屋
国内学会	Tomokazu Aoki, Yoshiki Arakawa, Tetsuya Ueba, Masashi Oda, Namiko Nishida, Yukinori Akiyama, Tetsuya Tsukahara, Koichi Iwasaki, Nobuhiro Mikuni and Susumu Miyamoto Phase Ⅰ/Ⅱ Study of Temozolomide Plus Nimustine Chemotherapy for Recurrent Malignant Gliomas : Kyoto Neuro-oncology Group 22th Annual Meeting Society for Neuro Oncology　2017, 11.18　San francisco, California
研究会	河鰭憲幸　緩和ケアとは　がんささえあいイベント　2017.06.14　京都
研究会	河鰭憲幸　緩和ケアとは　地域連携フォーラム　2017.09.16　京都
研究会	河鰭憲幸　緩和ケアとは　医局会　勉強会　2017.11.17　京都
研究会	河鰭憲幸　緩和ケアとは　第11回緩和ケア研修会（PEACE）　2017.12.03　京都
研究会	河鰭憲幸、櫻井真知子、飯塚三枝子　全人的ケアに音楽療法が大きな役割を果たした1例 第11回日本音楽医療研究会学術集会　2017.12.10　東京
研究会	下郷　麻衣子　多職種連携による終末期がん患者に対する口腔ケアの効果 第34回　伏見医師会 癌医療病診連携の会　2017.4.15　京都
研究会	下郷　麻衣子　終末期がん患者の口腔乾燥と評価方法　緩和ケア病棟勉強会　2017.6.1　京都
研究会	下郷　麻衣子　終末期がん患者の口腔トラブルとケア～緩和ケア病棟スタッフと 共に歩んだ２年～ 第22回　日本緩和医療学会学術大会　2017. 6.24　横浜
研究会	下郷　麻衣子　がん患者の口腔ケア　がん看護研修　ステップⅠプログラム　2017. 7.1　京都
研究会	下郷　麻衣子　終末期がん患者の口腔カンジダ症　緩和ケア病棟勉強会　2017. 7.26　京都
研究会	下郷　麻衣子　あなたなら、このお口をどう評価しますか？終末期がん患者に対する有効な客観的口腔アセスメントを目指して 緩和ケア病棟　ワークショップ　2017. 8.11　京都
研究会	下郷　麻衣子　栄養管理における口腔サポートの意義　第20回伏見栄養療法・在宅医療研究会　2017. 8.26　京都
研究会	下郷　麻衣子　終末期がん患者の口腔環境を考える　簡便で非侵襲的な客観的口腔アセスメントを目指して Opening Remarks ワークショップ：京都府歯科医師会、伏見歯科医師会、京都府歯科衛生士会　2017. 10.7　京都
研究会	下郷　麻衣子　がん患者の口腔内の問題と医科歯科連携　第11回うずらPEACE　緩和ケア研修会　2017. 12.3　京都

研究会	下郷麻衣子、青木友和、土屋宣之　緩和ケア病棟と共に歩んだ3年―当院での歯科の緩和ケア病棟への関り― 第174回　京都歯科口腔外科集談会　2017. 12.16　京都
研究会	下郷　麻衣子　栄養管理における口腔機能管理の意義　第3回NST勉強会　2018. 1.26　京都
研究会	下郷　麻衣子　緩和ケア病棟の歯科的リアルワールド　第294 回開放型病床生涯教育研修会　2018. 2.1　長浜
研究会	下郷　麻衣子　緩和ケア病棟における看護師の口腔に対する意識調査 -患者さんに優しい口腔ケアの提供を目指して- 緩和ケア病棟勉強会　2018. 2.2　京都
研究会	下郷麻衣子、青木友和、土屋宣之、長谷川浩二　終末期がん患者の口腔の問題と医科歯科連携の重要性 第30回　下西集談会　2018. 3.3　京都
研究会	飯塚三枝子 他　弦楽四重奏での参加　リボンズハウスコンサート　2017. 6.3　京都
研究会	飯塚三枝子 他　弦楽トリオでの参加　がん助け合いコンサート　2017. 11.3　京都
研究会	飯塚三枝子 他　死を乗り越えるための五講 第五講『生きるための心の音楽』　下京西医師会　2017. 8.29　京都
研究会	辰己晃造、小玉美希子、古川順章、粉川俊則、桶本幸、小林勝昭、河鰭憲幸、土屋宣之　多発性骨転移、顎骨壊死に対して高用量オピオイドを用いてコントロールを行った症例　日本臨床腫瘍薬学会　2018.3.17　横浜
研究会	辰己晃造、古川順章、桶本幸、小林勝昭、藤枝英美　当院の退院時服薬指導書の実態調査と今後の展望 近畿薬剤師合同学術大会　2018 2018.2.4　京都
研究会	小玉美希子、辰己晃造　オピオイドの基本　緩和ケア病棟勉強会　2017.11.22　緩和ケア病棟勉強会
研究会	辰己晃造　ケタミンについて　緩和ケア病棟勉強会　2018.1.29　緩和ケア病棟勉強会
研究会	畑亜紀子、久保速三、土屋宣之　アロマセラピーのプルースト効果を介した記憶想起により苦痛緩和できた症例 日本緩和医療学会　2017.6.29　横浜

眼科



診療部長
喜多　美穂里

専門医資格等　京都大学臨床教授
京都大学非常勤講師
京都大学医学博士
日本眼科学会指導医・日本眼科学会専門医
ＰＤＴ認定医
Ｂｅｓｔ　Ｄｏｃｔｏｒｓ　2012-2019
専門分野　網膜硝子体疾患
内視鏡併用硝子体手術
得意疾患　網膜剥離
糖尿病網膜症

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
院内医長	濵　　祥代	日本眼科学会専門医	眼科一般	
医　　師	藤井友起子	日本眼科学会専門医	眼科一般	
レジデント	森　雄　貴		眼科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本眼科学会研修施設

・科長交代があった2012年より、手術・検査機器を整備し、網膜硝子体手術を本格始動いたしました。
・当院眼科は、白内障手術を多く手掛けること、網膜硝子体疾患に強いことが特長です。
・最新硝子体・白内障手術装置、広角観察システム、眼内シャンデリア照明、眼内内視鏡、３Ｄビジュアルシステムを用いた小切開硝子体手術で、糖尿病網膜症・網膜剥離・増殖硝子体網膜症などの高難度の網膜硝子体疾患の治療を行っています。
・2012年4月より新しく保険収載となった眼内内視鏡硝子体手術を積極的に行っています。内視鏡手術では、国内外で先駆的な役割を果たしています。
・眼科全般に、高度で最新の医療を提供します。
・新しい治療方法・手術機器の開発や、手術成績などに関して、国内外に情報を発信し、他施設との連携を密に行い、毎日の診療の場に還元できるように努力しています。
・糖尿病網膜症：当院がWHO指定の糖尿病センターであることもあり、当院糖尿病センター・内分泌代謝疾患センターと連携して、糖尿病患者さんの網膜症診療を担当しています。病気の進行を定期的にチェックし、必要に応じて、レーザーによる網膜光凝固術や、合併症である白内障や糖尿病網膜症に対し、手術治療を行います。
・未熟児網膜症：NICUを有する当院小児科と連携して、未熟児の重篤な合併症である網膜症に対し、赤ちゃんの視力を守るための検査・治療を行います。

□ 主な対象疾患

・網膜剥離・増殖硝子体網膜症・糖尿病網膜症・黄斑円孔・黄斑上膜・黄斑浮腫・加齢黄斑変性などの網膜硝子体疾患
・白内障全般、緑内障全般
・感染症および非感染性ぶどう膜炎・眼内炎・角膜炎、視神経疾患

□ 診療（業務）内容

1. “見える”というゴールを目標に、全身の一部としての眼科治療をめざします
   眼科的疾患のほかにも様々な全身疾患を併せ持つ患者さんにも、手術をはじめ、様々な治療を安全に効率良く提供し、より良い視力の 獲得にむけて努力しています。
2. 地域医療の一翼として、開業医や他病院の先生方と協力し、より良い医療の提供をめざします
   さまざまな医療資源を備える総合病院として、ホームドクターの先生との連携のもと、より高度な医療の提供に努力しています。 内視鏡硝子体手術をはじめとする先進的医療の実践に努めます。
3. メディカルスタッフ一丸となって、安心で確かな医療を実践します
   医師、看護師、視機能訓練士、メディカルクラーク等のチームワークを大切に、各々の職種が全力で日々切磋琢磨し、安心して確かな医療を受けていただけるように努力しています。

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

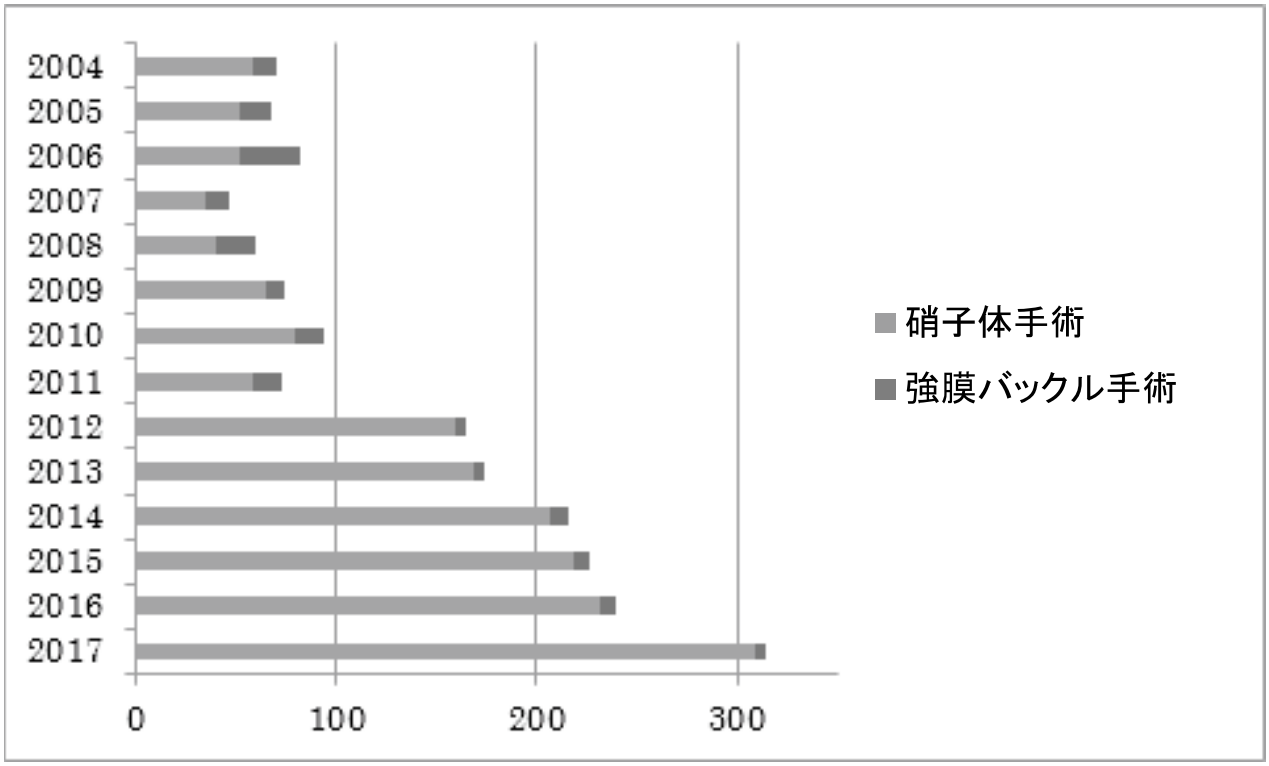
1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
16.9名	895名	6.8日

外来患者数

1日平均患者数
63.7名

主な手術・検査の件数など

水晶体再建術	硝子体手術	強膜バックル手術	緑内障手術	中央手術室手術検査合計
938件	309件	5件	3件	1,154件



□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
研究会	前向きにいきましょう!ＮＧＥＮＵＩＴＹがやってきた：喜多美穂里：眼科連携FSM2017、京都市、2017.6.10
研究会	術後機能回復を追う. 多局所ＥＲＧ，ＭＰ－３：加藤慶、武村美智代、大門彩香、山藤満、吉田直子、横山純子、喜多美穂里：眼科連携FSM2017、京都市、2017.6.10
研究会	こんな時には早めの白内障手術：浜祥代、藤井友起子、松崎祥子、石原健司、森雄貴、喜多美穂里：眼科連携FSM2017、京都市、2017.6.10
研究会	こんな時には内視鏡：藤井友起子、加藤慶、森雄貴、石原健司、浜祥代、喜多美穂里：眼科連携FSM2017、京都市、2017.6.10
研究会	この硝子体混濁は、もしかして：森雄貴、藤井友起子、石原健司、浜祥代、喜多美穂里：眼科連携FSM2017、京都市、2017.6.10
研究会	この硝子体出血は待てるか：喜多美穂里、森雄貴、松崎祥子、藤井友起子、石原健司、浜祥代：眼科連携FSM2017、京都市、2017.6.10
研究会	こんな時には抗ＶＥＧＦ薬注射：石原健司、吉田直子、山藤満、大門綾香、加藤慶、武村美智代、横山純子、森雄貴、藤井友起子、浜祥代、喜多美穂里：眼科連携FSM2017、京都市、2017.6.10
その他	眼に優しい手術ができる３Ｄビジュアルシステム：喜多美穂里：ＦＭ８４５（ラジオ）、京都市、2017.6.27
国内学会	近視性網膜分離に対する硝子体手術：森雄貴、藤井友起子、浜祥代、喜多美穂里：第68回京大眼科同窓会学会、京都市、2017.10.22
国内学会	３Ｄビジュアルシステムの使用経験：喜多美穂里、森雄貴、藤井友起子、浜祥代、加藤慶、山崎真理子：第68回京大眼科同窓会学会、京都市、2017.10.22
国内学会	網膜剥離ファイトクラブ一症例をシェアして自分のものにする（インストラクションコース）：喜多美穂里、大島佑介、門之園一明、木村英也、日下俊次、栗山晶治、竹内忍：第71回日本臨床眼科学会、東京、2017.10.12
国内学会	白内障手術併用硝子体手術（参天ブースビデオ講演）：喜多美穂里：第71回日本臨床眼科学会、東京、2017.10.12-15
国内学会	３Ｄビジュアルシステム100%：喜多美穂里：第50回ＲＥＴＩＮＡの会、東京、2017.10.14
国内学会	近視性網膜分離症に対する内境界膜剥離とSF6ガスタンポナーデを併用した硝子体手術：森雄貴、藤井友起子、浜祥代、喜多美穂里：第56回日本網膜硝子体学会総会、東京、2017.12.1
国内学会	最先端治療はこれだ!ＮＧＥＮＵＩＴＹ100%（イブニングセミナー）：喜多美穂里：第56回日本網膜硝子体学会総会、東京、2017.12.2
研究会	滲出性網膜剥離：喜多美穂里：眼科コールドケース2017、京都市、2017.12.14
研究会	３Ｄビジュアルシステム100%：喜多美穂里：眼科コールドケース2017、京都市、2017.12.14
その他	裂孔原性網膜剥離：喜多美穂里、渡部大介：おもしろ看護眼科学、神戸市、2018.2.4
その他	ぶどう膜炎：喜多美穂里、渡部大介：おもしろ看護眼科学、神戸市、2018.2.4
その他	これから：喜多美穂里、渡部大介：おもしろ看護眼科学、神戸市、2018.2.4
その他	なぜものが見えるか：渡部大介、喜多美穂里：おもしろ看護眼科学、神戸市、2018.2.4
その他	白内障：渡部大介、喜多美穂里：おもしろ看護眼科学、神戸市、2018.2.4
その他	糖尿病網膜症：渡部大介、喜多美穂里：おもしろ看護眼科学、神戸市、2018.2.4
その他	緑内障：渡部大介、喜多美穂里：おもしろ看護眼科学、神戸市、2018.2.4
その他	薬物、眼科疾患：喜多美穂里：第40回コメディカル講習会、京都市、2018.2.17

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書・雑誌名
Kita M, Fujii Y, Hama S. Anew lens for observing fundus with a noncontact wide-angle viewing system. Clinical Ophthalmol 2017; 11: 1239-1244
Kita M, Mori Y, Hama S. Hybrid wide-angle viewing-endoscopic vitrectomy using a 3D visualization system. Clinical Ophthalmol 2018; 12: 313-317
Kita M, Fujii Y, Hama S. Twenty five-gauge endoscopic vitrectomy for proliferative vitreoretinopathy with severe corneal opacity. Jpn J Ophthalmol 2018; 62: 302-306
喜多美穂里：内視鏡硝子体手術. 日本医師会雑誌、2017;146：126－127
喜多美穂里：内視鏡の進化. 特集：網膜硝子体手術の新しいスタイル. 臨床眼科、2017; 71：1812－1817

耳鼻咽喉科・頭頸部外科



診療科長
(耳鼻咽喉科)
辻　純

専門医資格等
　日本耳鼻咽喉科専門医
　京都大学医学博士
　京都大学医学部臨床教授
　日本耳鼻咽喉科学会代議員
専門分野
　耳科学・耳鼻咽喉科
得意疾患
　中耳疾患、めまい疾患



診療科長
(頭頸部外科)
安里　亮

専門医資格等
　日本耳鼻咽喉科専門医
　頭頸部がん専門医・指導医
　内分泌外科専門医
　気管食道科専門医
　日本がん治療認定医
　日本頭頸部癌学会代議員
　日本頭蓋底外科学会評議員
　日本気管食道科学会評議員
専門分野
　頭頸部外科・甲状腺外科
得意疾患
　頭頸部がん、甲状腺手術

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　員 (頭頸部外科)	宮崎　眞和	日本耳鼻咽喉科専門医 頭頸部がん専門医	頭頸部外科	頭頸部癌 甲状腺癌
医　　員 (耳鼻咽喉科)	田浦　晶子	日本耳鼻咽喉科学会専門医 再生医療認定医 めまい相談医 補聴器相談医	耳鼻咽喉科一般 めまい	めまい症
医　　員 (耳鼻咽喉科)	嘉田　真平	日本耳鼻咽喉科学会専門医 頭頸部がん専門医	耳鼻咽喉科 頭頸部外科一般	頭頸部癌 甲状腺癌 音声疾患
医　　員 (耳鼻咽喉科)	森田　真美	日本耳鼻咽喉科学会専門医	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	耳鼻咽喉科一般
医　　員 (耳鼻咽喉科)	片岡　通子		耳鼻咽喉科 頭頸部外科一般	耳鼻咽喉科一般

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本耳鼻咽喉科学会専門医制度専門医研修施設 内分泌・甲状腺外科専門医制度認定施設 日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医研修施設 日本気管食道科専門医認定施設

1. 伝音再建を中心とした中耳疾患手術
2. 頭頸部進行癌に対する拡大手術を中心とした集学的治療による治癒率向上
3. 頭頸部癌による低侵襲手術の開発によるQOL向上
4. QOLを考慮した甲状腺手術
5. 頭頸部・甲状腺外科執刀医養成のシステム
6. スタッフ全員による入院患者の診断・治療
7. 京都大学側頭骨セミナーへ講師として参加
8. めまいの診断と治療

□ 主な対象疾患

・真珠腫性中耳炎・慢性中耳炎
・めまい症
・頭頸部癌（口腔癌：舌癌・歯肉癌・頬粘膜癌・口腔底癌、咽頭癌、喉頭癌、鼻・副鼻腔癌：上顎洞癌・篩骨同癌、耳下腺癌・顎下腺癌など）
・甲状腺癌・甲状腺良性腫瘍・副甲状腺腫瘍・バセドウ病（手術）
・頭頸部良性腫瘍・頭蓋底進展腫瘍・咽頭表在癌

□ 診療（業務）内容

耳鼻咽喉科と頭頸部外科はともに外来・病棟・手術を行っている（手術数などは両科合同）。真珠腫・中耳炎・めまい・顔面神経麻痺など耳科全域を行っている。一般的な頭頸部癌・甲状腺癌の治療はもとより進行癌の治療も積極的に行い根治治療を目指しており、再建を要する頭頸部進行癌や縦隔浸潤する甲状腺癌・頭蓋底に進展する頭頸部腫瘍は関西一円はもとより関東・中国地方などからも治療をうけにこられている。また、低侵襲手術としての口腔癌に対するPGAシート被覆法を開発し、学会などで積極的に発表し標準治療としての普及を図っている。さらに経口的な咽頭がんの切除により、QOLを保った治療も積極的に行っており、これらも関西以外からも手術を希望されて当科に紹介される場合が多い。

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
26.4名	595名	16.2日

外来患者数

1日平均患者数
59.3名

主な手術・検査の件数など

耳手術	鼻副鼻腔手術	甲状腺・副甲状腺手術	頭頸部腫瘍手術
15件	35件	92件	140件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学会名
国内学会	田浦晶子	前庭再生医療とVestibular implant.	第34回日本めまい平衡医学会医師講習会　2017/7/14　神戸
研究会	田浦晶子	繰り返すめまいへの対応	恵比寿目黒地域連携の会 2018/2/8　東京
国内学会	田浦晶子、辻純、中川隆之、船曳和雄、扇田秀章、西村幸司、大森孝一、伊藤壽一	iPS細胞による前庭再生医療への試み	第76回日本めまい平衡医学会総会 2017/12/1　長野
国内学会	田浦晶子、大西弘恵、中川隆之、扇田秀章、西村幸司、伊藤壽一、大森孝一	In vivoでのiPS細胞による内耳再生医療	第17回日本再生医療学会 2018/3/23　大阪
国内学会	扇田秀章、田浦晶子、船曳和雄、西村幸司、大森孝一、伊藤壽一	当研究室でのマウス用VOG	第118回日本耳鼻咽喉科学会 2017/5/18　広島
国内学会	嘉田真平、安里　亮、片岡通子、辻村隆司、宮崎眞和、田浦晶子、辻　純	局所麻酔下に行う副甲状腺摘出手術	第118回日本耳鼻咽喉科学会 2017/5/20　広島
研究会	森田真美、伊藤通子、嘉田真平、宮崎眞和、田浦晶子、安里　亮、辻　純	扁桃原発リンパ管腫例	第127回日耳鼻京滋地方会 2017/7/22　京都
国内学会	安里　亮、伊藤通子、森田真美、嘉田真平、宮崎眞和、田浦晶子、辻　純	抗PD-1抗体の短期間投与により著効した上顎癌再発例	第28回日本頭頸部外科学会 2018/1/25　宇都宮
国内学会	伊藤通子、森田真美、嘉田真平、宮崎眞和、田浦晶子、安里　亮、辻　純	右側大動脈弓を伴った甲状腺癌手術例	第28回日本頭頸部外科学会 2018/1/26　宇都宮
研究会	森田真美	当科にご紹介いただいた症例の経過	京都南部耳鼻咽喉科医療連携 2018/2/3　京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著　者	タイトル	巻・ページ
頭頸部癌	本多啓吾,安里亮, 辻純、宮崎眞和, 嘉田真平, 辻村隆司, 片岡通子	経頸部法で切除した上咽頭進展中咽頭後壁癌例	2017;47:23-27
頭頸部外科	本多啓吾,安里亮, 宮崎眞和, 嘉田真平, 辻村隆司, 片岡通子	下顎歯肉癌T4a症例に対する非再建区域(半)切除術	2017;27:25-30
American Journal of Otolaryngology–Head and Neck Medicine and Surgery	Keigo Honda, Shinzo Tanaka, Shougo Shinohara, Ryo Asato, Hisnobu Tamaki, Toshiki Maetani, Ichiro Tateya,Morimasa Kitamura, Shinji Takebayashi, Kazuyuki Ichimaru, Yoshiharu Kitani, Yohei Kumabe, Tsuyoshi Kojima, Koji Ushiro, Masanobu Mizuta, Koichiro Yamada, Koichi Omori	Survival in patients with parotid gland carcinoma - Results of a multi-center study.	2018;39:65-70
Acta Oto-Laryngologica	Shinji Takebayashi, Shogo Shinohara, Hisanobu Tamaki, Ichiro Tateya, Morimasa Kitamura, Masanobu Mizuta, Shinzo Tanaka, Tsuyoshi Kojima, Ryo Asato, Toshiki Maetani, Koji Ushiro, Yoshiharu Kitani, Kazuyuki Ichimaru, Keigo Honda, Koichiro Yamada, Koichi Omori	Adenoid cystic carcinoma of the head and neck: a retrospective multicenter study	2017:138:73-79
耳鼻咽喉科臨床	田浦晶子	研修ノート　頭位性めまい診断のポイント	110(11). 786-787.2017
Equilibrium Research	田浦晶子	iPS細胞を用いた前庭再生医療	Vol.76 (6). 704-711. 2017
医学書院『耳鼻咽喉科・頭頸部外科』	扇田秀章、田浦晶子	四肢平衡機能検査.耳鼻咽喉科検査マニュアル	122-125.2017
J Otol Rhinol	Mami M, Hori R, Fujimura S, Okanoue Y, Kojima T, Omori K, Shoji K:	Application of a Novel Vibrating Device for Fine-Needle Aspiration Cytology	6:6; 2017.

麻酔科



診療部長
七野　力

専門医資格等　厚労省標榜医
日本麻酔科学会指導医・専門医
日本集中治療学会専門医
京都大学医学部臨床教授
関西医科大学臨床教授
京都大学医学博士

専　門　分　野　麻酔管理一般、集中治療、心臓血管外科麻酔

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	嵯峨　慶子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会指導医・専門医	麻酔管理一般、集中治療	
医　　師	杉本　亮大	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医	麻酔管理一般、心臓血管外科麻酔	
医　　師	原　　りさ	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医	麻酔管理一般	
医　　師	原　　祐介	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
医　　師	藤田　靖子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医	麻酔管理一般	
医　　師	松山　智紀	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医 京都大学医学博士	麻酔管理一般 心臓血管外科麻酔	
医　　師	水津　　悠	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医 日本周術期経食道エコー認定試験(JBPOT)合格	麻酔管理一般 心臓血管外科麻酔 救急・集中治療	
医　　師	鈴木　陽世	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
医　　師	山内　千奈	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
レジデント	藤井　千明		麻酔管理一般	
非　常　勤	鈴木万里子		麻酔管理一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本麻酔科学会研修施設 日本集中治療学会認定施設

1. 麻酔管理
2. 集中治療管理

□ 主な対象疾患

麻酔管理：外科手術一般
集中治療：敗血症、肺炎、ＡＲＤＳ、多臓器不全、術後管理一般

□ 診療（業務）内容

手術を受けられる患者さんに対する麻酔の施行と全身管理

当科では患者さんのご希望を最大限に尊重しながら、患者さんの全身状態、手術の内容を勘案してもっとも安全で苦痛の少ない麻酔法を選択しています。近年は全身麻酔と神経ブロックなど、各種麻酔法を組み合わせる方法が増加しています。それぞれの長所を生かしつつ、かつ短所を最小限に抑えることにより、手術が終わっても痛みが少なく、安全でしかも目覚めがよい麻酔を心がけています。

重症患者さんに対する集中治療室（ＩＣＵ）での集学的治療

本院は院内に2か所の集中治療室を有する全国でも数少ない施設です。救命センターと手術室フロアにそれぞれ設置されており、ともに日本集中治療学会認定の専門医が従事しています。麻酔科ではこのうち、手術室フロアのＩＣＵ（院内ＩＣＵ）の管理を行っています。院内ＩＣＵでは主に手術後の患者さんと重症の入院患者さんの全身管理を行っています。

□ 診療実績（平成29年度）

主な手術・検査の件数など

全身麻酔（鎮静を含む）	全身麻酔（+脊、硬、ブロック）	脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔
2,700件	574件	233件

麻酔科管理症例　計	院内ＩＣＵ入室患者数
3, 507件	669件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	山内　千奈、七野　力、嵯峨　慶子、野口　英梨子、原　祐介　当院における「ハイリスク診療検討会」の取り組み　日本麻酔科学会第64回学術集会　2017.06.08：神戸

□ 投稿論文など

著者	著書・雑誌名・タイトル・出版社等	発行年月
廣津聡子、水津悠、山内千奈、原りさ、原祐介、七野力	多尿を合併した敗血症性ショックの1例.　日本集中治療医学会雑誌　2017；24：49-50	2017
Akiko Hirotsu, Yu Suizu, Tsutomu Shichino.	Neurological prognosis of 6 cases after chest compression during general anesthesia. Journal of Anesthesia 2018; doi.org/10.1007/s00540-018-2449-0	2018

放射線科



医療技術部長
伊藤　剛

専門医資格等
日本医学放射線学会
専門医
PET核医学認定医
臨床研修指導医
京都大学医学部臨床
教授

専門分野
画像診断



診療科長
荒木　則雄

専門医資格等
日本医学放射線学会
専門医
日本放射線腫瘍学会
専門医
がん治療認定医
臨床研修指導医

専門分野
放射線腫瘍学

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
放射線診断科医長	広川　侑奨	日本医学放射線学会専門医、日本核医学会専門医、PET核医学認定医、検診マンモグラフィ読影認定医（評価A-S）	画像診断、核医学、IVR	腹部画像診断
放射線科医師	黒田　昌志	日本医学放射線学会専門医、日本核医学会専門医、PET核医学認定医、検診マンモグラフィ読影認定医（評価A-S）	画像診断	骨軟部画像診断
放射線科医師	大堂さやか	日本医学放射線学会専門医、PET核医学認定医	画像診断	婦人科画像診断
放射線科医師	楢林　正流	日本医学放射線学会専門医、日本腫瘍放射線学会専門医	放射線腫瘍学	放射線治療
放射線科医師	西松　佳代	日本医学放射線学会専門医、日本核医学会専門医、PET核医学認定医	画像診断、核医学	画像診断、核医学診断
放射線科レジデント	渡邉　幸香		画像診断	
放射線科レジデント	諸岡　紳		画像診断	
技師長	片倉　和雄	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、医学物理士、第１種放射線取扱主任者		
副技師長	松田　一秀	衛生工学衛生管理者、第一種衛生管理者		
副技師長	福本　真司	核医学専門技師、X線CT認定技師、医療情報技師		
主任	山中　早苗	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、マンモグラフィ認定技師、衛生工学衛生管理者、第1種放射線取扱主任者		
主任	坂本　龍彦			
主任	榎本　直之	核医学専門技師		
技師	樋口　孝次	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師		
主任	麻布三枝子	マンモグラフィ認定技師		
主任	山本　　匠	マンモグラフィ認定技師、X線CT認定技師、磁気共鳴専門技術者		
技師	川端　清志	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師		

技　　師	大西　孝志	マンモグラフィ認定技師、肺がんＣＴ認定技師、放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師		
技　　師	西川　峰生	救急撮影認定技師、X線CT認定技師		
技　　師	山本　　崇	マンモグラフィ認定技師、救急撮影認定技師		
技　　師	小田　晴義	マンモグラフィ認定技師、救急撮影認定技師		
技　　師	竹原　和宏	マンモグラフィ認定技師、X線CT認定技師、衛生工学衛生管理者、第１種放射線取扱主任者		
技　　師	新家　睦巳	X線CT認定技師		
技　　師	淺野　朱香	マンモグラフィ認定技師、第１種放射線取扱主任者、核医学専門技師		
技　　師	熊給　　淳	救急撮影認定技師、磁気共鳴専門技術者		
技　　師	辰野　絢香	X線CT認定技師		
技　　師	嵯峨根真也	第１種放射線取扱主任者		
技　　師	濵田佳代子	マンモグラフィ認定技師		
技　　師	藤田　訓充			
技　　師	若畑　旬弥			
技　　師	山本　　翼			
技　　師	池上　周平			
技　　師	小嶋　智大			
技　　師	穴吹　泰博			
技　　師	中村あゆみ	マンモグラフィ認定技師		
技　　師	戸川　謙太			
技　　師	淡海　光司			
技　　師	仲山　暁介			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本医学放射線学会総合修練施設

□ 主な対象疾患

悪性腫瘍全般

□ 診療（業務）内容

ほぼ全領域の画像診断、頭部および心臓血管領域を除くIVR、悪性腫瘍を中心とする放射線治療

□ 診療実績（平成29年度）

外来患者数

1日平均患者数
25.6名

主な手術・検査の件数など（放射線治療）

年間治療件数
8,812件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	大堂　さやか　卵巣の良性充実性腫瘍の鑑別　第76回日本医学放射線学会総会　2017/4/15　横浜
研究会	諸岡　紳、渡邉　幸香、濱中　訓生、西松　佳代、大堂　さやか、黒田　昌志、広川　侑奨、楢林　正流、荒木　則雄、伊藤　剛　鑑別に苦慮した肝悪性リンパ腫の一例　第317回日本医学放射線学会関西地方会　2017/11/11　大阪
研究会	渡邉　幸香、諸岡　紳、濱中　訓生、西松　佳代、大堂　さやか、黒田　昌志、広川　侑奨、楢林　正流、荒木　則雄、伊藤　剛　悪性腫瘍との鑑別を要した肺硝子化肉芽腫の一例　第318回日本医学放射線学会関西地方会　2018/2/24　大阪
その他	大堂　さやか　妊娠～出産に伴う子宮・付属器の生理的変化と合併症(胎盤、胎児を」除く）　関西GUR研究会　2017/4/28　大阪
国内学会	荒木　則雄、楢林　正流　京都医療センターにおける緩和放射線治療の現状　第22回日本緩和医療学会　2017.6.24　横浜
国内学会	山本　翼、（山本　匠、 福本　真司、 片倉　和雄）　Flow spiral tubeを使用した脳動脈内腔のCT値の検討　第26回国立病院療養所近畿放射線技師会学術大会　2017.10.07　大阪
国内学会	中村　あゆみ　（山本　匠　辰野　絢香　福本　真司）片倉　和雄　奥井　彩加　静脈路抜針後における剥がれにくいテープの貼り方と種類の検討　第26回国立病院療養所近畿放射線技師会学術大会　2017.10.7　大阪
国内学会	戸川　謙太　（熊給淳、 山本匠、 福本真司、 片倉和雄）　Zero fill interpolationを用いた画像分解能の評価　第26回国立病院療養所近畿放射線技師会学術大会　2017.10.07　大阪
その他	熊給　淳　上肢撮像に用いるコイルSNR比較 -3T/1.5T -　第17回京滋Gyro Meeting　2017.10.14　京都

リハビリテーション科



診療科長
山田　茂

専門医資格等　日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会運動器リハビリテーション医
京都大学　医学博士
京都大学医学部　臨床教授
専 門 分 野　運動器領域

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野
医　　長	中島　康代	日本循環器学会循環器専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会指導医 日本内科学会認定内科医 日本リハビリテーション医学会認定臨床医 京都大学　医学博士	循環器内科
医　　師	井村　美紀	日本リハビリテーション医学会専門医 日本リハビリテーション医学会認定臨床医 心臓リハビリテーション指導士 日本医師会認定スポーツ医	リハビリテーション
理学療法士	13名（士長1、副士長1、主任1）		
作業療法士	5名		
言語聴覚士	4名		

□ 診療科の特徴

1. 救急医療に重点を置く当院の方針に従って、入院患者の急性期リハビリテーションを基本に診療しています。
2. がん診療を補完するものとして、在宅療養への移行を支援します。

□ 主な対象疾患

疾患により、またその治療に伴う安静等によって障害される身体機能の回復を目指して、各科各種疾患に対応します。

疾患別リハビリテーション：脳血管疾患（Ⅰ）、心大血管疾患（Ⅰ）、運動器（Ⅰ）、呼吸器（Ⅰ）、がん、廃用症候群（Ⅰ）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
その他	国立総合医学会　2017.11.11　香川 当院における人工呼吸器装着重症患者に対する早期理学療法の新たな取り組み 大西　幸代
その他	国立総合医学会　2017.11.11　香川 当院における転倒転落レポートの調査 田﨑　尚孝

□ 投稿論文など

タイトル・著者・雑誌名
井村美紀 2017.10.29　第1回リハビリテーション医学会秋季学術集会 急性期病院におけるリハビリテーション前後の移動能力予測 -嚥下障害の程度との関係-
井村美紀 2017.11.18　脳卒中リハビリカンファレンス 脳卒中での連携・リハビリへの工夫・課題について

歯科口腔外科



診療科長
吉田　和也

専門医資格等　日本口腔外科学会専門医・指導医
日本顎関節学会専門医・指導医
日本補綴歯科学会専門医・指導医
日本睡眠学会認定歯科医・評議員
日本睡眠歯科学会専門医・指導医・評議員
大阪歯科大学歯学博士
京都大学医学博士
厚生労働省歯科医師臨床研修指導歯科医

専門分野　口腔外科一般

得意疾患　睡眠時無呼吸症候群、顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ジスキネジア、ブラキシズム）、顎顔面補綴

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	大野　　純	日本小児口腔外科学会認定医 厚生労働省歯科医師臨床研修指導歯科医	口腔外科一般	歯科用インプラント、顎変形症
レジデント	宮本 絵里加	日本口腔ケア学会認定医 日本外傷歯学会認定医・評議員	口腔外科一般	口腔ケア
研　修　医	山口　　隆子		口腔外科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本口腔外科学会認定機関 日本顎関節学会認定機関 日本睡眠学会認定機関 日本補綴歯科学会認定機関

1．迅速で的確な診断を心がけます。
2．複数の治療法を呈示し、十分に話し合った後、最適な治療を行います。
3．治療にあたっては低侵襲を心がけます。
4．口腔ケアや口腔衛生指導によって、治療と予防を実践します。

□ 主な対象疾患

親知らず（智歯）、埋伏歯の抜歯・口の中の腫瘍（腫れ物）、のう胞（膿の袋）・顎の骨折や歯、口腔の外傷・顎関節症、その他の顎関節疾患・顎変形症（歯並び、咬み合わせ、受け口など顎の形の異常）・口腔乾燥や唾液の異常、舌痛症（舌のヒリヒリする痛みや違和感）・顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損の顎顔面補綴治療・手術、放射線治療、化学療法前後の口腔衛生指導、口腔ケア・歯茎、顎の骨の炎症・口内炎、舌や頬の炎症・入院患者さんあるいは全身疾患（心疾患、糖尿病、高血圧、抗血栓療法中など）のある外来患者さんの歯科治療

専門で取り扱っている疾患
・睡眠呼吸障害（睡眠時無呼吸症候群、いびき、上気道抵抗症候群）
・顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ブラキシズム、ジスキネジアなど）
・顎関節疾患（顎関節症、咬筋肥大症、筋突起過長症、咀嚼筋腱・腱膜過形成症など）
・顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損

□ 診療（業務）内容

当科は日本口腔外科学会の認定機関であるばかりではなく、日本顎関節学会、日本睡眠学会、日本補綴歯科学会の認定機関でもあり、顎口腔領域のさまざまな疾患の総合的な診断と一貫した治療が可能です。多くの大学医学部あるいは歯学部附属病院や総合病院から多数の患者さんが紹介受診されています。一般的な口腔外科的治療や救急対応、有病者（心疾患、糖尿病、高血圧、抗血栓療法中、ビスフォスフォネート系薬剤使用中など）の歯科治療、入院患者さん(一般病棟、ICU、緩和ケア病棟）の歯科治療や手術前後の口腔ケアを行います。口腔外科的治療とは主に口腔腫瘍、顎顔面外傷、顎関節疾患などの手術を要する疾患に対して行われる治療を指します。

専門で取り扱っている疾患と治療として睡眠呼吸障害（睡眠時無呼吸症候群、いびき、上気道抵抗症候群）に対する口腔内装置治療（マウスピース）、顎関節疾患（顎関節症、咬筋肥大症、筋突起過長症、咀嚼筋腱・腱膜過形成症など）の補綴的あるいは口腔外科的治療、インプラント治療、顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ジスキネジア、ブラキシズムなど）の内服治療、局所麻酔薬によるブロック療法（MAB療法）、ボツリヌス療法や口腔外科的手術療法、顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損の顎顔面補綴治療などがあります。口と顎の領域のジストニアを専門で治療や研究を行っている科は全国的にも例がありません。患者さん用のサイト「顎口腔領域の不随意運動」（http://sites.google.com/site/oromadibulardystonia/）を開設し、日本全国および海外からも問い合わせ、受診が急増しております。治療のため当院に入院していただくメディカルツーリズム（医療観光）により遠方からも患者さんに受診していただけるよう願っております。

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
1.7名	103名	5.8日

外来患者数

1日平均患者数
45.8名

主な手術・検査の件数など

抜歯術	嚢胞摘出術	腫瘍摘出術	骨折手術	インプラント手術
812件	65件	54件	13件	11件

顎変形症手術
9件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	内　　容
国内学会	下郷 麻衣子　第22回日本緩和医療学会学術大会　終末期がん患者の口腔トラブルとケア～緩和ケア病棟スタッフと 共に歩んだ２年～　2017.6.24　横浜
国内学会	吉田　和也　第4回日本ボツリヌス治療学会　舌ジストニアに対するボツリヌス療法とMAB(Muscle　afferent　block)療法　2017.9.29　東京
国内学会	Yoshida K, Yamaguchi T, Miyamoto E, Shimosato M, Ono J, Hyo Y　第62回日本口腔外科学会　Task-specific lingual dystonia is induced by occupation　2017.10.21　京都
国内学会	大野 純, 吉田 和也, 山口 隆子, 宮本 絵里加, 下郷 麻衣子, 兵 行忠　第62回日本口腔外科学会　初診時に顎関節強直症と思われた二次性閉口ジストニアによる重度開口障害の１例　2017.10.21　京都
国内学会	福原 紫津子, 大野 純, 吉田 和也, 兵 行忠　第62回日本口腔外科学会　舌に発生した筋肉内脂肪腫の１例　2017.10.21　京都
国内学会	宮本 絵里加, 吉田 和也, 山口 隆子, 下郷 麻衣子, 大野 純, 兵 行忠　第62回日本口腔外科学会　下顎頭の中頭蓋内陥入を生じた関節窩骨折の1例　2017.10.20　京都
国内学会	吉田 和也, 宮本 絵里加, 山口 隆子, 下郷 麻衣子, 大野 純, 兵 行忠　第71回国立病院総合医学会　顎口腔領域の不随意運動に対する歯科口腔外科的治療　2017.11.11　高松
国内学会	下郷 麻衣子, 青木 友和, 土屋 宣之, 長谷川 浩二　第30回　下西集談会　終末期がん患者の口腔の問題と医科歯科連携の重要性　2017.3.3　京都

国内学会	下郷 麻衣子, 青木 友和, 土屋 宣之, 長谷川 浩二　第30回　下西集談会　終末期がん患者の口腔の問題と医科歯科連携の重要性　2017.3.3　京都
研究会	下郷　麻衣子　第34回伏見医師会　癌医療病診連携の会　多職種連携による終末期がん患者に対する口腔ケアの効果　2017.4.15　京都
研究会	下郷 麻衣子　第20回伏見栄養療法・在宅医療研究会　栄養管理における口腔サポートの意義　2017.8.26　京都
研究会	下郷 麻衣子, 青木 友和, 土屋 宣之　第174回　京都歯科口腔外科集談会　緩和ケア病棟と共に歩んだ3年―当院での歯科の緩和ケア病棟への関りー　2017.12.6　京都
研究会	大野 純　京都府歯科医師会学術講演会　病院歯科口腔外科における医療安全対策　2017.5.26　京都
その他	下郷 麻衣子　京都医療センター　がん看護研修　ステップⅠプログラム　がん患者の口腔ケア　2017.7.1　京都
その他	宮本 絵里加　京都医療センターRST・口腔外科共催院内研修会　人工呼吸器挿管患者の口腔ケアについて　2017.8.9　京都
その他	下郷 麻衣子　京都医療センター 緩和ケア病棟　ワークショップ　あなたなら、このお口をどう評価しますか?終末期がん患者に対する有効な客観的口腔アセスメントを目指して　2017.8.11　京都
その他	宮本　絵里加　京都医療センター院内栄養サポートチーム看護研修会　人工呼吸器挿管患者の洗口液の使用方法について　2017.9.4　京都
その他	下郷 麻衣子　京都医療センター ワークショップ　終末期がん患者の口腔環境を考える　簡便で非侵襲的な客観的口腔アセスメントを目指して　2017.10.7　京都
その他	大野 純　FM845 カラダ元気　子供達の歯並びを考える　2017.11.28　京都
その他	下郷　麻衣子　京都医療センター　第11回うずらPEACE　緩和ケア研修会　がん患者の口腔内の問題と医科歯科連携　2017.12.3　京都
その他	下郷 麻衣子　京都医療センター　第3回NST勉強会　栄養管理における口腔機能管理の意義　2018.1.26　京都
その他	下郷 麻衣子　市立長浜病院　第294 回開放型病床生涯教育研修会　緩和ケア病棟の歯科的リアルワールド　2018.2.1　長浜

□ 投稿論文など

年	著書・雑誌名	内　容
2017	Journal of Craniomaxillofacial Surgery　45:56-62	Yoshida K. Surgical intervention for oromandibular dystonia-related limited mouth opening: long-term follow-up.
2017	Movement Disorders Clinical Practice 4,:285 DOI:10.1002/mdc3.12460.	Yoshida K. How do I inject botulinum toxin into the lateral and medial pterygoid muscles?
2017.11	Journal of Prosthodontic Reseach Nov 7. pii: S1883-1958(17)30109-3.	Yoshida K. Sensory trick splint as a multimodal therapy for oromandibular dystonia.
2017	Frontiers in Neurology 8：649.	Yoshida K. Clinical and phenomelogical characteristics of patients with task-specific lingual dystonia: possible association with occupation.
2018.2.27	Journal of Craniofacial Surgery doi: 10.1097/SCS.0000000000004414.	Mishima S, Yamaguchi T, Watanabe T, Komatani T, Nakao K, Takahashi K, Bessho K. Maxillary hypoplasia with congenital oligodontia treated by maxillary distraction osteogenesis.
2017	アンチ・エイジング医学―日本抗加齢医学会雑誌　13:393-398	吉田 和也. 歯ぎしりにボツリヌス治療は有効か?

救命救急センター（救命救急科）



診療部長
笹橋　望

専門医資格等
- 日本救急医学会指導医
- 日本外科学会認定医
- 日本胸部外科学会認定医・指導医

専門分野
- 救急医学

得意疾患
- 集中治療



救命救急センター長
西山　慶

専門医資格等
- 日本救急医学会指導医
- 日本集中治療医学会専門医
- 日本循環器学会専門医
- 日本集中治療医学会 CCU委員会 委員
- 日本救急医学会 学会主導研究評価特別委員会 委員
- 日本循環器学会 蘇生科学小委員会 委員
- FAHA
- 京都府高度救急業務推進協議会 委員
- 京都大学医学部 臨床教授
- 京都府立医科大学 臨床教授
- 福井大学医学部 客員准教授

専門分野
- 救急医学

得意疾患
- ER



救命集中治療科長
別府　賢

専門医資格等
- 日本救急医学会指導医
- 日本集中治療医学会専門医
- 日本麻酔科学会指導医・専門医・認定医
- 麻酔科標榜医
- JATECインストラクター
- FCCSインストラクター
- ICLSインストラクター/ディレクター

専門分野
- 救急医学

得意疾患
- 集中治療

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	田中　博之	日本救急医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本内科学会内科認定医/総合内科専門医 日本医師会認定産業医 呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 JATECインストラクター ITLSインストラクター JPTECインストラクター ICLSインストラクター/ディレクター JMECCインストラクター/ディレクター 日本DMAT隊員・統括DMAT	救急医学	集中治療・呼吸管理・災害医療

医　　師	濱中　訓生	日本救急医学会専門医 日本放射線医学会専門医	救急医学	集中治療・IVR
医　　師	上田　忠弘	内科専門医	救急医学	集中治療
専修医	勅使川原　学		救急医学	
応援医	吉田　浩輔	日本救急医学会専門医 日本集中治療医学会専門医	救急医学	集中治療

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本救急医学会専門医認定施設 日本救急医学会指導医認定施設に準ずる施設 日本集中治療医学会専門医認定施設

1. 京都南部の重症患者を受け入れる拠点として活動。
2. 重症多発外傷、重度熱傷、敗血症性ショックなど重症患者を集中治療室にて管理。
3. 循環器、脳卒中など専門各科と協力し、質の高い医療を提供。
4. 積極的に研修医に救急外来で初期対応をさせ、教育。

□ 主な対象疾患

敗血症/重症感染症、多発外傷、重症熱傷、急性呼吸不全、中毒

□ 診療（業務）内容

救急搬送症例に対する初期外来対応、専門診療科紹介、入院加療など
重症救急患者への集中治療
院内重症患者に対する集中治療
他院からの重症紹介症例の受け入れ
多施設との症例検討会や情報交換
各種災害訓練の実施と参加
蘇生講習などへの参加と指導
研修医教育(京都大学、京都府立医科大学病院研修医を含む)
臨床医学教育（京都大学、京都府立医科大学、同志社大学、橘大学）
コメディカルに対する教育研修
市民に対する救急啓蒙教育
消防局との連携ならびに情報交換
医師会、他病院との連携ならびに情報交換

□ 診療実績（平成29年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
14.0名	921名	7.6日

外来患者数

1日平均患者数
10.3名

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国際学会	Hiroyuki Tanaka, Jun Takeshita, Satoru Beppu, Nozomu Sasahashi, Kei Nishiyama　A Successful Long Term Extracorporeal Cardiopulmonary Support for Severe Pulmonary Aspergillosis: A Case Report　EuroELSO 2017 6th International Congress ECMO　2017.5.7　Maastricht, the Netherlands
国際学会	Kei Nishiyama, Hiroyuki Tanaka, Takashi Unoki, for the J-POP Registry Investigators　Severity Assessment of Brain Damage with rSO2 monitoring for Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation after Out-of-hospital Cardiac Arrest　EuroELSO 2017 6th International Congress ECMO　2017.5.5　Maastricht, the Netherlands
国際学会	Yuka Nakatani, Takeo Nakayama, Kei Nishiyama, Yoshimitsu Takahashi　Effect of target temperature management at 32–34 °C in cardiac arrest patients stratified by regional cerebral oxygen saturation: A multicenter retrospective cohort study in Japan　European resuscitation council 2017　2017.9.30　Freiburg im Breisgau, Germany
国際学会	Yuka Nakatani, Takeo Nakayama, Kei Nishiyama, Yoshimitsu Takahashi　Effect of Target Temperature Management in the ICU After Cardiac Arrest Stratified by rSO2　the Society of Critical Care Medicine's (SCCM) 47th Critical Care Congress　2018.2.27　San Antonio, USA
国際学会	K. Nishiyama, T. Ueda, Y. Suitsu, K. Hamanaka, H. Tanaka, M. Shimoto, S. Beppu, S. Ohtsuru, N. Sasahashi, K. Kaoru　Utility of brain regional oxygen saturation monitoring in out-of-hospital cardiac arrest severity and quality cardio pulmonary resuscitation evaluation: A prospective observational cohort study　Acute Cardiovascular Care 2018　2018.3.5　Milan, Italy
国内学会	西山　慶　CPRにおける脳保護戦略～近赤外線(NIRS)を用いた脳局所酸素飽和度モニタリング～　第32回日本救命医療学会　2017.9.23　横浜
国内学会	西山　慶　ICUでの非心臓疾患患者における心房細動への治療戦略　第65回日本心臓病学会学術集会　2017.9.30　大阪
国内学会	西山　慶　院外心肺停止患者に対する救急隊員によるrSO2計測に関する研究　第45回日本救急医学会総会　2017.10.25　大阪
国内学会	濱中 訓生、小泉 三輝、田中 博之、別府 賢、笹橋 望、西山 慶　5-FU持続投与中に高アンモニア血症による意識障害で救急搬送された1例　第45回日本集中治療医学会学術集会　2018.2.23　千葉
国内学会	井口 貴文、水津 悠、上田 忠、吉田 浩輔、濱中 訓生、田中 博之、別府 賢、笹橋 望、西山 慶　頚髄損傷に伴う両側椎骨動脈損傷による両側後方循環系脳梗塞の一例　第45回日本集中治療医学会学術集会　2018.2.21　千葉
国内学会	上田 忠弘、増永 直久、大崎 活貴、吉岡 美、田中 博之、濱中 訓生、水津 悠、別府 賢、笹橋 望、西山 慶　水中毒による低ナトリウム血症のNa補正に際し、早期の抗利尿ホルモン投与が過補正抑止に奏功した1例　第45回日本集中治療医学会学術集会　2018.2.21　千葉
国内学会	内田 尚宏、水津 悠、上田 忠弘、濱中 訓生、田中 博之、別府 賢、笹橋 望、西山 慶　陳旧性胸椎圧迫骨折による進行性脊髄損傷から二次性巨大結腸症をきたしストマ増設を要した一例　第45回日本集中治療医学会学術集会　2018.2.21　千葉
国内学会	別府 賢、中嶋 康文、上田 忠弘、濱中 訓生、田中 博之、笹橋 望、西山 慶　当院救命救急センターICUで死亡し、病理解剖を行なった6年間の症例の検討　第45回日本集中治療医学会学術集会　2018.2.22　千葉
国内学会	別府 賢、一杉 正仁、古川 智之、西山 慶、笹橋 望、濱中 訓生、上田 忠弘　当初中毒死が疑われたが、剖検により内因性急死と判明した一例　第45回日本救急医学会総会・学術集会　2017.10.24　大阪
国内学会	西山 慶、鵜木 崇、下戸 学、笹橋 望、別府 賢、濱中 訓生、田中 博之、上田 忠弘、水津 悠、小池 薫　院外心肺停止患者に対する救急隊員によるrSO2計測に関する研究　第45回日本救急医学会総会・学術集会　2017.10.24　大阪
国内学会	西嶋 佑太郎、濱中 訓生、水津 悠、田中 博之、上田 忠弘、別府 賢、笹橋 望、西山 慶　分節性動脈中膜融解と考えられた後腹膜出血の一例　第45回日本救急医学会総会・学術集会　2017.10.25　大阪

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	出版社	発行年および月
Yamanaka S, Huh J, Nishiyama K, Hayashi H	The optimal number of personnel for good quality of chest compressions: A prospective randomized parallel manikin trial e0189412.	PLoS ONE	12	12			
Takeshita J, Nishiyama K, Beppu S, Sasahashi N, Shime N	Combined short- and long-axis ultrasound-guided central venous catheterization is superior to conventional techniques: a cross-over randomized controlled manikin trial e0189258.	PLoS ONE	12	12			
Hamanaka K, Hirokawa Y.,Itoh T., Fujino M., Kano K., Beppu S., Sasahashi N., Nishiyama K.	Successful non-operative management of traumatic extrahepatic portal venous injury without intraperitoneal hemorrhage: a case report	Acute Med Surg.	4	2	205–208		2017.4
Takeshita J., Nishiyama K., Fujii M., Tanaka H., Beppu S., Sasahashi N., and Shime N.	Repetitive postoperative extubation failure and cardiac arrest due to laryngomalacia after general anesthesia in an elderly patient: a case report . doi:10.1007/s00540-017-2373-8	J Anesth					2017

Tanaka H, Nishiyama K., and Shime N.	Successful long-term extracorporeal membrane oxygenation for invasive pulmonary aspergillosis: a case report . 11:220	Journal of Medical Case Reports					2017
Takeshita J, Nishiyama K, Fukumoto A, Ohira S, Beppu S, Sasahashi N,and Shime N.	Tracheal injury detected immediately aftermedian sternotomy by inexperienced-surgeons: two case reports. 12:49	Journal of Medical Case Reports					2018
狩野　謙一、濱中　訓生、田中　博之、別府　賢、笹橋　望、志馬　伸朗、西山　慶	抗凝固療法により治療した肝損傷後巨大下大静脈血栓症の1例　28: 800-4	日救急医会誌					2017
藤野　光洋、岡田　信長、廣嶋(濱中)　佳歩、濱中　訓生、別府　賢、笹橋　望、西山　慶	頭部外傷後亜急性期に下垂体出血による下垂体機能低下症を来した1例(A case of hypopituitarism due to a pituitary hematoma at a subacute stage after head injury)　29: 61-6	日救急医会誌					2018

健診センター



健診センター長
田上　哲也

専門医資格等　日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医・
　近畿支部評議員
日本内分泌学会　内分泌代謝科(内科)専門医・指導医・
　教育責任者・評議員
日本甲状腺学会　専門医・評議員
厚生労働省　臨床研修指導医
京都大学医学部　臨床教授・非常勤講師
京都大学　医学博士
専門分野　内科、内分泌・代謝
得意疾患　内分泌疾患、甲状腺疾患

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
副健診センター長	島　　伸子	日本内科学会　認定内科医 日本人間ドック学会　人間ドック健診認定医 日本医師会　認定産業医 日本消化器病学会　専門医 日本消化器内視鏡学会　専門医 日本ヘリコバクター学会　H.　pylori（ピロリ菌）感染症認定医 日本消化器がん検診学会認定医（胃）	消化器内科	消化器疾患 消化器内視鏡検査
医　　師	小見山麻紀	日本内科学会 認定内科医 日本人間ドック学会 人間ドック健診認定医 日本医師会 認定産業医 日本禁煙科学会 上級禁煙支援医師 FNAネットワーク協会 食生活アドバアイザー 静岡県立大学 非常勤講師 大阪医科大学 医学博士 Anglia Ruskin University 公衆衛生学修士	内科 予防医学	生活習慣病 禁煙支援
非常勤医師	前川　高天	日本内科学会　認定内科医 日本消化器病学会　指導医 日本消化器内視鏡学会　指導医・評議員 日本ヘリコバクター学会　H.　pylori（ピロリ菌）感染症認定医	消化器内科	消化管疾患 消化器内視鏡検査

□ 診療科の特徴

食生活の乱れや過度の飲酒、運動不足、喫煙など不適切な生活習慣の積み重ねにより、高血圧や脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病が急激に増加しています。生活習慣病の多くは、自覚症状がほとんどないため、気付かないうちに動脈硬化が進行し、心筋梗塞や脳卒中などの重大な結果を招いてしまうことも少なくありません。生活習慣病は、まず予防すること、そして早期発見と早期治療が大切です。また、増加の一途をたどっている様々な臓器に発生する癌においても、予防や早期発見・早期治療が重要であることはいうまでもありません。京都医療センター健診センターは、生活習慣病や癌の早期発見に貢献しています。 特に、癌の全身検索に適しているPET-CT健診や、苦痛の少ない経鼻内視鏡を用いた胃がん検診などを行い、癌の早期発見に力を入れています。ご自身だけでなく、大切なご家族の健康を守るために、定期的に健診を受けられることをお勧めします。

□ 主な対象疾患

高度で贅沢な設備とスタッフ

京都医療センターは各種の高度専門医療施設に指定されていますので、それぞれの診療設備については高度かつ精密な検査機器が配備されています。また、各学会認定の専門医が多数常勤しており、専門的かつ高度な診断が可能となっています。当健診センターでは、最高の設備・スタッフを駆使することにより、みなさまに安心していただける健診を提供しています。

健診センター専用棟での迅速な健康診断

平成16年5月に完成した健診センター専用棟には、待合ロビー、診察室、心電図室、超音波検査室、肺機能検査室、X線一般撮影/造影撮影室がすべて完備されていますので、それぞれの検査・診察が効率的かつ迅速にすすめることが可能となっています。また、待ち時間の短縮など、受診されるみなさまのご負担をできるだけ軽減できるよう、常にこころがけていますので、是非ご利用いただきますよう職員一同お待ちしています。

1. より"迅速"に、より"的確"に

健診センター専用棟には、診察室、心電図、腹部超音波検査装置、X線撮影装置、上部消化管内視鏡が完備されていますので、それぞれの検査を迅速かつ効率的にすすめることが可能になっています（コース、オプション内容によっては、中央診療棟での検査, 診察になります）。また、各学会の認定医・専門医が多数在籍していますので、より専門的で的確な診断が可能になっています。

2. "点"から"線"の健診

従来の、結果を眺めるだけの"点"の健診ではなく、継続的な健康管理に役立つ"線"の健診を目指しています。特にここ数年来問題視されているメタボリックシンドローム、喫煙関連疾患、ヘリコバクターピロリ菌感染症については、各診療科の専門外来と協力し、継続的な診療を受けていただけるよう心がけています。

3. より"確実"な早期発見

各領域の悪性疾患については、最近の低侵襲治療の発達で、その早期発見はより重要になっています。 また近年、がんに対する様々なリスクファクターが明らかにされており、これらのリスクを考慮したハイリスク検診の試みも始まっています。当健診センターでは、子宮がん検診に、子宮頚がんのリスクファクターとされるhuman papilloma virus (HPV)検査を、胃がん検診に血清ペプシノゲン/血中ヘリコバクターピロリ菌抗体検査を、前立腺癌にPSA測定を導入し、また、2014年10月からPETがん検診を開始し、各疾患の早期発見を目指しています。

4. より"楽"な検査

胃がんの早期発見には内視鏡検査（胃カメラ検査）の有用性が指摘されていますが、受診者にとっては、これまで"つらい"検査の一つでした。当健診センターでは極細径内視鏡による経鼻内視鏡検査を導入し、受診者にとって"つらい"検査から"楽な"検査への転換を図っています。

〈健診コース〉

基本コース	★基本コース（一般コース・脳ドック・レディースコース）に加えて、各種オプション（肺：胸部CT検査、婦人科：診察・US、乳がん：マンモグラフィなど）を受診者の希望に応じて実施しています。また、2014年度からPET健診を, 2015年度から胃がん健診を始めました。 ★血液サラサラ健診 血液は体内に必要な栄養素, 酵素等を運び、老廃物を取り除く働きをします。 生活習慣病予防のために「血液サラサラ健診」を受けてみませんか？ ★鼻から行う内視鏡 鼻から行う内視鏡をご存じですか？ 経鼻内視鏡検査は、口からの検査に比べ検査時の吐き気、不快感が少ないものとなっています。
一般健診	
生活習慣病	
脳ドック	
レディース	
オプション	
脳オプション	
動脈硬化オプション	
血液サラサラ度オプション	
骨粗鬆症オプション	
各種がんオプション：肺, 前立腺, 乳腺, 子宮	
PET健診	

〈サリドマイド健診〉
先行の「全国のサリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態に関する研究班」の研究成果を踏まえ、中年期を向かえた患者の今後の医療上・生活上の問題点を明確にし、有効な医療及び支援のあり方を検討する。また、外国での患者に対する医療の取組みに関する調査も進め、国際的な医療情報交換を推進し、患者に対する支援のあり方、取組みを世界的規模で検討していく。
京都医療センター健診センターでは、西日本居住者を対象に健診を実施している。

□ 診療実績（平成29年度）

〈受診者数〉

基本健診	一般健診	生活習慣病	脳ドック	レディース	PET検診	胃がん検診	サリマイド健診	合計
2012年度	766	11	27	30	-	-	10	844
2013年度	802	6	34	16	-	-	8	866
2014年度	965	6	25	27	11	-	8	1,042
2015年度	965	2	29	20	47	4	7	1,074
2016年度	992	8	22	22	65	41	9	1,159
2017年度	1,069	-	25	21	79	70	8	1,272

オプション	脳	動脈硬化	血液流動性	骨粗鬆症
2012年度	118	94	36	101
2013年度	122	85	43	93
2014年度	144	135	88	135
2015年度	135	133	69	139
2016年度	144	133	72	123
2017年度	148	137	68	122

がんオプション	肺がん	前立腺がん	乳がん	子宮がん
2012年度	48	161	183	140
2013年度	54	175	197	136
2014年度	76	207	221	138
2015年度	65	215	227	152
2016年度	82	219	212	146
2017年度	79	241	253	184

胃がんリスク検診	A群	B群	C群	D群	E群（除菌後）	計	当院での除菌者数
2014年度	616	88	56	9	168	937	102
2015年度	617	46	17	5	254	939	44
2016年度	549	45	42	60	311	1,007	28
2017年度	554	49	51	72	341	1,067	38

がん検診

上部消化管検査	内視鏡		内視鏡合計	透視	計	がん発見率(%)(内視鏡)	がん発見率(%)(透視)	がん発見率(%)(total)
	経鼻	経口						
2013年度	244(0)	206(5)	450(5)	312(0)	762(5)	1.11	0.00	0.66
2014年度	389(1)	410(2)	799(3)	152(0)	951(3)	0.38	0.00	0.32
2015年度	458(0)	390(2)	848(2)	105(0)	953(2)	0.24	0.00	0.21
2016年度	541(1)	393(2)	934(3)	94(0)	1,028(3)	0.32	0.00	0.29
2017年度	678(0)	425(4)	1,103(4)	ー	1,103(4)	0.36	ー	0.36

(　)内は発見された胃がん数

大腸がん検診	便潜血検査		要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	がん	がん発見率(%)
	件数	陽性数						
2013年度	781	73	73	9.3	37	50.7	2	0.26
2014年度	962	162	157	16.3	121	77.0	1	0.10
2015年度	995	145	140	14.9	100	71.4	5	0.50
2016年度	1,034	128	117	11.3	75	64.1	4	0.39
2017年度	1,077	121	117	10.9	62	53.0	1	0.09

前立腺がん検診	PSA		要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	がん	がん発見率(%)
	件数	陽性数						
2015年度	215	8	8	3.7	6	75.0	1	0.50
2016年度	255	11	7	2.7	6	85.7	0	0.00
2017年度	241	15	8	3.3	8	100	1	0.41

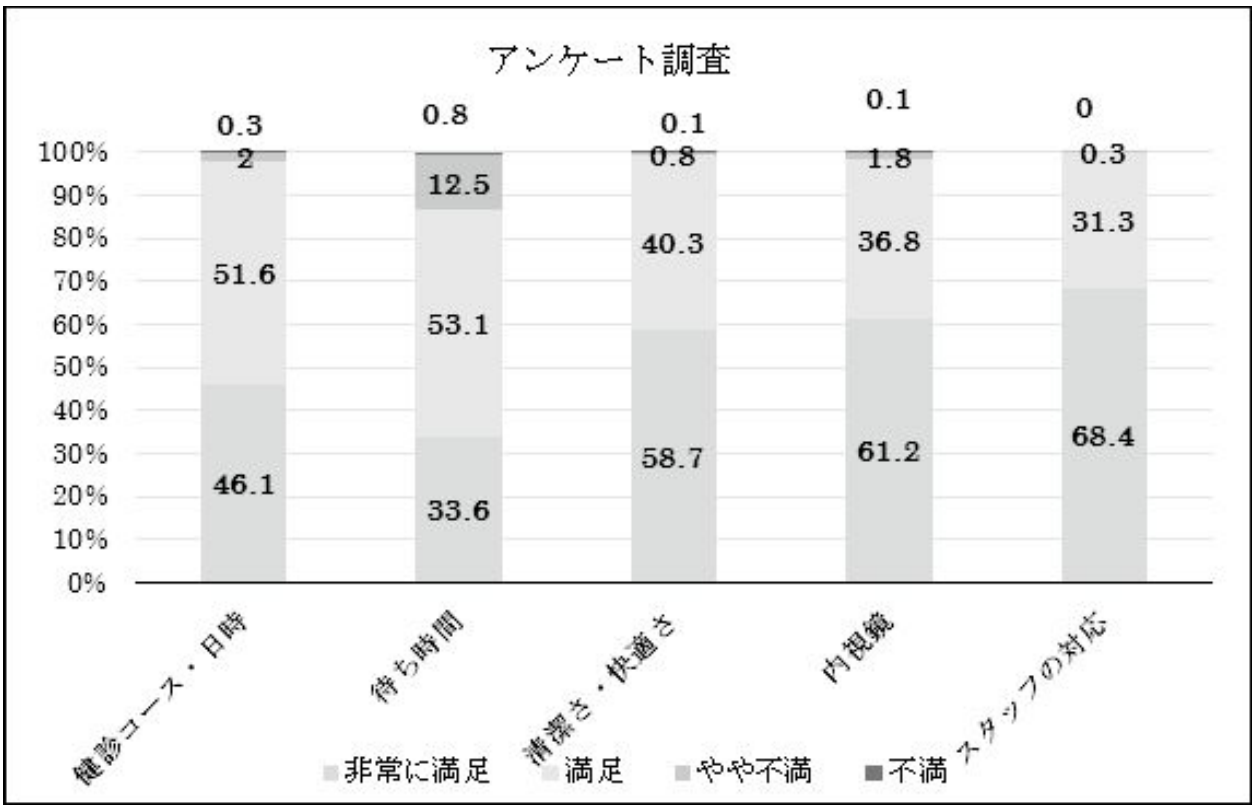
子宮がん検診	子宮頚部細胞診		要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	がん	がん発見率(%)
	件数	陽性数						
2015年度	172	4	4	2.3	4	100	0	0.00
2016年度	173	3	3	1.7	3	100	1(CIN3)	0.58
2017年度	209	1	1	0.5	1	100	0	0.00

乳がん検診	マンモグラフィー検査		要精検者数	要精検率(%)	精検受診者数	精検受診率(%)	がん	がん発見率(%)
	件数	陽性数						
2015年度	248	99	99	39.9	86	86.9	0	0.00
2016年度	239	69	69	28.9	50	72.5	1	0.42
2017年度	278	80	80	28.8	61	76.3	1	0.36

PET検診	件数	発見腫瘍
2014年度	11	0
2015年度	47	2 (肺癌1、乳癌1)
2016年度	65	0
2017年度	79	0

健診で発見された癌（まとめ）

	咽喉頭癌	食道表在癌	早期胃癌	十二指腸癌	大腸癌	乳癌	子宮癌	肺癌	前立腺癌	その他の癌
2013年度	1	1	5	0	2	0	0	0	0	0
2014年度	1	1	3	0	1	1	0	1	0	0
2015年度	0	1	2	0	3	1	0	1	1	白血病1
2016年度	0	0	3	2	4	1	1	0	0	0
2017年度	1	0	4	0	1	1	0	0	1	甲状腺2、膀胱1、胆嚢1、胸腺1



□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者	演題	学会名		
研究会	前川高天	胃内視鏡検診におけるHP感染診断	京都消化器医会定例学術講演会	2017.2.11	京都
研究会	前川高天	ジェネラリスト・消化器内科医のための H. Pylori 感染症の診断と治療	ジャネラリスト・一般内科・専門医のための消化器エキスパートセミナー	2017.3.31	京都
研究会	前川高天	消化性潰瘍（胃・十二指腸潰瘍）-ピロリ菌除菌を含む-	(社)日本女性薬剤師会研修講座・薬剤師継続学習通信教育講座	2018.2.11	京都
研究会	前川高天	より良い内視鏡検診の標準的撮影法-基本および応用-	平成29年度がん検診従事者研修会	2018.3.24	京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者	タイトル	巻・ページ	出版社
2017 Guide for the Management of Thalidomide Embryopathy	Tagami T	IV. Internal Medical Care 2. Endocrine and Metabolic Disorders	in press	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業
2017 Guide for the Management of Thalidomide Embryopathy	Maekawa T, Shima N	XI. Problems Encountered in Clinical Settings 4. Considerations for Transnasal Endoscopy of the Gastrointestinal Tract	in press	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業
サリドマイド胎芽症患者の健康,生活実態の諸問題に関する研究 平成29年度総括・分担研究報告書	田上哲也, 島　伸子, 小見山麻紀	(独) 国立病院機構京都医療センターにおける日帰り人間ドック, 健康診断	in press	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業
日本ヘリコバクター学会誌	佐々木誠人、前川高天、西林宏之、他	クラリスロマイシン耐性がヘリコバクター・ピロリ除菌治療に及ぼす影響-他施設共同レトロスペクティブ研究-	9　127ー132	

臨床研究センター



臨床研究センター長
臨床研究企画運営部長(併任)
糖尿病研究部長(併任)
治験管理室長(併任)
研究室長(糖尿病合併症:併任)
島津　章

専門医資格等　日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医
日本糖尿病学会　糖尿病専門医
日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医
専 門 分 野　内科・内分泌代謝・神経内分泌、検査医学

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野
展開医療研究部長	長谷川浩二	日本循環器学会 認定循環器専門医 日本内科学会 認定内科医専門医・指導医 アメリカ心臓協会 専門医（FAHA） アメリカ心臓病学会 専門医（FACC） 日本禁煙科学会認定 禁煙支援医 日本臨床分子医学会 評議員 日本心不全学会 評議員 日本心血管内分泌学会 評議員 国際心臓研究学会(ISHR) 評議員 日本内科学会近畿支部 評議員 日本禁煙科学会 治療分科会長 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 認定NPO法人日本心血管協会理事長 日本動脈硬化学会 禁煙推進部会委員 国際心筋症・心筋炎・心不全学会幹事 国際心血管薬物療法学会（ISCP） 理事長 世界心臓連合タバコ専門家グループ委員 京都大学医学博士 京都大学医学部非常勤講師 大阪医科大学非常勤講師 静岡県立大学客員教授	心不全、虚血性心疾患、心血管危険因子管理・特に禁煙指導、心血管展開医療研究
内分泌代謝高血圧研究部長	浅原　哲子	日本内科学会 認定内科医・指導医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指導医・評議員 日本心血管内分泌代謝学会 評議員 日本糖尿病学会 糖尿病専門医・研修指導医 日本肥満学会 肥満症専門医・指導医・評議員 日本肥満症治療学会 評議員 日本動脈硬化学会 動脈硬化専門医・評議員 日本病態栄養学会 評議員 日本抗加齢医学会 専門医 日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医 日本糖尿病学会近畿支部 評議員 京都大学医学博士 京都大学非常勤講師	糖尿病、肥満症（メタボリックシンドローム）、内分泌、遺伝診療

研究室長（予防医学）	坂根　直樹	日本内科学会 認定医 日本肥満学会 評議員	糖尿病、糖尿病教育
研究室長（先端医療技術開発）	和田　啓道	日本循環器学会 認定循環器専門医 日本内科学会 認定内科医	循環器学、リスクファクター管理、予防医学、臨床研究（バイオマーカー、メタボリックシンドローム、喫煙）、実験医学（心筋梗塞、高血圧性心疾患、血管新生）
研究室長（臨床内分泌代謝）	日下部　徹	日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指導医・評議員 日本糖尿病学会 糖尿病専門医・研修指導医 日本肥満学会 肥満症専門医・指導医・評議員 日本肥満症治療学会 評議員 京都大学医学博士 京都大学客員研究員	糖尿病、肥満症（メタボリックシンドローム）、脂肪萎縮症、内分泌、サルコペニア、遺伝診療
研究室長(情報化推進：併任)	北岡　有喜	日本産科婦人科学会 専門医・指導医 国立病院等総合情報ネットワーク研究会 副会長 京都府がん医療戦略推進会議 がん登録部会長 ITコンソーシアム京都 医療情報化部会長 地方公共団体情報システム機構　経営審議委員会 委員 総務省 地域情報化アドバイザー 総務省 ICT地域マネージャー 独立行政法人情報処理推進機構「先進的IoTプロジェクト支援事業」メンター 京都大学医学博士 同志社大学博士(政策科学)	生殖分子生理学・医療情報学・情報システム学・政策科学・公共政策学
研究室長(分子内分泌代謝：併任)	田上　哲也	日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医，近畿支部評議員 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指導医・教育責任者，評議員 日本甲状腺学会 専門医，評議員 厚生労働省 臨床研修指導医 京都大学医学博士 京都大学 臨床教授・非常勤講師	内科・内分泌代謝 （甲状腺疾患）
研究室長（内分泌系腫瘍：併任）	奥野　博	日本泌尿器科学会 指導医・専門医 日本泌尿器内視鏡学会 代議員 日本生殖医学会 評議員 日本アンドロロジー学会 評議員 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本移植学会 移植認定医 日本内視鏡外科学会 技術認定医 日本泌尿器内視鏡学会 腹腔鏡技術認定医 京都府緩和ケア研修会 修了 京都大学医学博士 京都大学 臨床教授 関西医科大学 臨床教授	男性学 前立腺癌 腹腔鏡手術
研究室長（臨床疫学情報：併任）	小山　弘	日本内科学会 総合内科専門医・認定内科医・指導医	内科一般、内科診断学、医学教育、臨床疫学
研究室長(糖尿病：併任)	河野　茂夫	日本糖尿病学会 糖尿病専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指導医 日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本糖尿病学会 評議員	糖尿病、足病変

研究室長(血管障害：併任)	塚原　徹也	日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医・評議員 日本脳卒中学会 脳卒中専門医・評議員 日本脳卒中の外科学会 技術指導医	脳卒中外科、脳血管障害、脳腫瘍、脳神経外科一般
研究室長(がん医療：併任)	猪飼伊知夫	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 外科専門医・指導医 日本肝胆膵外科学会 評議員・肝胆膵外科高度技能指導医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本肝癌研究会幹事・取扱い規約委員 日本臨床外科学会 評議員 京都大学医学部 臨床教授 京都大学医学博士	肝胆膵外科（肝臓がん、胆道がん、膵臓がん）
研究室長(生命情報科学：併任)	七野　力	厚生労働省による麻酔科標榜許可日本麻酔科学会認定 麻酔科専門医・指導医 日本集中治療医学会認定 集中治療専門医	麻酔科学全般　心臓血管外科手術の麻酔管理 集中治療における呼吸・循環管理
臨床研究企画運営部特別研究員	成瀬　光栄	日本内科学会 指導医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医・指導医 日本糖尿病学会 糖尿病専門医 日本腎臓学会 腎臓専門医・指導医 日本高血圧学会 専門医・指導医	内科・内分泌代謝（副腎疾患）・高血圧
流動研究員	津崎こころ		
流動研究員	田中　将志		
流動研究員	曽和　尚也		
流動研究員	滝川　裕介		

□ 診療（業務）内容

京都医療センターは平成11年3月「内分泌・代謝性疾患」の高度専門医療施設（準ナショナルセンター）として位置づけられ、その研究体制強化の一環として平成15年10月1日付で臨床研究センターが設置されました。国立病院機構の臨床研究体制再構築に伴い、平成20年度から「内分泌・代謝性疾患」にとどまらず、がん診療支援を含めた幅広い分野を臨床研究の活動分野とすることになりました。

今までの研究基盤の上に立ち、内分泌・代謝性疾患に加え、がん医療、成育医療、循環器疾患、腎疾患、感覚器疾患など幅広い医療分野において、他の研究施設や大学には備わっていない当院独自の特性を生かした臨床研究を行う学術機関として位置づけられています。現在、臨床研究センターは、臨床研究企画運営部、内分泌代謝高血圧研究部、糖尿病研究部、展開医療研究部の4部門15研究室から構成され、院内の臨床部門と密接に連携協力し、研究体制の支援、あわせて院外研究員や諸機関と広く協力して、研究施設の効率的運用を図り、医療の向上に資する臨床研究を強力に推進しています。

□ 地域医療連携・広報活動

・伏見内分泌代謝ネットワーク第27回連携の会　2017.5.25　京都
・伏見内分泌代謝ネットワーク第28回連携の会　2017.11.9　京都
・「下垂体疾患の治療薬について気をつけること」
　下垂体患者の会　京都医療講演会　2017.11.11　京都
・「内分泌代謝疾患：間脳下垂体疾患　脳とホルモンによる体の調節」
　京都市委託事業　難病患者医療講演会　2017.12.3　京都
・「下垂体腺腫の薬物療法アップデート」下垂体患者の会　東京医療講演会　2017.7.2　東京
・「下垂体疾患の診療Update」第6回内分泌・代謝疾患セミナー　2017.6.22　大村市
・「患者さんの主体性を高める医療コミュニケーションとは」「病態を意識した糖尿病の薬物療法を考える」
　伏見糖尿病連携学術講演会　2017.11.16　京都　　他

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演　　者	演　　題	講　演　会　名	会　　期
Shimatsu A	Current status of medical treatment of Cushing disease in Japan.	第6回PEMA 2017 The 6th Annual Meeting with PEMA 2017	2017.8.27 韓国
Z.Xu, E. De Jesus, T.Khun, S.Kono, T. Van Binh, S.Twigg	Diabetes Foot in Asia.	第9回アジア糖尿病学会シンポジウム	2017.5.19-2017.5.20 名古屋
R Ohtani , S Nirengi, K Tsuzaki, K Kotani, N Murase, M Sainouchi, Y Kuwata, M Takata, Y Masuda, M Nakamura, N Sakane	HDL subclass and inflammation marker in Alzheimer's disease and mild cognitive impairment: STOP-Dementia project.	47th Society for Neuroscience Annual Meeting	2017.11.11-2017.11.15 Washington DC, USA
N Sakane, T Ohshima, S Nirengi, K Kotani, K Okazaki, J Sato, S Suzuki, S Morita, K Izumi, M Kato, N Ishizuka, M Noda, H Kuzuya	Frequent self-weighing delays or prevents the development of type 2 diabetes in a real- world setting: A subanalysis of Japan Diabetes Outcome Trial-1.	77th American Diabetes Association Scientific Sessions	2017.6.9-2017.6.13 San Diego, USA
Hironobu Umakoshi, Mika Tsuiki, Isao Kurihara, Yoshiyu Takeda, Takamasa Ichijo, Norio Wada, Takuyuki Katabami, Yoshihiro Ogawa, Katsutoshi Takahashi, Masakatsu Sone, Junji Kawashima, Hirotaka Shibata, Toshihiko Yanase, Hiromi Rakugi, Kohei Kamemura, Yuichi Fujii, Mitsuhide Naruse	Clinical Significance of Computed Tomography and Serum Potassium in Subtype Classification of Primary Aldosteronism. (Poster presentation).	ENDO2017	2017.4.1-2017.4.4 Orlando, USA
Yokomoto M, Umakoshi H,Tsuiki M, Ogasawara T,Sasai Y,Hiroshima K,Tagami T,Shimatsu A,Katabami T,Tanabe A,Naruse M	Bone Metastasis in Patients with Malignant Pheochromocytoma and Paraganglioma.	ENDO2017	2017.4.1-4.4 Orlando FL USA
Naruse M,Satoh F,Tanabe A,Ichihara A,Tsuiki M,Katabami T,Nomura M,Tanaka T,Matsuda T,Imai T,Yamada M,Harada T,Kawada N, Takekoshi K	Clinical Trial to Assess the Efficacy and Safety of Metirosine in Patients with Pheochromocytoma/Paraganglioma in Compliance with good Clinical Practice(MCAP-J study).	ENDO2017	2017.4.1-4.4 Orlando FL USA
Hasegawa k	The Effect of Obesity After Smoking Cessation on Cardiovascular Risk Markers.	2th International Conference Obesity &Chronic Diseases (ICOCD)	2017.7.6-2017.7.8 San Francisco, CA, USA
Sayaka Shimada, Maki Komiyama, Hiromichi Wada, Hajime Yamakage, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	Analysis of factors associated with Smoking Relapse: A Retrospective Comparison.	Asian Pacific Society of Cardiology Congress	2017.7.13-2017.7.15 Singapore
H. Wada, M. Suzuki, M. Matsuda, Y. Ajiro, T. Shinozaki, S. Sakagami, K. Yonezawa, M. Shimizu, J. Funada, T. Takenaka, Y. Morita, M. Murakami, M. Abe, M. Akao, K. Hasegawa	Impact of chronic kidney disease on biomarkers predicting severity of coronary artery disease in patients with suspected coronary heart disease: baseline data from the ANOX study (P659).	European Society of Cardiology Congress 2017	2017.8.26-2017.8.31 Barcelona, Spain
Hiromichi Wada, Masahiro Suzuki, Morihiro Matsuda, Yoichi Ajiro, Tsuyoshi Shinozaki, Satoru Sakagami, Kazuya Yonezawa, Masatoshi Shimizu, Junichi Funada, Takashi Takenaka, Yukiko Morita, Toshihiro Nakamura, Kazuteru Fujimoto, Hiromi Matsubara, Toru Kato, Takashi Unoki, Daisuke Takagi, Shuichi Ura, Kyohma Wada, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Akira Shimatsu, Kazuhiko Kotani, Noriko Satoh-Asahara, Mitsuru Abe, Masaharu Akao and Koji Hasegawa	Vascular Endothelial Growth Factor-C Levels and Cardiovascular and All-cause Mortality in Patients With Suspected Coronary Artery Disease: From the ANOX Study Circulation. 2017;136:A13751. (Abstract 13751).	American Heart Association Scientific Sessions 2017	2017.11.12-2017.11.15 Anaheim, CA, USA

他647件

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書(雑誌)名・巻・号・頁数
Shimatsu A, Ishii H, Nishinaga H, Murai A, Chihara K.	Safety and effectiveness of long-term growth hormone therapy in Japanese patients with adult growth hormone deficiency: a postmarketing, multicenter, observational study.	Endocrine Journal, 64(7): 651-662, July 28, 2017
Ohue-Kitano R, Yasuoka Y, Goto T, Kitamura N, Si-Bum P, Kishino S, Kimura I, Kasubuchi M, Takahashi H, Li Y,Yeh Y-S, Jheng H-F, Iwase M, Tanaka M, Masuda S, Inoue T, Yamakage H, Kusakabe T, Tani F, Shimatsu A, Takahashi N, Ogawa J, Satoh-Asahara N, Kawasa T.	α-Linolenic acid-dereved metabolites from gut lactic acid bacteria induce differentiation of anti-inflammatory M2 macrophages through G prptein-coupled receptor 40.	FASEB J,2018 ; 32(1):304-308
Masuda S, Tanaka M, Inoue T, Kitano R, Yamakage H, Muranaka K, Kusakabe T, Shimatsu A, Hasegawa K, Satoh-Asahara N.	Chemokine(C-X-C motif) ligand 1 is a myokine induced by palmitate and is required for myogenesis in mouse satellite cells.	Acta Physiologica 2018;Mar; 222(3); [Epub ahead of print]
Tanaka M, Hajime Y, Masuda S, Inoue T, Kitano Ohue-Kitano R, Araki R, Matoba Y, Saito M, Nagaoka T, Yonezawa K, Tanaka T, Suzuki M, Sawamura M, Nishimura M, Odori S, Wada H, Kotani K, Kusakabe T, Shimatsu A, Hasegawa K, Satoh-Asahara N.	Serum soluble TREM2 is a potential novel biomarker of cognitive impairment in Japanese non-obese diabetic patients.	Diabetes & Metabolism 2017; Jul31; S126-3636(17)30470-30476, [Epub ahead of print]
Nirengi S, Sakane N, Amagasa S, Wakui S, Homma T, Kurosawa Y, Hamaoka T.	Seasonal differences in brown adipose tissue density and pulse rate variability in a thermoneutral environment.	Journal of Physiological Anthropology 2018 ; 37(1) : 6
Sakane N.	Diabetes prevention in the real world: Insights from the JDPP and J-DOIT1.	J Gen Fam Med 2017 ; 18(6) : 325-330.
Yokomoto-Umakoshi M, Umakoshi H, Tsuiki M, Ogasawara T, Hamanaka-Hiroshima K, Tanabe A, Tagami T, Shimatsu A, Naruse M.	Paraganglioma as a risk factor for bone metastasis.	Endocr J. 2017 Nov 29. doi: 10.1507/endocrj.EJ17-0368. [Epub ahead of print]
Naruse M, Umakoshi H, Tsuiki M, Yokomoto M, Tagami T, Tanabe A, Shimatsu A.	The Latest Developments of Functional Molecular Imaging in the Diagnosis of Primary Aldosteronism.	Horm Metab Res. 2017 Dec;49(12):929-935. doi: 10.1055/s-0043-120672. Epub 2017 Nov 23.
Umakoshi H, Tsuiki M, Takeda Y, Kurihara I,Itoh H, Katabami T, Ichijo T, Wada N, Yoshimoto T, Ogawa Y, Kawashima J, Sone M, Inagaki N, Takahashi K, Watanabe M, Yuichi M, Kobayashi H, Shibata H, Kamemura K Otsuki M, Fujii Y, Yamamto K, Ogo A, Yanase T, Suzuki T Naruse M.	Significance of Computed Tomography and Serum Potassium in Predicting Subtype Diagnosis of Primary Aldosteronism.	The Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism 2018 ;103(3):900-908
Naruse M,Satoh F,Tanabe A,Okamoto T,Ichihara A,Tsuiki M,Katabami T,Nomura M,Tanaka T,Matsuda T,Imai T,Yamada M,Harada T,Tanaka T,matsuda T,Imai T,Yamada M,Harada T,Kawata N,Takekoshi K.	Efficacy and safety of metyrosine in pheochromocytoma/paraganglioma:a multi-center trial in japan.	Endocrine J.2018;65(3):359-371
Komiyama M, Wada H, Ono K, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Shimada S, Akao M, Morimoto T, Shimatsu A, Takahashi Y, Sawamura T, Hasegawa K.	Smoking cessation reduces the lectin-like low-density lipoprotein receptor index, an independent cardiovascular risk marker of vascular inflammation.	Heart Vessels. 2017 Jul 31. doi: 10.1007/s00380-017-1026-z. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 28761986.

他249件

□ 獲得した競争的研究資金

項　目	研究課題	研究者名	研究事業者名	主任/分担	主任/分担　研究者直接経費金額
日本医療研究開発機構研究費	簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効率的なハイリスク患者抽出方法の確立	和田　啓道	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	主任	723.2858万円
日本医療研究開発機構研究費	血管のメガバイオロジー：血流センシングと脳動脈瘤形成の分子機構	福田　俊一	革新的先端研究開発支援事業	主任	829.1608万円
日本医療研究開発機構研究費	重症性原発性アルドステロン症の診療の質向上に資するエビデンス構築	成瀬　光栄	難治性疾患実用化研究事業	主任	1388.0342万円
日本医療研究開発機構研究費	認知症進行の抑制を目的とした糖尿病管理の指針等の開発に関する研究ー系統的レビューに基づく提言	浅原　哲子	長寿・障害総合研究事業　認知症研究開発事業	主任	130.7693万円
厚生労働科学研究費	指定難病制度の公平性を担保するための方法論の開発	島津　章	難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）	分担	60万円
厚生労働科学研究費	間脳下垂体機能障害に関する研究	島津　章	難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）	分担	15万円

厚生労働科学研究費	副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	成瀬　光栄	難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）	分担	40万円
厚生労働科学研究費	ｻﾘﾄﾞﾏｲﾄﾞ胎芽病患者の健康、生活実態の諸問題に関する研究	田上　哲也	医薬品・医療機器等ﾚｷﾞｭﾗﾄﾘｰｻｲｴﾝｽ政策研究事業	分担	150万円
日本学術振興会科学研究費	ポーションコントロールプレートを活用した教育効果の評価及び普及に関する研究（15K00893）	山内　惠子	基盤研究（C）	主任	62万円
日本学術振興会科学研究費	ポーションコントロールプレートを活用した教育効果の評価及び普に関する研究（15K00893）	坂根　直樹	基盤研究（C）	分担	58万円
日本学術振興会科学研究費	時間栄養学を活用した交代勤務者のための食事調査票と指導法開発についての研究　（15K00906）	大原（津崎）こころ	基盤研究（C）	主任	105万円
日本学術振興会科学研究費	骨格筋の恒常性維持にかかるNotch2シグナルの役割の解明　（15K08211）	増田　慎也	基盤研究（C）	主任	76.2433万円
日本学術振興会科学研究費	家族や地域を巻き込んだ糖尿病予防プログラムの開発と効果検証（15K08580）	坂根　直樹	基盤研究（C）	主任	135万円
日本学術振興会科学研究費	骨髄・単球由来分子を標的とした肥満・糖尿病合併症の新規診断指標と治療戦略の確立　（15K08634）	浅原（佐藤）哲子	基盤研究（C）	主任	110万円
日本学術振興会科学研究費	心筋細胞肥大の核内情報伝達機構を標的とした創薬による新規心不全療法の確立　（15K09108）	長谷川　浩二	基盤研究（C）	主任	120万円
日本学術振興会科学研究費	インプラント埋込用装置を応用した顎口腔ジストニアへのボツリヌス毒素注射方法の確立　（15K09370）	吉田　和也	基盤研究（C）	主任	80万円
日本学術振興会科学研究費	脳動脈瘤発生における血行力学的因子の役割検討および瘤形成抑制への試みに関する研究　（15K10323）	福田　俊一	基盤研究（C）	主任	116万円
日本学術振興会科学研究費	終の暮しといのちを支えるホームホスピスの生活者のQOLとQODに影響を与える要因　（15K15903）	片山　知美	挑戦的萌芽研究	主任	80万円
日本学術振興会科学研究費	「健康サポート」薬局」における簡便で有効な健康支援プログラムの開発と効果の検証　（16K08434）	岡田　浩	基盤研究（C）	主任	90万円
日本学術振興会科学研究費	独身男性のための心血管疾患予防食事支援プログラムの開発と効果検証（16K08900）	河口　八重子	基盤研究（C）	主任	104万円
日本学術振興会科学研究費	単球機能を標的とした肥満・糖尿病合併CKD進展予防の為の新規バイオマーカーの確立　（16K08959）	山陰　一	基盤研究（C）	主任	100万円
日本学術振興会科学研究費	TREM2に着目した肥満・糖尿病合併認知症予防の為の新規評価系・治療戦略の開発　（16K09276）	田中　将志	基盤研究（C）	主任	90万円
日本学術振興会科学研究費	運動は褐色脂肪を増量するか：脂質代謝異常症への治療応用　（16K16572）	二連木　晋輔	若手研究(B)	主任	60万円
日本学術振興会科学研究費	多発性内分泌腫瘍症1型の腫瘍発生機序の分子基盤の解明とiPS細胞の樹立（16K19563）	垣田　真以子	若手研究(B)	主任	120万円
日本学術振興会科学研究費	組織学的絨毛膜羊膜炎の早期診断バイオマーカーとしてのプレセプシンの有用性　（16K19700）	北　誠	若手研究(B)	主任	50万円
日本学術振興会科学研究費	ストレプトゾトシン糖尿病における骨格筋AMPKの代謝調節作用と病態生理的意義　（16K19549）	横田　繁史	若手研究(B)	主任	140万円
日本学術振興会科学研究費	DOHaD概念に基づくω3不飽和脂肪酸摂取による新規生活習慣病発症予防法の開発　（16H07498）	井上　隆之	研究活動スタート支援	主任	110万円
日本学術振興会科学研究費	運動は褐色脂肪を増量・活性化するか？新規褐色脂肪評価法を用いた検討（17J11622）	二連木　晋輔	特別研究員奨励費	主任	110万円
日本学術振興会科学研究費	買い物支援事業を活用した高齢者及び買い物弱者への効果的な食生活支援に関する研究　（17K08943）	藤原　真治	基盤研究（C）	主任	100万円
日本学術振興会科学研究費	1型糖尿病の心理社会的及び経済的側面と糖尿病アウトカムに関する前向きコホート研究　（17K08944）	吉岡　ふみ	基盤研究（C）	主任	140万円
日本学術振興会科学研究費	「平衡障害に対する新規治療法の開発」-iPS細胞による前庭再生医療-（17K11349）	田浦　晶子	基盤研究（C）	主任	115万円

日本学術振興会科学研究費	継続的rSO2計測に基づいたテーラーメード型心肺停止後ケアの開発（17K11603）	西山　慶	基盤研究(C)	主任	60万円
日本学術振興会科学研究費	肺非結核性抗酸菌症の病態予測バイオマーカーの探索　（17K16067）	藤田　浩平	若手研究(B)	主任	50万円
日本学術振興会科学研究費	マイクロRNAによる原発性アルドステロン症の新規病型診断バイオマーカーの確立（17K16173）	馬越　洋宜	若手研究(B)	主任	240万円
日本学術振興会科学研究費	モデル動物を用いた糖・脂質代謝調節における異所性脂肪蓄積の病態生理的意義の解明　（17K09827）	日下部　徹	基盤研究(C)	主任	140万円
日本学術振興会科学研究費	アミロイドβ排泄機構を活用した認知症予防に関する研究：ストップ認知症プロジェクト　（17K19871）	大谷　良	挑戦的研究（萌芽）	主任	250万円
日本学術振興会科学研究費	胎内から始める食育のための妊娠期栄養とエピゲノム情報のデータベース構築　（15H02901）	坂根　直樹	基盤研究（B）分担	分担	200万円
国立高度専門医療センター等研究費	難治性副腎腫瘍の疾患レジストリーと診療実態に関する検討	成瀬　光栄	国際開発費27指1402	分担	60万円
国立高度専門医療センター等研究費	1-2機能性農林水産物・食品による高齢者（健常者・病者）のロコモティブシンドロームおよび脳機能改善効果の検証	坂根　直樹	SIP「次世代農林水産業創造技術」委託試験研究	分担	409.5万円

他

遺伝診療部



診療部長
髙倉　賢二

専門医資格等　日本産婦人科腫瘍学会専門医
日本産科婦人科内視鏡学会　評議員
日本内分泌学会　評議員
日本受精着床学会　評議員
京都大学　医学博士
京都大学医学部　非常勤講師
京都大学医学部　臨床教授
関西医科大学　臨床教授

専 門 分 野　婦人科腫瘍
産婦人科手術
内分泌疾患の診断・治療

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
顧　　問	三宅　秀彦	日本産科婦人科学会　専門医 指導医 日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会　臨床遺伝専門医　指導医 日本人類遺伝学会　臨床細胞遺伝学認定士 日本周産期・新生児学会　周産期（母体・胎児）専門医 日本人類遺伝学会：評議員　広報委員会委員長　教育推進委員 臨床細胞遺伝学セミナー実行委員 日本遺伝カウンセリング学会：理事・評議員 日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会共同認定　臨床遺伝専門医制度委員会委員 日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会共同認定　認定遺伝カウンセラー制度委員会　委員 日本家族性腫瘍学会　広報委員 お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻 遺伝カウンセリングコース　教授	産婦人科学 臨床遺伝学	臨床遺伝学（遺伝カウンセリング）・周産期医療
室　　長	浅原　哲子	日本内科学会　認定内科医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医・評議員 日本心血管内分泌代謝学会　評議員 日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 日本肥満学会　肥満症専門医・指導医・評議員 日本肥満症治療学会　評議員 日本動脈硬化学会　動脈硬化専門医・評議員 日本病態栄養学会　評議員 日本抗加齢医学会　専門医 日本人類遺伝学会　臨床遺伝専門医 日本糖尿病学会近畿支部　評議員 京都大学医学博士 京都大学非常勤講師	糖尿病、肥満症（メタボリックシンドローム）、内分泌、遺伝診療	糖尿病、肥満症、内分泌疾患、遺伝性疾患全般

医　　師	日下部　徹	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医・指導医 日本肥満学会　肥満症専門医・指導医 京都大学大学院医学研究科　客員研究員 京都大学　医学博士	内科、内分泌・代謝	肥満症、糖尿病、サルコペニア
医　　師	橋本　有紀子	日本小児科学会専門医 日本人類遺伝学会　臨床遺伝専門医	小児科全般、小児内分泌、先天代謝異常、新生児、遺伝診療	小児内分泌、先天異常
臨床検査技師 認定遺伝カウンセラー	飛騨　美希	日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会認定遺伝カウンセラー	検体検査、遺伝カウンセリング	遺伝性疾患全般
認定遺伝カウンセラー	小西　陽介	日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会認定遺伝カウンセラー	遺伝カウンセリング	遺伝性疾患全般
医　　師	北　　誠	日本小児科学会専門医 新生児蘇生法「専門」コースインストラクター	未熟児・新生児、小児全般	先天異常
医　　師	馬越　洋宜	日本内科学会　認定内科医 内分泌代謝内科専門医 臨床研修指導医	内科、内分泌・代謝	高血圧、副腎疾患
医　　師	山口　　建	日本産科婦人科学会専門医 日本産科婦人科学会指導医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 婦人科腫瘍専門医 臨床研修指導医 京都産婦人科医会　理事 日本臨床分子形態学会 評議員 日本エンドメトリオーシス学会 幹事 京都大学　非常勤講師 京都大学　医学博士	産婦人科一般	婦人科腫瘍、がんゲノム
医　　師	川崎　　薫	日本産科婦人科学会専門医 日本周産期・新生児医学会　周産期専門医（母体・胎児） 日本産婦人科医会　研修委員会委員 産婦人科ガイドライン婦人科外来編2020作成委員 日本母体救命システム普及協議会　J-MELS ベーシックコースインストラクター 日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コースインストラクター 女性のヘルスケアアドバイザー 臨床研修指導医	産婦人科一般	合併症妊娠 胎児異常 周産期救急
医　　師	住友　理浩	日本産科婦人科学会専門医・指導医・日本がん治療認定医機構　がん治療認定医・日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法専門コースインストラクター・ALSO-Japan認定インストラクター	産婦人科一般	婦人科腫瘍、 周産期救急、 リスクマネージメント
医　　師	和田 美智子	日本産科婦人科学会専門医・日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）・日本がん治療認定医機構　がん治療認定医	産婦人科一般	周産期一般

□ 診療科の特徴

施設認定等	臨床遺伝専門医制度委員会　認定研修施設

1. 2014年に発足した新しい診療科です。京都府下には遺伝診療科を有する病院が3施設ありますが、当院は京都市および京都府南部の遺伝診療に貢献しています。
2. 臨床遺伝専門医　指導医1名と臨床遺伝専門医2名を含む11名の医師と2名の認定遺伝カウンセラーが在籍しています。また、臨床遺伝専門医の認定研修施設であり、他施設に在籍する医師の研修も行っています。
3. 全ての疾患領域を対象にカウンセリングを行っています。
4. 院内の各診療科および地域との連携に努め、患者さんがよりよい医療を受けられるようにお手伝いをします。

□ 主な対象疾患

遺伝性乳がん卵巣がん症候群、リンチ症候群、家族性大腸ポリポーシス、神経線維腫症、多発性内分泌腫瘍症、褐色細胞腫、網膜芽細胞腫　などの家族性腫瘍
ファブリー病、ポンペ病、高フェニルアラニン血症、ムコ多糖症、家族性高コレステロール血症、脂肪萎縮症、性分化疾患、尿崩症、ジテルマン症候群、バーター症候群、甲状腺ホルモン不応症　などの代謝疾患・内分泌疾患
ブルガダ症候群、QT延長症候群、エーラス・ダンロス症候群、マルファン症候群およびその類縁疾患、軟骨無形成症、骨形成不全症　などの循環器および骨結合組織疾患
脊髄性筋萎縮症、ハンチントン病、デュシェンヌ/ベッカー型筋ジストロフィー、ミトコンドリア病、副腎白質ジストロフィー、家族性アルツハイマー病、脆弱X症候群　などの神経筋疾患
その他、遺伝性疾患全般

□ 診療（業務）内容

1. 診断を目的として行われる遺伝学的検査のサポートを行います。
2. 遺伝性疾患と診断された後の心理的サポートや情報提供を行い、現在の状況や将来のリスクに適応するためのサポートを行います。
3. 家系内に遺伝性疾患と診断された方がおられる場合の、ご家族の方々の発症リスクや、発症前診断についての検討や情報提供を行い、その人らしい選択ができるようにサポートをします。
4. 保因者診断についての検討とサポートを行います。

□診療実績（平成29年度）

外来患者数

年間総患者数	年間初診患者数
27名	21名

主な疾患の件数など

腫瘍	神経筋	内分泌代謝
18件	3件	2件
循環器	小児	周産期
2件	1件	1件

□ 地域医療連携・広報活動

地域における遺伝医療の啓発

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	北 誠、阿水 利沙、石塚 哲也、黒須 英雄、河田 興、浅井 康一、秋山 祐一 頻回の嘔吐を特徴とし発作時脳波で前頭葉の焦点由来と考えられたPanayiotopoulos症候群の1例 第30回近畿小児科学会　2017.3.12　大阪

国際学会	Hironobu Umakoshi, Mika Tsuiki, Isao Kurihara, Yoshiyu Takeda, Takamasa Ichijo, Norio Wada, Takuyuki Katabami, Yoshihiro Ogawa, Katsutoshi Takahashi, Masakatsu Sone, Junji Kawashima, Hirotaka Shibata, Toshihiko Yanase, Hiromi Rakugi, Kohei Kamemura, Yuichi Fujii, Mitsuhide Naruse Clinical Significance of Computed Tomography and Serum Potassium in Subtype Classification of Primary Aldosteronism. (Poster presentation) ENDO 2017, the Endocrine Society's 99th Annual Meeting（ポスター） 2017.4.2 Orlando, USA
国内学会	馬越洋宜、立木美香、田上哲也、栗原勲、伊藤裕、武田仁勇、和田典夫、一城貴政、方波見卓行、成瀬光栄 原発性アルドステロン症の病型診断におけるCTの意義の再評価 第90回日本内分泌学会総会（口演） 2017.4.21 京都
国内学会	住友理浩、小椋恵利、高倉賢人、中木絢子、川村洋介、和田美智子、宇治田麻里、髙尾由美、髙倉賢二、小西郁生 抗凝固療法中にも関わらず腫瘍減量術後に広範な脳梗塞を発症したTrousseau 症候群合併卵巣癌の1例 第69回日本産科婦人科学会学術講演会 2017.4.15 広島
国内学会	和田美智子、髙尾由美、小椋恵利、高倉賢人、中木絢子、川村洋介、宇治田麻里、住友理浩、髙倉賢二、小西郁生 妊娠29週子宮内胎児死亡を契機に糖尿病ケトアシドーシスと診断された劇症1型糖尿病の1例 第69回日本産科婦人科学会学術講演会 2017.4.15 広島
国内学会	山陰一、日下部徹、小谷和彦、山田努、荒木里香、岡嶋泰一郎、大石まり子、島津章、浅原哲子 肥満症患者における心血管疾患発症リスク因子としての高尿酸血症-多施設共同前向き肥満症コホート- 第90回日本内分泌学会 2017.4.20 京都
国内学会	日下部徹、山陰一、小谷和彦、山田努、荒木里香、岡嶋泰一郎、大石まり子、島津章、浅原哲子 肥満症患者における心血管疾患発症リスク因子としての高尿酸血症-多施設共同前向き肥満症コホート- 第60回日本糖尿病学会年次学術集会 2017.5.19 名古屋
国内学会	田中将志、山陰一、増田慎也、井上隆之、北野隆司、村中和哉、小鳥真司、和田啓道、小谷和彦、日下部徹、島津章、長谷川浩二、浅原哲子 糖尿病における認知機能低下・認知症の発症予知バイオマーカーの探索-TREM2の病態生理学的意義の解明- 第60回日本糖尿病学会年次学術集会 2017.5.20 名古屋
国内学会	北誠, 桑田康弘, 村瀬永子, 秋山祐一, 臼井健 95.2%の片アレルの欠失を同定した新規PRRT2変異の発作性運 動誘発性ジスキネジア(PKD)兄弟例 第59回日本小児神経学会学術集会 2017.6.16 大阪
国内学会	小椋恵利、住友理浩、髙倉人、中木絢子、川村洋介、和田美智子、宇治田麻里、高尾由美、髙倉賢二、小西郁生 分娩後16時間以上経過してから発症した外陰部血腫に対し経カテーテル動脈塞栓術が有効であった1例 第53回日本周産期・新生児医学会学術集会 2017.7.18 横浜
国内学会	川村洋介、小椋恵利、髙倉賢人、和田美智子、住友理浩、高尾由美、髙倉賢二、小西郁生 初回手術後にFDG-PET/CTで集積亢進を示し、卵巣境界悪性腫瘍再発と鑑別が困難であった肉芽腫の1例 第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2017.7.27 熊本
国内学会	高尾由美、小椋恵利、髙倉賢人、川村洋介、和田美智子、住友理浩、髙倉賢二、小西郁生 子宮平滑筋肉腫10例に関する検討 第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2017.7.29 熊本
その他	中村しほり、山口建、山村幸、小椋恵利、松坂優、高倉賢人、川﨑薫、宇治田麻里、高尾由美、高倉賢二、小西郁生 術前に子宮内膜症の悪性転化との鑑別が困難であった嚢胞性腺筋腫 研修医・修練医のためのサマーセミナー2017 2017.8.11 京都
国内学会	山村幸、高倉賢二、山口建、小椋恵利、松坂優、高倉賢人、川﨑薫、宇治田麻里、高尾由美、小西郁生、大堂さやか、西松佳代、渡邊幸香 平滑筋腫の併存により術前に嚢胞性腺筋腫の悪性転化が疑われた症例 Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging 2017 2017.9.2 淡路
国内学会	小椋 恵利、山口 建、山村 幸、松坂 優、髙倉 賢人、川﨑 薫、宇治田 麻里、髙尾由美、髙倉 賢二、小西 郁生 子宮内にAVM様の富血管性腫瘤を認めPSTTとの鑑別を要したintramural pregnancyの一例 Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging 2017 2017.9.2 淡路
国内学会	山口 建、宮本 泰斗、伊藤 美幸、安彦 郁、堀江 昭史、馬場 長、松村 謙臣、万代 昌紀 肥満合併子宮体癌患者に対する腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術の後方視的検討 第57回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2017.9.7 岡山
国際学会	Ken Yamaguchi, Kaoru Abiko, Naoya Kishimoto, Tsukasa Baba, Sachiko Kitamura, Akihito Horie, Miyuki Ito, and Masaki Mandai Robot-assisted radical hysterectomy after neoadjuvant chemotherapy: A single institutional retrospective study 18th APAGE Annual Congress 2017 2017.9.9 岡山
国内学会	田中将志、山陰一、増田慎也、井上隆之、北野隆司、村中和哉、小鳥真司、村瀬永子、大谷良、中村道三、和田啓道、小谷和彦、日下部徹、島津章、長谷川浩二、浅原哲子 糖尿病・肥満における新規認知症予知バイオマーカーの検討 – TREM2の病的意義の解明- 第38回日本肥満学会 2017.10.7 大阪
国内学会	日下部徹、山陰一、村中和哉、小谷和彦、山田努、荒木里香、岡嶋泰一郎、大石、まり子、島津章、浅原哲子 肥満症患者における心血管疾患発症リスク因子としての高尿酸血症一多施設共同前向き研究一 第38回日本肥満学会 2017.10.7 大阪
国内学会	北野隆司、井上亮、塚原隆充、田中将志、増田慎也、井上隆之、山陰一、日下部徹、長谷川浩二、島津章、浅原哲子 日本人2型糖尿病におけるPICRUSt予測メタゲノム解析を用いた腸内細菌叢の病態生理学的意義の解明 第38回日本肥満学会 2017.10.8 大阪
国内学会	髙倉賢人、山口建、山村幸、小椋恵利、宇治田麻里、川﨑薫、高尾由美、髙倉賢二、小西郁生 卵巣子宮内膜症性嚢胞に対してジエノゲスト投与中に卵巣明細胞癌を発症した一例 第55回日本癌治療学会学術集会 2017.10.20 横浜
研究会	山口建、高倉賢人、川﨑薫、山村幸、小椋恵利、松坂優、宇治田麻里、高尾由美、高倉賢二、浅原哲子、日下部徹 、飛騨美希、小西陽介、三宅秀彦、橋本有紀子、北誠 母体血を用いた出生前遺伝学的検査（NIPT）における遺伝カウンセリングの重要性 京都産婦人科学会学術集会 2017.10.21 京都
国内学会	馬越洋宜、武田仁勇、栗原勲、 方波見卓行、一城貴政、和田典男、吉本貴宣、河島淳司、曽根正勝、高橋克敏、立木美香、成瀬光栄 原発性アルドステロン症の病型診断におけるCTと血清カリウムの意義 第40回日本高血圧学会総会（口演） 2017.10.21 京都
国内学会	馬越洋宜、立木美香、武田仁勇、栗原勲、方波見卓行、一城貴政、和田典男、成瀬光栄 原発性アルドステロン症における副腎静脈サンプリング適応の精緻化：CTと血清カリウムを用いた分類 第21回日本臨床内分泌病理学会学術総会（シンポジウム） 2017.10.28 東京

その他	馬越洋宜 内分泌性高血圧を見逃すな! 伏見内分泌代謝ネットワーク第28回連携の会　2017.11.9　京都
その他	高倉賢人、山口建、山村幸、小椋恵利、松坂優、川﨑薫、宇治田麻里、高尾由美、高倉賢二 卵巣癌との鑑別が困難であった大量腹水を伴う卵巣甲状腺腫の一例 Gynecology Expert Meeting 2017　2017.11.10　京都
その他	川﨑薫、山村幸、小椋恵利、松坂優、髙倉賢人、宇治田麻里、山口建、高尾由美、髙倉賢二、小西郁生 当院で緊急頸管縫縮術を施行した11例の後方視的検討 京都周産期カンファレンス　2017.11.18　京都
国内学会	馬越洋宜、立木美香、武田仁勇、栗原勲、方波見卓行、一城貴政、和田典男、成瀬光栄 CT所見と血清カリウムを用いた副腎静脈サンプリング適応の精緻化 第27回臨床内分泌代謝Update（ポスター）　2017.11.24　神戸
国際学会	Yu Matsuzaka, Ken Yamaguchi, Sachi Yamamura, Eri Ogura, Masahito Takakura, Mari Ujita, Kaoru Kawasaki, Yumi Takao, Kenji Takakura, Ikuo Konishi Primary retroperitoneal squamous cell carcinoma: a case report with review of the literature The 5th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO 2017)　2017.12.1　東京
国内学会	和田美智子、浅原哲子、馬越洋宣、橋本有紀子、北誠、小西陽介、飛騨美希、日下部徹、三宅秀彦、川崎薫、山口建、山賀郁、山崎誠二、高倉賢二、小西郁生 当院でのHBOC診療体制の構築 第3回日本産科婦人科遺伝診療学会　学術講演会　2017.12.15　兵庫
国内学会	馬越洋宜、立木美香、武田仁勇、栗原勲、方波見卓行、一城貴政、和田典男、成瀬光栄 副腎静脈サンプリングの適応の精緻化：局在診断と術後アウトカムの観点から 第21回日本心血管内分泌代謝学会学術総会（シンポジウム）　2017.12.9　大阪
国内学会	浅原哲子 肥満症・糖尿病の動脈硬化予防のためのリスク評価系の構築とω3多価不飽和脂肪酸の効果 第21回日本病態栄養学会年次学術集会　2018.1.14　京都
その他	馬越洋宜 副腎疾患をきわめる 平成30年度内分泌代謝性疾患専門医研修会　2018.2.2　京都
その他	浅原哲子 心血管病予防を目指した糖尿病の治療戦略 福岡糖尿病学術講演会～女性糖尿病医としてのキャリアを考える～　2018.2.17　福岡
国内学会	小西 陽介、飛騨美希、日下部徹、橋本有紀子、馬越洋宜、北誠、川崎薫、和田美智子、山口 建浅原哲子、三宅 秀彦、高倉賢二、小西郁生 京都医療センター遺伝診療部における4年間の取り組み 日本医療マネジメント学会　第15回　京滋支部学術集会　2018.2.17　京都

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書雑誌名
Ohue-Kitano R, Yasuoka Y, Goto T, Kitamura N, Si-Bum P, Kishino S, Kimura I, Kasubuchi M, Takahashi H, Li Y,Yeh Y-S, Jheng H-F, Iwase M, Tanaka M, Masuda S, Inoue T, Yamakage H, Kusakabe T, Tani F, Shimatsu A, Takahashi N, Ogawa J, Satoh-Asahara N, Kawasa T. α-Linolenic acid-dereved metabolites from gut lactic acid bacteria induce differentiation of anti-inflammatory M2 macrophages through G prptein-coupled receptor 40. FASEB J,2018 ; 32(1):304-308
Hashimoto K, Nishihara E, Matsumoto M, Matsumoto S, Nakajima Y, Tsujimot K, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Noh JY, Ito K, Miyauchi A, Mori M, Yamada M, Ogawa Y. Sialic Acid-Binding Immunoglobulin-Like Lectin1 as a Novel Predictive Biomarker for Relapse in Graves' Disease: A Multicenter Study. Thyroid　2018; 28(1):50-59
Komiyama M, Wada H, Ono K, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Shimada S, Akao M, Morimoto T, Shimatsu A, Takahashi Y, Sawamura T, Hasegawa K. Smoking cessation reduces the lectin-like low-density lipoprotein receptor index, an independent cardiovascular risk marker of vascular inflammation. Heart Vessel 2018; 33(1):9-16
Komiyama M, Takanabe R, Ono K, Shimada S, Wada H, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Morimoto T, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K. Association between monocyte chemoattractant protein-1 and blood pressure in smokers. J Int Med Res　2017; [Epub ahead of print]
Masuda S, Tanaka M, Inoue T, Kitano R, Yamakage H, Muranaka K, Kusakabe T, Shimatsu A, Hasegawa K, Satoh-Asahara N. Chemokine(C-X-C motif) ligand 1 is a myokine induced by palmitate and is required for myogenesis in mouse satellite cells. Acta Physiologica　2018; Mar; 222(3); [Epub ahead of print]
Tanaka M, Hajime Y, Masuda S, Inoue T, Kitano Ohue-Kitano R, Araki R, Matoba Y, Saito M, Nagaoka T, Yonezawa K, Tanaka T, Suzuki M, Sawamura M, Nishimura M, Odori S, Wada H, Kotani K, Kusakabe T, Shimatsu A, Hasegawa K, Satoh-Asahara N. Serum soluble TREM2 is a potential novel biomarker of cognitive impairment in Japanese non-obese diabetic patients. Diabetes & Metabolism　2017;　Jul31;　S126-3636(17)30470-30476, [Epub ahead of print]
Inoue R, Ohue-Kitano R, Tsukahara T, Tanaka M, Masuda S, Inoue T, Yamakage H, Kusakabe T, Hasegawa K, Shimatsu A, Satoh-Noriko A. Prediction of functional profiles of gut microbiota from 16S rRNA metagenomic data provides a more robust evaluation of gut dysbiosis occurring in Japanese type 2 diabetic patients. JCBN　2017, 61(3):217-221
Ito H, Sato T, Satoh-Asahara N, Noda M. Erratum to: Impact of medication adherence on renal function in comorbid patients with type 2 diabetes and depression: protocol for a cohort study. BMC Fam Pract. 2017; 10;18(1):61
Inoue T, Tanaka M, Masuda S, Ohue-Kitano R, Yamakage H, Muranaka K, Wada H, Kusakabe T, Shimatsu A, Hasegawa K, Satoh-Asahara N. Omega-3 polyunsaturated fatty acids suppress the　inflammatory　responses　of　lipopolysaccharide-stimulated mouse microglia by activating SIRT1 pathways. Biochimica et Biophysica Acta　2017; 1862 (5)552-560
Murata T, Tsuzaki K, Nirengi S, Watanabe T, Mizutani Y, Okada H, Tsukamoto M, Odori S, Nakagawachi R, Kawaguchi Y, Yoshioka F, Yamada K, Shimatsu A, Kotani K, Satoh-Asahara N, Sakane N. Diagnostic accuracy of the anti-glutamic acid decarboxylase antibody in type 1 diabetes mellitus: Comparison between radioimmunoassay and enzyme-linked immunosorbent assay. J Diabetes Investig　2017 Jul; 8(4); 475-479
浅原哲子：肥満症治療における食事療法の実際 診断と治療　2017年105巻3号
浅原哲子、北野隆司：特集 腸内細菌と生活習慣病「腸内細菌と食事療法」 月刊糖尿病　2017年5月Vol.9 No.5
住友理浩、小椋恵利、高倉賢人、川村洋介、和田美智子、髙尾由美、髙倉賢二、小西郁生. 抗凝固療法中にもかかわらず腫瘍減量術直後に広範な脳梗塞を発症したTrousseau 症候群合併卵巣癌の1例. 日本婦人科腫瘍学会雑誌　2017;第35巻　第4号　803-809

宇治田麻里、住友理浩、高倉賢人、川村洋介、髙倉賢二、小西郁生.
当院での全腹腔鏡下子宮全摘術における試み.　日本産科婦人科内視鏡学会雑誌　2017年12月;33巻　第2号293-298

川村洋介、髙倉賢二、高倉賢人、和田美智子、住友理浩、高尾由美、小西郁生.
初回手術後にFDG-PET/CTで集積亢進を示し、卵巣境界悪性腫瘍再発と鑑別が困難であった肉芽腫の1例.
日本婦人科腫瘍学会雑誌　2017;第35巻　第4号　793-796

山口建、吉岡弓子、松村謙臣、小西郁生.　進行・再発がんに対する骨盤除臓術.
先端シリーズ48 臨床医のための最新産科婦人科、pp171-174、先端医療技術研究所、東京、2017

川村洋介、高倉賢二、高倉賢人、宇治田麻里、住友理浩、大蔵啓輔、直原駿平、成田匡大、小西郁生.
TLH術後に有棘縫合糸により絞扼性イレウスを発症した1例.　日本産科婦人科内視鏡学会雑誌. 2017;1:182-185

中木絢子、住友理浩、下園寛子、高倉賢人、川村洋介、泰さおり、和田美智子、奥田亜紀子、宇治田麻里、高尾由美、江川春人、高倉賢二、小西郁生.
分娩時に子宮腟部の全周性脱落をきたした症例の分娩後MRI所見の推移に関する検討.
日本周産期・新生児医学会雑誌　2017;53:180-184

Kita M, Kuwata Y, Murase N, Akiyama Y, Usui T, Novel Truncation Mutation of the PRRT2 Gene Resulting in a 16-Amino-Acid Protein Causes Self-inducible Paroxysmal Kinesigenic Dyskinesia. Mov Disorders clinical practice 2017; 4:625–628.

Wada M, Kita M, Kawasaki K, Kusakabe T, Tagami T, Satoh-Asahara N, Shimatsu A and Hashimoto K. False-positive TSH receptor antibody Endocr J. 2018 Mar 10. doi: 10.1507/endocrj.EJ17-0426. [Epub ahead of print]

Umakoshi H, Tsuiki M, Takeda Y, Kurihara I,Itoh H, Katabami T, Ichijo T, Wada N, Yoshimoto T, Ogawa Y, Kawashima J, Sone M, Inagaki N, Takahashi K, Watanabe M, Yuichi M,　Kobayashi H, Shibata H, Kamemura K Otsuki M, Fujii Y,　Yamamto K, Ogo A, Yanase T, Suzuki T Naruse M.　Significance of Computed Tomography and Serum Potassium in Predicting Subtype Diagnosis of Primary Aldosteronism.　The Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism　2018 ;103(3):900-908

Umakoshi H, Ogasawara T, Takeda Y, Kurihara I, Itoh H, Katabami T, Ichijo T, Wada N, Shibayama Y, Yoshimoto T, Ogawa Y, Kawashima J, Sone M, Inagaki N, Takahashi K, Watanabe M, Matsuda Y, Kobayashi H, Shibata H, Kamemura K, Otsuki M, Fujii Y, Yamamto K, Ogo A, Yanase T, Okamura S, Miyauchi S, Suzuki T, Tsuiki M, Naruse M; JPAS Study Group. Accuracy of adrenal computed tomography in predicting the unilateral subtype in young patients with hypokalaemia and elevation of aldosterone in primary aldosteronism.　Clin Endocrinol (Oxf). 2018 Feb 21. doi: 10.1111/cen.13582. [Epub ahead of print]

Ohno Y, Sone M, Inagaki N, Yamasaki T, Ogawa O, Takeda Y, Kurihara I, Itoh H, Umakoshi H, Tsuiki M, Ichijo T, Katabami T, Tanaka Y, Wada N, Shibayama Y, Yoshimoto T, Ogawa Y, Kawashima J, Takahashi K, Fujita M, Watanabe M, Matsuda Y, Kobayashi H, Shibata H, Kamemura K, Otsuki M, Fujii Y, Yamamoto K, Ogo A, Okamura S, Miyauchi S, Fukuoka T, Izawa S, Yoneda T, Hashimoto S, Yanase T, Suzuki T, Kawamura T, Tabara Y, Matsuda F, Naruse M; Nagahama Study; JPAS Study Group. Prevalence of Cardiovascular Disease and Its Risk Factors in Primary Aldosteronism: A Multicenter Study in Japan. Hypertension. 2018 Mar;71(3):530-537.

Yokomoto-Umakoshi M, Umakoshi H, Tsuiki M, Ogasawara T, Hamanaka-Hiroshima K, Tanabe A, Tagami T, Shimatsu A, Naruse M. Paraganglioma as a risk factor for bone metastasis. Endocr J. 2017 Nov 29. doi: 10.1507/endocrj.EJ17-0368

Fujii Y, Umakoshi H, Wada N, Ichijo T, Kamemura K, Matsuda Y, Kai T, Fukuoka T, Sakamoto R, Ogo A, Suzuki T, Nanba K, Tsuiki M, Naruse M; WAVES-J Study Group.　Subtype prediction of primary aldosteronism by combining aldosterone concentrations in the left adrenal vein and inferior vena cava: a multicenter collaborative study on adrenal venous sampling.　J Hum Hypertens. 2017 Dec;32(1):12-19.

Naruse M, Umakoshi H, Tsuiki M, Yokomoto M, Tagami T, Tanabe A, Shimatsu A.　The Latest Developments of Functional Molecular Imaging in the Diagnosis of Primary Aldosteronism.　Horm Metab Res. 2017 Dec;49(12):929-935.

Williams TA, Lenders JWM, Mulatero P, Burrello J, Rottenkolber M, Adolf C, Satoh F, Amar L, Quinkler M, Deinum J, Beuschlein F, Kitamoto KK, Pham U, Morimoto R, Umakoshi H, Prejbisz A, Kocjan T, Naruse M, Stowasser M, Nishikawa T, Young WF Jr, Gomez-Sanchez CE, Funder JW, Reincke M; Primary Aldosteronism Surgery Outcome (PASO) investigators.　Outcomes after adrenalectomy for unilateral primary aldosteronism: an international consensus on outcome measures and analysis of remission rates in an international cohort.　Lancet Diabetes Endocrinol. 2017 Sep;5(9):689-699.

Wada N, Shibayama Y, Umakoshi H, Ichijo T, Fujii Y, Kamemura K, Kai T, Sakamoto R, Ogo A, Matsuda Y, Fukuoka T, Tsuiki M, Suzuki T, Naruse M. Hyperkalemia in both surgically and medically treated patients with primary aldosteronism.　J Hum Hypertens. 2017 Oct;31(10):627-632

馬越洋宜、田上哲也、成瀬光栄. 原発性アルドステロン症の成因. 原発性アルドステロン症診療マニュアル改定第 3 版. 2017: 42-44

馬越洋宜、横本真希、立木美佳、田上哲也、成瀬光栄. 原発性アルドステロン症の局在診断法としての副腎静脈サンプリングの課題. 血圧 2017:24(12) 858-860.

医療安全管理部

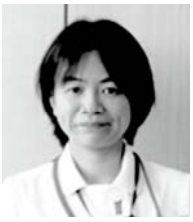

医療安全管理部長
白神　幸太郎


医療安全管理副部長
阿部　充


訴訟専門職
赤井　太地

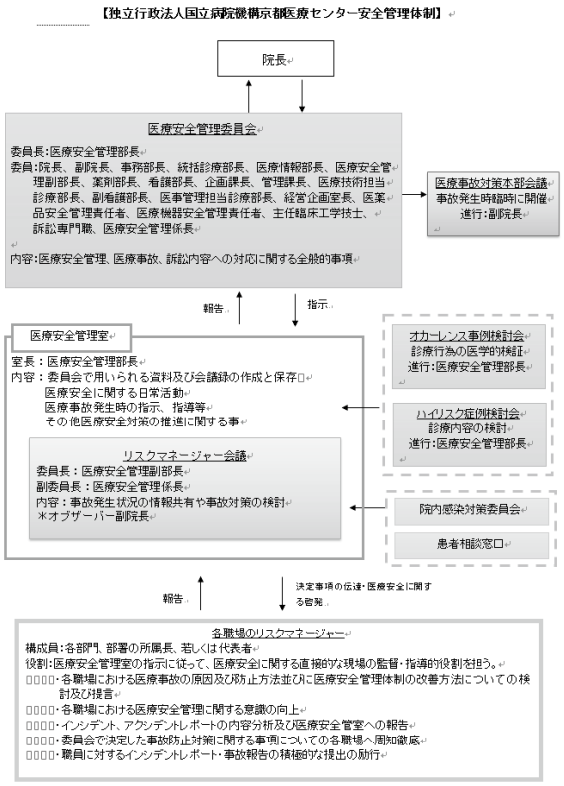

医療安全管理係長
柿本　由美子
平成30年3月31日まで


医療安全管理係長
塩　早苗
平成30年4月1日から


副看護師長
北野　朋子

患者安全の確保、医療の質の担保と向上への取り組みは、急性期基幹病院である当院において最も重要な課題であり、安全文化の醸成は医療教育機関としての責務である。これらの課題、責務を達成するために医療安全管理部が活動している。院内に医療安全管理室を設置し、各部署に医療安全推進担当者（リスクマネージャー）をおいて医療安全管理体制を整備している。医療安全管理委員会、リスクマネージャー会議などの定例会議を主催するとともに、随時オカレンス症例検討会、ハイリスク診療検討会などを開催している。また、電子化した報告システムによりインシデント・アクシデント事例を収集し、個々の事例に対応するだけでなく、マニュアル等の定期的な見直しを行い、医療安全管理体制の強化充実を図っている。院内で共有すべき情報については積極的に情報発信を行い、スタッフ教育にも力を注いでいる。医療事故調査制度がスタートしてから2年3ヶ月が経過しており、当院で生じた死亡症例についてはモニタリングし、迅速かつ適切に事例の収集と検討が可能となるシステムが整備された。これらの取り組みを通じて、医療に伴って発生する様々な危険や有害事象をモニターし、調査、分析して医療に反映させること、重大な有害事象に対して病院をあげて迅速に対応すること、スタッフ教育や院内システムの改善に役立てることを目標としている。

1．医療安全管理体制



2）構成メンバー

医療安全管理部長　１名
医療安全管理副部長　１名
医療訴務専門職　１名
医療安全管理係長　１名
看護部医療安全担当副看護師長　１名
医療安全推進担当者（リスクマネージャー）各部署から１名　計60名

2．医療安全に関する日常活動

1）医療安全に関する院内の情報収集及び実態調査（定期的な院内の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検）
2）マニュアルの作成及び点検と見直しの提言等
3）インシデント・アクシデントレポートの収集、保管、分析、具体的な改善策の提案、分析結果の現場へのフィードバックと集計結果の管理
4）医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知
5）医療安全に関する職員への啓発、広報
6）医療安全に関する教育研修の企画・運営
7）医療安全対策ネットワーク整備事業に関する報告
8）医療安全管理に係る連絡調整に関すること

3．業務実績

1）医療事故に関する会議開催状況　(平成29年度)

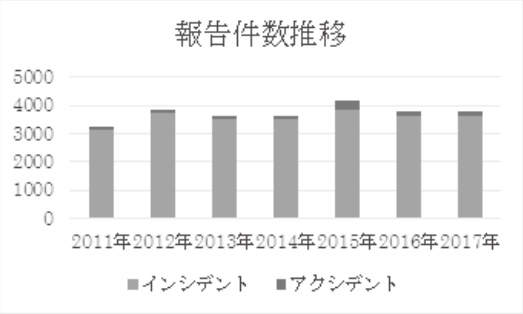
(1) 拡大医療安全管理委員会　0件
(2) 医療事故本部対策会議　1件
(3) オカレンス事例検討会議　11件
(4) ハイリスク診療検討会議　7件

2）マニュアル、ガイドラインの作成・改訂

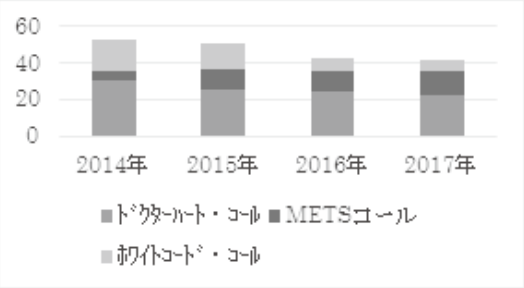
・中心静脈カテーテル運用マニュアル（2012年）
・インスリン指示に関するテンプレート整備（2017年）
・ロヒプノール院内使用指針（2014年）
・事故防止対策マニュアル（2014年改訂）
・抗血栓薬の適正使用と周術期の取り扱いに関するガイドライン（2017年改訂）
・院内転倒時の頭部打撲対応（2016年）
・深部静脈血栓症・肺塞栓症の予防対策ガイドライン（2016年改訂）
・医療安全管理マニュアル（2016年改訂）

3）インシデント・アクシデントレポート収集

・平成29年度報告件数　3768件
インシデント　3621件
アクシデント　147件



4）平成29年度　緊急コール件数
ドクターハートコール：22件
ＭＥＴＳコール：13件
ホワイトコードコール：6件



5）医療安全に関する活動及び情報提供
・医療安全管理委員会　1回/月　計12回
・リスクマネージャー会議　1回/月　計12回
・診療科長会議、医局会、管理診療会議での情報提供
・事故事例の情報発信等
・医療安全カレンダー作成、配布
・各部門カンファレンス・検討会等参加

6）医療安全に関する教育研修
(1) 医療安全研修会
第1回「深部静脈血栓・肺塞栓症の予防対策」平成29年6月6日
第2回「職場のパワーハラスメントを考える」外部講師 平成29年12月6日、13日開催

(2)医療事故防止研修会　計5回開催

＜テーマ＞
インスリンインシデントを防ぐ
麻薬管理について
急変の予兆に強くなる！
転倒させない！インシデントレポートの分析結果を予防対策にいかす
ポリファーマシーの考え方と当院での取り組み

(3)医局会において「医療安全アップデート」として　12テーマについて情報発信

＜テーマ＞
患者誤認防止
体内異物遺残の防止
個人情報保護規程
インシデント・アクシデント報告の重要性
外来化学療法のリスクについて
外来における個人情報管理
同意書の記載、保管について
医療事故調査制度について
ＣＴ画像見落としの危険
画像診断における見落としアンケート
院内発症頭部外傷への対策
急変対応の整備

7）医療安全に関する講義

新採用者研修、看護助手等採用時の研修、幹部看護師任用候補者研修、看護学校、医療安全管理研修、スペシャルメディカルクラーク研修、等

8）平成29年度学会発表

(1) 第70回国立病院総合医学会（高松）1題

『有害事象対応～患者、家族との関係をこじれさせないために～』

(2) 医療マネジメント学会　3題

『有害事象対応発生時の患者、家族対応』

『放射線科・医療安全管理室の協働による画像診断の見落とし対策』

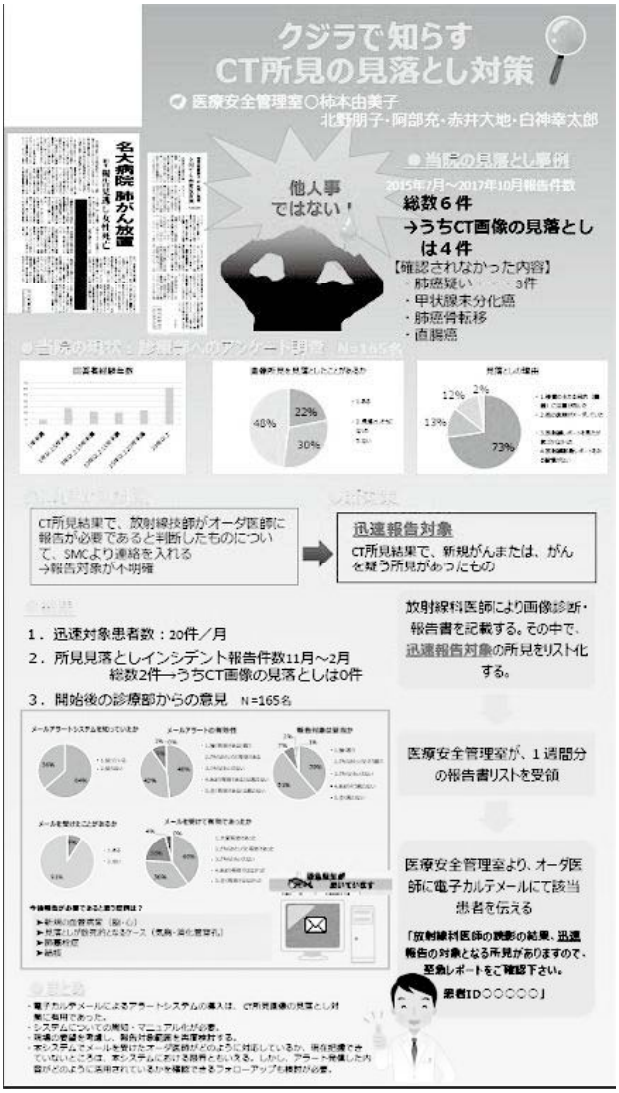
『転倒・転落防止対策への取り組み～ピクトグラムでの情報共有～』

(3) 院内成果発表会　3題

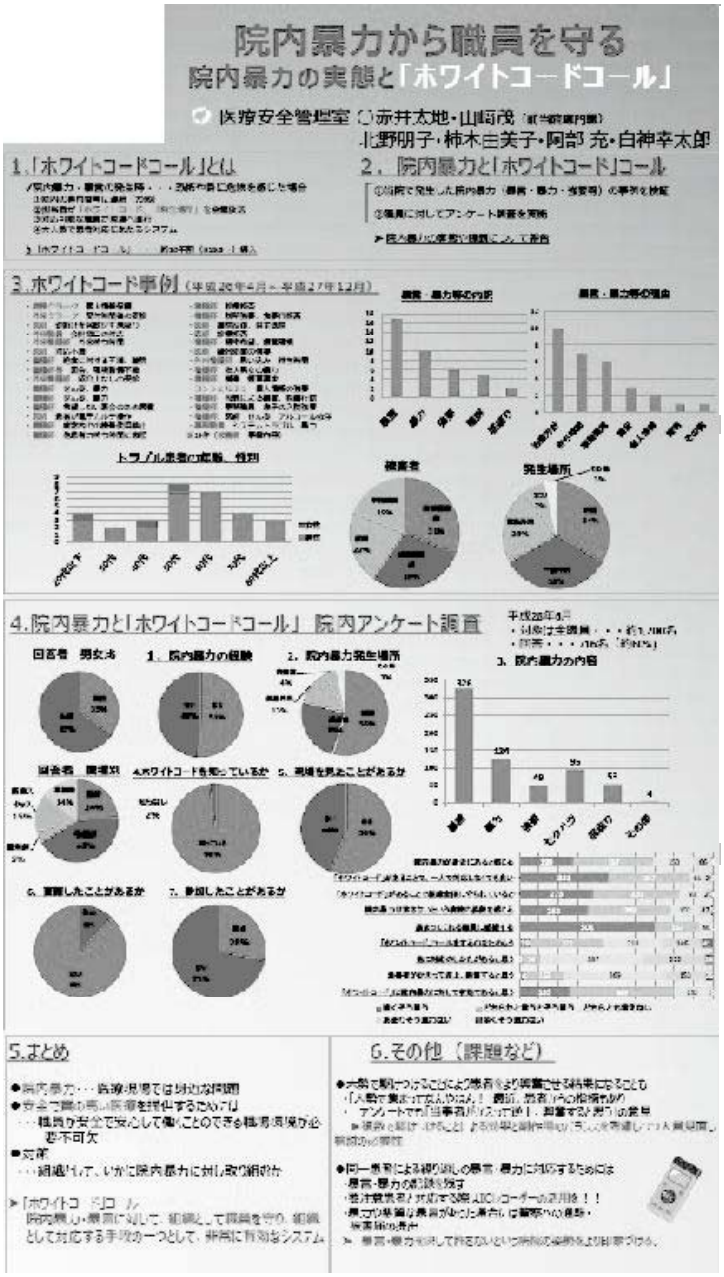
『クジラで知らすCT所見の見落とし対策』

『ピクトグラムでの情報共有　転倒防止対策』

『院内暴力から職員を守る　院内暴力の実態と「ホワイトコードコール」』







有害事象対応

患者、家族との関係をこじれさせないために

京都医療センター
医療安全管理部
白神幸太郎
阿部充　柿本由美子　北野朋子　赤井太地

有害事象に対する対応プロセス

初期対応
- 緊急コール
- 経過記録
- 現場保存
- 院内報告
- 経過説明（一次説明）
- 共感謝罪表明

事例検証
- 診療部カンファレンス
- オカレンス事例検討会
- 院内事故調査委員会

説明
- 検証結果説明（二次説明）
- 医療事故調査制度
- 弁護士対応委任

事前の関係構築

- 医師に対する不満が医療事故の発生を契機として噴出する。
- インフォームドコンセントの説明内容、記録を充実する。
  - 目的は患者、家族に理解してもらうことである。
  - 外科系であれば手術説明に予測死亡率、合併症リスクについて個々の患者に個別の説明を行うべき。
  - インフォームドコンセントはアリバイや言い訳ではない。
  - インフォームドコンセントが得られていなければ、たとえ過誤がなくても損害賠償責任を課される。
- 患者、家族は医師の人間性、熱意、不安などを的確に見抜く。
  - 身だしなみ、服装を整え、礼節をもって患者、家族に接する。

→証拠として残せるものはインフォームドコンセントのみ

患者、家族との関係をこじれさせないための提言

- 有害事象発生ののちも治療を継続し責任を全うする。医療者であり続ける。
- 医療安全管理部が早期より介入することで、取り返しのつかない信頼関係の破綻を回避できる可能性がある。
- 有害事象発生時には、患者のナラティブに耳を傾けることが必要となる。
- リピーター医師をマーク。

→「逃げない」「キレない」「しゃべりすぎない」

医療情報部



部長
情報システム管理室室長
診療情報管理室室長
臨床研究センター
政策医療企画研究部
情報化推進研究室室長
北岡　有喜

専門医資格等　京都大学博士（医学）
同志社大学博士（政策科学）
日本産科婦人科学会　専門医・指導医
日本専門医機構　産婦人科専門医
社会医学系専門医協会　専門医・指導医
臨床研修指導医
九州大学医学部　非常勤講師
京都情報大学院大学　客員教授
医学研究所北野病院　第11研究部長(客員)
総務省　地域情報化アドバイザー
地方公共団体情報システム機構経営審議委員会　委員
独立行政法人情報処理推進機構
「先進的IoTプロジェクト支援事業」メンター
ITコンソーシアム京都　医療情報化部会　部会長
都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会
がん登録部会委員・データ利用審査委員会委員
京都府がん医療戦略推進会議
院内がん登録部会　部会長
国立病院等総合情報ネットワーク研究会　副会長

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
副　部　長	八幡　兼成	京都大学博士（医学） 日本腎臓学会　専門医・指導医 日本透析医学会　専門医・指導医 日本糖尿病学会　専門医 日本内科学会　専門医
診療情報管理室　主任	金子　悦代	診療情報管理士・院内がん登録実務指導者
診療情報管理室　室員	前田　夕子	診療情報管理士・院内がん登録実務中級者・医療情報技師
診療情報管理室　室員	秋好　香織	診療情報管理士・院内がん登録実務初級者
診療情報管理室　室員	上田　好美	診療情報管理士・院内がん登録実務初級者
診療情報管理室　室員	口村　恭子	診療情報管理士・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	西田千賀子	産婦人科・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	牧原麻理子	産婦人科
スペシャル医療クラーク	木村　仁美	眼科担当
スペシャル医療クラーク	長谷川紗世	内分泌代謝センター担当
スペシャル医療クラーク	成田　朋代	泌尿器科担当
スペシャル医療クラーク	赤井　樹理	外科担当・院内がん登録実務初級者・日本癌治療学会認定データマネージャー・JCOG臨床試験セミナー入門編修了
スペシャル医療クラーク	甲田　実樹	呼吸器内科担当・院内がん登録実務初級者

スペシャル医療クラーク	柴田　暢子	形成外科担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	品川　智子	循環器内科担当・薬剤師
スペシャル医療クラーク	村上　雅代	救命センター担当
スペシャル医療クラーク	中村　繭子	消化器内科・内視鏡センター担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	小川　文代	呼吸器外科担当・管理栄養士
スペシャル医療クラーク	中條　夏子	脳神経センター担当
スペシャル医療クラーク	三浦　圭代	小児内科担当
スペシャル医療クラーク	中尾　真理	腎臓内科担当
スペシャル医療クラーク	藤本　容子	糖尿病センター担当・薬剤師
スペシャル医療クラーク	加藤由美子	緩和ケア科担当
スペシャル医療クラーク	金本　知恵	皮膚科担当
スペシャル医療クラーク	南野　和代	整形外科担当・院長室
スペシャル医療クラーク	田中　直美	心臓外科担当
スペシャル医療クラーク	黒田　果奈	脳神経センター担当
スペシャル医療クラーク	井上　恭子	脳神経センター・地域連携室担当
スペシャル医療クラーク	金山　聡美	整形外科担当
スペシャル医療クラーク	細川真莉奈	麻酔科担当
スペシャル医療クラーク	川口裕希子	消化器内科・内視鏡センター担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	藤澤　静香	耳鼻科担当
スペシャル医療クラーク	山崎真理子	眼科担当
医療クラーク	松本紀美子	事務助手(地域連携室担当)
医療クラーク	戸田由美子	事務助手(手術室担当)
情報システム管理室室員	園田　淳	運用管理職員(委託)
情報システム管理室室員	太田　佳子	運用管理職員(委託)
情報システム管理室室員	村岡　大督	運用管理職員(委託)
情報システム管理室室員	天野　浩行	運用管理職員(委託)
流動研究員	滝川　裕介	システムエンジニア・医療情報技師
研究員	湊　拓巳	臨床工学技士
非常勤研究員	小川　麻理	日医認定ITインストラクター・情報処理士
非常勤研究員	横田　健吾	システムエンジニア
非常勤研究員	小森　由宗	システムエンジニア
非常勤研究員	小森谷祥明	システムエンジニア
非常勤研究員	松島　大介	システムエンジニア・データベーススペシャリスト・情報セキュリティスペシャリスト・ソフトウェア開発技術者

□ 診療科の特徴

1. 京都医療センター医療情報部は、独立行政法人化以前の2003年7月に国立病院としては初めて設置が認可された医療情報部です。

2. 医師と情報システムエンジニアの資格を持つ人材が部長を担当しており、ベンダーに依存することなく、医療現場のニーズにマッチした情報システムの要件定義や開発・導入・構築を迅速かつ適価で行っています。
3. 京都府・京都市が設置した情報基盤協議会である「ITコンソーシアム京都」医療情報化部会と連携し、「ポケットカルテ」などの二次医療圏を包括する地域医療連携基盤の企画・設計・開発・構築・運用・整備なども行っています。
4. 情報システムや診療記録管理だけでなく、診療諸記録作成の専門職として「スペシャル医療クラーク」を独自に育成し各診療科に配置することで、医師・看護師などの専門職が専門業務に集中出来る環境を構築すると共に、診療諸記録の質の向上ならびに診療の質の向上に努めています。

□ 診療（業務）内容

医療情報部は３部署で構成されています。各部署の名称と主な業務内容は以下の通りです。

1. 病院情報システム管理室
   病院情報システム（電子カルテシステム）の開発・構築・運用・整備および将来計画に関すること
2. 診療情報管理室
   診療諸記録及び診療情報の管理・調査・研究およびがん登録に関すること
3. 診療支援チーム
   スペシャル医療クラークを独自に育成し、各診療科などに配置することで、医師など専門職の事務作業を軽減すると共に、診療諸記録の精度向上や処理を迅速化すること

また、研究業務は臨床研究センター情報化推進研究室と一体化し、医療情報の研究、教育及び利用、病院の運営及び診療の管理に係る情報化などの研究開発を行っています。

□ 地域医療連携・広報活動

院内がん登録部会, 京都医療センター, 2017年4月13日
院内がん登録実務WG, 京都医療センター, 2017年4月13日
院内がん登録部会研修会, 京都医療センター, 2017年4月13日
洛西地域 いきいき健康フェスタ2017春, 京都エミナース, 2017年4月15日
第80回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか, 京都医療センター, 2017年4月20日
第81回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか, 京都医療センター, 2017年5月18日
総務省平成28年度補正　ICTまち・ひと・しごと創生推進事業「帯広市すこやかネット事業システム開発及び検証業務」北岡有喜ほか,北海道帯広市, 2017年5月19日
院内がん登録部会, 京都医療センター, 2017年6月8日
院内がん登録実務WG, 京都医療センター, 2017年6月8日
院内がん登録部会研修会, 京都医療センター, 2017年6月8日
第82回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか, 京都医療センター, 2017年6月16日
第83回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか, 京都医療センター, 2017年7月20日
ケーブルコンベンション2017「マイナンバーカード認証対応STBを利用した自治体向けポータルサービス「電子版お薬手帳」「電子版母子健康手帳」」北岡有喜, 東京国際フォーラム, 2017年7月21日
平成29年度（28回・29回）ファーストレベル教育課程講師」北岡有喜, 公益社団法人福岡県看護協会, 2017年7月28日
院内がん登録部会, 京都府立医科大学附属病院, 2017年8月24日
院内がん登録実務WG, 京都府立医科大学附属病院, 2017年8月24日
院内がん登録部会研修会, 京都府立医科大学附属病院, 2017年8月24日

第84回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2017年8月17日
日本透析医学会統計調査委員会「ポケットカルテ®透析手帳の概要と現在の開発状況」北岡有喜,　オフィス東京, 2017年9月8日
第85回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2017年9月21日
(第6回)院内がん登録セミナー2017京都, 京都医療センター, 2017年9月30日-10月1日
第86回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2017年10月19日
地方自治法施行70周年記念セミナー「地方自治体の"ミライ"へつながる情報活用」●情報化がもたらした自治体の変化　●自治体情報の活用で自治体のミライはこう変わる北岡有喜ほか, 京都市北文化会館, 2017年11月6日
第12回医療情報セミナー「事例に学ぶ情報漏えい対策」北岡有喜ほか, 京都医療センター, 2017年11月16日
第87回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2017年11月16日
総務省地域ICT/IoT実装推進セミナーin東北「ポケットカルテ及び地域共通診察券「すこやか安心カード」」北岡有喜, TKPガーデンシティ仙台勾当台, 2017年12月14日
第88回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2017年12月21日
院内がん登録部会, 京都第一赤十字病院, 2017年12月14日
院内がん登録実務WG, 京都第一赤十字病院, 2017年12月14日
院内がん登録部会研修会, 京都第一赤十字病院, 2017年12月14日
平成29年度（28回・29回）ファーストレベル教育課程講師」北岡有喜, 公益社団法人福岡県看護協会, 2018年1月12日
スペシャル医療クラーク育成コース/京都府病院協会医師事務作業補助者スキルアップ研修　北岡有喜ほか, 京都医療センター, 2018年1月15日～2018年2月9日
第89回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2018年1月18日
院内がん登録部会, 京都大学医学部附属病院, 2018年2月8日
院内がん登録実務WG, 京都大学医学部附属病院, 2018年2月8日
院内がん登録部会研修会, 京都大学医学部附属病院, 2018年2月8日
第90回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2018年2月15日
京都情報大学院大学・京都コンピュータ学院インターンシップ講師　北岡有喜, 京都医療センター, 2018年3月5日～2018年3月16日
第91回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,京都医療センター, 2018年3月15日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
北岡有喜, 平成29年度予算「情報通信技術利活用事業費補助金（地域IoT実装推進事業）」に係る提案の公募 別 紙 3 ― 2 実装事業のモデル例　＜医療・介護・健康＞医療履歴をクラウドで一元管理し、効率的な受診を可能にするシステム, 総務省, 2017年4月3日; http://www.soumu.go.jp/main_content/000480387.pdf
湊 拓巳ほか, 人工呼吸器の遠隔監視システムの開発, 第27回日本臨床工学会, 2017年5月21日;青森
湊 拓巳ほか, 借用医療機器の安全な管理を試みて, 第27回日本臨床工学会, 2017年5月21日;青森
湊 拓巳ほか, 女性パーフュージョニストを育てるために 妊婦にやさしい人工心肺環境, 第43回日本体外循環技術医学会大会, 2017年10月9日;札幌
北岡有喜「研究進捗報告：PHRシステム「ポケットカルテ®」と連動したスマートグラスによる体外循環技術の安全性向上に関する研究開発」公益財団法人田附興風会医学研究所　第86回研究所セミナー, 2018年3月14日;大阪

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著　者　・　タ　イ　ト　ル
月刊公明	北岡　有喜.ポケットカルテ®を医療費適正化の切り札に　患者中心の医療へ ～「健康費」のすゝめ～. 月刊公明 2017 ;5 : 38-45
月刊自治体ソリューション	北岡　有喜.情報活用を軸に自治体のこれからを語る　情報活用の意義. 月刊自治体ソリューション. 2017 ;12 : 20-21
臨床医薬	北岡　有喜.セルフケアとセルフメディケーションに関する一般市民意識調査～一般市民1205名のアンケート結果から～.臨床医薬.2018; vol.34, No.2: 123-133
厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）小児期からの希少難治性慢性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究 平成26-28 年度 総合研究報告書	北岡　有喜、岩中督、北川博昭、前田貢作、奥山宏臣.ポケットカルテ®を用いた登録、長期フォローアップ体制の構築に関する研究.厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）小児期からの希少難治性慢性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究 平成26-28 年度 総合研究報告書. 2017 ;3 :517-536
厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）小児期からの希少難治性慢性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究 平成28 年度 総括・分担研究報告書	北岡　有喜、岩中督、北川博昭、前田貢作、奥山宏臣.ポケットカルテ®を用いた登録、長期フォローアップ体制の構築に関する研究.厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）小児期からの希少難治性慢性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究 平成28 年度 総括・分担研究報告書. 2017 ;3 :251-259,312-315
厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）小児期からの希少難治性慢性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究 平成27 年度 総括・分担研究報告書	北岡　有喜、岩中督、澤口聡子、岡本悦司.疾患登録やフォローアップ体制の構築について.厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）小児期からの希少難治性慢性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究 平成27 年度 総括・分担研究報告書. 2016 ;3 :401-410
日本臨床工学技士会会誌	湊 拓巳, 峰松 佑輔, 宮川 幸恵, 藤井 順也, 池宮 裕太, 柴田 純一.人工呼吸器の遠隔監視システムの開発. 日本臨床工学技士会会誌. 2017;60号:204
体外循環技術	宮川 幸恵, 湊 拓巳, 藤井 順也, 峰松 佑輔.女性パーフュージョニストを育てるために 妊婦にやさしい人工心肺環境. 体外循環技術. 2017;44巻3号:270

□ 賞罰

総務省　地方創生に資する「地域情報化大賞」　大賞／総務大臣賞受賞　「ポケットカルテ」及び地域共通診察券「すこやか安心カード」2015,3,6

厚生労働省　第4回健康寿命をのばそうアワード　厚生労働省健康局長優良賞受賞　「ポケットカルテ」及び地域共通診察券「すこやか安心カード」2015,11,16



□ 院内情報処理業務支援

２０１７年度	病診連携用画像DVDR作成件数（放射線科、手術術野動画等）	4448件	（月平均371件）
２０１６年度	病診連携用画像DVDR作成件数（放射線科、手術術野動画等）	4672件	（月平均389件）
２０１５年度	病診連携用画像DVDR作成件数（放射線科、手術術野動画等）	3453件	（月平均288件）
〃	病診連携用画像CD-R作成件数（放射線科、内視鏡センター）	1129件	（月平均 94件）
２０１４年度	病診連携用画像CD-R作成件数（放射線科、内視鏡センター）	5271件	（月平均439件）
２０１３年度	病診連携用画像CD-R作成件数（放射線科、内視鏡センター）	3771件	（月平均314件）
２０１２年度	病診連携用画像CD-R作成件数（放射線科、内視鏡センター）	3684件	（月平均307件）

感染制御部



感染制御部長
奥野　博

専門医資格等
- 日本泌尿器科学会専門医・指導医
- 京都大学臨床教授
- 関西医科大学臨床教授
- 日本生殖医学会評議員
- 日本アンドロロジー学会評議員
- 日本癌治療認定医
- 日本移植学会腎移植認定医
- 日本内視鏡外科学会技術認定医
- 日本泌尿器内視鏡学会・腹腔鏡技術認定医
- 京都大学医学博士

専門分野
- 泌尿器科一般

得意疾患
- 前立腺がん
- 男性学
- 尿路感染症



副部長
(専任)
ICTリーダー
小田垣孝雄

専門医資格等
- ICD：Infection　Control Doctor
- 日本内科学会総合内科専門医/指導医
- 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医
- 日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医/指導医
- 日本医師会認定産業医

専門分野
- 内科一般、感染制御

得意疾患
- 一般内科疾患



副看護師長
（専従）
森　誠司

専門医資格等
- CNIC：Certified Nurse Infection Control
  感染管理認定看護師

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	畑　　啓昭	日本外科学会　外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指道医 日本内視鏡外科学会　内視鏡外科技術認定医・評議員 日本食道学会　食道科認定医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 ICD(インフェクションコントロールドクター) 日本外科感染症学会　周術期感染管理認定医・教育医・評議員・教育委員 日本感染症学会　評議員・臨床研究促進委員会委員 日本化学療法学会　評議員 ダ・ヴィンチ　コンソール術者ライセンス取得 京都大学　医学博士	上部消化管 外科感染症	胃がん 食道がん

医師（非常勤）	遠藤　文司	ICD：Infection control doctor 日本内科学会　認定内科医 日本消化器病学会　消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会　消化器内視鏡専門医・学会本部学術評議員・近畿支部評議員 日本肝臓学会　肝臓専門医 日本消化器がん検診学会　認定医（胃・肝胆膵） 日本化学療法学会　抗菌化学療法認定医・指導医 日本医師会　認定産業医 臨床研修指導医 難病指定医 大阪市介護保険認定審査委員 身体障害者福祉法第15条第1項による指定医師	内科、消化器内科全般	胆道・膵疾患検査・治療
薬剤師（専任）	山本　修平	感染制御認定薬剤師		
薬剤師	宮地由香里			
検査科主任（専任）	溝上　泰司			
経営企画室長	水野　実			
事務	諸木　真知			

□ 診療（業務）内容

平成9年4月に院内感染対策チームが（ICT）設立し、平成22年4月にはICTを核とする感染制御部が発足しました。そのモットーは院内の感染管理と職員の健康管理を通じて、患者さんが安心して診療を受けられる環境を提供することを目標としています。

さらにその使命として医師、看護師、リンクナース、薬剤師、臨床検査技師、事務など多くの職員がそれぞれに得意とする分野を分担し、責任をもってこれを行っています。実務はICTリーダーを中心に週に１回ICTミーティングを行い、さらに週に1回定期的に院内ICTラウンドを実施しています。また日常の感染対策に関する相談に関しても随時対応しています。

活動例）

①インフルエンザ、感染性胃腸炎、結核などの院内感染対策業務
②手術部位感染、中心静脈カテーテル関連血流感染などのサーベイランス業務
③針刺し・切創事故対応業務
④職員対象の各種ワクチン接種業務
⑤抗菌薬適正使用推進業務
⑥その他、院内感染対策に必要とされる業務

この活動内容は病院長直轄の「院内感染対策委員会」（月1回）と平成22年4月に発足した「抗菌薬の適正使用に関する小委員会」（月1回）にて報告・審議・決定がなされるシステムとなっています。

平成24年度には感染防止対策推進に関する診療報酬が改定され、これまで以上に感染対策チーム（ICT）の活動が求められるようになりました。平成26年度の改訂でも大きな変更点はなく継承されています。

＊感染防止対策加算２を算定する当院連携施設：浩照会 伏見桃山総合病院　弘仁会 大島病院
　淀さんせん会 金井病院　医聖会 学研都市病院　医聖会 八幡中央病院

□ 地域医療連携・広報活動

院内感染対策講習会 第1回「結核・インフルエンザ・SSI」2017年5月26日、5月29日
院内感染対策講習会 第2回「消毒薬・CAUTIについて」2017年11月24日、11月27日

第1回感染防止対策地域連携カンファレンス　学研都市病院にてICTラウンド 2017年6月9日
第2回感染防止対策地域連携カンファレンス　八幡中央病院にてICTラウンド 2017年9月8日
第3回感染防止対策地域連携カンファレンス　「消毒薬のあれこれ」2017年12月1日
第4回感染防止対策地域連携カンファレンス　「針刺し、体液曝露対策」2018年2月9日

感染防止対策地域連携加算相互評価：京都市立病院 2017年11月9日・11月30日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
院内講習会	奥野　博 「尿路カテーテルの管理～CDC CAUTI Guideline 2009より抜粋～　2017年11月24日、11月27日
地域連携カンファレンス	小田垣孝雄「針刺し、体液曝露対策」 2018年2月9日
国内学会（東京）	畑啓昭:「パネルディスカッション3 周術期抗菌薬使用のPros&Cons」第91回日本感染症学会総会・学術講演会、第65回日本化学療法学会学術集会　合同学会　2017/4/8
研究会（大阪）	畑啓昭:「術後感染予防抗菌薬」ICT-WEBシンポジウム　2017/6/12
国内学会（東京）	畑啓昭:「新WHOガイドラインの概要と日本での活用：消化器外科医の立場から」第40回日本骨・関節感染症学会　2017/6/17
研究会（京都）	畑啓昭:「新しいSSIガイドラインの解釈と予防・治療の実際」Infection Control　Web　Seminar　2017/9/8
国内学会（東京）	畑啓昭:「シンポジウム2　ガイドラインからみたSSI予防抗菌薬投与」第39回日本手術医学会総会　2017/10/6
研究会（長崎）	畑啓昭:「最新のSSI予防プラクティス」長崎県院内感染対策SSIセミナー　2017/10/6
研究会（大阪）	畑啓昭:「SSI予防ガイドラインの解釈と実際」第30回消化器外科共同研究会リスクマネジメント分科会　2017/10/27
国内学会（高松）	畑啓昭:「平成29年度国立病院機構優秀論文賞　受賞論文講演　Oral and Parenteral Versus Parenteral Antibiotic Prophylaxis in Elective Laparoscopic Colorectal Surgery (JMTO PREV 07-01): A Phase 3, Multicenter, Open-label, Randomized Trial.」第71回国立病院総合医学会　2017/11/10
その他（大阪）	畑啓昭:「新しい手術部位感染ガイドラインの解釈」ラジオNIKKEI制作・放送「感染症TODAY」 2017/11/22
国際学会（台湾）	Hata H, Jikihara S, Maeda A, Saji M, Matsusue R, Narita N, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I.:「Long term effects of oral antibiotic prophylaxis colorectal surgery on the frequencies and trends of bacteria isolated from patients in a surgical ward」 30th International conference of chemotherapy国際化学療法学会　2017/11/26
国内学会（東京）	畑啓昭:「いまさら聞けない外科入門講座　入門講座14　CDCガイドラインのポイント（正しい創洗浄）」第30回日本外科感染症学会総会学術集会　2017/11/29
国内学会（東京）	畑啓昭:「シンポジウム1　術前腸管処置と経口抗菌薬」第30回日本外科感染症学会総会学術集会　2017/11/29
国内学会（東京）	畑啓昭 小田垣孝雄 宮地由香里 山本修平 伊藤千慧 溝上泰司 森誠司 奥野博:「シンポジウム5　予防・治療抗菌薬の適正使用に対する当院チームの取り組みの変遷」第30回日本外科感染症学会総会学術集会　2017/11/29
研究会（京都）	畑啓昭:「外科医に関係する最近の感染症ガイドラインの紹介」平成29年度京都大学外科冬季研究会　2017/12/2
研究会（鹿児島）	畑啓昭:「SSI:ガイドラインの考え方、予防と治療の実際」第12回鹿児島呼吸器外科感染症フォーラム　2018/1/26
院外講習会（東京）	畑啓昭:「最新のSSI予防に関する情報提供」皮膚・排泄ケア認定看護師と感染管理認定看護師のためのキャリアアップ講座 2018/1/28
院外講習会（京都）	畑啓昭:「SSI(手術部位感染)対策」京都市立病院感染防止対策研修会　2018/1/30
国内学会（京都）	畑啓昭:「手術室看護師が知っておくべき周術期の感染管理」日本手術看護学会近畿地区　京都ブロックセミナー　2018/2/17
国内学会（東京）	畑啓昭:「シンポジウム17　欧米ガイドラインからみた手術部位感染予防対策　2）予防抗菌薬（注射製剤とその他の使用）、消毒薬による予防（消化器外科の立場から）」第33回日本環境感染症学会総会・学術集会　2018/2/24

国内学会 （東京）	畑啓昭:「日本外科感染症学会合同企画　手術部位感染予防の考え方―エビデンスの解釈とコストについて」 第33回日本環境感染症学会総会・学術集会　2018/2/23
国内学会 （東京）	畑啓昭:「SSIガイドラインを読み説く」日本外科感染症学会特別セミナー「知って得する感染症」外科感染症のUp To　Date 2018　in　Tokyo　2018/3/10
研究会 （神戸）	畑啓昭:「Discussant　「腹膜炎と胆道感染症～抗菌薬治療とドレナージ～」第10回JPIC学術講演会　2018/3/31
院内講習会	森 誠司　「結核・インフルエンザ・SSI～インフルエンザ事例の振り返り」　2017年5月26日、5月29日
院内講習会	森 誠司　「専門・認定看護師セミナー2018～看護師が知っておきたい結核のあれこれ」　2017年11月25日
院内講習会	宮地　由香里　「消毒薬のあれこれ」　2017年11月24日、27日
地域連携 カンファレンス	宮地　由香里「消毒薬のあれこれ」　2017年12月1日
国内学会 （総会）	濵田聖子,遠藤文司,水本吉則,勝島慎二　EST後出血の止血困難例に対してFCSEMSを用いた止血術を施行した7例の検討　第93回日本消化器内視鏡学会総会　2017年05月
国内学会 （地方会）	筑後孝紀, 下釜翼, 遠藤文司, 水本吉則　Short Wireを用いたPhysician-Controlled Wire-Guided Cannulationによる胆管挿管手技のメリット　日本消化器病学会近畿支部第107回例会　2017年09月
国内学会 （総会）	米田俊貴,勝島慎二,濵田聖子,中野重治,熊谷健,遠藤文司,岩本諭,笠原勝宏　カルテ情報―元管理によるHBV再活性化肝炎at risk症例の把握とウイルス変動の監視　Japan Digestive Disease Week (DDW) 2015（日本肝臓学会）　2017年10月
国内学会 （総会）	勝島慎二,江坂直樹,遠藤文司　IFNフリー治療後の他臓器がん　Japan Digestive Disease Week (DDW) 2015（日本肝臓学会・日本消化器病学会）　2017年10月
国内学会 （総会）	筑後孝紀,勝島慎二,濵田聖子,中野重治,下釜翼,熊谷健,太田義之,江坂直樹,遠藤文司,岩本諭,笠原勝宏,米田俊貴,島伸子,水本吉則 SVR後の肝発癌-IFNフリー治療とベース治療の比較-　Japan Digestive Disease Week (DDW) 2015（日本消化器病学会）　2017年10月
国際学会	B. Endoh1, N. Esaka2, S. Katsushima2, K. Chikugo3, S. Nakano4, T. Shimogama4, S. Iwamoto4, K. Kasahara4, T. Komeda1;　CANCER INCIDENCE IN VARIOUS ORGANS OTHER THAN THE LIVER FOLLOWING DIRECT-ACTING ANTIVIRAL (DAA) THERAPY FOR HEPATITIS C　United European Gastroenterology Week (UEGW) 2017　2017年10月
国際学会	Y. Nakai1, K. Kusumoto1, Y. Itokawa1, B. Endoh2, K. Chikugo3, A. Suzuki4, T. Kawakami5, T. Suzuki5, O. Inatomi6, S. Bamba6, T. Kusaka1, H. Kokuryu1, Y. Mizumoto3, K. Tanaka4;　INCIDENCE AND RISK FACTORS FOR PANCREATITIS IN EMERGENCY ENDOSCOPIC RETROGRADE CHOLANGIOPANCREATOGRAPHY: A PROSPECTIVE MULTICENTER STUDY　United European Gastroenterology Week (UEGW) 2017　2017年10月
国際学会	O. Inatomi1, S. Bamba1, Y. Nakai2, K. Kusumoto2, B. Endoh3, A. Suzuki4, T. Suzuki5, T. Kawakami5, S. Oota6, A. Inoue6, Y. Itokawa2, K. Chikugo3, A. Andoh1, Y. Mizumoto3, K. Tanaka4　CORRELATION BETWEEN POST-ERCP SERUM AMYLASE LEVELS AND CT FINDINGS IN ERCP-INDUCED PANCREATITIS: A PROSPECTIVE MULTICENTER OBSERVATIONAL STUDY　United European Gastroenterology Week (UEGW) 2017　2017年10月
国際学会	A. Suzuki1, B. Endoh2, K. Chikugo3, T. Kawakami4, T. Suzuki4, Y. Nakai5, K. Kusumoto5, Y. Itokawa5, O. Inatomi6, S. Bamba6, K. Uno1, Y. Mizumoto7, K. Tanaka8　RISK FACTORS FOR POST-ENDOSCOPIC RETROGRADE CHOLANGIOPANCREATOGRAPHY PANCREATITIS: A PROSPECTIVE MULTICENTER STUDY　United European Gastroenterology Week (UEGW) 2017　2017年10月
国際学会	K. takumi1, T. Suzuki2, H. Sato1, N. Yoshida1, Y. Nakai3, K. Kusumoto3, Y. Itokawa3, A. Suzuki4, B. Endoh5, K. Chikugo5, O. Inatomi6, S. Bamba6, Y. Mizumoto5, K. Tanaka4;　USEFULNESS OF AMY MEASUREMENTS　AT 2 HOURS AFTER ENDOSCOPIC RETROGRADE CHOLANGIOPANCREATOGRAPHY　IN PREDICTING THE SEVERITY OF POST-ERCP PANCREATITIS,: MULTICENTER PROSPECTIVE STUDY, SOSUI.　United European Gastroenterology Week (UEGW) 2017　2017年10月

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	編集者等	出版社	発行年および月
畑啓昭	抗菌薬-その常識は正しいか?-II　使用法・評価など―その常識は正しいか?―術中３時間ごとに抗菌薬を追加投与すべきか？１０時間を超える長時間手術ならどうするか?	救急・集中治療	29	7	607-613			2017.7
畑啓昭	WHOのSSI予防ガイドラインのこれだけは!	INFECTION CONTROL	26	10	66-70			2017.10
畑啓昭	B.トピックス別の管理 ①ドレーンの管理1.用語と定義	ICU　感染制御を究める			82			2017.10
畑啓昭	B.トピックス別の管理 ①ドレーンの管理 2.予防策	ICU　感染制御を究める			82-87			2017.10
畑啓昭	B.トピックス別の管理 ①ドレーンの管理3.感染の診断・治療	ICU　感染制御を究める			88-90			2017.10
畑啓昭	V-4. 術後感染予防抗菌薬厚生労働省委託事業 平成29年度院内感染対策講習会テキスト	厚生労働省委託事業 平成29年度院内感染対策講習会テキスト			87-91			2017.10
畑啓昭	畑先生がニュースをズバッと解説!世界の動き　日本の動き	INFECTION CONTROL	27	3	90			2018.3
畑啓昭　坂井義治	外科感染症対策に関する教育の効果	外科感染症学会雑誌	15	1	1-7			2018.3

遠藤文司	Clostridium difficile感染症	ICU感染制御を究める	-	-	63-78	南江堂		2017
清水克彦, 遠藤文司	看護の視点から5 「院内感染予防を考える」	ICU感染制御を究める	-	-	79-80	南江堂		2017
遠藤文司	Enterobacter に対して第3世代セファロスポリン系抗菌薬は使えないか? Acinetobacter(疑い)に対する抗菌薬は何を選択するか?	救急・集中治療	29	7-8	477-482			2017
遠藤文司	ER・ICUでよく使う消化器病薬	レジデント・ノート	19	2	2143-2151			2017
勝島慎二, 小畑達郎, 米田俊貴, 濵田聖子, 筑後孝紀, 中野重治, 下釜翼, 熊谷健, 太田義之, 遠藤文司, 江坂直樹, 岩本諭, 笠原勝宏, 島伸子, 水本吉則	C型肝炎ウイルス genotype/serotype乖離例に対する治療選択	日本消化器病学会雑誌	114	7	1247-1254			2017

教育研修部



教育研修部長
小山　弘

専門医資格等　日本内科学会内科指導医
日本内科学会総合内科専門医
京都大学医学部臨床教授
日本内科学会専門医部会教育担当幹事
医療系大学間共用試験実施評価機構医学系OSCE実施小委員会委員

□ 教育研修部の特徴

施設認定等	臨床研修指定病院

1. スーパーローテーション方式を採用し、各科を広く経験しています。
2. 臨床研修医は、ERの担当を通じ幅広く急性疾患、外傷に対応する能力を習得すると同時に、地域医療に貢献しています。
3. 古くからの教育病院として、臨床研修医を教える文化のある病院です。

※　臨床研修医との懇談会、伏見地区総合診療臨床カンファレンス、地域医療研修など、伏見医師会の先生方には多大なご支援をいただき深く感謝しております。

□ 診療（業務）内容

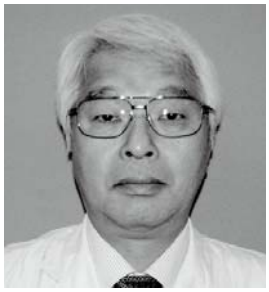
当院の臨床研修プログラムに所属する臨床研修医、および京都大学医学部、京都府立医科大学、滋賀医科大学などの臨床研修プログラムに所属する臨床研修医で、協力病院として当院で研修を行う臨床研修医の、研修に関する諸問題を担当しています。

また、京都府医師会臨床研修のあり方に関する検討委員会の委員として、京都府全体の臨床研修に関する活動を行っています。

□ 地域医療連携・広報活動

伏見総合診療臨床カンファレンス（伏見医師会館にて）
京都府医師会臨床研修のあり方に関する検討委員会委員長
京都府地域医療支援センター運営会議委員
伏見医師会理事

地域医療部



地域医療部長
猪飼　伊和夫



地域医療連携室長
瀬田　公一

□ 急性期病院の超高齢者の医療に対する意義

2025年に向けて医療機能・病床の機能分化・連携を進めるため「地域医療構想」が進められている。京都南部の地域包括ケアシステムの構築過程において地域の医療機関と当院との密な連携は極めて重要である。当院は京都南部の救急・がん・先進医療を提供する高度急性医療を担う中核病院である。地域医療部は患者紹介や逆紹介、医療機器等の共同利用を通じて、地域の医療機関と当院の連携を行う窓口としての役割を果たしている。

本年度は特に救急の分野での地域連携を強化するために、1）平成29年4月から救急診療受付ダイヤルを設置し、2）循環器および産婦人科ホットラインに加えて、平成29年7月から脳卒中ホットラインを開設した。今後さらに地域の医療機関との前方・後方連携を密にしていきたい。

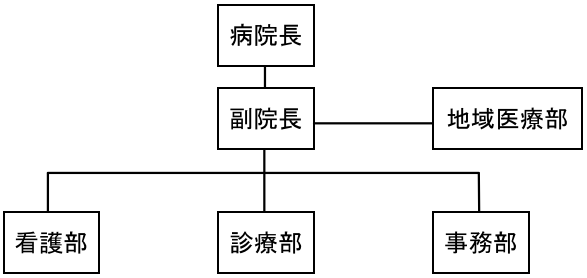
地域医療部長　猪飼 伊和夫

□ スタッフ

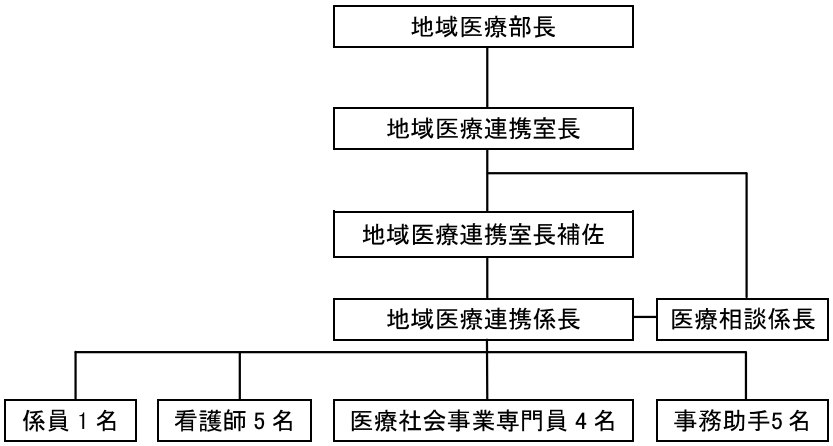
地域医療連携室長補佐・経営企画室長	水野　実
地域医療連携係長・病床管理師長	紀田　幸子
看護師	鈴木　里香
看護師	松尾　さやか
看護師	松岡　和子
看護師	河本　友貴美
看護師	細見　晃世
医療社会事業専門員	弘中　孝佳
医療社会事業専門員	石田　沙友梨
医療社会事業専門員	吉岡　孝師
医療社会事業専門員	仲江　陽大
地域医療連携係	坪井　亮太
予約担当	丸本　志帆
予約担当	沖中　直子
予約担当	諸木　真知
予約担当	前田　恭代
予約担当	長崎　順子

1. 沿革と体制

2002年　地域医療連携室設置
2007年　地域がん診療拠点病院の指定
2008年　地域医療支援病院の承認



構成メンバー



2. 地域医療連携室の日常活動

〈前方連携〉
- ●診察・検査事前予約
- ●救急紹介受診の受付と手配
- ●開放型病床のデータ管理
- ●紹介患者の返信確認と入退院の情報提供

〈後方連携〉
- ●退院支援（転院・在宅）
- ●後方支援機関との連携の強化
- ●後方支援機関への紹介患者

〈相談〉
- ●療養上の相談や受診についての相談
- ●経済的問題の解決
- ●各種制度（介護保険・障害者医療など）の相談

〈広報〉
- ●外来担当表等の発送
- ●広報誌『うづら便り』の発送
- ●医療連携フォーラムの開催
- ●各医療機関への訪問

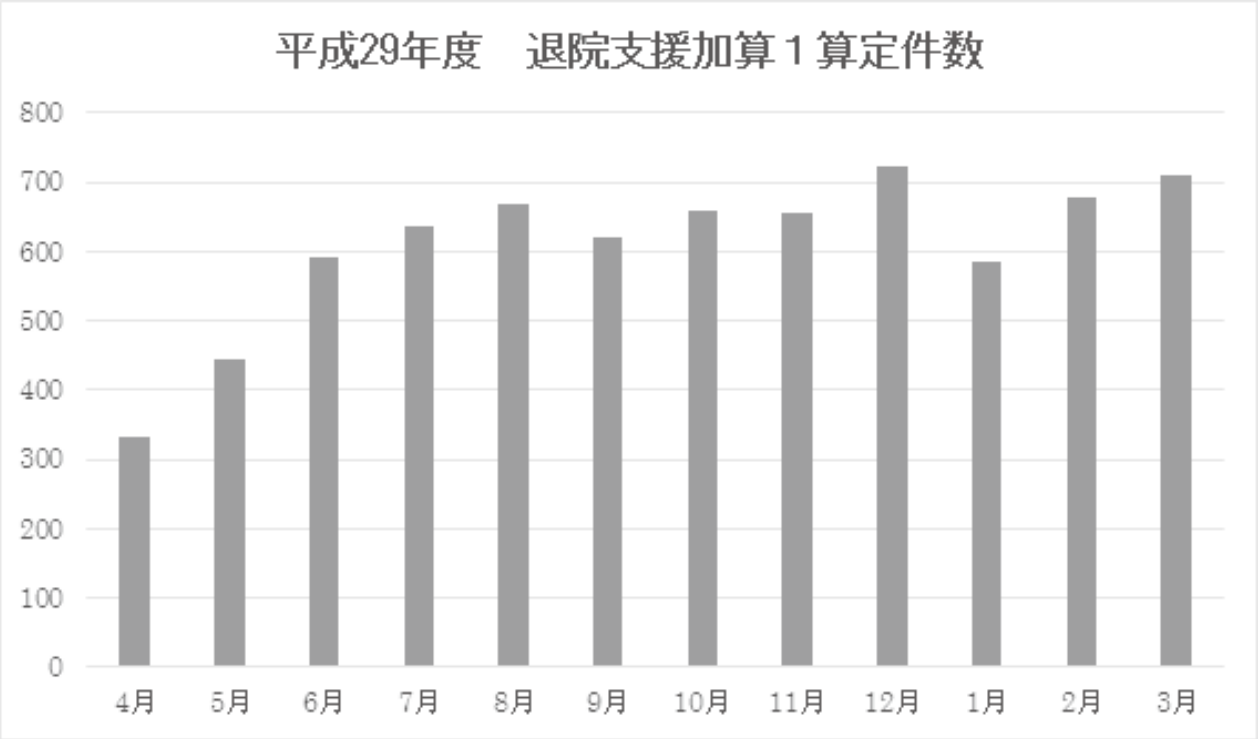
3．業務実績(2017年実績)

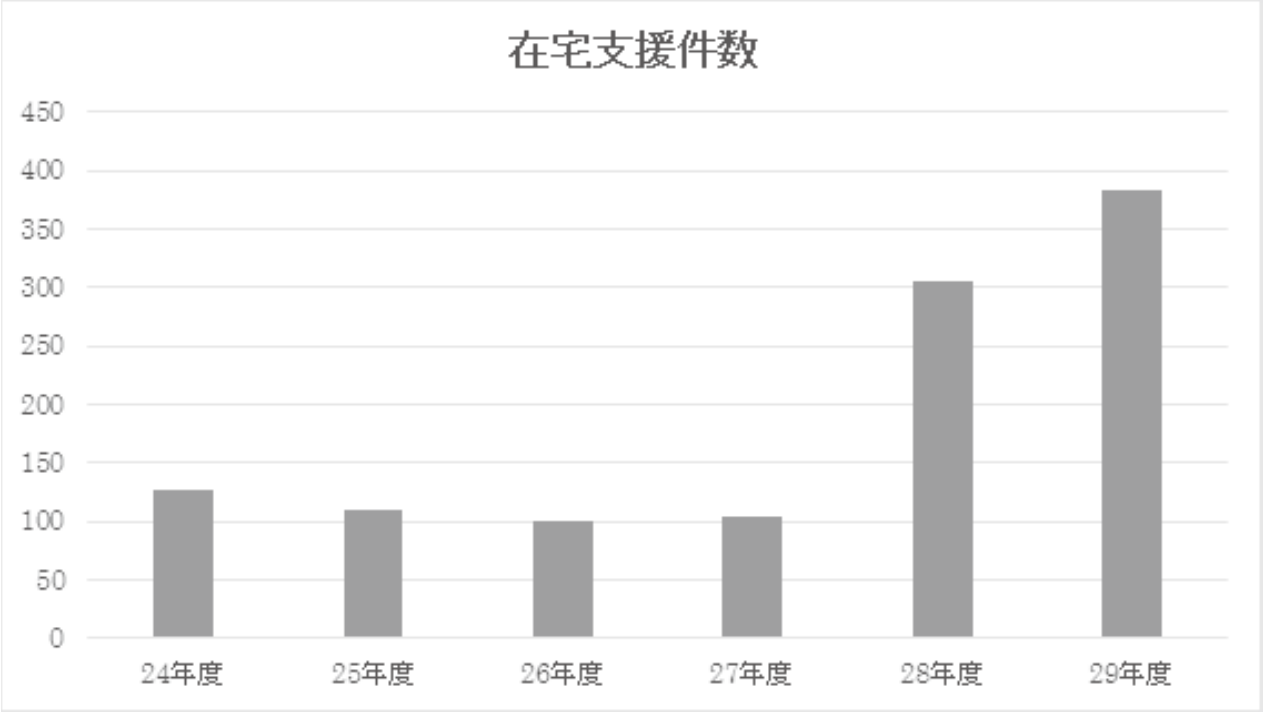
地域医療連携室経由予約件数　診療予約9,389件　検査予約1,045件
1日平均予約件数42.6件
相談件数19,437件　転院支援実績912件
転院支援実績在院日数34.9日　地域連携診療計画管理料適用患者数169件
救急受診受付1049件　救急受診受入後入院件数510件
セカンドオピニオン相談件数205件　セカンドオピニオン実績件数31件
紹介率71.8％　逆紹介率86.0％　開放型病床登録医数127件
地域医療連携委員会　1回/月
地域支援病院運営委員会　四半期1回

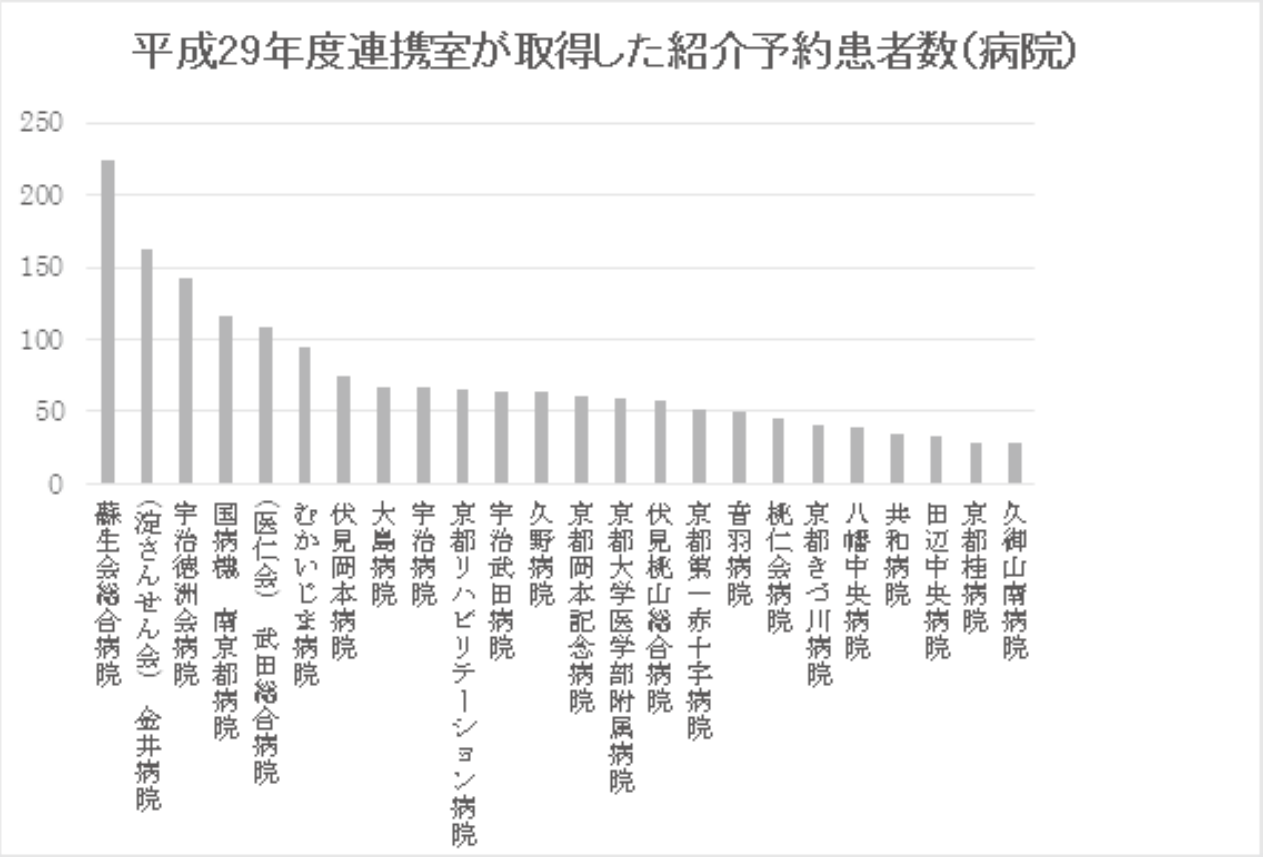
学会発表
平成29年11月10～11日（金・土）第71回国立病院総合医学会
「周産期領域に関する地域との連携について」 ポスター

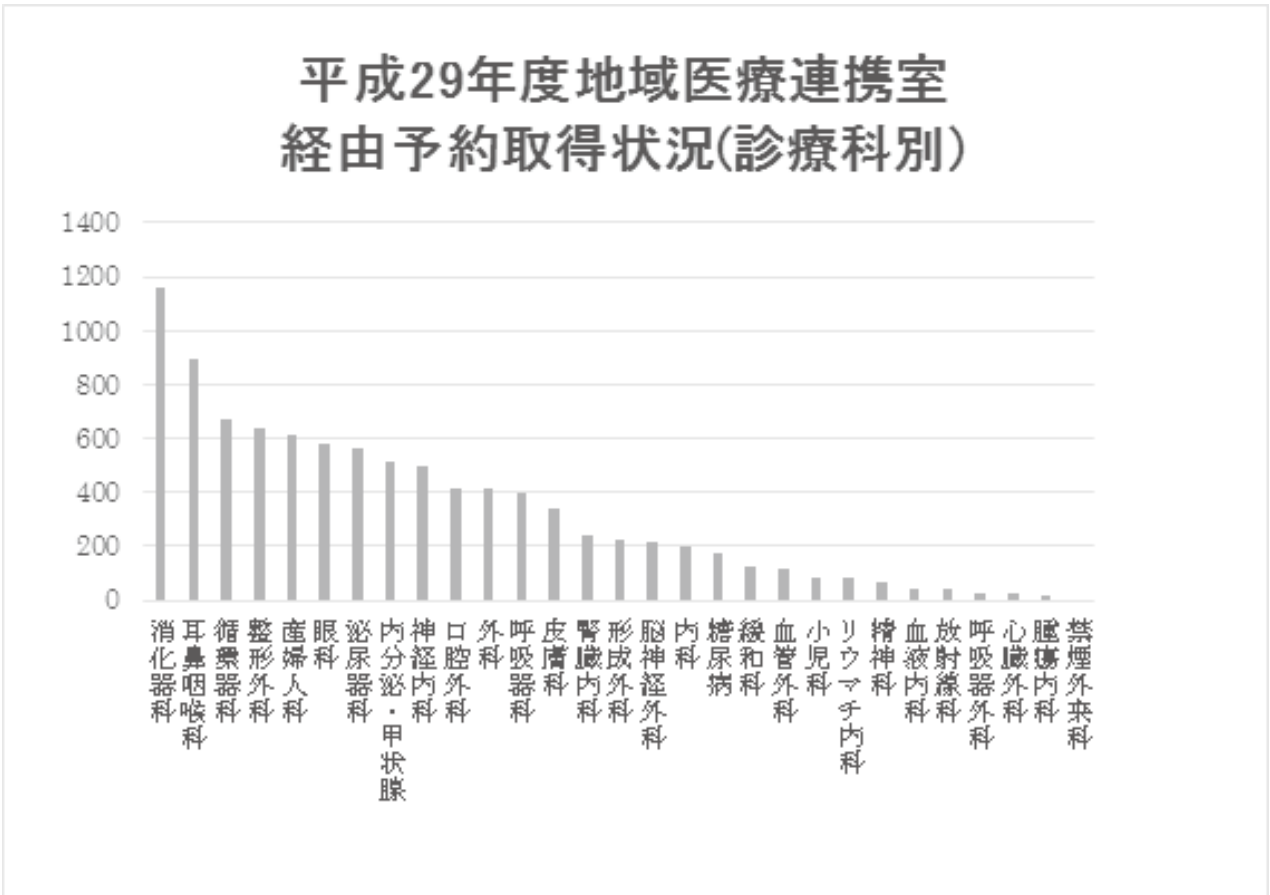
平成30年2月17日（土）日本医療マネジメント学会　第15回京滋支部学術集会
「救急診療受付ダイヤルの新設」 口述

院内発表
平成30年2月17日（土）成果発表会
「紹介患者を増やすための地域医療部の活動とその成果」 シンポジウム
「在宅療養児・者に対する地域医療連携室としての取り組み」 ポスター

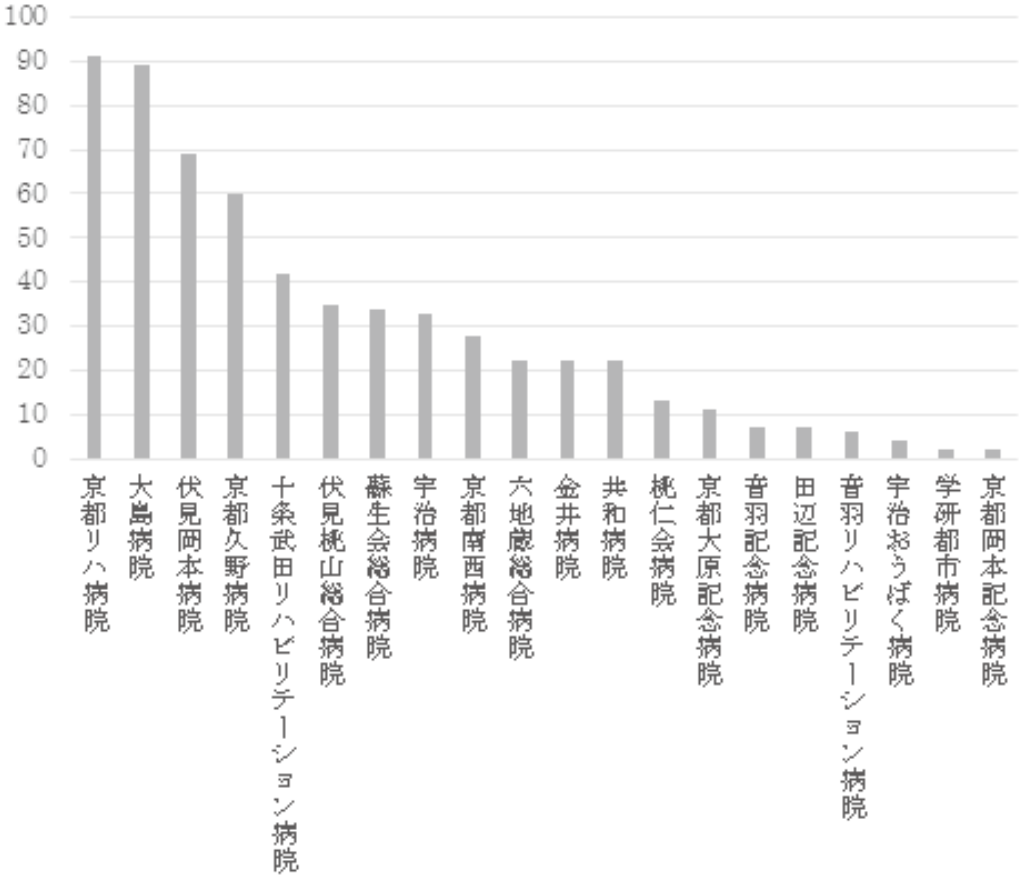

平成29年度　退院支援加算１算定件数
800
700
600
500
400
300
200
100
0
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月


在宅支援件数
450
400
350
300
250
200
150
100
50
0
24年度
25年度
26年度
27年度
28年度
29年度

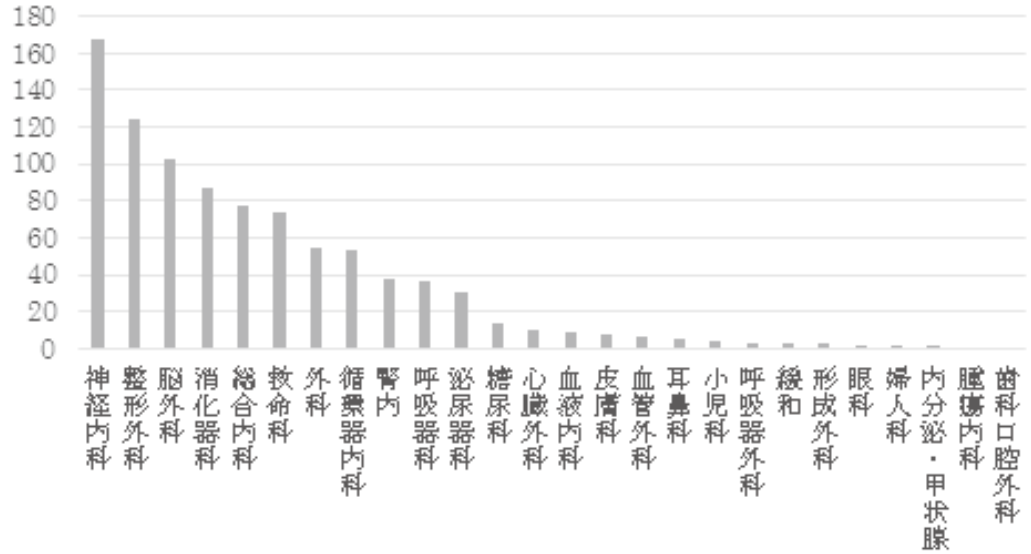

平成29年度連携室が取得した紹介予約患者数(病院)
250
200
150
100
50
0
藤生会総合病院
(淀さんせん会)　金井病院
宇治徳洲会病院
国病機　南京都病院
(医仁会)　武田総合病院
むかいじま病院
伏見岡本病院
大島病院
宇治病院
京都リハビリテーション病院
宇治武田病院
久野病院
京都岡本記念病院
京都大学医学部附属病院
伏見桃山総合病院
京都第一赤十字病院
音羽病院
桃仁会病院
京都きづ川病院
八幡中央病院
共和病院
田辺中央病院
京都桂病院
久御山南病院


平成29年度地域医療連携室
経由予約取得状況(診療科別)
1400
1200
1000
800
600
400
200
0
消化器科
耳鼻咽喉科
循環器科
整形外科
産婦人科
眼科
泌尿器科
内分泌・甲状腺
神経内科
口腔外科
外科
呼吸器科
皮膚科
腎臓内科
形成外科
脳神経外科
内科
糖尿病
緩和科
血管外科
小児科
リウマチ内科
精神科
血液内科
放射線科
呼吸器外科
心臓外科
腫瘍内科
禁煙外来科

平成29年度連携室が調整した転院先病院



平成29年度地域連携室　転院支援実績（診療科）



薬剤部



薬剤部長
小林　勝昭
平成30年3月31日まで

専門医資格等
日本医療薬学会指導薬剤師
日本医療薬学会認定薬剤師
認定実務実習指導薬剤師
日本病院薬剤師会認定指導薬剤師



薬剤部長
本田　芳久
平成30年4月1日現在

専門医資格等
薬剤師認定制度認証機構認証生涯研修認定薬剤師
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
日本病院薬剤師会認定指導薬剤師
大阪大谷大学薬学部
臨床教授

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門資格等
副薬剤部長	粉川　俊則	
副薬剤部長	桶本　　幸	日本医療薬学会認定薬剤師、NST専門療養士
治験主任	松田　恭子	
病棟主任	古川　順章	日本医療薬学会がん専門薬剤師、日本緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師、日本緩和医療薬学会麻薬教育認定薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師、生涯研修履修認定薬剤師
薬務主任	山本　修平	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師、生涯研修履修認定薬剤師、感染制御認定薬剤師
医薬品情報主任	小田　亮介	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師、生涯研修履修認定薬剤師
調剤主任	竹松　茂樹	日本病院薬剤師会HIV感染症薬物療法認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、認定実務実習指導薬剤師
製剤主任	畑　　裕基	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、認定実務実習指導薬剤師
実習担当主任	辰己　晃造	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、認定実務実習指導薬剤師、日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト、日本在宅薬学会在宅療養支援認定薬剤師
薬剤師	喜田　孝史	小児薬物療法認定薬剤師
薬剤師	沖　　遼子	
薬剤師	松本真理子	日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、日本糖尿病療養指導士認定機構日本糖尿病療養指導士
薬剤師	西村　容徳	
薬剤師	田渕　寿美	
薬剤師	宮地由香里	
薬剤師	熊谷　康平	
薬剤師	野田　拓誠	
薬剤師	植田　裕美	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本糖尿病療養指導士認定機構日本糖尿病療養指導士

薬　剤　師	小玉美季子	
薬　剤　師	井上　麻美	
薬　剤　師	岸本　周子	
薬　剤　師	杉本　有香	
薬　剤　師	前川由季奈	
薬　剤　師	市原　英則	
薬　剤　師	藤井　大和	
薬　剤　師	上田　浩人	
薬　剤　師	吉川智菜美	
薬　剤　師	吉水　浩史	日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト
薬　剤　師	安達昴一郎	
薬　剤　師	馬場　雅子	
薬　剤　師	物部加容子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師
薬　剤　師	神林　由樹	
薬　剤　師	岡　　知代	
薬　剤　師	柴　　俊輔	
薬　剤　師	半井　春香	

□ 診療科の特徴

1. 各病棟に担当薬剤師を配置し、病棟薬剤業務実施加算を特殊病棟を含め実施している。
2. 外来化学療法室での抗がん剤無菌調整、レジメンチェック、服薬指導を実施している。
   また、薬剤師外来（化学療法）を設置し、がん患者管理指導料算定業務をおこなっている。
3. 救命救急、ICU、NICU病棟に専任の薬剤師を配置し、ハイケア患者に対する薬物療法の質の向上を図っている。
4. ICT、NST、がん、緩和医療をはじめとしたチーム医療と各診療科の専属薬剤師が連携を取り、医師やその他の医療従事者と共働で入院患者の薬物療法の質の向上に努めている。
5. 早期体験実習生、長期実務実習生の受け入れなど質の高い教育研修を行っている。
6. 平成24年度に京都薬科大学と、また平成28年度に摂南大学と包括協定を締結し、教育や臨床研究の発展を図っている。
7. 治験・臨床研究実施におけるCRC業務等を実施している。

□ 診療（業務）内容

「薬学的介入によるアウトカムの検証」

＜病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務＞

医師、看護師らとの連携により、可能な限り入院患者の初回投与時及び退院時の服薬指導を実施するとともに、薬剤管理指導の増大と医療の質の向上に寄与する。

＜医薬品の安全性の確保＞

積極的に副作用情報を収集し、医薬品の安全性を確保するとともに医薬品情報の収集・提供体制の強化を図る。さらに、プレアボイド情報の収集に努め、迅速な対応を行う。また、医薬品関連インシデントの解析から、病棟専任薬剤師が医療事故防止策に積極的にアプローチする。

＜注射薬の無菌調整業務＞

全診療科の抗悪性腫瘍剤の無菌調整を実施し、医療従事者の安全性を確保するとともに医療事故の防止に努める。

患者の安全性確保のため抗悪性腫瘍剤のレジメン管理の適正化を薬剤師主導で実施する。

＜医薬品管理の適正化＞

薬事委員会を通じて同種同効薬の整理を行い、採用医薬品数の縮減に努める。

＜教育研修・研究＞

積極的に各種研修に参加し資格認定及び専門薬剤師等の取得に努める。

薬学実務実習生、研修生を積極的に受け入れ、質の高い教育研修を行う。また、業務の効率化及び医療の質の向上を目的とした研究業務を行い、学会などに積極的に参加する。

＜調剤過誤防止＞

ヒヤリ・ハット報告の収集・分析・対策を迅速に行い、再発防止に努めるとともに監査の徹底により調剤過誤を減少させる。

＜チーム医療、クリニカルパスへの参画＞

薬剤師の専門性を活かした業務を推し進め、緩和ケア、糖尿病療養、ICT、NST、救命救急などのチーム医療に貢献する。また、クリニカルパスの運用において、薬剤部として積極的に関わり薬物療法の適正化に努める。

＜地域医療連携の強化＞

地域連携パスにおいて、服用薬の管理等、薬学的管理事項に関与し、在院日数の短縮に貢献するとともに、お薬手帳で薬薬連携の充実を図る。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	竹松　茂樹、小田　亮介、金井　修、桶本　幸、粉川　俊則、小林　勝昭　当院におけるエムトリシタビン/テノホビルアラフェナミドフマル酸塩配合錠の使用状況について　第31回日本エイズ学会　2017.11.24　東京
国内学会	辰己晃造小玉美希子、古川順章、粉川俊則、桶本幸、小林勝昭、河鰭憲幸、土屋宣之　多発性骨転移、顎骨壊死に対して高用量オピオイドを用いてコントロールを行った症例　日本臨床腫瘍薬学会　2018.3.17　横浜
国内学会	辰己晃造、古川順章、桶本幸、小林勝昭、藤枝英美　当院の退院時服薬指導書の実態調査と今後の展望 近畿薬剤師合同学術大会2018　2018.2.4　京都
国内学会	畑 裕基、植田 裕美、喜田 孝史、吉水 浩史、上田 浩人、市原 英則、井上 麻美、沖 遼子、野田 拓誠、粉川 俊則、桶本 幸、小林勝昭　「安全な抗がん剤調製のためのチェックリスト」を用いた抗がん剤調製トレーニングの効率化と曝露対策 近畿薬剤師合同学術大会2018　2018.2.3　京都

□ 投稿論文など

著　者	タ イ ト ル ・ 著 書 ・ 雑 誌 名
桶本　幸、佐光　留美、覚野　律、本田　芳久	薬剤師非常駐手術室における他職種間協働による医薬品管理改善への取り組み. 日本病院薬剤師会雑誌　2017;53(7):853−858
桶本　幸、秋山　功、本田　芳久	急性期における薬物治療を施行した脳梗塞患者の栄養摂取方法と意識障害の検討. 医療薬学　2017;43(10):569-576

臨床検査科



専門医資格等
　日本整形外科学会専門医

臨床検査科長
藤森　洋一

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門資格等
臨床検査技師長	益田　喜信	認定臨床化学者
副臨床検査技師長	河合　　健	認定輸血検査技師
副臨床検査技師長	住田　善之	超音波検査士（循環器）
主任臨床検査技師	楠木　秀和	日本細胞検査士、国際細胞検査士
主任臨床検査技師	池田　俊彦	日本細胞検査士、国際細胞検査士
主任臨床検査技師	溝上　泰司	
主任臨床検査技師	浅田　高至	超音波検査士（循環器）
主任臨床検査技師	谷口　美奈	超音波検査士（循環器）、糖尿病療養指導士
主任臨床検査技師	宮本　祐吾	2級微生物臨床検査士
主任臨床検査技師	安達名緒子	超音波検査士（循環器）
主任臨床検査技師	吉川　耕平	認定臨床微生物検査技師
臨床検査技師	島田　良員	
臨床検査技師	黒川美和子	
臨床検査技師	大上　哲也	日本細胞検査士、国際細胞検査士、二級甲類臨床病理技術士（病理学）
臨床検査技師	西山　智美	超音波検査士（循環器）、認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	相原美奈子	認定輸血検査技師、認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	大平真梨子	
臨床検査技師	永阪麻衣子	2級病理臨床検査士
臨床検査技師	伊藤　千慧	
臨床検査技師	吹田　卓也	2級循環生理学臨床検査士、認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	園田美代子	
臨床検査技師	飛驒　美希	認定遺伝カウンセラー
臨床検査技師	山本　紗綾	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	内山有里紗	2級血液臨床検査士、認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	土田麗央奈	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	前川美翠穂	
臨床検査技師	伊藤　大輔	
臨床検査技師	中村　美咲	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	三觜　智子	2級血液臨床検査士、認定緊急臨床検査士

臨床検査技師	片山　由衣	日本細胞検査士
臨床検査技師	里部　美咲	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	平野　花奈	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	丸野　大輝	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	金丸　青空	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	道面　将嗣	日本細胞検査士
非常勤技師	井本　元治	超音波検査士（循環器、消化器）
非常勤技師	三浦　辰朗	
事務助手	岩崎　京子	
事務助手	岡　由美	
事務助手	北村　直子	
事務助手	村井　佳世	

□ 科(室)の特徴

1. 正しいデータを臨床側に返すことは、臨床検査技師の大切な任務であり、その命ともいえる精度管理に大きなエネルギーを注いでいます。
2. 当センターは日本の政策医療で、内分泌・代謝性疾患の基幹的役割を担っています。当科は臨床検査のトップ集団であることを自覚し、政策医療関連の検査の充実を図っています。
3. 緊急検査は、24時間対応しています。
4. 感染防御という立場から積極的に取り組むため、ICT（感染防御チーム）の活動に臨床検査技師も参加しています。
5. 輸血業務を一元化し、安全かつ適正な輸血管理業務を行っています。

□ 診療（業務）内容

当科の業務は臨床検査を行うことであり、臨床検査は検体検査と生理機能検査の２つの分野に大きく分かれます。

1. 検体検査：血液、尿、便、痰、手術により切り出された組織、穿刺液等を用いて行う検査です。肝機能検査や生活習慣病の血糖・尿糖検査、貧血検査、がん細胞検査等がこの中に含まれます。検査部門としては血液学検査、生化学検査、免疫学検査、輸血関連検査、微生物学検査、病理学検査、一般検査があります。
2. 生理機能検査：直接患者さんの身体に接して、体内からの情報や変化の状態を数字や画像に変換して目で見えるようにする検査です。分野別に心電図検査、肺機能検査、脳波検査、筋電図検査、超音波検査、聴力検査、睡眠時無呼吸検査、出血時間検査があります。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
伊藤 千慧, 志馬 伸朗, 福田 修, 小田垣 孝雄 血液培養陽性症例におけるブロスと薬剤含有ディスクを用いた迅速薬剤感受性検査法の有用性 第91回日本感染症学会総会・学術講演会/第65回日本化学療法学会学術集会合同学会　2017.4.6　東京
福田 修, 志馬 伸朗, 伊藤 千慧, 小田垣 孝雄 サポニン加ブロスを用いた迅速菌種同定ならびに薬剤感受性の検討 第91回日本感染症学会総会・学術講演会/第65回日本化学療法学会学術集会合同学会　2017.4.6　東京
里部 美咲 緊急臨床検査士合格への道 国立病院機構近畿支部新採用職員（コ・メディカル部門等）部門別研修　2017.4.19　大阪
住田 善之, 林 文子, 松本 俊一, 西山 智美, 前川 美翠穂, 山本 紗綾, 安達 名緒子 心電図自動解析による左房負荷の臨床的意義 第42回日本超音波検査学会学術集会　2017.6.18　福岡

三觜 智子, 小森 法子, 内山 有里紗, 塩澤 洋子, 益田 喜信, 奥野 芳章, 高宮 脩 当院で経験した後天性第V因子インヒビターの一例 第18回日本検査血液学会学術集会　2017.7.22　北海道
内山 有里紗, 三觜 智子, 塩澤 洋子, 小森 法子, 浅田 高至, 河合 健, 益田 喜信, 奥野 芳章 骨髄異形成症候群の経過観察中にPh染色体の出現を認めた一症例 第18回日本検査血液学会学術集会　2017.7.22　北海道
伊藤 千慧, 福田 修, 吉川 耕平, 溝上 泰司, 河合 健, 住田 善之, 益田 喜信, 藤森 洋一 臨床とのコミュニケーションで感じたこと 第10回関東BDエキスパートセミナー　2017.9.2　東京
吉川 耕平 微生物検査実態調査から 国臨協近畿支部主催微生物検査研修会　2017.10.07　京都
三觜 智子, 内山 有里紗, 里部 美咲, 浅田 高至, 河合 健 経口摂取不良・抗凝固剤使用によりビタミンK依存性凝固異常を呈した一症例 第57回日臨技近畿支部医学検査学会　2017.10.28　京都
伊藤 千慧, 福田 修, 吉川 耕平, 溝上 泰司, 河合 健, 住田 善之, 益田 喜信, 藤森 洋一 苦節7年～医師達から学んだこと～ 第3回感染症診断フォーラム　2017.11.25　大阪
浅田 高至 生化学検査の基本とデータの読み方 2017 関西 Chemistry ユーザー会　2017.11.26　大阪
浅田 高至 電解質の検査データの読み方 第42回 日立自動分析研究会　2017.12.3　大阪
片山 由衣 スライドカンファレンス症例1口腔擦過（回答者） 第19回京都臨床細胞学会教育研修会　2017.12.17　京都
三觜 智子, 小森 法子, 内山 有里紗, 塩澤 洋子, 益田 喜信, 奥野 芳章, 高宮 脩 当院で経験した後天性第V因子インヒビターの一例 第9回関西凝固研究会　2018.1.20　大阪
住田 善之 僧帽弁閉鎖不全症（MR）の診断と治療 平成29年度日本臨床検査技師会中部圏支部第31回生理検査研修会　2018.2.17　石川
浅田 高至 臨床検査技師と甲状腺検査の関わり 第31回京都府医師会・京都府臨床検査技師会合同学術研修会　2018.2.24　京都
三觜 智子, 小森 法子, 内山 有里紗, 塩澤 洋子, 益田 喜信, 奥野 芳章, 高宮 脩 当院で経験した後天性第V因子インヒビターの一例 第18回TTMフォーラム学術集会　2018.3.3　東京

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	発行年および月
脇 英彦,藤田 晋一,住田 善之,田中 益水,北出 和史,井上 太	第3章生理検査パニック値(像)の運用指針 画像解析系 1 循環器系(心臓超音波検査)	一発解決　パニック値(像)と遭遇したときの対処法			58-66	2018

病理診断科



専門医資格等
病理専門医
細胞診専門医
死体解剖資格

病理診断科長
森吉　弘毅
平成29年4月1日現在

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野
医　　師	川 畑　　茂	死体解剖資格	病理全般
主任臨床検査技師	楠木　秀和	日本細胞検査士 国際細胞検査士	
主任臨床検査技師	池田　俊彦	日本細胞検査士 国際細胞検査士	
臨床検査技師	大上　哲也	日本細胞検査士 国際細胞検査士	
臨床検査技師	永阪麻衣子		
臨床検査技師	片 山 由 衣	日本細胞検査士	
臨床検査技師	道面　将嗣	日本細胞検査士	

□ 科の特徴

1. 病理医2名でダブルチェックを行い、診断精度の向上を図っています。
2. 細胞検査士の資格を持つ検査技師と協力し、細胞診業務を行っています。
3. コンサルテーション等で京大病院病理診断科との協力体制を築いています。
4. 組織診、細胞診、術中迅速診断、病理解剖、CPCのいずれについても正確かつ迅速な診断を心がけています。
5. カンファレンス等を通じて臨床医とのコミュニケーションを図ることで、より臨床の現場に即した診断が行えるよう努めています。

□ 診療（業務）内容

1. 組織診断：生検や手術によって採取された検体に対し、良悪性の判定、炎症の有無などを調べ、診断名を確定します。また、治療効果や腫瘍のステージ、転移の有無などの判定を行い、以後の治療方針の決定に役立てています。2017年は8011件の組織診断を行いました。
2. 細胞診：子宮頸部擦過、尿、喀痰、甲状腺やリンパ節の穿刺などによって得られた細胞を観察し、良悪性の判定を行います。2017年は7764件の細胞診を行いました。
3. 他院標本診断：セカンドオピニオンや転院によって当院を受診された患者さんが持参された標本を改めて検討し、診断の確認を行っています。2017年は組織診137件、細胞診11件の他院標本診断を行いました。

4. 術中迅速診断：手術中に提出された検体を15-20分程度で診断し、手術範囲や術式の決定に役立てています。2017年は447件の術中迅速診断を行いました。
5. 病理解剖：亡くなられた患者さんのご遺体を解剖し、病態を詳しく調べて、生前に分からなかった事も解明しています。2017年は19件の病理解剖を行いました。
6. CPC：臨床各科と合同で病理解剖症例の検討を行い、様々な視点から病態を調べて、今後の診断や治療に役立てています。また、研修医と共に発表を行い、医学教育に寄与しています。
7. カンファレンス：臨床各科と定期的にカンファレンスを実施し、臨床情報と病理所見の摺り合わせを行っています。また、手術検体の切り出しの際の外科医立ち会いや、個別症例についてのディスカッションを通じて臨床医とのコミュニケーションを図ることで、より臨床の現場に即した診断が行えるよう努めています。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	川畑 茂、山田 洋介、橋本 恭一、羽賀 博典、山田 泰広　Apc 遺伝子変異による細胞種特異的な腫瘍形成　第106回日本病理学会総会　2017.4.28　東京
国内学会	竹井 雄介、森吉 弘毅、小野 一雄、村上 一郎、巖本 三壽、羽賀 博典　ランゲルハンス細胞組織球症におけるKIR2DL4 の発現と機能解析　第106回日本病理学会総会　2017.4.28　東京

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	発行年および月
Fujita K, Mizumoto Y, Moriyoshi K, Araki N, Mio T.	Acute onset of ulcerative colitis during chemoradiotherapy for anaplastic lymphoma kinase-positive lung adenocarcinoma.	Respirol Case Rep.	6	2	e00288	2017.12
Nakatani R, Murata T, Usui T, Moriyoshi K, Komeda T, Masuda Y, Kakita-Kobayashi M, Tagami T, Imashuku S, Kono S, Yamada K, Shimatsu A.	Importance of the Average Glucose Level and Estimated Glycated Hemoglobin in a Diabetic Patient with Hereditary Hemolytic Anemia and Liver Cirrhosis.	Intern Med.	57	4	537-543	2018.2
Motoishi M, Horimoto K, Hayashi K, Sawai S, Moriyoshi K.	Coexisting Thymic and Pulmonary Carcinoid Tumors Associated with Multiple Endocrine Neoplasia Type1. doi: 10.5761/atcs.cr.17-00042. [Epub ahead of print]	Ann Thorac Cardiovasc Surg.				2017.10
Takei Y, Ueshima C, Kataoka TR, Hirata M, Sugimoto A, Rokutan-Kurata M, Moriyoshi K, Ono K, Murakami I, Iwamoto S, Haga H.	Killer cell immunoglobulin-like receptor 2DL4 is expressed in and suppresses the cell growth of Langerhans cell histiocytosis.	Oncotarget.	8	23	36964-36972	2017.6

臨床栄養科



臨床栄養科長
大谷　哲之

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
栄養管理室長	西田　博樹	
主任栄養士	大谷　弥里	NST専門療法士
栄養士	騎馬　沙苗	
栄養士	弓場　洋子	
栄養士	坂本　実優	
栄養士	新垣　友啓	
栄養士	出島　美咲	
非常勤栄養士	薮内　梨果	
非常勤栄養士	藤井　恵子	
非常勤事務助手	山城智佐子	
調理師長	福井　　勝	
副調理師長	河添　幸弘	
副調理師長	石井　俊雄	
主任調理師	山田　弘喜	
主任調理師	西田　正直	
調理師	坂本　尚人	
調理師	桝村　勝利	
調理師	澤邊　元弘	
調理師	荒川　和彦	
調理師	博多　健二	
調理師	松尾　隆生	
調理師	蒲生　　亘	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設

1．管理栄養士専従による栄養サポートチーム活動
2．専門外来栄養指導の実施

3. 特別メニュー食の提供
4. 個人対応食（PS食）の提供
5. 緩和ケア病棟での特別行事食の実施

□ 診療（業務）内容

1. 食事の提供
　入院患者を対象に大量調理施設衛生マニュアルに基づいた管理のもと、安全な食事（一般食及び治療食）を提供している。患者サービス、喜ばれる食事の一環として、週3回の選択食や月1回の行事食を実施すると共に、特別個室病棟を対象に特別献立による提供を行っている。緩和ケア病棟、化学療法における食欲不振時には、低食欲時食や個人対応食（PS食）を提供している。今年度は検査などによる延食を見直し、透析食に関しては通常の食事に近い内容で提供するように変更した。また、妊産婦食のリニューアルも行った。
2. 栄養食事指導
　外来及び入院患者を対象に個人指導や糖尿病教室、母親教室などの集団指導を実施。個人指導では、1型糖尿病ポンプ外来や1型糖尿病専門外来、メタボリックシンドローム外来などの専門外来指導も実施している。
3. チーム医療
　栄養サポートチーム（管理栄養士専従）や、摂食嚥下対策チーム、緩和ケアチーム、糖尿病透析予防チームなどチームの一員として管理栄養士が積極的に参加している。
4. 教育研修
　今年度は６大学より、２３名の実習生を受入れた。
5. レシピの提供
　院内レストランに低カロリー、減塩のランチメニューのレシピを提供している。
　構築したレシピをもとにレシピ本の２版を出版した。

□ 地域医療連携・広報活動

第31回DM京都　「昨今の糖尿病食事療法における課題と問題点」2017/7/22
第20回伏見栄養療法・在宅医療研究会　「廃用性嚥下障害患者の経口摂取改善となった１症例」2017/8/26
第9回腎臓病教室　「腎臓にやさしい食事の話」2017/9/16
平成29年度栄養管理技能研修（北海道東北グループ）　「糖尿病ケアチームにおける管理栄養士としての役割と活動の実際」2017/9/29
伏見糖尿病連携学術講演会　「糖尿病治療における管理栄養士の役割と活動の実際」2017/11/16
メタボ会　「あなたのベストなダイエットを見つけよう」2018/1/13

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
	坂本実優　第14回国立病院栄養研究学会　「経営改善の取り組み～妊産婦食完全リニューアル～」2018/2/11
	西田博樹　第38回日本肥満学会「ランチョン弁当ミニレクチャー　～厳選ステーキ弁当～」2017/10/7
TV出演	西田博樹　「ダイエットレシピ」NHK ごごなま　2017/6/9

医療技術部　臨床工学科



医療技術部長
伊藤　剛

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
主任臨床工学技士	柳澤　雅美	3学会合同呼吸療法認定士・透析技術認定士
臨床工学技士	清水 真樹子	3学会合同呼吸療法認定士
臨床工学技士	大谷　直哉	体外循環技術認定士・3学会合同呼吸療法認定士・医療情報技師
臨床工学技士	中村　健志	
臨床工学技士	嵯峨根 由奈	3学会合同呼吸療法認定士・体外循環技術認定士
臨床工学技士	町屋敷　薫	
臨床工学技士	丸宮　千冬	
臨床工学技士	瀬津 健太郎	
臨床工学技士	湊　　拓巳	体外循環技術認定士・透析技術認定士
臨床工学技士	植田　哲朗	
臨床工学技士	串田　博紀	

□ 診療科の特徴

患者さんへ安全かつ安心して、高度な医療技術が受けていただける環境づくりに努める。

□ 業務内容

臨床工学科の業務内容
臨床工学の業務は、大きく【臨床支援業務】と【医療機器管理業務】の2つの分野があります。
『臨床支援業務』：呼吸・循環・代謝に関わる生命維持装置の操作
『医療機器管理業務』：院内での医療機器の効率的な運用を行う為、機器の選定から廃棄に至るまで医療機器の総合的管理
日々高度化する医療において、不可欠な人工呼吸器（呼吸療法）・人工透析（血液浄化療法）・人工心肺（体外循環）など、生命に直結する重要な生体機能を代行する医療機器の管理と操作のプロフェッショナルとして活動しています。また、患者さんの状態に合わせて安全に最適な条件で治療の手助けを行い、病院内の医療機器全般について、いつでも、有効かつ安全・安心して臨床使用できるように運用・保守管理するという重要な役割も担っています。医療の中心にある患者さんを見据え、臨床工学技士として、必要な専門知識と技術を『工学分野』と『医学分野』を交え日々努力しています。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	柳澤　雅美、清水　真樹子、湊　拓巳、大谷　直哉、嵯峨根　由奈、中村　健志、丸宮　千冬、町屋敷　薫、瀬津　健太郎、植田　哲郎 借用医療機器の安全な管理を試みて　第２７回日本臨床工学技士会　2017.5.20-21　青森
国内学会	湊　拓巳　人工呼吸器の遠隔監視システムの開発　第２７回日本臨床工学技士会　2017.5.20-21　青森
国内学会	柳澤　雅美、清水　真樹子、湊　拓巳、大谷　直哉、嵯峨根　由奈、中村　健志、丸宮　千冬、町屋敷　薫、瀬津　健太郎、植田　哲郎 持ち込みNPPV管理を開始して　第39回日本呼吸療法医学会学術集会　2017.7.15-16　東京
国内学会	中村　健志、清水　真樹子、湊　拓巳、大谷　直哉、嵯峨根　由奈、柳澤　雅美、丸宮　千冬、町屋敷　薫、瀬津　健太郎、植田　哲郎 遠隔モニタリングに関する管理業務と患者教育について　第64回日本不整脈心電学会学術大会　2017.9.14-17　横浜
国内学会	柳澤　雅美、清水　真樹子、湊　拓巳、大谷　直哉、嵯峨根　由奈、中村　健志、丸宮　千冬、町屋敷　薫、瀬津　健太郎、植田　哲郎 心臓植込みデバイス患者の電気メス使用手術での臨床工学技士の立ち会い業務について　第64回日本不整脈心電学会学術大会 2017.9.14-17　横浜

看護部



看護部長
荒木　輝美
平成30年3月31日まで



看護部長
西本　京子
平成30年4月1日現在

国立病院機構の理念に沿った病院の使命を認識し、機構の看護職員として以下の役割を果たす

1．機構及び病院の理念を踏まえた良質の看護サービスの提供に努める
2．看護の質の向上を目指し、臨床看護の研究、業務の改善を行う
3．良質な看護を提供するために、看護職員をはじめ看護に関係する職員の教育研修を行う
4．看護の提供と経営効率の調和を図り、病院経営に参画する
5．チーム医療推進のための調整を図る
6．地域住民への健康教育活動に参画する

□ 看護部の理念

私たちは、常に患者さんと共に歩み、
安心して納得のいく医療を受けていただくために、
わかりやすく丁寧な看護を提供いたします

□ 看護部の目標

【平成２９年度　看護部目標】

スローガン　「笑顔とコミュニケーションと実践」

1．急性期医療を担う看護力の向上
2．地域のニーズに応える看護連携の強化
3．病院経営への積極的な参画
4．倫理的観点にぶれない看護サービス

□ 看護部の組織

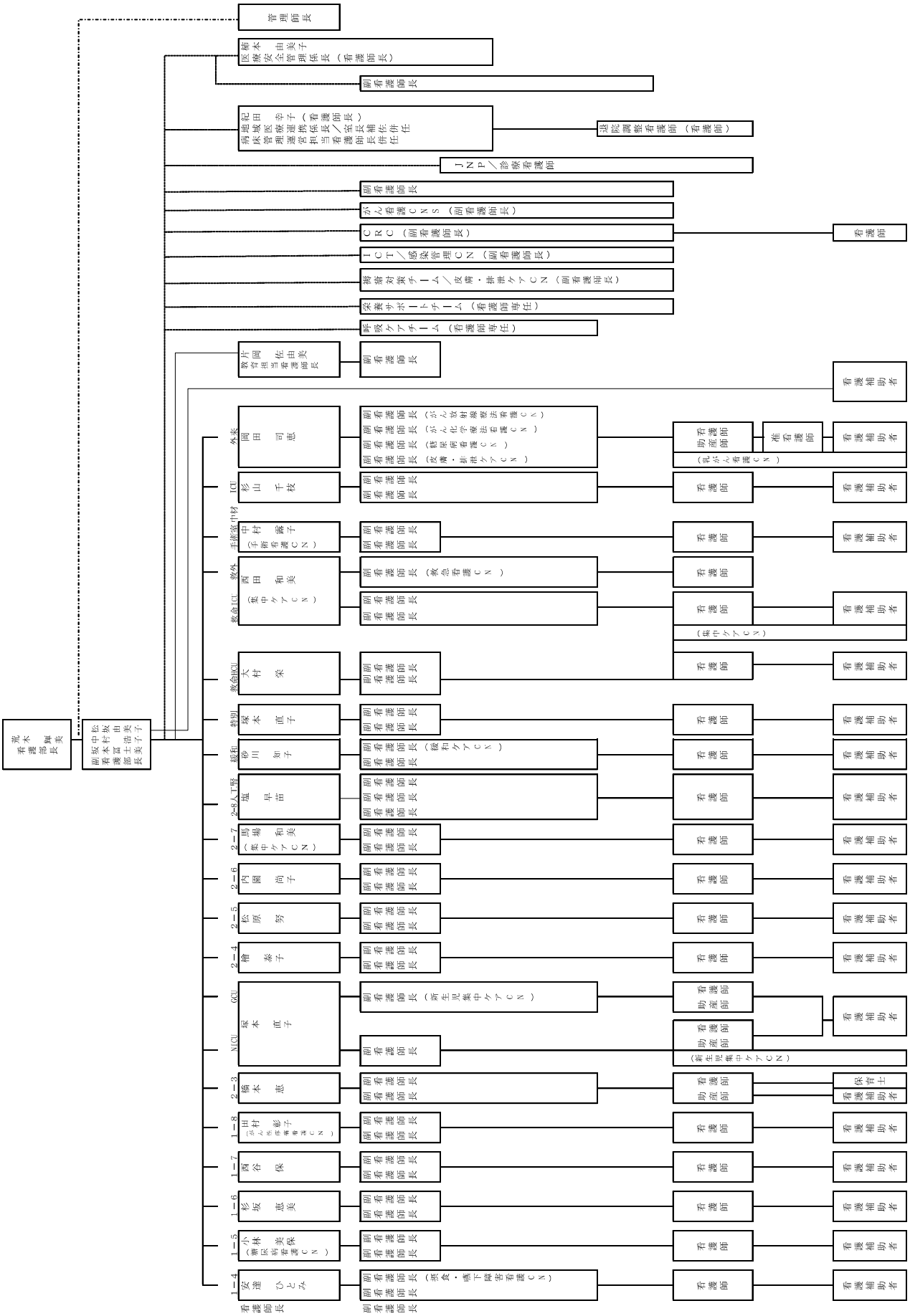
Ⅰ．看護部組織図
（別紙１：看護部組織図）

Ⅱ．看護部会議・委員会
（別紙２：看護部会議・委員会機能図）

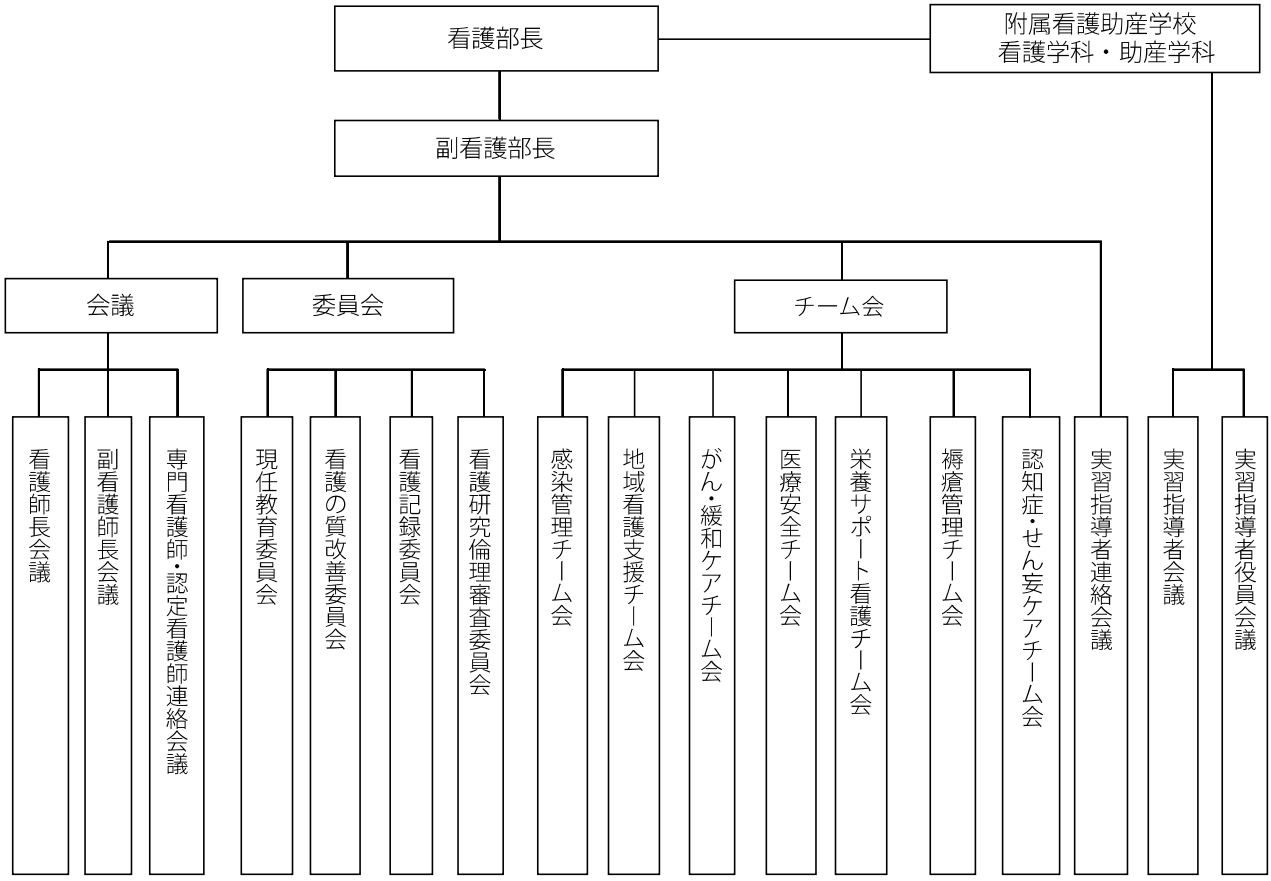
□ 看護部の活動

（別紙３：看護部の活動）

別紙１：看護部組織図


荒木 看護部長 美
副看護部長 中松 坂井 由 美子
管理師長
医師 本安 由美子 管理係長（看護師長）
副看護師長
病棟医師 城田 紀幸子（看護師長） 感染管理医師 連携 看護師長補佐 当番 併任
退院調整看護師（看護師）
ＪＮＰ／診療看護師
副看護師長
ＣＮＳ（副看護師長）
ＣＲＣ（副看護師長）
看護師
ＩＣＴ／感染管理ＣＮ（副看護師長）
褥瘡対策チーム／皮膚・排泄ケアＣＮ（副看護師長）
栄養サポートチーム（看護師専任）
摂食嚥下チーム（看護師専任）
救片岡 当佐由美 看護師長
副看護師長
看護補助者
外来 岡田 司恵
副看護師長（がん放射線療法看護ＣＮ）
副看護師長（がん化学療法看護ＣＮＳ）
副看護師長（慢性呼吸器看護ＣＮ）
副看護師長（皮膚・排泄ケアＣＮ）
助産師
准看護師
（乳がん看護ＣＮ）
ICU 杉山 千枝
副看護師長
看護師
手術室中材 中村 路子（手術看護ＣＮ）
副看護師長
救外 救命ICU 西田 和美（集中ケアＣＮ）
副看護師長（救急看護ＣＮ）
（集中ケアＣＮ）
大村 栄
副看護師長
特別 塚本 直子
緩和 砂川 知子
副看護師長（緩和ケアＣＮ）
2-8 人工腎 塩 早苗
2－7 （集中ケアＣＮ） 野場 和美
2－6 内園 尚子
2－5 松原 努
2－4 檜 奈子
GCU NICU 塚本 直子
副看護師長（新生児集中ケアＣＮ）
助産師
（新生児集中ケアＣＮ）
2－3 藤本 恵
1－8 （がん性疼痛看護ＣＮ） 出村 彰子
1－7 西谷 保
1－6 杉坂 恵美
1－5 （糖尿病看護ＣＮ） 小林 美保
1－4 安達 ひとみ
（栄養・嚥下障害看護ＣＮ）
看護師長
副看護師長

別紙２：看護部会議・委員会機能図



看護部が関わる主な病院諸会議

○管理診療会議
○経営企画・業績評価委員会
○サービス向上委員会
○薬事委員会
○診療報酬管理委員会
○病床管理委員会・小委員会
○外来管理委員会
○手術室運営委員会
○集中治療室運営委員会
○救命救急委員会
○緩和ケア運営委員会
○地域医療連携委員会
○褥瘡対策委員会
○栄養管理委員会・NST委員会
○透析委員会・小委員会
○臨床検査委員会
○輸血療法委員会・小委員会
○化学療法委員会
○医療安全管理委員会
○医療事故対策委員会
○リスクマネージャー会
○院内感染対策委員会
○災害対策委員会
○医療機器安全管理委員会
○医療情報委員会・小委員会
○クリティカルパス委員会
○広報委員会
○安全衛生委員会
○過半数代表者会議・選出選挙委員会

平成29年度病院目標　：地域のニーズに応える高度急性期医療推進

平成29年度　看護部目標　　スローガン　「笑顔とコミュニケーションと実践」

【抽出された具体内容への横断的組織体制】

目標	課題（重要成功要因）	内容(アクションプラン)	成果尺度	目標値	関連組織等	看護部横断的組織(具体策)
急性期医療を担う看護力の向上	・急性期患者のｱｾｽﾒﾝﾄ能力の向上 看護計画・看護記録の充実 実践力： 栄養嚥下評価・口腔ｹｱ 認知症・せん妄ケア 褥瘡ｹｱ・ｵｰｽﾄﾐｰ IVナース ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾌﾟﾘｺｰｼｮﾝ ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ 説明力・指導力 ・リスクアセスメント能力の向上 ・看護基準・手順・業務手順の活用 ・患者（家族）指導力の向上	・急性期病院で勤務する看護師に求められる能力強化 急性期看護に求められるアセスメント能力（呼吸・循環・代謝機能等）の向上 急性期看護に求められる看護技術力・対応力の向上 高齢者・認知症看護の実践力向上 ・各チーム会の役割をとおして知識・技術・態度とリーダーシップ力の向上 ・標準看護計画の充実と、看護計画立案能力の向上 ・患者家族と共に考え、在宅を見据えた退院指導力の向上 ・看護がみえる看護記録ができる ・看護必要度算定に必要な記録ができる	各チームの技術認定 退院支援ｶﾝﾌｧﾚﾝｽの開催 看護記録の監査 看護記録検討事例 看護必要度25%	技術認定看護師数 ラダーⅣ（ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ）到達数 退院支援ｶﾝﾌｧﾚﾝｽの開催数 看護記録の監査数 看護必要度25%以上	各看護単位での取組み 医療チームの活動 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ 委員会の活動 ワーキングの活動	専門看護師・認定看護師連絡会議 栄養サポート看護チーム会 認知症・せん妄ケアチーム会 褥瘡管理チーム会 感染管理チーム会 医療安全チーム会 地域看護支援チーム会 がん緩和ケアチーム会 看護記録委員会 看護師長・副看護師長 経営・病院機能充実ワーキング
	・質の高い急性期看護提供に向けた教育システム（Actywer2、専門領域）のラダーの実践・評価 自己教育力の推進 OJT指導力の強化 ・固定ﾁｰﾑﾅｰｼﾝｸﾞ体制の強化 ﾁｰﾑﾘｰﾀﾞｰの育成 看護の継続 自己・他者の成長を支えるﾁｰﾑ 業務調整力 人間関係調整力 ・患者参画型の看護実践 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ ・各医療チームとの連携強化	・キャリア支援における各研修プログラムの一元管理・誰もが活用できるシステムづくり ・各部署の教育プログラムの評価と再構築（互いに育つ・承認しあうことのできる教育体制） ・固定ﾁｰﾑﾅｰｼﾝｸﾞ役割の整理と明確化 ﾁｰﾑ会活動によるﾘｰﾀﾞｰ・ﾒﾝﾊﾞｰの役割推進 ﾁｰﾑ目標達成に向けたﾁｰﾑ活動（ﾁｰﾑ会開催） ・委員会・チーム会メンバーの支援体制（病棟での活動時間の確保と構成）の強化 ・看護の継続（どこの病棟でも同じ看護の提供含む）につながる情報共有の検討 ・業務改善・調整力の向上 ・医療安全、リスクアセスメント能力の向上（分析方法を理解したインシデントの予防） ・標準看護計画の充実と、看護計画立案能力の向上 ・記録の記載基準の周知 ・看護記録についての教育システムの構築	教育計画の周知 eﾗｰﾆﾝｸﾞの活用・各学会・研修への参加 チーム会の開催 チーム力の向上 目標達成度 看護手順の周知と患者満足度調査 満足度・身だしなみ　4.0以上 ｱｸｼﾃﾞﾝﾄ3a3b件数の5%減少 薬剤・転倒転落件数 薬剤・転倒転落件数	昨年度の10%増 達成度5.0中3.5以上 看護手順周知件数 ｱｸｼﾃﾞﾝﾄ3a3b件数の5%減少 薬剤・転倒転落件数の5%減少	委員会の活動 各看護単位での取組み 看護師長会・副師長会の活動 ↓ ↓ ↓ ↓ 医療チームの活動 各看護単位での取組み 委員会活動	現任教育委員会 副看護師長会 看護師長・副看護師長 看護の質改善委員会 副看護師長会 医療安全チーム会　・　感染管理チーム会 看護記録委員会
地域のニーズに応える看護連携の強化	・京都府南部の基幹病院として、前方連携・後方連携の強化（地域（在宅）⇔病院の情報共有ｼｽﾃﾑの検討） ・退院調整のシステムの充実 ・各看護単位の専門性の向上と、どの看護単位でも安定した重症患者が看れる体制づくり ・各看護単位が同じ質の良い看護を提供	・前方連携の強化（顔の見える関係・地域のニーズへの対応） 入院前の情報共有・ｱｾｽﾒﾝﾄ （入院支援センター設立に向けての準備状態を継続） ・入院時からの退院支援調整の充実 ・後方連携の強化（顔の見える関係・正確な情報の提供と継続看護の充実） 訪看・ケアマネとのｶﾝﾌｧﾚﾝｽ・情報共有の推進 ・緊急入院患者のスムーズな情報共有 夜間・休日の情報問い合わせへのｼｽﾃﾑ検討 ・地域がん診療拠点病院の推進 ・救急医療の充実と推進 ・京都府災害拠点病院・原子力災害拠点病院の機能整備 ・臓器提供施設	在宅チームとの情報共有 外来と病棟の連携 退院支援ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ開催 在宅チームとの情報共有 外来と病棟の連携 がん患者の在宅支援件数（他職種） 救急患者のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ研修（現任教育委員会との連携） 原子力災害ﾏﾆｭｱﾙ作成への参画 災害訓練（非常持ち出し物品含む）	在宅チームとの情報共有 外来と病棟の連携件数 退院支援ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ開催件数 在宅チームとの情報共有件数 外来と病棟の連携件数 在宅支援訪問・電話件数 原子力災害ﾏﾆｭｱﾙの作成 災害ﾏﾆｭｱﾙの周知	各看護単位での取組み 看護師長会・副師長会の活動 医療チームの活動 ↓ ↓ ↓ 看護師長会の活動 ↓ 医療チーム会の活動 ワーキングの活動 ↓ （外来・集中部門・手術室）	看護師長・副看護師長・地域看護支援チーム会 看護師長会 がん緩和ケアチーム会 災害看護ワーキング（DMAT・医療班）
病院経営への積極的な参画	・患者数確保と在院日数の短縮 ・病床管理・病床調整の充実 ・7：1入院基本料の維持 ・特定集中管理加算等の維持 ・診療報酬の確実な算定 ・収入増への取り組み強化 ・コスト削減 ・労働環境の整備と労務管理の充実 ﾁｰﾑの人間関係の調整 ・病棟運営会議の開催 ・人材（看護職員）の確保と定着促進・離職防止 ・看護系大学の臨地実習を推進し、人材確保に繋げる	・患者数の確保 ・平均在院日数の短縮 ・専門性を強化しつつﾍﾞｯﾄﾞの有効利用 緊急入院・HCUからのスムーズな受け入れ体制 病床調整・退院調整にかかるICの充実 ・各病棟が看護必要度25%以上が維持できる病床管理（重症患者を見れる実践力の強化） ・診療報酬の確実な算定と評価、改善 重症個室・療養加算・医療チーム加算・各算定漏れ防止 ・有料個室の利用率促進 ・ｺｽﾄ削減 医療材料（SPD）・薬品・看護用品・ME機器等の適切な管理による死蔵品・修理費の削減 ・看護業務のスリム化→超過勤務の削減 ・合併症・看護事故による入院期間の延長防止 ・機能に応じたﾍﾞﾝﾁﾏｰｸを行いｱｳﾄｶﾑ評価（国立病院機構評価指標） ・固定チームナーシングの充実による看護師のやりがい感向上 ・実習指導の充実　実習指導者の育成 ・看護職員の確保	1日平均患者数 平均在院日数 病床管理医との連携強化 緊急入院・HCUからの継続看護（ﾌﾙｰｼｰﾄ看護指示の入力（案）の検討 ICへの参加（意思決定支援）と記録 看護必要度値 算定評価項目の設定と推移 重症個室利用率 有料個室利用率 SPDｺｽﾄ削減費（28年度300万円減） 看護用品修理費減 超過勤務時間・業務改善 入院期間の延長件数・日数 ﾍﾞﾝﾁﾏｰｸの項目設定 ｱﾝｹｰﾄ実施 実習指導者講習会受講数 ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ研修参加者数 看護師職員応募数	522.9名/日 13.5日 集中部門からの継続看護（ﾌﾙｰｼｰﾄ看護指示の入力（案）の検討 ICへの参加率 各病棟目標値の達成 算定評価項目の算定率 重症個室95% 有料個室利用率88%以上 100万円減 100万円減 超過勤務時間5%減　業務改善 0件0日 ﾍﾞﾝﾁﾏｰｸの設定項目値 やりがい感の値 8人 10人 90人	看護師長会の活動 各看護単位での取組み ↓ ↓ ↓ ↓ ワーキングの活動 各看護単位での取組み ↓ ↓ ↓ 実習指導者会・看護師長会の活動 ワーキングの活動	看護師長会 経営・病院機能充実ワーキング 看護管理実践強化ワーキング ＊実習指導者会議・看護師長会 看護広報ワーキング
倫理的観点にぶれない看護サービス	・他職種カンファレンスの推進 ・倫理カンファレンスの推進 ・倫理的判断ができる組織への発展 ・倫理的評価を基盤に看護研究の推進と発展	・看護の質の向上、選ばれる病院につながる他職種カンファレンスの運営・調整 ・倫理カンファレンスの開催推進 ・行動制限、看護計画の開示等で同意を得ることの徹底 ・倫理的視点をもった看護記録の記載の推進 ・職業倫理の醸成　看護実践を通じての倫理観の育成 ・看護研究倫理審査委員会を開催し、看護研究の推進 ・患者・職員間の接遇と、承認し合える関係づくり（挨拶・身だしなみ・言葉使い等）	他職種ｶﾝﾌｧﾚﾝｽの開催数 対象者の行動制限ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ毎日開催 倫理ｶﾝﾌｧﾚﾝｽの開催と記録 倫理審査委員会の開催と看護研究数		各看護単位での取組み ↓ ↓ 委員会の活動 ↓ ↓ 実習指導者会・看護師長会	看護師長・副看護師長 看護記録委員会 看護研究倫理審査委員会 看護師長・副看護師長

□ 会議･委員会活動

Ⅰ. 会議･委員会

1. 副看護師長会議

目　的	看護部の目標達成に向け、副看護師長の役割果たす
目　標	1）固定チームナーシングが効果的に実践される 2）院内の看護業務の標準化ができる
活動内容	1）固定チームナーシングの効果的な実践 固定チームナーシングの定義・リーダー、メンバーの役割の明文化、スタッフへの説明資料の作成と実施 各部署における固定チームナーシングの「強み」「弱み」について検討 文献の固定チームナーシングチェックリストを用いて各部署の固定チームナーシングの評価と課題の明確化。課題のうち「日々のリーダーシップ不足」については「リーダーマネジメントチェックリスト」を作成し活用。「受け持ち看護師の意識不足」についてはRCA分析を用いて根本要因分析を実施 2）院内の看護業務の標準化 全病棟の「入院時退院準備チェックリスト」を収集し、意見交換を行い、「入院時退院準備チェックリスト」を改訂。11月から運用を開始 頓用薬品の電子カルテ記載方法についてアンケートによる現状を把握し、記録委員会の副看護師長を中心に「頓用薬の実施入力方法」記載要領を作成。各病棟の副看護師長がスタッフに周知を行い、1月から運用開始
成果と課題	1）固定チームナーシングにおける課題である「日々のリーダーシップ不足」については、リーダーを担う機会の多い対象者に「リーダーマネジメントチェックリスト」を活用することで、日々のリーダーシップへの意識付けに繋がった。今後は各部署でリーダーの役割を担う看護師を育成することが課題である。「受け持ち看護師の意識不足」については、RCA分析で要因分析を実施した結果、「急性期病院の為平均在院日数が短いことで受け持ち患者と関わる機会が少ない」「受け持ち看護師の役割についての教育の場がない」などシステムや教育に問題があることが分かった。今後は課題に対しての具体的な取り組みを検討して実施することが課題である 2）新人看護師の入院・退院受入れ開始前に「入院時退院準備時のチェックリスト」を改訂することでムーズに活用できた。入院時退院時準備未実施の引き継ぎや活用・評価・修正が課題である。屯用薬の記載は「経過表の記事」を使用している部署は80%、「処方カレンダー」を使用している部署は40%以下であった。医療安全管理室・看護記録委員会と連携を図り「記事」に記載することに統一。その後「頓用薬の実施入力方法」の記載要領を作成することで頓用薬記載方法の統一につながった

2. 専門･認定看護師連絡会議

目　的	看護部の理念に基づき、専門看護師・認定看護師の活動を円滑に行うことにより看護の質向上に寄与する
目　標	1）組織横断的な活動を行い、実践や集合教育を通して当院の看護実践力を強化する 2）院内外に向けた広報活動ができる
活動内容	1）病棟へのラウンド4回/年、専門・認定看護師による学習会を3回/年実施 2）11月25日に専門・認定看護師主催のセミナーを開催、ホームページの更新、6月19日に新人看護師対象専門・認定看護師の活動紹介、院内留学の企画・運営

成果と課題	1）病棟ランド4回でコンサルテーション26件であり前年度より増加しなかった。スタッフからはラウンドの時ではなく必要時にコンサルテーションできているとの意見から、次年度病棟へのラウンドを継続するか検討が必要。学習会の参加者は、救急看護23名、がん看護1名、緩和ケア13名であった。広報不足や委員会・チーム会などの学習会も多数あることが参加人数の減少と考える。委員会・チーム会への参入など学習会の開催方法を検討する必要がある 2）専門・認定看護師主催のセミナーは39名の参加（院外27名、院内12名）と前年度比40%未満であったが、アンケート結果は好評価であった。近隣の病院でも同じ取り組みをしていること、数日前の地域連携主催の研修会を開催したこと、翌日災害訓練があったこと等の理由で院内外の参加者が減少したと考える。看護部の年間教育計画への参入や時間外の学習会を院外に発信するなどの対策を検討する必要がある。院内留学は平成28年度2名、平成29年度治験管理室に1名と需要が少ないので継続するか検討する

3. 現任教育委員会

目　的	当院の使命を自覚し、科学的根拠に基づいた質の高い看護実践能力、専門的知識・技術・態度に優れた看護師を育成する
目　標	1）ラダー別研修計画の企画・運営ができ、研修生が到達目標を達成することができる 2）集合教育と機会教育の連携を強化し、教育体制を充実させる 3）キャリアアップと離職防止に繋がる支援を行う
活動内容	1）集合研修の評価の共有 2）機会教育での課題の共有 3）各担当グループにて次の研修計画の検討
成果と課題	1）ラダー別の研修目的・目標は概ね8割の達成度であった。現場で活用できるような参加型、シミュレーション研修を多く取り入れる工夫を継続する。また医師や専門・認定看護師の協力を得ながら、更に充実した研修を企画する。ファシリテーターとしてのスキルアップを目指した学習会を実施していく。ナーシングスキル視聴の推奨を動機づけ時に100%行なう 2）動機づけは昨年度93%から今年度98%になった。各病棟の能力開発プログラムファイルに研修別レジュメ・アンケート結果を挟み、ラダー別の研修内容や結果の情報共有がしやすくなったため、OJTに繋げる内容がわかりやすくなった。研修内容やフォローのメールの配信、OJTで押さえてほしい内容や提出期限を記載した一覧表を配布したことで内容の周知や関わりへの意識は上がった。全部署の新採用者への教育計画を統一し、集合研修と連動するよう計画する。新採用者以外に対しても教育担当者の関わりを充実させる 3）自己の年間教育計画書は看護師長と情報共有できていない部署が多く、活用方法の把握・統一ができていなかったこともあり、スタッフ全員の離職防止や人材育成に対する関わりが薄かった。病棟全体で、人材を育成していく職場の風土作り、働きやすい職場環境を確立する。自己の年間教育計画書の記載・活用方法を明確にし、看護師長と情報共有し支援する

4. 看護の質改善委員会

目　的	1）看護基準・手順の見直しと周知 2）看護提供プロセスの検討と改善

目　標	1）看護実践基準の見直しを行い、看護実践の統一を図る 2）倫理的視点を持って、患者・職員間の接遇｛態度（言動）、コミュニケーション（職員間での情報共有）｝を強化し、看護職員としての質の向上を図る
活動内容	1）平成28年度のインシデント・アクシデントの要因で上位10項目について、看護実践基準の改訂。改訂した2項目「コミュニケーション」「インフォームドコンセント」について各部署で周知 2）5月15日～6月4日で退院時アンケート実施。アンケート結果から各部署の問題点の抽出と改善策の実施 全国における「平成29年度満足度調査」の結果改善に向けて回収率増加、挨拶強化を目的に全部署で朝の始業時に共通の言葉で唱和を実施 京都医療センター看護部「身だしなみ、マナー・接遇基準」について、接遇の５項目改訂。6月・11月に「身だしなみ、接遇・マナー」についてチェックリストを用いて自己及び他者評価を実施
成果と課題	1）看護実践基準10項目改訂。改訂した項目は「インフォームドコンセント」「患者の意思決定支援」「カンファレンス」「患者相談・指導」「薬物療法（服薬・外用・坐薬）」「薬物療法（注射）」「医療用麻薬・向精神薬の取り扱い」「ドレナージ」。「コミュニケーション」「インフォームドコンセント」の2項目を各委員がスタッフに周知し達成率100%であった 2）退院時アンケートの回収率は70%で、全体の満足度は「大変満足」63%、「やや満足」23.8%。項目では選択食・トイレ浴室などの環境が満足度40%以下、看護師の態度・言葉遣いのうち「頼みにくかった」が50%程度の満足であったので看護師の態度・言葉遣いの強化が課題である 「平成29年度患者満足度調査の回収率改善に取り組んだ結果、回収率は82.2%で前年度69.1%から13.1%増加。調査結果が出た後、取組みの評価を実施すると共にソフト面の低い項目について改善に取り組むことが課題である

5．看護記録委員会

目　的	看護部の理念に基づき、看護職員の資質の向上・発展を図るため、看護過程の監査及び記録システムの改善を図る
目　標	1）看護記録記載基準・要領の活用により質の向上を図る 2）標準看護計画を充実する
活動内容	1）看護記録記載要領の改訂・活用 2）看護記録監査の実施 3）標準看護計画の追加・修正
成果と課題	1）看護記録記載要領の改訂を行い、転倒事例をもとに一連の看護過程がわかるモデルカルテを作成した。また観察項目にスケール表など追加し、評価の標準化をはかるとともに、データベースを統一し患者情報の漏れをなくした。今後は、さらに看護記録記載要領を看護実践場面で活用し、記録の質改善を図ることが課題である 2）9月・12月に「急変・事故発生時」「IC時」の看護記録監査を行った。監査結果は昨年度より改善を認めているが60%台の項目があり、今後も定期的な監査の実施と分析・評価を行う 3）標準看護計画を見直し、20項目追加11項目使用中止とした。標準看護計画およびテンプレート申請方法のシステムを構築した。今後も定期的な見直しを行い、看護の質を担保する必要がある

Ⅱ. チーム会

1. 感染管理チーム会

目　的	感染予防対策の充実に向けた活動をする
目　標	1）感染症のアウトブレイクを防止するために、院内感染対策マニュアルを遵守できる 2）感染防止の視点で環境整備ができる 3）ICTの活動について理解できる
活動内容	1）手指衛生の実態調査を7月に実施し、自部署の課題解決に向けて取り組み、11月に再度実態調査を実施。ゴージョ使用回数の調査結果のフィードバックと改善した部署の取り組みについて情報共有 2）リンクナース2名とＩＣＮが病棟ラウンドを行い、「院内ラウンドチェックシート」を用いて環境を評価。評価結果から自病棟の課題を抽出し、改善策の立案と実施 3）ＩＣＮと院内環境ラウンドの実施、流行期に備えて「インフルエンザ」「ノロウイルス」について自病棟で勉強会を開催しスタッフに周知
成果と課題	1）手指衛生の実態調査の後、自部署の課題解決に向けて取り組んだ。その結果、「患者ゾーンに入る時」は500場面中7月211場面、11月257場面、20部署中12部署で実施回数が増加。「患者ゾーンから出る時」は500場面中7月220場面、11月274場面、20部署中15部署で実施回数が増加 2）6月と12月にリンクナース2名とＩＣＮが病棟ラウンドを行い、「院内ラウンドチェックシート」を用いて環境チェックを実施した。その結果、12月は6月に比し19項目中14項目で改善、達成率は6月86%、12月94%と増加。ＩＣＮとのラウンドを通してリンクナースの感染防止対策の視点が拡大につながった 3）ＩＣＮとの院内ラウンドの実施や流行期に備えて2項目についてスタッフへの教育を実施したことでＩＣＴの活動が理解でき、アウトブレイク防止効果があった

2. 地域看護連携チーム会

目　標	1）地域連携の推進を図る 2）リンクナースのスキルアップが図れる
活動内容	1）チーム会で「在宅支援関連の算定」についての学習会、算定状況の報告、退院支援ツールの周知と活用状況についての情報共有、外来と病棟の連携についての検討、看護情報提供書（２）の検討と改訂、京都南部地域連携交流会での意見交換を実施 2）5月に退院支援看護師による「退院支援」についての学習会、6月に看護情報提用紙を用いて事例検討、地域医療連携室への院内留学システムの構築と実施、退院前・後訪問システムの周知と訪問後の報告による情報共有
成果と課題	1）退院支援加算１は月ごとに件数が増加。退院支援ツールは「経腸栄養」「自己導尿」「インスリンの自己注射」「人工肛門」が6個病棟で延べ12件活用し、使用した場面は算定漏れの確認、専門病棟外に入院している患者の指導であった。「在宅酸素」など新たな項目について作成を検討する 外来と病棟の連携については、退院前カンファレンス7件、退院支援カンファレンス11件実施できたが診療科の拡大や継続が課題である 院内外から看護情報提供書についての意見を集約し、改訂をしたことで「分かりやすくなった」という意見があった。活用して評価を行い必要があれば改訂する 京都南部地域連携交流会参加者は、院外77名、院内47名で職種は医師、理学療法士、看護師、ＭＳＷ等であった。院内参加者の88%が「多職種」と交流できた、病棟での退院支援・看護に活かせる学びがあったと回答。地域連携機関と意見交換を行い連携強化を図る 2）学習会後のアンケートの結果、病棟看護師の役割について５段階中3以上「理解できた」と94%が回答。ナーシングスキルの「病院で行う退院支援・退院調整」視聴を促し視聴率88%。地域医療連携室への院内留学はリンクナース全員が実施でき、退院前・後訪問は5件であった。退院前・後訪問の拡大と情報共有、退院前・後訪問記録用紙の活用と評価が課題である

3. がん・緩和ケアチーム会

目　的	がん看護・緩和ケアの実践力を高め、看護の質の向上をめざす
目　標	1）「生活のしやすさ」の質問用紙を用いて必要な援助ができる 2）専門チームや多職種への橋渡しができ、チーム医療の推進を進めることができる
活動内容	1）「生活のしやすさの質問票」を対象者に配布し、質問票にチェックがある場合はカンファレンスの開催や看護計画を修正。月別使用状況をデータ化し周知 2～3グループに分かれて事例検討。外来化学療法センターでも「生活のしやすさ質問票」を一部修正し活用 2）がん専門看護師による4側面からの介入事例について講義
成果と課題	1）「生活のしやすさの質問票」配布数は月平均151.5名で回収は129.3名と前年に比し倍増。質問票にチェックがある患者516名中カンファレンスの開催が出来たのは188名、看護計画修正は248名。介入できていない理由は短期間の入院患者、カンファレンスを開催すべきかの判断に個人差があること、3日目1週間目評価に繋げることが課題。外来化学療法センター配布は400名で回収は10～30名であり回収数の改善とチェックがある患者への介入と評価が課題である 2）緩和ケアチームへのコンサルテーションは53件、多職種へのコンサルテーションは134件と増加した。必要な患者に必要なタイミングでコンサルテーションできているか、コンサルテーションした結果どのような看護が実践されたのか記録が不十分であり評価ができない。多職種との連携強化とコンサルテーション後の変化など把握し質の評価に繋げていく

4. 医療安全チーム会

目　標	1）誤薬予防策の実施 2）インシデント対策の実践 3）転倒・転落対策の実践
活動内容	1）各病棟の誤薬発生件数、要因を提示し、減少病棟の対策をロールモデルとして紹介し自病棟の対策の取り入れた 与薬のプロセスを可視化し業務改善の必要性を提案、配薬カートの配置・表示、内服セット方法を変更 2）院内インシデント事例と対策の検討と実施。インシデントカンファレンス用紙の作成と活用。看護手順遵守とKYTシミュレーションの実施
成果と課題	1）6Rの不徹底、医師の指示内容について誤薬の要因分析を実施した結果、確認不足26.5%、知識不足8.6%、判断を誤った7.3%であった。誤薬件数が減少した病棟の対策をロールモデルとして紹介したが、誤薬件数は488件と前年度比6.9%増加したが、与薬についての業務改善、配薬カートの配置や表示の変更、内服セット方法の変更を取り入れ減少した病棟があった。業務改善や6Rが徹底できる対策の継続、誤薬に繋がりやすい医師の指示に対して医師と検討し改善を図る必要がある 2）インシデント分析にRCA分析のトリガーリストを用いて多角的に要因分析ができるようにカンファレンス用紙を作成したが、全部署で活用を開始することができなかった。インシデントカンファレンス用紙の活用推進と対策の周知徹底が課題。看護手順遵守・KYTシミュレーションを実施し各病棟での活用を推進したが、実施した病棟はなかった

5.栄養サポート看護チーム会

目　的	入院患者の栄養不良、あるいはその危険が高い患者に対して栄養改善をはかり、栄養不良による合併症を予防し、ＱＯＬを改善する
目　標	1）嚥下評価の実践の定着 2）SGA評価の確実な実施
活動内容	1）経口摂取開始基準、入院時スクリーニングシート、反復唾液嚥下テスト、水飲みテスト、フードテスト、摂食嚥下評価・間接訓練・直接訓練、嚥下機能療法に関する書類の電子化についてリンクナースに教育。リンクナースから病棟スタッフに周知。嚥下評価実施記録用紙を嚥下スクリーニング摂食嚥下評価にテンプレートを変更し周知。摂食・嚥下評価及び訓練についてフローチャートを作成し、主治医・リハビリ科・看護師の役割分担の明確化と算定システムの構築 2）電子カルテでSGA評価の実施方法を説明。7月・8月にSGA記録監査を実施し、SGA評価が出来ていない理由を明確にし、各病棟で解決策の検討・実施
成果と課題	1）摂食・嚥下フローチャートを作成し、STを含めチームで摂食・嚥下に関わる体制の構築はできた。リンクナース会で入院時スクリーニングの活用方法、反復唾液嚥下テスト・水飲みテスト・フードテストについて知識と技術の習得を行い、各部署で伝達講習を実施した結果、90%の看護師ができるという結果であった。嚥下評価実施記録用紙・嚥下スクリーニング（入院時）摂食嚥下評価にテンプレートを変更、摂食機能療法指示書、日々の摂食機能療法の記録を電子化するなどの取り組みを通して摂食機能療法算定件数は10月以降85件と増加。しかし、取組みに於いては病棟差があり、定着と拡大が課題。摂食嚥下スクリーニング・摂食嚥下評価表の電子化が課題である 2）7月はSGA評価実施率78%、8月は87.6%。SGAの未記入は7月36件、8月24件、9月19件、12月49件であり、減少傾向にあったが再度増加。原因は緊急入院時、特定の看護師の傾向等であり、リンクナースによる啓発活動や入院時チェックリストの活用を通して記載漏れ防止及び実施率向上が課題である

6.褥瘡管理チーム会

目　的	褥瘡を発生させないように対策を行う
目　標	1）スタッフが正しくポジショニングを身につけ実践できる 2）リスク評価ができ、マニュアルを活用した個別性のある看護計画立案と実践ができる
活動内容	1）チーム会で5月にポジショニングの勉強会、6月にポジショニングマスター試験を実施、8月～9月にかけてポジショニングマスター再試験を実施 12月からリンクナースが各病棟でポジショニングの学習会を実施。1月から病棟スタッフのポジショニングマスター試験を実施 2）7月にマニュアル活用状況調査を実施し、各部署で周知のための目標を設定し周知活動を実施。9月1月に活用状況調査について19病棟57名に聞き取り調査を実施 マニュアルを活用した個別性のある看護計画が立案できているかチェックシートを用いて評価、対策の検討と実施
成果と課題	1）10月にリンクナース12名全員がポジショニングマスターとなった。リンクナース以外のスタッフのポジショニングマスター試験6回実施。今後、各病棟での実技の指導力が向上し、ポジショニングマスターを増やしていくことが課題。また、現在のポジショニングマスター試験方法を評価し、4月から継続してポジショニングマスター試験が実施できるよう調整する

	2）各種マニュアルの活用を促進する対策を実施した結果、ポジショニングマニュアルは18病棟中7月6病棟、9月5病棟、1月15病棟と増加。医療関連機器圧迫損傷に関するマニュアルは7月6病棟、9月10病棟、1月14病棟と増加。褥瘡に関するマニュアル認知状況は9月48名（84%）、1月46名（80.7%）と減少。入院時の褥瘡に関する危険因子評価表の未入力率は2.8%～3.0%で不変。褥瘡発生件数は4月～12月160件（前年度204件）と減少。医療機器関連圧迫損傷は4月～12月60件で褥瘡の37.5%を占めるため、「深部静脈血栓症予防弾性ストッキング、間欠的空気圧迫装置、酸素マスク・カヌラ、NPPV使用による褥瘡発生予防の標準看護計画の作成と活用が課題である 褥瘡に関するマニュアルの周知が徹底できなかったので方法の再検討が必要である

7. 認知症・せん妄ケアチーム会

目　標	1）院内における認知症・せん妄ケアシステムの構築を行う 2）認知症・せん妄に関する患者ケアの標準化と実践力の向上を図る
活動内容	1）電子カルテの整備（認知症加算請求、せん妄アセスメントシートと標準看護計画、認知症の標準看護計画）とリンクナースへの周知 8月医師と共に認知症ケアマニュアルの作成し職員が活用できるようCoMedixに登載。10月・12月認知症ケア加算取得患者の看護記録監査 2）認知症・せん妄患者の看護実践で上手くいった事例・困難事例について情報共有や看護記録から看護展開の内容や記録のあり方について検討 せん妄に関する患者・家族向けのリーフレットの検討を行い12月に完成 11月に外部講師による認知症ケア研修会の開催
成果と課題	1）認知症ケア加算は7月以降顕著に増加し、加算取得延べ件数5649件（5月～12月）。しかし記録監査の結果、ケア実践の記録、看護計画の評価・修正、ケア日数や身体拘束の有無に応じた加算の取得は80%以下。加算取得の適切性のため記録監査を継続する。認知症ケアマニュアルは、症例に合わせて病態確認やケア検討時に活用できている病棟と周知に留まっている病棟があるので、認知症ケアマニュアルの活用方法を検討する必要がある せん妄アセスメントシートは入院時チェックシートの項目に追加した結果、活用され必要な患者に看護計画が立案できた 2）6月と7月にせん妄患者・認知症患者各2名の事例検討を実施し、具体的な看護実践についての学びにつながったが、看護記録が不十分であった。患者に合った看護計画と実践について知識・技術の習得が課題である。また、認知症の標準看護計画はBPSDに特化した内容のため使用しにくいと言う意見があるので看護計画作成についても検討する。せん妄患者への看護実践が不十分であり、状態変化時のアセスメントや看護計画の修正ができていないことが原因と考えるので定期的な事例検討が必要である 外部講師による認知症ケア研修会は37名が参加。２事例のラウンドやラウンド後の情報共有と看護介入の提案など実践に即した形で学習ができた せん妄リーフレットは作成したが、活用には至っていないので、入院初期から患者・家族と協力して予防的ケアを実践することが課題である

Ⅲ. ワーキング

1. 経営・病院機能充実ワーキング

目　標	1）7：1入院基本料を維持するための、具体的な取り組みを行う 2）看護の視点から収入減、収入増への取り組みができる
活動内容	1）必要度入力漏れチェックと病棟へフィードバック　　必要度入力監査2回 2）病棟単位での、入力漏れ予防策検討 3）全病棟eラーニング課題実施 4）SPD物品見直し　適正な処置入力状況調査
成果と課題	1）管理師長が毎日24時時点で入力漏れ状況をチェックし、病棟へフィーバック。入力漏れは減少したが0件にはならなかった。管理師長の業務としてモニタリングを継続し、翌朝には入力漏れがゼロになる体制を強化する。平成30年度診療報酬・介護報酬同時改定内容を理解した、適切な評価ができる指導体制を構築することが必要である 2）製品切り替え時の定数見直しを行うことで、年間約30万円のコスト削減につながった。使用目的を達成できる低コストへの物品変更は今後も必要である 3）各病棟での確実な処置入力を行うための対策を開始し、一時的に処置入力が増加したが継続には至らなかった。今年度は、1品目のみの取り組みであったが、コスト意識が高まるような教育やこると漏れを定期的にチェックしフィードバックする体制が必要である

2. 看護管理実践力強化ワーキング

目　標	1）看護管理業務手順を作成し、看護管理に活用できる 2）病棟運営会議の定着と内容の充実を図る
活動内容	1）「看護管理業務手順」「看護業務手順」の定義付けとファイルの作成 2）看護管理日誌（当直用ファイル含む）の改訂 3）研究計画書を作成し７月の看護研究倫理委員会で承認。看護師長会議で毎月病棟運営会議を開催すること、開催前のレジュメの作成、開催後の議事録の作成、アンケート調査への協力について説明。調査結果及び会議録から病棟運営会議について評価
成果と課題	1）7～９月で各手順に載せる内容の洗い出しを行い、９月に各ファイルの定義と目次の作成、10月にファイルを作成し各看護単位に配布。以降看護師長会議で決定した内容をファイルに追加。ファイルの活用と評価が課題である 2）看護管理日誌の入力の改訂、入力方法について検討。看護管理日誌にカウントする感染症の定義を決定。当直用ファイルを改訂し各看護単位に配布。活用して必要があれば改訂する 3）アンケート調査の回収率は１回目看護師長100%、副看護師長74%、2回目は看護師長95%、副看護師長68%。月1回の会議の開催は1回目75%、2回目68%。会議時間は30分が最も多く50%程度、レジュメ作成は1回目50%、2回目58%。議事録作成は1回目40%、2回目58%。会議内容は「スタッフ教育」「インシデント」「時間管理」が多く、上手くいっていることは「良好なコミュニケーション・情報共有」、困っていること「時間確保」であった。一部の部署を除き病棟運営会議は定着し議事録の作成も増加しているが、全部署で定着するまでには至らなかった。病棟運営会議の定着と会議前のレジュメ作成、会議録の作成が課題である

3. 災害ワーキング

目　標	1）災害看護に必要なマニュアルの整備と周知を行う 2）急性期医療におけるフィジカルアセスメント能力を向上させ、実践できる看護師の育成
活動内容	1）看護管理基準の災害時の安全確保の項目を改訂、防火点検と持ち出し物品の整備、災害時のフローチャートの作成 2）呼吸についてナーシングスキルと看護部で作成したDVDの視聴を促進し、知識の確認テスト及び3回の記録監査を実施し実践の評価。事例を用いた資料を作成し各病棟に配信しスタッフ教育に活用するよう促した
成果と課題	1）非常持ち出し物品の現状を調査し、必要な物品と数を決定し整備。防火点検と非常持ち出し物品の点検時期、方法を統一。看護管理基準の災害時の安全確保の項目について改訂と災害時のフローチャートの作成。災害対策委員会との調整と災害訓練時に使用して活用できるか評価をする。原子力災害拠点病院としてマニュアルの整備に参画する 2）ナーシングスキルの視聴は前半に比し後半減少。2回目の記録監査の結果、入院時の呼吸音と呼吸数の記録記載割合は向上しなかったので侵襲的処置時に呼吸の記録ができているか監査を実施。3回目の監査で「できた」率の向上した病棟は「呼吸音」60%、「呼吸数」87%であったが病棟差、個人差があった。呼吸の観察、フィジカルアセスメント不足があるので、継続する。また、フィジカルアセスメント不足によるインシデントについて分析し、焦点を絞って取り組む必要がある

4. 広報ワーキング

目　標	1）魅力ある看護のホームページの編集ができる 2）インターンシップの活動を通して、人材確保と離職防止を行う
活動内容	1）ホームページの内容の検討と更新 2）ふれあい看護体験、インターンシップの企画・運営・評価
成果と課題	1）現在のホームページについて新採用者にアンケートを実施した結果、新採用者が知りたい情報は「教育体制」「福利厚生」「看護師の活躍の実際」であった。アンケート結果をもとに、教育計画、研修だより、病棟紹介、改訂した認定・専門看護師のページ、インターンシップを掲載した 2）ふれあい看護体験の実施要領作成・インターンシップ計画書と担当者用資料を作成。ふれあい看護体験参加者4名、インターンシップは合計11名であった。参加者の希望及び目的は達成できた。今後参加者増員に向けてのPR方法、就職を希望してもらえるような内容の検討が課題である

□ 地域医療連携・広報活動

1．がん看護研修ステップ

・ステップⅠ：7月 1日、7月29日　計10時間　　修了者：院内　37名、院外：26名

・ステップⅡ：10月21日、平成30年2月6日　計11時間　　修了者：院内　5名

2．専門・認定看護師セミナー

11月25日開催、　テーマ：～私たちの力をあなたの力に～で講義・演習を実施

参加者：39名（院内：11名、院外：28名）

3．ふれあい看護体験

7月26日：高校生4名参加

4．生き方探究・チャレンジ体験

10月31日～ 11月2日（3日間）　中学生4名

11月6日～9日（4日間）　中学生2名

11月7日～9日（3日間）　中学生2名

□ 学術活動

1．投稿・執筆　（別紙４）

2．院外発表　（別紙５）

3．院内発表　（別紙６）

別紙4：学術活動

１．平成29年度　雑誌投稿・執筆

出版社	雑誌名	テーマ	部署	著者名
メデイカ出版	エマージェンシー・ケア 2017年5月号2017.vol30 no.5 P6-14	１時間目救急患者のみかたカンペキマスター患者さんに出会った瞬間が勝負の決め手!	救急外来	清水　克彦
学研メデイカル秀潤社	月刊ナーシング 2018 年2月号 2018.vol38 NO2	新人看護師を育てる学習プログラムと教育体制	救急外来	清水　克彦
日総研	手術看護エキスパート 2017年3.4号 2017.vol10.no.31	手術体位が原因と考えられる合併症を経験して導かれた医療安全対策と看護師の役割・姿勢	手術室	中村　露子

別紙５：院外発表

２．平成29年度　院外研究発表

	テーマ	学会名	開催日	部署	発表者名
1	タブレット端末による内視鏡経過記録作成の試み	第９３回日本消化器内視鏡学会	5月11日・12日・13日	外来	松岡　清子
2	当院におけるSTSの現状と課題	第２６回母乳育児シンポジュウム	8月5日・6日	２病棟３階	吉田　佑子
3	終末期心不全患者の看取り ～緩和ケアチームとのカンファレンスを通して～	第２１回日本心不全学会学術集会	10月12日・13日・14日	２病棟７階	増田　友香
4	発熱患者におけるｑSOFAを活用した院内トリアージの有効性の検討	第１９回日本救急看護学会	10月6日・7日	救急外来	清水　克彦
5	患者が求める術前オリエンテーションについての調査	第５８回近畿地区国立病院看護学会	10月14日	１病棟４階	小川　紗有里
6	救命救急センターICUにおける個別性を考慮したせん妄予防	第５８回近畿地区国立病院看護学会	10月14日	救命救急センターICU	永友　祐子
7	ICU患者における早期離床のための関わりとは ～ICU入室時から転院までの経過を追って～	第５８回近畿地区国立病院看護学会	10月14日	救命救急センターICU	西　佐和子
8	患者が求める術前オリエンテーションについての調査	第７１回国立病院総合医学会	11月10日・11日	１病棟４階	小川　紗有里
9	慢性呼吸不全患者の退院までの道のりとその後	第７１回国立病院総合医学会	11月10日・11日	１病棟８階	布施　克美
10	いのちの授業 ～中学生への教育～	第７１回国立病院総合医学会	11月10日・11日	２病棟３階	石上　朋子
11	呼吸外科患者の術後１日目の離床評価 ～安全な早期離床を目指して～	第７１回国立病院総合医学会	11月10日・11日	集中治療室	柴田　幸司
12	AYA世代（子育て世代）の子どもに対する看護介入の困難感について	第７１回国立病院総合医学会	11月10日・11日	緩和ケア病棟	北田　あおい
13	周産期領域に関する地域との連携について	第７１回国立病院総合医学会	11月10日・11日	地域連携室	松尾　さやか
14	臨床倫理検討シートを活用した患者家族の意思決定支援	第４５回集中治療医学会学術集会	2月21日・22日・23日	救命救急センターICU	児玉　恵理
15	救命センターICU入室患者・家族への倫理的視点を持ったエンドオブライフケア（EOL）実践～臨床倫理検討シート活用の効果～	第４５回集中治療医学会学術集会	2月21日・22日・23日	救命救急センターICU	尾嵜　志穂
16	集中治療室看護師の状況判断能力向上を目指した 多重課題シミュレーションの活用	第４５回集中治療医学会学術集会	2月21日・22日・23日	救命救急センターHCU	伊藤　明信
17	心不全患者の退院後の経過の追跡調査	第８２回日本循環器学会学術集会	3月23日・24日・25日	２病棟７階	貞方　良太

別紙6：院内発表

３．平成29年度 院内研究発表

		テーマ	部署	発表者
口述発表	1	摂食機能療法算定開始までの取り組み	栄養ｻﾎﾟｰﾄ看護ﾁｰﾑ会	西谷　保
	2	心不全再入院患者の経過からみた増悪要因と心不全チームの今後の課題	２病棟７階	貞方　良太
ポスター発表	3	一般病棟で出来る緩和ケアを考える～生活のしやすさの質問票を用いて～	１病棟８階	布施　克美
	4	認知症患者のケア実践時における看護師の行動と心理	２病棟４階	泉谷　聖子
	5	新生児の痛みのケアに対する実態調査	ＮＩＣＵ	内山　優紀
	6	内服での術後補助化学療法をうける患者の不安・社会的問題の傾向～完遂後も不安が持続した患者3症例～	外来	荒木　由香里
	7	人工呼吸器装着患者の自宅退院に向けた病棟での取り組み	２病棟６階	野上　茂晃
	8	当院NICUにおける「低出生体重児における乳房からの哺乳行動の発達スケール（PIBBS）」の使用状況の実態調査	ＮＩＣＵ	嘉根　みゆき
	9	臨床倫理検討シートを使用したエンド・オブ・ライフケア実践	救命救急センターICU	尾嵜　志穂
	10	『緩和ケア』を考える～終末期がん患者のせん妄における事例を通して～	緩和ケア病棟	阿部美希代
	11	硝子体手術後のうつむき安静による苦痛緩和への援助	１病棟５階	入来　朱理
	12	申し送りの効率化	２病棟５階	土﨑　玲紀
	13	術前血糖コントロールパスの活用報告	２病棟８階	山口　真理子
	14	生活のしやすさに関する質問票の導入後の運用・活用状況報告	外来化学療法センター	横田　沙耶
	15	救命救急センターICUにおける、チームで取り組むリハビリ	救命救急センターICU	豊山　美由紀
	16	看護業務の標準化	副看護師長会	平田　和幸
	17	“生活のしやすさに関する質問票”の症状7項目の数値の変化の実態調査～入院1日目・7日目の評価を通して～	１病棟６階	來田　友里絵
	18	生活のしやすさに関する質問票を活用し、カンファレンスを充実させるための取り組み	２病棟６階	山本　美奈
	19	看護記録の質を高めるための今年度の取り組み	記録委員会（看護部）	塩　早苗
	20	効果的な病棟運営会議の開催に向けた取り組みの評価	看護管理実践ＷＧ	田村　彰子
	21	感染管理チーム会の活動報告～アウトブレイク防止への取り組み～	感染管理チーム会（看護部）	塚本　直子
	22	地域看護支援チーム会のとりくみ	地域医療連携室	紀田　幸子
	23	在宅療養児・者に対する地域医療連携室としての取り組み	地域医療連携室	松尾　さやか
	24	認知症加算を取得するための病棟内での活動報告	２病棟７階	原田　哲
	25	救急外来におけるコスト削減に向けた取り組みについて	救急外来	小豆野　慶太
	26	手術室におけるコスト削減　～死材とゴミの減少を目指して～	手術室	山田　希春
	27	看護の質改善の年間を通して～接遇・コミュニケーションの強化に取り組んで～	看護の質委員会（看護部）	安達　ひとみ
	28	経営・病院機能充実ワーキングの年間取り組み	経営・病院機能ＷＧ（看護部）	馬場　和美
	29	認知症ケアシステムの構築―認知症ケア加算２取得に向けて―	認知症・せん妄ケアチーム会（看護部）	檜　泰子
	30	退院支援加算1取得向上を目指した取り組み～ワースト1からナンバー1への道のり～	２病棟３階・地域連携室	中西　礼奈
	31	救命救急センターHCUにおける薬剤確認方法の検討～薬剤のインシデント０を目指して～	救命救急センターHCU	黒河　千恵
	32	手術室における医療安全管理　～情報共有と対策継続の強化～	手術室	島田　利枝
	33	クジラで知らす CT所見の見落とし対策	医療安全管理室	柿本　由美子
	34	ピクトグラムで情報共有～転倒防止対策～	医療安全管理室	北野　朋子
	35	救命救急センターICUにおけるリーダー看護師のノンテクニカルスキル向上のための多重課題シミュレーション教育への取り組み	救命救急センターICU	尾﨑　美聡
	36	安心して在宅を目指すための看護　～　Let's！！ 連携！！～	１病棟４階	坂本　里佳
	37	お産を取り戻せ！	2病棟3階・産婦人科医師・栄養管理室	橋本　恵
	38	ナーシングガイドの使用状況と今後の課題について～消化器内科看護の質の向上を目指して～	１病棟７階	上垣　絵理
	39	手術室における看護サービス～手術終了を待つ患者家族への術中訪問～	手術室	宮下　優
	40	看護が看護であるために、ケモがケモであるために～看護師の職業的アイデンティティ調査を通して～	外来化学療法センター	田中　雅子
	41	広報ワーキング活動報告	広報ＷＧ（看護部）	内園　尚子
	42	母乳育児推進ワーキングの取り組みと成果について	母乳育児推進ＷＧ（看護部）	溝口　万由佳
	43	膝関節に対して安楽なクーリングとは　～アイスノンとコアパックを比較して～	２病棟５階	大藤　慧斗
	44	特別室個室病棟で行いたい看護について～現状と課題～	特別室個室病棟	尾方　真由美
	45	術中の体温管理　～シバリング調査結果から見えた体温管理の状況～	手術室	福谷　美加
	46	手術室スタッフ間のコミュニケーション　～場の提供と方法を改善して～	手術室	栗岡　聡子
	47	手術室の新人教育　～ステップアップ表を使用した効果～	手術室	松林　はるか
	48	平成２９年度患者確保に向けての取り組み　～PCI検査後の受け入れに向けて～	特別室個室病棟	佐藤　未帆
	49	社会人基礎力の育成～入職6ヶ月の新人看護師評価～	看護部長室（教育担当）	片岡　佐由美

京都看護助産学校



副学校長
池田　仁美



助産学科　教育主事
伊藤　美栄



看護学科　教育主事
釘宮　泰子



看護学科　教育主事
小林　由里
平成30年3月31日まで



看護学科　教育主事
谷口　秀美
平成30年4月1日から

□教育理念

感じる心、考える力、主体的な行動

人間愛を基盤とし、生命の尊厳と人権の尊重ができる感性豊かな人間性を育てることに主眼をおき、看護専門職として必要な基礎的知識、技術、態度を習得し、保健医療福祉の変化に対応できる人材を育成する。

□教育目的

看護師若しくは助産師として必要な知識及び技術を教授し、独立行政法人国立病院機構及び社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

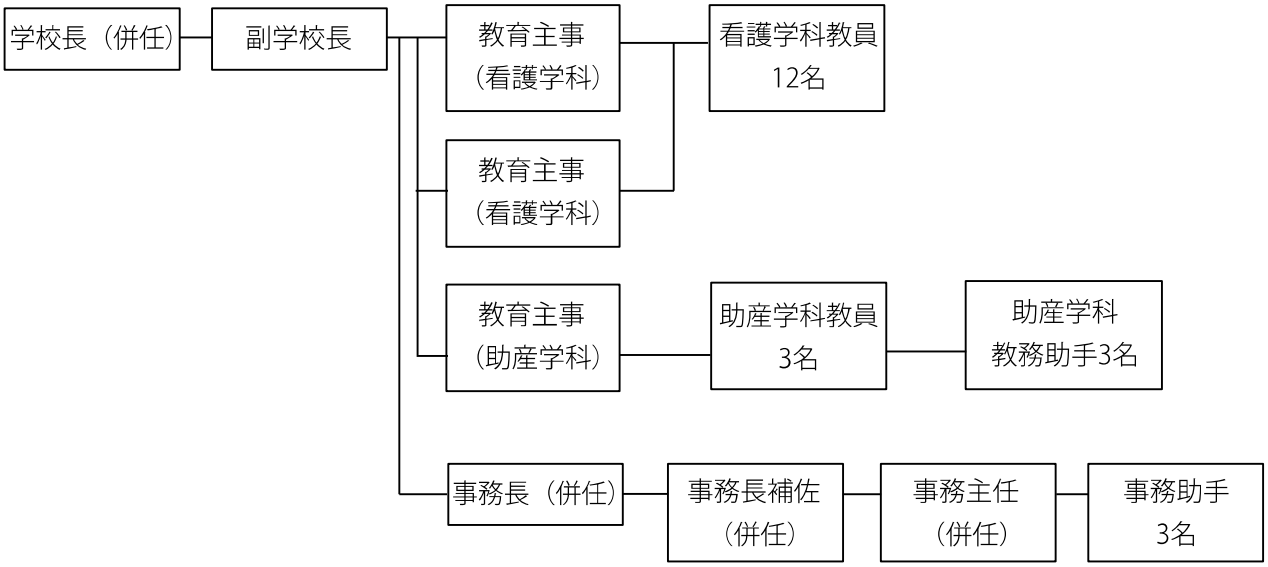
□教育目標

1. 生命の尊厳と個々の人権を尊重できる感性豊かな人間性を養う。
2. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解し、看護師としての人間関係を形成する能力を養う。
3. 看護師としての責務を自覚し、倫理に基づいた看護を実践する。
4. 科学的根拠に基づき、看護を計画的に実践する基礎的能力を養う。
5. 健康の保持・増進、疾病の予防および健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。
6. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割および他職種の役割を理解し、他職種と連携・協働する基礎的能力を養う。
7. 社会の動向に関心を持ち、常に主体的に看護を探求する姿勢と自己研鑽し続ける能力を養う。

□課程・定員

課程	学科	入学定員	総定員	在籍者数（平成30年3月1日）			
				1年生	2年生	3年生	合計
看護専門課程	看護学科（3年課程）	80人	240人	88人	75人	92人	255人
看護専門課程	助産学科（1年課程）	25人	25人	24人			24人
計		105人	265人	112人	75人	92人	279人

□本学の組織



□平成29年度　部門（看護学校）目標

病院目標：地域のニーズに応える高度・急性期医療の推進

↓

地域のニーズに応える→地域のニーズを把握する＝生活者として対象を理解し、看護を実践する能力の育成

地域医療の推進（を担う看護職者への育成）→社会の動向、医療の変化を理解し、学習し続ける能力の育成

部門目標		２９年度重点目標
1	組織が円滑に機能するよう連携を密にし、組織の活性化に努める	学校組織全体での情報の共有 ①朝・夕のミーティングの活用 ②学年ミーティング・役割ミーティングの計画的活用 ③会議の活性化（資料の事前配布、意見交換、学生指導状況の共有）
		勤務時間管理の徹底と自己管理 ①学校使用時間の厳守　②勤務時間内における業務遂行(管理責任の徹底)
2	国立病院機構に貢献できる優秀な人材の確保と育成	広報活動の推進（リアルタイムな情報発信、学生の意見・教員の意見　掲載）
		臨床との連携による看護実践教育の充実 ①実習指導者会活動の活性化　②演習授業への指導者の参加促進
		国立病院機構への就職率看護学科70%以上、助産学科50%以上
		国家試験合格率が当該年度の国立病院機構全国平均以上 ①1年次からの国家試験対策　②実習学習とリンクする国家試験対応
3	看護教員としての必要な能力の向上を目指す	自己の研究テーマを持ち，研究に取り組む
		研修、学会等へ1回以上の参加により自己啓発を図る
		専門領域等の実務研修に1回以上参加し。最新の知識・技術を吸収する
		自校・他校における研究授業に(他校1回以上）参加し、授業方法を研鑽する
		当校における授業研究での意見交換等により他科目との関連を理解する
		研修日の確保（月1日または時間での確保）
4	学生が主体的に学ぶ基礎的能力を育成する　《感じ、考え、行動する》	アクティブラーニングの推進 ① 主体的に学ぶ、協同的に学ぶ＝課題の検討、グループワークの活用、演習形式の活用　→　授業計画（シラバス表記の検討）
		宿泊研修（人間関係論の講義内容）を活用して学生の把握。活動支援
		学生フォーラム・「看護の日」活動・自治会活動・クラブ活動への支援
		ボランティア活動等の推奨
5	学生にとって相談しやすい学校組織の充実と、自己の意見を発信する学生の育成	学生の気づきや、課題を意識し、きめ細やかな指導・タイムリーな指導に努める
		担任、担当にこだわらず学校職員全てが相談の窓口になれることを発信する
		学生自身が情報発信をする必要性を、学校評価等の機会を通じて指導する
		学生による授業評価から課題を明確にし、改善に取り組むと共に学生に公表する
		継続的な自己点検・自己評価（及び第三者評価）を実施し、学生・保護者へ公表する
		卒業時カリキュラム評価の目標平均値3.0以上

□平成 29 年度プロジェクト活動

危機管理プロジェクト	
メンバー	北井英子　住田尚子　中村なぎさ　中溝好美　伊藤智美　釘宮泰子
活動目的	当校における危機（災害・薬物乱用）について、学生がより安全で安心できる学生生活を過ごせるように未然防止の対策を考える。
活動内容	1．現状分析：「災害」「薬物乱用」のテーマについて SWOT 分析 2．危機管理体制を整える 1)災害時の教員の役割と責任、連絡・報告系統の整備 2)災害時の対応について課題の確認の未然防止策について ①避難経路の確認　②管理日誌の整備　③防災グッズ備蓄品の整備 ④次年度の災害訓練の企画（消防署と相談） 3．薬物乱用防止についての取り組み 1)講習会の講演企画・実施（講師：京都府健康福祉部 薬務課）

情報管理プロジェクト	
メンバー	早川直子　近藤尚子　大上寿子　太田恵子　田中美和子　伊藤美栄
活動目的	学校内の情報管理のシステムを検討し、情報セキュリティマニュアルを整備する。
活動内容	1．現状の分析（SWOT 分析） 2．文書管理に関する規程の確認 3．文書ファイルの整理・文書ファイル管理簿の更新 文書化ファイルの管理方法のマニュアル化は継続課題 4．情報セキュリティマニュアルの作成（H30 年度も継続して作成） 5．システムダウンに対する対策の検討 定期的なバックアップの実施

学生満足度プロジェクト	
メンバー	仙波伊都子　稲垣寿美　林田聖子　寺田博子　若月麻央　小林由里
活動目的	学生満足度の低い項目について、改善をはかる。
活動内容	1．学生満足度に影響する要因の探索 2．学生満足度の高い項目・低い項目の把握 低い項目：①図書館の使いにくさ　②個別指導などサポート体制　③学校職員の近づきやすさ 3．満足度向上のための取り組み内容 図書館利用規則について学生自治会の活動支援、教員との指導約束がとりやすいよう行動予定ボードにより教員の所在の明確化、学生を待たせないよう声かけ促進

□学生募集

入学試験実施状況

看護学科	一次試験	二次試験	合格発表
一般入試	平成 30 年 1 月 18 日（木）	平成 30 年 1 月 20 日（土）	平成 30 年 1 月 25 日（木）
社会人入試	平成 29 年 11 月 16 日(木)	平成 29 年 11 月 18 日(土)	平成 29 年 11 月 22 日(水)
公募推薦入試	平成 29 年 11 月 16 日(木)	平成 29 年 11 月 18 日(土)	平成 29 年 11 月 22 日(水)
推薦入試	平成 29 年 11 月 16 日（木）		平成 29 年 11 月 22 日(水)

助産学科	一次試験	二次試験	合格発表
一般入試	平成 30 年 1 月 18 日（木）	平成 30 年 1 月 20 日（土）	平成 30 年 1 月 25 日（木）
特別選抜入試	平成 29 年 11 月 16 日（木）		平成 29 年 11 月 22 日(水)

□入学状況

＜看護学科＞

年度（回生）	試験	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	退学者数	卒業者数
平成 27 年（第 14 回生）	推薦	12	12	12	12		
	社会人	62	60	30	30		
	一般	110	99	65	49		
	合計	184	171	107	91	1	86
平成 28 年（第 15 回生）	推薦	16	16	16	16		
	社会人	23	22	10	10		
	一般	69	69	56	44（4）		
	合計	108	107	82	70		
平成 29 年（第 16 回生）	推薦(学校)	10	10	10	10		
	推薦(公募)	25	25	24	24		
	社会人	28	28	16	15		
	一般	106	103	65	39		
	合計	169	166	115	88		
平成 30 年（第 17 回生）	推薦(学校)	19	19	19	19		
	推薦(公募)	24	24	20	20		
	社会人	13	13	6	6		
	一般	102	100	55	32		
	合計	158	156	100	77		

（　　）内補欠合格者

＜助産学科＞

年度（回生）	試験	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	退学者数	卒業者数
平成 27 年（第 47 回生）	特別選抜（学校）	13	13	13	13	2	12
	特別選抜（施設）	1	1	1	1		1
	一般	65	57	12	11		10
	合計	79	71	26	25	2	23
平成 28 年（第 48 回生）	特別選抜（学校）	8	8	8	8		8
	特別選抜（施設）	3	3	3	3		3
	一般	73	63	19	13（1）		13
	合計	84	74	30	24		24
平成 29 年（第 49 回生）	特別選抜（学校）	11	11	11	11		11
	特別選抜（施設）	0	0	0	0		0
	一般	58	54	18	14	2	12
	合計	69	65	29	25	2	23
平成 30 年（第 50 回生）	特別選抜（学校）	10	10	10	10		
	特別選抜（施設）	1	1	1	1		
	一般	60	53	11	11(1)		
	合計	71	64	22	22		

（　　）内補欠合格者

□学生募集活動（ガイダンス）

月	日	曜	内容	場所	出席者	実績数
4	13	木	TAP主催進学説明会（京都精華学園高等学校）	みやこめっせ	池田仁美	4
	23	日	進学相談会（さんぽう）	イオンモール京都	小林由里	13
	29	土	就職・就学フェア（京都府看護協会）	みやこめっせ	池田仁美　釘宮泰子	22
5	16	金	昭栄広報主催進学相談会（府立園部高校）	園部高校	小林由里	2
	31	水	TAP 主催進学説明会（京都廣学館高等学校）	けいはんなホール	釘宮泰子	3
6	11	日	進学相談会（さんぽう）	梅田スカイビル タワーウエスト	池田仁美	10
7	12	水	進学相談会（昭栄広報　府立北嵯峨高等学校）	みやこめっせ	池田仁美	12
	14	木	高等学校と看護系教育機関との進路研修会	京都第 1 赤十字病院	大上寿子	
	16	日	合同説明会（東京アカデミー）	東京アカデミー京都校	釘宮泰子	15
8	9	水	学校相談会（京都予備校）	京都予備校	池田仁美	41
10	12	木	TAP 主催進学説明会（京都橘高校）	京都パルスプラザ	池田仁美	4
11	14	火	エフォール主催進学説明会（福知山高校）	福知山高校	小林由里	4
12	5	火	さんぽう主催進学研究ゼミナール（教員対象）	京都テルサ	池田仁美	

3	14	水	TAP 主催進学説明会（大津高校）	ピアザ淡海	伊藤智美	1
	14	水	さんぽう主催進学説明会（国際情報高校）	クサツエストピアホテル	寺田博子	8
	23	金	さんぽう主催進学説明会（京都精華学園高校）	精華学園高校	中村なぎさ	10

□オープンキャンパス

看護学科	平成 28 年度	平成 29 年度
開催回数	6 回	6 回
参加者延人数	270 人	304 人

助産学科	平成 28 年度	平成 29 年度
開催回数	3 回	3 回
参加者延人数	140 人	146 人

□卒業生の進路

＜看護学科＞

年度	回生	卒業者数	就職						進学				未就職
			国立病院機構		官公立	法人	その他	看護職以外	保健師	助産師	養護教諭	大学	
			自施設	他施設									
平成25年度	第10回生	80	32	28	3	3	0	0	0	9	0	5	0
平成26年度	第11回生	70	36	24	3	1	0	0	0	4	0	2	0
平成27年度	第12回生	69	41	18	1	0	4	0	0	3	0	2	0
平成28年度	第13回生	82	43	29	1	0	2	0	0	6	0	0	1
平成29年度	第14回生	87	42	29	4	3	3	0	0	6	0	0	0

＜助産学科＞

年度	回生	卒業者数	就職						進学	未就職
			国立病院機構		官公立	法人	その他	看護職以外		
			自施設	他施設						
平成 25 年度	第 45 回生	24	6	10	6	2	0	0	0	0
平成 26 年度	第 46 回生	25	4	10	8	3	0	0	0	0
平成 27 年度	第 47 回生	23	4	9	7	2	0	0	0	1
平成 28 年度	第 48 回生	24	4	9	6	5	0	0	0	0
平成 29 年度	第 49 回生	23	2	10	5	6	0	0	0	0

□国家試験合格状況

＜看護学科＞

		全体（%）	機構附属（%）		
			全国	近畿	本校
105 回（H28.3）	全体（新卒）	89.4（94.9）	98.0（98.4）	99.4	100
106 回（H29.3）	全体（新卒）	88.5（94.3）	88.5（94.3）	98.6	96.8
107 回（H30.3）	全体（新卒）	91.0（96.3）	98.4（98.8）	99.7	100

＜助産学科＞

		全体（%）	機構附属（%）	
			全国	本校
99 回（H28.3）	全体（新卒）	99.8（99.8）	100	100
100 回（H29.3）	全体（新卒）	99.8（99.8）	100	100
101 回（H30.3）	全体（新卒）	98.7（99.4）	100	100

□学会発表（院外）

日程	学会名	テーマ	研究者（○発表）
H29.11.11	国立病院総合医学会	平成 28 年度中堅教員の学校運営能力を育成する活動報告	○他校教育主事 小林由里 （ポスター）
H29.11.11	国立病院総合医学会	自主作成した静脈血採血の視聴覚教材による学習効果	○寺田博子 （ポスター）
H29.11.11	国立病院総合医学会	学生が主体的に取り組める看護技術演習指導案の検討（第 2 報）	○他校教員 大上寿子 （ポスター）
H29.12.9	国立病院看護研究学会学術集会	アクティブラーニングについての文献レビューー学生が主体的に学習に取り組むための指導手法の検討ー	○林田聖子 中溝好美 若月麻央

□共同研究活動

研究課題	活動実績	研究者（○代表者）
OSCE による助産師教育課程修了時の到達度評価	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3月 計 6 回	伊藤美栄 （他施設） ○神戸市看護大学　同志社女子大学

□執筆

収蔵誌	出版社	タイトル	教員
助産雑誌 71-5,2017 p352-358	医学書院	特集【がんばってます新人助産師教育】 -新人教育プログラム- 新人助産師の臨床推論を鍛える(解説/特集)	伊藤美栄

□院内成果発表

日程	テーマ	研究者（○発表）
H30.2.17	統合実習における「学生によるチーム実習」の学びと課題	○住田尚子　仙波伊都子　太田恵子 伊藤智美　早川直子　釘宮泰子 （口述）
H30.2.17	医療事故防止シミュレーション演習の学びと課題	○寺田博子　中溝好美　太田恵子 伊藤智美　小林由里（ポスター）
H30.2.17	本学の助産学生の分娩期ケア能力到達度	○北井英子　伊藤美栄（ポスター）
H30.2.17	臨床推論を組み込んだ分娩期の助産診断の学習プログラムの評価	○若月麻央　伊藤美栄（口述）

□授業研究

日程	授業内容	教員
平成 29 年 9 月 4 日（月）	基礎看護技術Ⅲ：清潔（演習）	伊藤智美
平成 29 年 9 月 5 日（火）	老年看護学演習（講義）：感染（演習）	中溝好美
平成 29 年 11 月 7 日（火）	成人看護学演習	中村なぎさ
平成 29 年 11 月 24 日（金）	小児看護援助技術Ⅱ	住田尚子
平成 29 年 11 月 27 日（月）	成人看護概論	早川直子
平成 29 年 11 月 28 日（火）	基礎看護技術Ⅴ（検査）	太田恵子
平成 29 年 11 月 30 日（木）	基礎看護技術Ⅵ（与薬）	仙波伊知子
平成 30 年 2 月 1 日（水）	母性看護学演習Ⅱ	林田聖子
平成 30 年 2 月 14 日（水）	成人看護援助技術 1	大上寿子
平成 30 年 2 月 19 日（月）	助産学科　卒業前演習「分娩介助 OSCE」	伊藤美栄、北井英子、若月麻央、林田聖子 （外部参加者）神戸市看護大学 3 名

□公開講座

日　程	テーマ	参加者数
平成 29 年 6 月 25 日（日）	看護学生体験：血圧測定、手洗い、胸腹部聴診	55 人
平成 29 年 7 月 30 日（日）	看護学生体験：血圧測定、手洗い、胸腹部聴診	59 人
平成 29 年 8 月 19 日（土）	看護学生体験：血圧測定、手洗い、胸腹部聴診	49 人
平成 29 年 9 月 10 日（日）	看護学生体験：血圧測定、清潔操作、包帯	31 人
平成 29 年 10 月 28 日（土）	看護学生体験：血圧測定、清潔操作、包帯	23 人
平成 29 年 10 月 28 日（土）	公開講座「みんなで防ごう　認知症！」	9 人
平成 29 年 9 月 16 日（土）	性教育講座（小中高生対象） 「かけがえのない命～あなたが繋ぐ糸～」	23 人
平成 29 年 9 月 30 日（土）	ファミリー教室（妊産婦とその家族） 「Hallo　baby! ～広げて深めよう育児のいろは～」	17 人
平成 29 年 7 月 15 日（土）	助産学生体験：モデル人形による分娩介助体験	51 人
平成 29 年 8 月 19 日（土）	助産学生体験：モデル人形による分娩介助体験	58 人
平成 29 年 9 月 2 日（土）	助産学生体験：モデル人形による分娩介助体験	37 人
	合計	412 人

□講習会、研修等の講師派遣

日程	研修内容	教員
平成29年6月～7月	近畿グループ 平成29年度保健師助産師看護師 実習指導者講習会 講師	池田仁美(1回) 小林由里(3回) 釘宮泰子(1回)
	近畿グループ 平成29年度保健師助産師看護師 実習指導者講習会　演習指導案助言講師	早川直子
平成29年　5月24日 6月21日 7月26日 平成30年　1月24日	京都医療センター附属 京都看護助産学校 実習指導者研修プログラム （第1回～第4回）	池田仁美　小林由里 釘宮泰子 早川直子　住田尚子 仙波伊知子 太田恵子 伊藤智美
平成29年9月15日	近畿グループ教育担当看護師長研修 「現任教育について」	池田仁美
平成29年12月26日	近畿グループ　中堅教員研修 「基礎看護教育におけるカリキュラム構築について」	池田仁美　釘宮泰子
平成29年7月15日 平成30年1月31日	京都母性衛生学会理事会（全2回）	伊藤美栄 若月麻央　田中美和子 北井英子
平成29年8月4日 ～5日	公益社団法人）全国助産師教育協議会 助産師教育研修研究センター主催 ファーストステージ研修　講師 「助産師教育方法論-教育評価-」10時間	伊藤美栄
平成29年11月18日	第24回助産師と語る会北陸例会　講師 講演「助産師教育、クローズアップ助産師」	伊藤美栄
平成29年9月25日 平成29年11月2日 平成30年2月8日	一般財団法人）日本助産評価機構 日本助産実践能力推進協議会　研修委員会	伊藤美栄
平成30年3月19日	一般財団法人）日本助産評価機構 助産実践能力習熟段階レベルIII認証制度 研修プログラム e-ラーニング オンデマンドコンテンツ作成会議	伊藤美栄

□研修生受け入れ

日程	研修内容		受け入れ数
平成29年9月4日 ～9月8日	教員インターンシップ	副学校長・教育主事協議会主催	1人
平成29年10月16日 ～ 10月19日	教員インターンシップ	近畿グループ主催	1人
平成29年10月17日 ～10月20日	教員インターンシップ	近畿グループ主催	1人
平成29年10月23日	教員インターンシップ	副学校長・教育主事協議会主催	1人

編集後記

アニュアルレポートをお届けします。

平成２９年度は、京都医療センターにとって再生の年でした。

平成２８年度は全国の高度・急性期医療を担う総合病院と同様に、病院運営に非常に苦しんできましたが、全職員が危機感を持ち、それぞれの立場で可能なあらゆる努力を行った結果、平成２９年度には、明らかな回復傾向がみられました。平成３０年度には、この傾向が確実なものになり、さらに、新たな目標に向かって前進しつつあります。地域の基幹病院としての機能を充実させ、新入院患者数の増加を目指した、具体的な取り組みとして、平成29年4月1日から緊急の診療依頼を受けるための専用回線として「救急診療受付ダイヤル」を設置しました。本ダイヤルは365日24時間対応で、地域の医療機関の医師からこのダイヤルに電話があると、まずは看護師（平日日中）または事務員（夜間・休日）が受話し、続けて当該診療科または救命救急科の医師が直接応対します。本ダイヤルを活用していただく医療機関は毎月増加し、当日診療依頼の月当たりの件数は平成28年度平均63件から平成29年度87件に上昇しました。本ダイヤルで依頼をお受けした患者の50～60％が緊急入院となっており、地域の急性期医療への貢献ができていると自負しています。

また、わが国の喫緊の課題である地域包括ケアシステム構築のための取り組みにも努めました。在宅医療・介護連携の推進のため、看護部で平成29年度から在宅に帰られる患者の退院前・退院後訪問を始めました。平成29年度は、退院前訪問4件、退院後訪問５件と、まだまだ数は少ないですが、これからも引き続き件数を増やして、地域の在宅医療に貢献したいと考えています。

京都医療センターは、地域医療支援病院としての、また高度急性期病院としての役割を果たすために、職員一同、力を合わせて頑張っています。その足跡を、このアニュアルレポートから垣間見ていただければ幸いです。

広報委員会
瀬田公一　地域連携支援センター長
塚原徹也　副院長